

# 鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 32

## 平成27年度発掘調査報告

(第2分冊)

若宮大路周辺遺跡群

大倉幕府周辺遺跡群

若宮大路周辺遺跡群

台 山 遺 跡

平成28年3月

鎌倉市教育委員会





若宮大路周辺遺跡群(大町一丁目1034番9)Ⅱ区第2面道路1b(北東から)



若宮大路周辺遺跡群(大町一丁目1034番9)第1面出土線刻硯



## ご あ い さ つ

本市は、市域のおおよそ6割が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財の眠る土地で生活を送っています。

近年、古い家屋や店舗の建て替えに伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が増加し、長い年月地下で眠っていた文化財が失われることも増加してきています。

私たちが日々の生活を送っていく上で、やむを得ず失われる埋蔵文化財について記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅等の建設に係る発掘調査を実施しています。本書は平成18・19・22・26年度に実施した、個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査6ヶ所の調査記録を掲載しています。

本書が、武家政治発祥の地として知られ、今なお観光・文化都市として栄える鎌倉が歩んできた歴史を解き明かす一助となればと願う次第です。

最後になりましたが、調査の実施に当たり、関係者の皆様に発掘調査に対し深いご理解を賜るとともに、調査の期間中、さまざまなご協力をいただきましたことを心からお礼を申しあげます。

平成28年3月31日

鎌倉市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は平成27年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書である。
- 2 本書所収の調査地点は別図のとおりである。また掲載分冊については、第1分冊に掲載した表のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

# 総目次

(第2分冊)

例言	II
目次	III

## 3 若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 小町二丁目24番14地点

第一章 遺跡と調査地点の概観	6
第二章 調査の概要	17
第三章 調査結果	19
第四章 自然科学分析	58
第五章 まとめで考察	71

## 4 大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 雪ノ下字天神前562番30地点

第一章 遺跡と調査地点の概観	99
第二章 調査の概要	104
第三章 調査結果	106
第四章 まとめで考察	139

## 5 若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 大町一丁目1034番9地点

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	161
第二章 調査の方法と経過	163
第三章 基本土層	164
第四章 発見された遺構と遺物	170
第五章 調査成果のまとめ	193

## 6 台山遺跡 (No.29) 台字西ノ台1418番10地点

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	247
第二章 調査の方法と経過	250
第三章 基本土層	252
第四章 発見された遺構と遺物	253
第五章 調査成果のまとめ	260
付編 台山遺跡のテフラ	261

# 鎌倉市全図

平成27年度の緊急避難調査地点 (1~3)  
本書掲載の平成18・19・22・26年度実施調査地点 (①~⑥)  
※遺跡名は一覧表を参照





わかみやおおじしゅうへんいせきぐん  
若宮大路周辺遺跡群 (No.242)

小町二丁目 24 番 14 地点

## 例 言

1. 本報は、「若宮大路周辺遺跡群」(No.242)内、小町二丁目24番14地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 調査期間 平成19(2007)年8月28日～平成19(2007)年9月26日
3. 調査面積 14.50㎡
4. 略 称 WK224
5. 調査体制

担 当 者	馬淵和雄
調 査 員	宇都洋平・鍛冶屋勝二・松原康子・岩崎卓治(資料整理)・沖元道(同前) 本城裕(同前)
調査補助員	佐藤あおい・佐藤千尋(資料整理)・吉田麻子(同前)
作 業 員	小口照男・河原龍雄・中須洋二(以上(社)鎌倉市シルバー人材センター)
6. 本報作成分担

遺構図整理	沖元
遺物実測	岩崎・沖元・本城・松原
同墨入れ	岩崎
同観察表	吉田・沖元
同計量表	沖元
同写真撮影	沖元
図版作成	沖元・佐藤(千)
原稿執筆	沖元
編集	沖元
7. 整理段階において、遺物の分類及び編年は以下を参考にした。  
土 師 器 皿：馬淵和雄1998『鎌倉大仏の中世史』新人物往来社  
瓦：原 廣志2002「第4章 出土瓦について」『永福寺跡-遺物・考察編-』鎌倉市教育委員会  
瀬 戸：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院  
尾張壺・茶碗：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院  
常 滑：中野晴久2012『愛知県史別編窯業3 中世・近世常滑系』愛知県  
渥 美：安井俊則2012『愛知県史別編窯業3 中世・近世常滑系』愛知県  
貿易陶磁：太宰府市教育委員会2000『大宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』
8. 本報告掲載の現地写真は馬淵・宇都・鍛冶屋が撮影した。
9. 発掘調査における出土遺物・図面類・写真などの資料は鎌倉市教育委員会が保管している。
10. 本報告では世界測地系(第IX系)の座標軸に基づく測量成果を掲げたが、平成23(2011)年3月11日の東日本大震災以前の測量数値を使用している。
11. 第四章は分析を株式会社パレオ・ラボに業務委託し、原稿を佐々木由香氏・バンドリ・スダルシャン氏・森将志氏に賜った。

本報告作成に際し、次の方々の御教示を得た。記して感謝したい。

押木弘己・汐見一夫・原廣志

# 目次

## 本文目次

第一章 遺跡と調査地点の概観 .....	6
1. 位置と地勢	
2. 歴史的環境	
第二章 調査の概要 .....	17
1. 調査にいたる経緯	
2. 調査の経過	
3. 調査方法	
第三章 調査結果 .....	19
第1節 概要	
1. 層序と面の概要	
第2節 各説	
1. 1面	
2. 2面	
3. 3a面	
4. 3b面	
5. 3c面	
6. 4a面	
7. 4b面	
8. 5a面	
9. 5b面	
10. 6a面	
11. 6b面	
12. 7面	
13. 8面	
14. 9面	
15. 表採遺物	
16. 土層断面出土遺物	
第四章 自然科学分析 .....	58
第1節 北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群出土の大型植物遺体 佐々木由香・バンダリ スダルシャン	
第2節 北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群の花粉分析と寄生虫卵分析 森 将志	
第3節 若宮大路周辺遺跡群(鎌倉市小町二丁目24番14地点)から出土した大型植物遺体 バンダリ スダルシャン・佐々木由香	
第4節 若宮大路周辺遺跡群の花粉分析と寄生虫卵分析 森 将志	
第五章 まとめと考察 .....	71
1. 遺構の変遷と年代	
2. 土坑内繊維質土の土壌分析から	

## 挿 図 目 次

図1 調査地点と周辺の遺跡・旧跡……………7	図15 4a面遺構全図、同出土遺物・4b面遺構全図、 同出土遺物・溝3、同出土遺物……………34
図2 明治15年頃の調査地点周辺(『迅速測図』)……11	図16 4b面構築土内出土遺物……………35
図3 調査区設定図……………18	図17 5a面遺構全図、同出土遺物……………36
図4 調査区土層断面図……………20	図18 5b面遺構全図、同出土遺物、土坑5、 同出土遺物・5b面構築土……………37
図5 1面遺構全図、同出土遺物・ 建物1・土坑1・P.3、同出土遺物……………24	図19 6a面遺構全図、同出土遺物・ 6a面構築土内出土遺物……………38
図6 土坑2、同出土遺物・1面ビット出土遺物…25	図20 6b面遺構全図、同出土遺物……………39
図7 2面遺構全図、同出土遺物・溝1、 同出土遺物・溝2・土坑3、 同出土遺物・P.47・2面ビット出土遺物…26	図21 6b面構築土内出土遺物……………40
図8 2面構築土内出土遺物……………27	図22 7面遺構全図、同出土遺物・ 板列裏込め出土遺物……………41
図9 3a面遺構全図、同出土遺物……………28	図23 8面遺構全図、同出土遺物・ 9面遺構全図、同出土遺物……………42
図10 3a面構築土内出土遺物……………29	図24 箸状木製品寸法分布……………54
図11 3b面遺構全図、同出土遺物・ 3b面遺物集中部、同出土遺物(1)……………30	図25 遺構変遷図……………72
図12 3b面遺物集中部出土遺物(2)……………31	図26 南側隣地調査区と本調査区……………73
図13 土坑4、同出土遺物 ・3b面ビット出土遺物……………32	図27 各遺構繊維質土採集土層図……………75
図14 3c面遺構全図、同出土遺物・ 3c面構築土内出土遺物……………33	

## 表 目 次

表1 出土遺物観察表(1)……………44	表8 出土遺物観察表(8)……………51
表2 出土遺物観察表(2)……………45	表9 出土遺物観察表(9)……………52
表3 出土遺物観察表(3)……………46	表10 出土遺物観察表(10)……………53
表4 出土遺物観察表(4)……………47	表11 出土遺物観察表(11)……………54
表5 出土遺物観察表(5)……………48	表12 出土遺物計量表(1)……………55
表6 出土遺物観察表(6)……………49	表13 出土遺物計量表(2)……………56
表7 出土遺物観察表(7)……………50	表14 出土遺物計量表(3)……………57

## 図 版 目 次

図版1……………77	1-7 1面全景(南から)	図版2……………78
1-1 調査地点近景①(南から)		2-1 1面全景(西から)
1-2 調査地点近景②(西から)		2-2 2面全景(南から)
1-3 調査地点近景③(北から)		2-3 2面全景(東から)
1-4 調査地点近景④(西から)		2-4 3a面遺物(図9・10・11・16)出土状況(東から)
1-5 1面土坑2掘削前全景(南から)		2-5 3b面土坑4掘削前全景(南から)①
1-6 1面土坑2掘削前全景(東から)		

2-6	3b面土坑4掘削前全景(東から)①	5-4	8面土師器皿(図23-1・2)出土状況(東から)
2-7	3b面北西部遺物出土状況(南から)	5-5	最終トレンチ西壁土層断面
2-8	3b面土坑4掘削前全景(南から)②	図版6	.....82
図版3	.....79	6-1	北壁土層断面
3-1	3b面土坑4掘削前全景(東から)②	6-2	東壁土層断面
3-2	3b面北東部遺物出土状況(北から)	図版7	.....83
3-3	3b面漆器椀(図12-28)出土状況(東から)	7-1	1面土坑2東西ベルト土層断面(南から)
3-4	3b面全景(南から)	7-2	3a面中央ベルト土層断面(南東から)
3-5	3b面全景(東から)	図版8	出土遺物1.....84
3-6	3b面土坑4(南から)	図版9	出土遺物2.....85
3-7	3c面全景(東から)	図版10	出土遺物3.....86
3-8	4a面全景(南から)	図版11	出土遺物4.....87
図版4	.....80	図版12	出土遺物5.....88
4-1	4a面全景(東から)	図版13	出土遺物6.....89
4-2	4a面礎板出土状況(北から)	図版14	北条小町邸跡の土坑16から出土した大型植物遺体.....90
4-3	4b面全景(南から)	図版15	若宮大路周辺遺跡群の土坑4から出土した大型植物遺体.....91
4-4	4b面全景(東から)	図版16	北条小町邸と若宮大路周辺遺跡群から産出した花粉化石・寄生虫卵.....92
4-5	5a面全景(南から)	図版17	若宮大路周辺遺跡群の土坑5から出土した大型植物遺体.....93
4-6	5b面全景(南から)	図版18	若宮大路周辺遺跡群(土坑5)から産出した花粉化石・寄生虫卵.....94
4-7	5b面全景(東から)		
図版5	.....81		
5-1	6面全景(南から)		
5-2	7面板列(南から)		
5-3	8面全景(西から)		

# 第一章 遺跡と調査地点の概観

## 1. 位置と地勢

### 地勢

鎌倉中心部は、鶴岡八幡宮から海に向かって真っ直ぐ伸びる若宮大路を基軸として、それにほぼ平行した東西2本の南北大路、および直交する何本かの東西道路により区画される。市街地のほとんどの地下には中世都市遺跡が存在する。

調査地点は若宮大路の西方、扇川の左岸に位置する。調査地点一帯は3m程度掘り下げた、海拔5～6mほどで地山を検出するため、元は扇川によって形成された低地であった可能性がある。この扇川は海蔵寺あたりを水源とし、扇ガ谷の狭い谷を開析したあと、窟堂あたりから低地を形成しつつ、横須賀線と若宮大路が交差するあたりで滑川と合流する。

## 2. 歴史的環境

### 縄文～古墳時代

縄文海進期、鎌倉市街地は全体的に水面下であったと考えられる。旧市内では荏柄天神社前の民家での井戸掘削時に諸磯式と阿玉台式(赤星1959)、15世紀以降に人為的に滑川を埋めた土中から加曾利E式と縄文晩期から弥生前期にかけての土器(馬淵2014)、現在の横浜国大付属小学校敷地内から称名寺式(赤星1959)の出土が知られる程度で、全体的にきわめて乏しい。

上本進二氏によれば、当初鎌倉中心部の沖積平野中心部を流れていた古滑川が、現在の位置に近い東の山裾に流路を変えるのは縄文時代晩期から弥生中期にかけてである(上本2000)。

旧市街で人の生活痕跡が確認されるのは弥生時代中期後半からである。この時期以降、大倉から二階堂にかけて大規模な集落が形成される(馬淵1998・1999、齋木ほか2007)。当地点付近では地点51(服部・穴戸1986)の河川にて弥生後期以降の土器が出土している。

古墳時代の集落・住居址は、海岸部の砂丘上、二階堂付近の平坦な微高地で発見されているが、当地点付近では、扇川の右岸でいくつか古墳後期の報告事例がある。地点79(齋木ほか1982)、地点80(松尾・継1993)・82(菊川ほか1999)・地点84(熊谷満2003)において竪穴住居址1棟を検出、地点181では7世紀中葉を上限とする竪穴住居址と溝が検出されている(菊川ほか2008)。地点169において古墳時代土師器が出土する中世基盤層下層の粘土層内の花粉分析が行われている。この結果、イネ科のプラントオパールが検出されていることから、この一帯で水田耕作がおこなわれていた可能性がある(鈴木1996)。

### 律令期～平安時代後期

鎌倉の文字史料上の最も早い年紀は綾瀬市宮久保遺跡出土木簡に「鎌倉郡鎌倉里 軽マ□寸稻 天平五年九月」とあるものである(國平・長谷川1990)。文献史料上では、天平七年(735年)の裏書を持つ『相模国封戸租交易帳』(『正倉院文書』正集十八、神奈川県史資料編1-58)に「従四位下高田王食封 鎌倉郡鎌倉郷參拾戸 田壹伯參拾伍町壹伯玖歩」とあるものが知られている。この『相模国封戸租交易帳』に見える郷名のうち、他に尺度郷、荏草郷が鎌倉郡内とされる。承平年間(931年-938年)に編纂された『和名類聚抄』(高山寺本、神奈川県史資料編1-490)には、鎌倉郡内の郷名として沼濱、鎌倉、埜立、荏草、梶原、尺度、大島が見える。この他に天平勝宝元年(749年)の『調庸布墨書』(東大寺正倉院御物、神奈川県史資料編1-102)に「相模國鎌倉郡方瀬郷」と見える。これらの郷のうち荏草郷については、

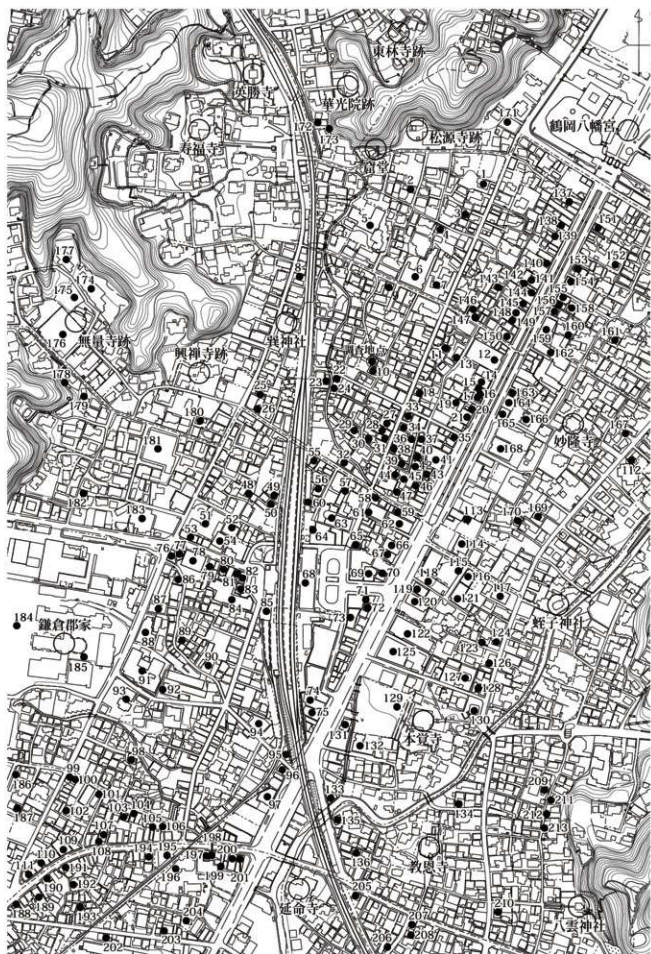


図1 調査地点と周辺の遺跡・旧跡 (1/5000)

若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 本調査地点 小町二丁目24-14  
1.雪ノ下一丁目148-4・190-1 (2013調査) 宮田2014「第24回  
鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨」NPO法人鎌倉考古学  
研究所・鎌倉市教育委員会 2.雪ノ下一丁目161-33 (2003調  
査) 馬淵2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-2」鎌倉市  
教育委員会 3.雪ノ下一丁目187-4 (2008調査) 4.雪ノ下一  
丁目200-3 (2001調査) 宗慶寺・宗慶宮2003「鎌倉市埋蔵文化財緊  
急調査報告書19」鎌倉市教育委員会 5.雪ノ下一丁目210 (1988  
調査) 馬淵1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市  
教育委員会 6.雪ノ下一丁目198-1 (2002調査) 神奈川県教育委員  
会2003「神奈川県埋蔵文化財緊急調査報告45」神奈川県教育委員  
会 7.雪ノ下一丁目198-6 (1998調査) 小林ほか2000「鎌倉市埋  
蔵文化財緊急調査報告書16-1」鎌倉市教育委員会 8.扇ガ谷  
一丁目110-8 (2009調査) 滝澤2012「若宮大路周辺遺跡群 (No.  
242) 発掘調査報告書」博通 9.小町二丁目39-6 (1987-88調査)  
田代ほか1989「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5」鎌倉市  
教育委員会 10.小町二丁目24-20 (2007調査) 滝澤2010「若宮  
大路周辺遺跡発掘調査報告書」株式会社博通 11.小町二丁目  
43-2 (2008調査) 12.小町二丁目276 (1987調査) 神奈川県教育  
委員会1990「神奈川県埋蔵文化財調査報告書31」神奈川県  
教育委員会 13.小町二丁目54-3 (1998調査) 原2000「第8回  
鎌倉市内遺跡調査・研究発表会」鎌倉考古学研究所・鎌倉市教  
育委員会 14.小町二丁目279-2 (1989調査) 神奈川県教育委員  
会1991「神奈川県埋蔵文化財調査報告書33」神奈川県教育委員  
会 15.小町二丁目280-3・12 (1999調査) 齋木・降矢1999「鎌  
倉考古学」鎌倉考古学研究所 16.小町二丁目280-2 (1989調査)  
田代・原1990「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教  
育委員会 17.小町二丁目280-18 (1982調査) 神奈川県教育委員  
会1984「神奈川県埋蔵文化財調査報告書26」神奈川県教育委員  
会 18.小町二丁目48-10外 (2003調査) 原2009「鎌倉市埋蔵文  
化財緊急調査報告書25-1」鎌倉市教育委員会 19.小町二丁目  
281-2 (2012調査) 20.小町二丁目281-1 (1989調査) 神奈川県教  
育委員会1991「神奈川県埋蔵文化財調査報告書33」神奈川県  
教育委員会 21.小町二丁目281 (1977調査) 松尾1983「鎌倉市埋  
蔵文化財調査年報1」鎌倉市教育委員会 22.小町二丁目28-3・  
5 (1996調査) 原ほか1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書  
14-2」鎌倉市教育委員会 23.小町二丁目69-6 (1989調査) 田代・  
原1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」鎌倉市教育委員  
会 24.小町二丁目19外 (2009調査) 25.扇ガ谷一丁目74-9外 (1993  
調査) 菊川1994「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10-2」鎌倉市  
教育委員会 26.扇ガ谷一丁目74-8外 (1988調査) 菊川1990「鎌  
倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会 27.小町  
二丁目5-27・32・34・35 (2013調査) 三ッ橋2014「第24回鎌  
倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨」NPO法人鎌倉考古学  
研究所・鎌倉市教育委員会 28.小町二丁目12-15 (1990調査)  
菊川1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育  
委員会 29.小町二丁目11-2 (2005調査) 森2012「鎌倉市埋蔵文  
化財緊急調査報告書28-1」鎌倉市教育委員会 30.小町二丁目  
12-10 (1991調査) 大河内1991「鎌倉考古学」鎌倉考古学研  
究所 31.小町二丁目12-18 (1987調査) 馬淵1989「鎌倉市埋蔵文  
化財緊急調査報告書5」鎌倉市教育委員会 32.小町二丁目63-3  
(1992調査) 齋木ほか1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書  
9-1」33.小町二丁目5-8 (1997調査) 福田ほか1999「鎌倉市埋蔵  
文化財緊急調査報告書15-1」鎌倉市教育委員会 34.小町二丁目  
5-7 (2012調査) 35.小町二丁目281-16・26・36・283-9,10 (2013  
調査) 36.小町二丁目4-19 (1990調査) 37.小町二丁目4-4 (1989  
調査) 38.小町二丁目5-23 (1989調査) 福田1990「鎌倉市埋蔵  
文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会 39.小町二丁目4-9  
(1996調査) 野本1997「第7回鎌倉市遺跡調査・研究発表会  
発表要旨」40.小町二丁目4-6 (1986調査) 神奈川県教育委員会  
1989「神奈川県埋蔵文化財調査報告書30」神奈川県教育委員  
会 41.小町二丁目283-6 (1997調査) 宮田1998「若宮大路周辺遺

跡群発掘調査報告書」鎌倉市教育委員会 42.小町二丁目4-1 (2005  
調査) 菊川2006「若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 発掘調査報告書」  
株式会社斉藤建設 43.小町二丁目283の一部 (2003調査)  
滝澤・宮田2007「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-1」鎌  
倉市教育委員会 44.小町二丁目1-14 (1986調査) 45.小町二丁目  
394 (2005調査) 神奈川県教育委員会2007「神奈川県埋蔵文化  
財調査報告51」神奈川県教育委員会 46.小町二丁目1-15 (1986  
調査) 神奈川県教育委員会1989「神奈川県埋蔵文化財調査報  
告書30」神奈川県教育委員会 47.小町二丁目1-6 (2002調査) 神奈  
川県教育委員会2003「神奈川県埋蔵文化財調査報告45」神奈  
川県教育委員会 48.御成町126-1 (2003調査) 沙見2007「鎌倉  
市埋蔵文化財緊急調査報告書23-2」鎌倉市教育委員会 49.御成  
町123-5 (1997調査) 沙見1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報  
告書15-1」鎌倉市教育委員会 50.御成町123-3 (2004調査) 福田  
2009「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-1」鎌倉市教育委員  
会 51.御成町12-18 (1984調査) 小川・服部1986「千葉地東遺跡」  
神奈川県立埋蔵文化財センター 52.御成町129-4 (2008調査)  
松山ほか2009「若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 発掘調査報告書」  
斉藤建設 53.御成町228-2 (1985調査) 齋木ほか1987「御成  
町228-2他地点調査」千葉地東遺跡発掘調査団 54.御成町130-6  
(1984調査) 神奈川県教育委員会1985「神奈川県埋蔵文化財調  
査報告書27」神奈川県教育委員会 55.小町一丁目120-1 (1986調  
査) 手塚1989「小町一丁目120番1地点 風門社ビル発掘調査  
団 56.小町一丁目116 (1985調査) 馬淵1986「鎌倉市埋蔵文化  
財緊急調査報告書2」鎌倉市教育委員会 57.小町一丁目117-3他  
4筆 (2005調査) 滝澤2006「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書  
」有限会社鎌倉遺跡調査会 58.小町一丁目65-26 (2009調査)  
59.小町一丁目65-30 (2005鈴木) 神奈川県教育委員会2007「神  
奈川県埋蔵文化財調査報告書51」神奈川県教育委員会 60.小町  
一丁目116-4 (1989調査) 手塚1999「若宮大路周辺遺跡群」若宮  
大路周辺遺跡群発掘調査団 61.小町一丁目65-10 (1977調査)  
松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報1」鎌倉市教育委員  
会 62.小町一丁目66-3 (1977調査) 松尾1983「鎌倉市埋蔵文  
化財調査年報1」鎌倉市教育委員会 63.小町一丁目106-1 (1987調  
査) 手塚1999「若宮大路周辺遺跡群」若宮大路周辺遺跡群発掘  
調査団 64.小町一丁目107-7 (2010調査) 滝澤2013「若宮大路  
周辺遺跡群 (No.242) 発掘調査報告書」株式会社博通 65.小町一  
丁目65-21 (1979調査) 齋木ほか1982「小町2丁目65番地21号地点・  
小町1丁目75番地1号地点」鎌倉考古学研究所 66.小町一丁目  
66-5 (1996調査) 神奈川県教育委員会1997「神奈川県埋蔵文  
化財調査報告39」神奈川県教育委員会 67.小町一丁目67-2 (1987  
調査) 福田1994「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」鎌倉市  
教育委員会 68.小町一丁目103-9 (1982調査) 服部1984「蔵屋敷  
遺跡」鎌倉駅舎改築にかかわる遺跡調査報告 69.小町一丁目75-1  
(1979調査) 齋木1982「小町2丁目65番地21号地点・小町1丁  
目75番地1号地点」鎌倉考古学研究所 70.小町一丁目75-1 (1979  
調査) 齋木1982「小町2丁目65番地21号地点・小町1丁目75  
番地1号地点」鎌倉考古学研究所 71.小町一丁目81-18 (1998調  
査) 宮田2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-1」鎌倉市  
教育委員会 72.小町一丁目81-23 (1988調査) 神奈川県教育委員  
会1990「神奈川県埋蔵文化財調査報告書32」神奈川県教育委員  
会 73.小町一丁目81-8 (1991調査) 森1995「若宮大路周辺遺  
跡群発掘調査報告書」鎌倉市小町一丁目81番8地点」若宮大  
路周辺遺跡群発掘調査報告団 74.小町一丁目83-1 (1990調査) 佐々  
木ほか1993「鎌倉市早見芸術学術施設改築工事にかかわる埋蔵文化財  
発掘調査報告書」株式会社四門 75.小町一丁目83-3・32 (2007調  
査) 宮田2008「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」株式会社博  
通 76.御成町788-3外 (1995調査) 菊川1997「鎌倉市埋蔵文  
化財緊急調査報告書13-1」鎌倉市教育委員会 77.御成町808-6  
(2005調査) 神奈川県教育委員会2007「神奈川県埋蔵文化財調  
査報告書51」神奈川県教育委員会 78.御成町806-5他 (1981調査)  
齋木1985「諏訪地東遺跡」諏訪地東遺跡調査会 79.御成町806-3 (1981



調査) 齋木1982「御成町806-3番地地点」鎌倉考古学研究所 80. 御成町811 (1991調査) 松尾・維1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」鎌倉市教育委員会 81. 御成町819-1 (1984調査) 神奈川県教育委員会 1986「神奈川埋蔵文化財調査報告書28」神奈川県教育委員会 82. 御成町819-1 (1989調査) 菊川ほか1999「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 83. 御成町11-2 (1979調査) 齋木ほか1982「御成町806-3番地地点」鎌倉考古学研究所 84. 御成町802-2 (2002調査) 熊谷満2003「第13回鎌倉市遺跡調査・研究発表会」発表要旨」鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 85. 御成町11-15 (1981調査) 手塚ほか1983「蔵屋敷東遺跡」江ノ電鎌倉ビル発掘調査団 86. 御成町790-7 (2006調査) 神奈川県教育委員会 2007「神奈川埋蔵文化財調査報告書51」神奈川県教育委員会 87. 御成町788-6 (2013調査) 88. 御成町786-1 (1999調査) 齋木・降矢2002「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書-第85地点-」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 89. 御成町792-3・16 (2011調査) 90. 御成町843-1 (2013調査) 91. 御成町783-1他4筆 (2005調査) 齋木ほか2009「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書-御成町783番1他4筆地点-」鎌倉遺跡調査会 92. 御成町778-1外 (1988調査) 神奈川県教育委員会 1989「神奈川埋蔵文化財調査報告書31」神奈川県教育委員会 93. 御成町763-5 (2007調査) 齋木2011「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書-御成町763番5地点」鎌倉遺跡調査会 94. 御成町868外 (1990調査) 木村1993「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書-鎌倉市御成町868番地点-」鎌倉市教育委員会 95. 御成町872-11 (2012齋木) 96. 御成町872-14 (1991調査) 木村ほか1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会 97. 御成町884-6 (1997調査) 宮田ほか1999「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 宮田事務所 98. 御成町727-12・19 (1990調査) 99. 由比ヶ浜一丁目126-1 (2005調査) 熊谷満2009「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-2」鎌倉市教育委員会 100. 由比ヶ浜一丁目126-11 (2005調査) 熊谷満2009「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-2」鎌倉市教育委員会 101. 由比ヶ浜一丁目123-5外 (1994調査) 馬淵1995「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-1」鎌倉市教育委員会 102. 由比ヶ浜一丁目127-1 (2003調査) 宗室2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-2」鎌倉市教育委員会 103. 由比ヶ浜一丁目118-8 (1987調査) 馬淵1995「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11-1」鎌倉市教育委員会 104. 由比ヶ浜一丁目118-7 (1995調査) 遠藤ほか1997「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13-2」鎌倉市教育委員会 105. 由比ヶ浜一丁目117-1 (1988調査) 齋木1991「由比ヶ浜1-107-1地点遺跡」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 106. 由比ヶ浜一丁目116-9 (2011調査) 107. 由比ヶ浜一丁目120-2・14 (2008調査) 齋木2012「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書-由比ヶ浜一丁目120-14、120-2地点-」鎌倉遺跡調査会 108. 由比ヶ浜一丁目120-6 (1991調査) 109. 由比ヶ浜一丁目128-7 (1986調査) 馬淵1995「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4」鎌倉市教育委員会 110. 由比ヶ浜一丁目128-21 (2013調査) 111. 由比ヶ浜一丁目129-5 (1993調査) 清水ほか1995「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書(由比ヶ浜一丁目129番5地点)」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 112. 小町二丁目364-17 (2009調査) 押木「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30-2」鎌倉市教育委員会 113. 小町二丁目349-1の一部 (2008調査) 114. 小町二丁目345-2 (1983調査) 馬淵1985「小町2-345番2地点遺跡発掘調査報告書」小町二丁目345番2地点遺跡発掘調査報告書 115. 小町一丁目321-1 (1993調査) 宮田1996「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群(鎌倉警察署管内) 発掘調査団 116. 小町一丁目322-2 (1987調査) 1989「神奈川埋蔵文化財調査報告書30」神奈川県教育委員会 117. 小町一丁目325-1 (1992-1993調査) 佐藤・原1994「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書」鎌倉市教育委員会 118. 小町一丁目319-2 (1978調査) 松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報1」鎌倉市教育委員会 119. 小町

一丁目309-5 (1982調査) 齋木1983「小町一丁目390番5地点発掘調査報告」(推定) 藤内定員邸跡発掘調査団 120. 小町一丁目309-4 (1978調査) 松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報1」鎌倉市教育委員会 121. 小町一丁目322-1 (1992調査) 宮田1997「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 122. 小町一丁目891 (1979・1980調査) 齋木1985「(推定) 藤内定員邸跡遺跡」鎌倉市教育委員会 123. 小町一丁目329-7 (2013調査) 124. 小町一丁目329-1 (2010-2011-2012調査) 滝澤・安藤2014「若宮大路周辺遺跡群(№242) 発掘調査報告書」株式会社博通 125. 小町一丁目305・308 (1975調査) 松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財調査年報1」鎌倉市教育委員会 126. 小町一丁目331-1 (2012調査) 127. 小町一丁目333-2 (2007調査) 原「貿易陶磁研究28」貿易陶磁研究会 128. 小町一丁目333-15 (2010調査) 押木2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-2」鎌倉市教育委員会 129. 小町一丁目302 (1982調査) 130. 小町一丁目302 (1977調査) 131. 小町一丁目287-13 (1992調査) 齋木1992「鎌倉考古22」鎌倉考古学研究所 132. 小町一丁目276-18・22・38 (2005調査) 宮田2006「若宮大路周辺遺跡発掘調査報告書」株式会社博通 133. 小町一丁目1028-1 (1990調査) 大河内1997「若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書」若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 134. 大町1084-4 (2007調査) 135. 大町一丁目1032-1 (1982調査) 神奈川県教育委員会 1984「神奈川埋蔵文化財調査報告書26」神奈川県教育委員会 136. 大町一丁目1034-9 (2010調査) 北条時房・駒時邸跡(№278) 137. 小町一丁目264-4 (2002調査) 福田ほか2005「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21-1」鎌倉市教育委員会 138. 雪ノ下一丁目265-3 (1988調査) 田代・原1989「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会、宗室秀・宗室富1999「北条時房・駒時邸跡」東国歴史考古学研究所 139. 雪ノ下一丁目267-4 (2010調査) 馬淵2014「北条時房・駒時邸跡発掘調査報告書」株式会社博通 140. 雪ノ下一丁目269-1 (2006調査) 141. 雪ノ下一丁目271-1 (1987調査) 原・田代1989「北条時房・駒時邸跡」北条時房・駒時邸跡発掘調査団 142. 雪ノ下一丁目271-3 (1998調査) 馬淵2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2」鎌倉市教育委員会 143. 雪ノ下一丁目236-1 (2004調査) 原2010「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26-1」鎌倉市教育委員会 144. 雪ノ下一丁目271-4 (1998調査) 馬淵2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2」鎌倉市教育委員会 145. 雪ノ下一丁目272 (1996調査) 宗室秀・宗室富1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-1」鎌倉市教育委員会 146. 雪ノ下一丁目233-9 (1986調査) 馬淵1987「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書3」鎌倉市教育委員会 147. 雪ノ下一丁目234-3 (2008調査) 148. 雪ノ下一丁目273-0 (1986調査) 原ほか1988「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4」鎌倉市教育委員会 149. 雪ノ下一丁目273-1 (1997調査) 瀬田ほか1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-1」鎌倉市教育委員会、齋木ほか1999「北条時房・駒時邸跡」北条時房・駒時邸跡・鎌倉遺跡調査会 150. 雪ノ下一丁目274-2 (1986調査) 原・福田1988「北条時房・駒時邸跡」北条時房・駒時邸跡発掘調査団 北条小町邸跡(№282) 151. 雪ノ下一丁目377-6・7 (1994調査) 馬淵ほか1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-2」鎌倉市教育委員会 152. 雪ノ下一丁目374-2 (1985調査) 玉林ほか1985「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2」鎌倉市教育委員会 153. 雪ノ下一丁目372-7 (1984調査) 馬淵1985「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1」鎌倉市教育委員会 154. 雪ノ下一丁目371-1 (1984調査) 馬淵1985「北条泰時・時頼邸跡」北条泰時・時頼邸跡発掘調査団 155. 雪ノ下一丁目370-1 (1996調査) 土屋・宗室富1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-1」鎌倉市教育委員会 156. 雪ノ下一丁目369 (1990調査) 瀬田1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」鎌倉市教育委員会 157. 雪ノ下一丁目369-1 (1996調査) 原ほか1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-2」鎌倉市教育委員会 158. 雪ノ下一丁目369他(1989調査) 159. 雪ノ下一丁目367-1、368-1 (1998調査) 森ほか「北

桑小町馬跡(奈時・時頼馬跡)発掘調査報告書」北条小町馬跡発掘調査団 160. 雪ノ下一丁目419-3 (1986調査) 玉林1987「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書3」鎌倉市教育委員会 161. 雪ノ下一丁目427番2外 (2007調査) 沖元2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-2」鎌倉市教育委員会  
宇津宮辻子幕府跡(No.239) 162. 小町二丁目366-1 (1990-1991調査) 田畑1991「第1回鎌倉市遺跡調査-発表会発表要旨」鎌倉考古学研究所・中世都市研究会 163. 小町二丁目361-1 (1996調査) 原ほか1996「宇津宮辻子幕府跡発掘調査報告書」宇津宮辻子幕府跡発掘調査団 164. 小町二丁目360-1 (2012調査) 165. 小町二丁目354-2 (2004調査) 166. 小町二丁目354-12外 (1991調査) 熊谷洋ほか1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」鎌倉市教育委員会 167. 小町二丁目374-1 (1998調査) 原1998「第22回神奈川県遺跡調査-研究会発表要旨」神奈川県考古学会 168. 小町二丁目354-2 (1992調査) 継1993「第3回鎌倉市遺跡調査-研究発表会発表要旨」鎌倉考古学研究所・中世都市研究会 169. 小町二丁目389-1(1994調査)原・佐藤1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-1」鎌倉市教育委員会 170. 小町二丁目390-2外 (2004調査) 宇都2010「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26」鎌倉市教育委員会  
巨呂呂坂周辺遺跡(No.256) 171. 雪ノ下一丁目144-1 (2011調査) 滝澤2011「巨呂呂坂周辺遺跡(No.256) 発掘調査報告書」株式会社博通  
上杉正取跡(No.188) 172. 扇ガ谷二丁目195-2(2009調査)山口・松吉2014「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30-2」鎌倉市教育委員会  
華光院跡やぐら群(No.101) 173. 扇ガ谷二丁目191 (2002調査) 沙見・田畑2003「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19」鎌倉市教育委員会  
無量寺跡(No.196) 174. 扇ガ谷一丁目26-27 (2002調査) 森ほか2005「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21-2」鎌倉市教育委員会 175. 扇ガ谷一丁目26-89(2005調査)森ほか2007「無量寺跡(第3次)発掘調査報告書」博通 176. 扇ガ谷一丁目26-14 (2006調査) 滝澤ほか2008「無量寺跡(第4次)発掘調査報告書」博通 177. 扇ガ谷一丁目26-74外 (2002調査) 宮田ほか2004「無量寺跡発掘調査報告書」博通  
無量寺やぐら群(No.118) 178. 御成町39-6 (1991調査) 田畑・手塚1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会  
今小路西遺跡(No.201) 179. 御成町25番1外1筆 (2001調査) 森ほか2003「今小路西遺跡発掘調査報告書」今小路西遺跡発掘調査団 180. 扇ガ谷一丁目145-3-146-2 (2011調査) 後藤2012「第22回鎌倉市遺跡調査-研究発表会 発表要旨」NPO法人鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 181. 御成町171-1外 (2006調査) 菊川ほか2008「今小路西遺跡(No.201) 発掘調査報告書-御成町171番1外地点-」齊藤建設 182. 御成町200-2 (2003調査) 宇都ほか2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-1」鎌倉市教育委員会 183. 御成町15-5 (1980調査) 手塚ほか1982「千

葉地遺跡」千葉地遺跡発掘調査団 184. 御成町625-3 (1984・85調査) 河野ほか1990「今小路西遺跡(御成小学校内) 発掘調査報告書」鎌倉市教育委員会 185. 御成町625-3 (1991調査) 河野ほか1993「今小路西遺跡(御成小学校内) 第5次発掘調査概要」鎌倉市教育委員会 186. 由比ヶ浜一丁目136-1 (2008調査) 滝澤ほか2011「今小路西遺跡(No.201) 発掘調査報告書」博通 187. 由比ヶ浜一丁目134-4 (2008調査)  
下馬周辺遺跡(No.200) 188. 由比ヶ浜二丁目106-6・7 (2000調査) 沙見ほか2002「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1」鎌倉市教育委員会 189. 由比ヶ浜二丁目107-1 (1995調査) 沙見ほか1997「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13-2」鎌倉市教育委員会 190. 由比ヶ浜二丁目107-5 (2007調査) 191. 由比ヶ浜二丁目113-5 (2009調査) 192. 由比ヶ浜二丁目110-5 (1999調査) 菊川2001「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-1」鎌倉市教育委員会 193. 由比ヶ浜二丁目54-15 (2008調査) 194. 由比ヶ浜二丁目19-4 (2006調査) 沖元ほか2013「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-1」鎌倉市教育委員会 195. 由比ヶ浜二丁目18-12 (1990調査) 宗憲秀1992「下馬周辺遺跡 東京電力鎌倉営業所改築に係る発掘調査報告書」下馬周辺遺跡発掘調査団 196. 由比ヶ浜二丁目18-1 (2001調査) 197. 由比ヶ浜二丁目3-6 (2008調査) 宮田2010「下馬周辺遺跡発掘調査報告書」博通 198. 由比ヶ浜二丁目3-7 (2005調査) 神奈川県教育委員会2007「神奈川県埋蔵文化財調査報告書51」神奈川県教育委員会 199. 由比ヶ浜二丁目2-12 (1998調査) 熊谷洋1998「下馬周辺遺跡発掘調査報告書4」下馬周辺遺跡発掘調査団 200. 由比ヶ浜二丁目2-2-10(1990調査) 201. 由比ヶ浜二丁目2-2-2 (1988調査) 202. 由比ヶ浜二丁目2-39-14 (2004調査) 原2010「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26-1」鎌倉市教育委員会 203. 由比ヶ浜二丁目2-27-9 (1988調査) 204. 由比ヶ浜二丁目2-18-1 (2001調査) 205. 大町二丁目1001-4 (2005調査) 馬淵2011「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27-1」鎌倉市教育委員会 206. 大町二丁目975-6 (2003調査) 森2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22」鎌倉市教育委員会  
米町遺跡(No.245) 207. 大町二丁目993-1外 (2008調査) 山口2013「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-2」鎌倉市教育委員会 208. 大町二丁目992-7外 (2003調査) 滝澤・森2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-2」鎌倉市教育委員会  
小町大路東遺跡(No.233) 209. 大町一丁目1147 (2013調査) 後藤2014「第24回鎌倉市遺跡調査-研究発表会 発表要旨」NPO法人鎌倉考古学研究所・鎌倉市教育委員会 210. 大町一丁目1181 (1980調査) 原1980「鎌倉考古」鎌倉考古学研究所  
妙本寺遺跡(No.232) 211. 大町一丁目1146 (1992調査) 継ほか1994「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10-1」鎌倉市教育委員会 212. 大町一丁目1158-5 (1990調査) 宗憲秀1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」鎌倉市教育委員会 213. 大町一丁目1158-1 (1987調査) 福田1988「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4」鎌倉市教育委員会

『新編相模国風土記稿』(以下「風土記稿」と記す)「荏柄天神社」の項にて、「當郡郷名に荏草と記すあり、今其唱を失すれど全く當社地邊の舊唱ならん、草にかやの古調あれば、えがらえがやの轉訛なるを後文字をさへ今の如く書改めしなるべし」としている。また、現在の鎌倉市内中心部は鎌倉郷にあたとされ(鈴木・鈴木1984)、調査地点も鎌倉郷内に含まれると考えられる。

奈良から平安後期の鎌倉には二十近い寺社があり、12世紀初頭までに都市神の勧請もおこなわれているので、このころすでにかなりの都市的な集住形態が形成されていた可能性が指摘されている(野口1993・馬淵1994)。

具体的な出土事例として、地点184では古代郡家の政庁域と付属舍域、平安期に下る基壇倉庫群な



図2 明治15年頃の調査地点周辺(『迅速測図』)(1/20000)

どが検出されている。古代Ⅰ期は「竊五斗天平五年七月十四日」の墨書がある木簡から8世紀前半代に、古代Ⅴ期は出土遺物から10世紀初頭頃に比定している(河野ほか1990)。この他、地点28(菊川1992)・51(服部・穴戸1986)・56(馬淵1986)・68(小川・服部1984)・80(松尾・継1993)・81(齋木ほか1982)・82(菊川ほか1999)・84(熊谷満2003)・96(木村ほか1992)・181(菊川ほか2008)において遺構とともに律令期以降の遺物が出土している。また、中世層からの出土等、層位は伴わないものの、律令期以降の遺物の出土が確認された地点に8(滝澤2012)・33(福田ほか1999)・55(手塚1989)・85(手塚ほか1983)・166(熊谷洋ほか1993)・183(手塚ほか1982)がある。

平安後期以降の事例に、鶴岡八幡宮境内の国宝館取蔵庫建設地の事前調査の際、八幡宮創建以前の層から板製五輪塔を伴う男女二体の合葬墓が検出されている。

#### 鎌倉時代

源頼朝の鎌倉入り以前の鎌倉の状況は、詳しくはわからないが、『吾妻鏡』治承四年(1180年)十二月十二日条に「亥尅。前武衛「将軍」新造御亭有御移徙之儀。爲景義奉行。去十月有事始。營作于大倉郷也。(中略)入御于寝殿之後。御共輩參侍所。論。二行對座。義盛候其中央。著到云々。凡出仕之者三百十一人云々。又御家人等同攜宿館。自尔以降。東國皆見其有道。推而爲鎌倉主。所素邊鄙。而海人

野叟之外。卜居之類少之。正當于此時間。閭巷直路。村里授号。加之家屋並葺。門扉軒軒云々。」と記されており、頼朝の新御所御移徙と相前後して御家人の宿館が整備され、賑わったかのように見える。

頼朝が鎌倉入りするのは、『吾妻鏡』治承四年(1180年)十月六日条によると「着御于相模國。畠山次郎重忠爲先陣。千葉介常胤候御後。几慮從軍士不知幾千万。楚忽之間。未及營作沙汰。以民屋被定御宿館云々。」とあり、治承四年十月六日のこととなる。その後『吾妻鏡』同月十二日条に「寅魁。爲崇祖宗。點小林郷之北山。構宮廟。被奉遷鶴岡宮於此所。以專光坊整爲別當職。令景義執行宮寺事。武衛此間課齋給。當宮御在所。本新兩所用捨。賢慮猶危給之間。任神鑒於寶前自令取探圖給。治定當砌訖。然而未及花構之飭。先作芽茨之營。本社者。御冷泉御宇。伊与守源朝臣頼義奉勅定。征伐安倍貞任之時。有丹祈之旨。康平六年秋八月。潛勸請石清水。建瑞籬於當國由比郷。詔<sup>詔</sup>永保元年二月。陸奥守同朝臣義家加修復。今又奉遷小林郷。致頼繫礼奠云々。」とあり、由比若宮を治承四年(1180年)十月十二日に小林郷の北の山(現在の鶴岡八幡宮所在地)に遷座している。この由比若宮は同条によると、康平六年(1063年)八月に源頼義が安倍貞任征伐を記念して、密かに石清水八幡宮を勸請し、永保元年(1081年)二月に源義家が修復したものとなっている。

頼朝の鎌倉入り後、鎌倉は徐々に整備されていくようで、『吾妻鏡』治承五年(1181年)六月廿七日条に「鶴岳若宮材木。柱十三本。虹梁二支。今朝且著由比浦之由申之。」とあり、同年七月三日条に「若宮營作事。有其沙汰。而於鎌倉中。無可然之工匠。仍可召進武藏國淺草大工字郷司之旨。被下御書於彼所沙汰人等中。昌寛奉行之。」、同月八日条に「浅草大工参上之間。被始若宮營作。先奉遷神舩於殿殿。武衛參給。相模國大庭御厨寺一古娘依召参上。奉行遷宮事。亦輔通景能等沙汰之。來月十五日可有遷宮于正殿。其以前可造畢之由云々。」、養和元年(1181年)七月廿日条に「鶴岳若宮寶殿上棟。社頭東方構假屋。武衛著御。々家人等候其南北。工匠賜御馬。」、同月廿一日条に「景時者若宮造營之奉行也。」、同年八月十五日条に「鶴岳若宮遷宮。武衛參給云々。」とある。鶴岡若宮造營のための材木が由比浦に到着し、その後浅草大工を呼び寄せ、養和元年七月十五日に鶴岡若宮の遷宮を行っていることがわかる。また、この若宮造營の奉行為梶原景時であることもわかる。この後、『吾妻鏡』養和二年(1182年)三月十五日条に「自鶴岳社頭。至由比浦。直曲横而造詣住道。是日來離爲御素願。自然涉日。而依御臺所御懷孕御祈故。被始此儀也。武衛手自令沙汰之給。仍北條殿已下各被運土石云々。」とあり、北条政子懐妊の御祈を契機に、直線の参道(若宮大路)の整備が行われたことがわかる。また、『吾妻鏡』養和二年(1182年)四月廿四日条に「鶴岳若宮邊水田<sup>田</sup>。三町余。被停耕作之儀。被改池。專光・景義等奉行之。」とあり、水田を池に変えたことがわかる。現状と変化がなければ、これは現在の源平池となる。このように、由比若宮が現在の鶴岡八幡宮の地に遷された後も、八幡宮に関わるものは整備されており、当初から計画的に鎌倉の町づくりが行われていたとは言いがたい。

鎌倉初期と関わる可能性のある出土事例として、地点141(原・田代1989)では定窯白磁、地点121(宮田1997)では渥美刻画文壺といったものが出土している。また地点141(原・田代1989)・144(馬淵2000)・145(宗臺秀・宗臺富1998)では、若宮大路と異なる軸線を持つ、切り合いから見て最も古い溝が検出されている。

この後の鎌倉の町づくりを示す例の一つとして、『吾妻鏡』嘉祿元年(1225年)十月四日条に「相州(北条時房)。武州(北条泰時)。相具人々而。宇津宮辻子并若宮大路等。令巡檢。而始被打丈尺。」とある。松尾剛次氏はこの「而始被打丈尺。」という記載から、北条泰時が御所移転に際し、鎌倉にはじめて丈尺制を導入したことを指摘している。松尾氏によれば「丈尺制」は平城京や平安京で施行されていた家地用の単位である。また、松尾氏はこの時に連動して戸主制度と保の制度が導入されたと推測している。

これらのことをまとめて、「宇津宮辻子への御所の移転は、丈尺制（戸主制度）・保制度という京都をモデルにした土地制度・行政制度の導入の契機となった。」と評している（松尾1993）。この他に、秋山哲雄氏は「13世紀半ば頃までは小町大路や横大路が軸となっている地域もあり、従来の議論で考えられてきた、若宮大路を朱雀大路に見立てるような都市計画は、少なくともこの時期までは機能していたとは言えない。」「若宮大路が中心軸として土地計画に影響を及ぼし始めるのは13世紀半ば以降である。」と述べており（秋山2006）、鎌倉の町づくりの転換点がいづあったのか、という点は考古学的にも着目していく必要はあろう。

## 近在の寺社

**寿福寺** 亀谷山寿福金剛禪寺。臨済宗建長寺派。開山明庵栄西、開基源頼家・北条政子。背後（西側）に源氏山を負っている。室町期に鎌倉五山三位となり、「えかきやぐら」と呼ばれるやぐらに、北条政子・源実朝墓と伝えられる五輪塔二基がある。

『新編鎌倉志』には「此地は、古源頼義・同義家、東國征伐の時に、源氏山に登、（奥州）此地に居住せらる。後に義朝、爰に居住あり。源氏代々の宅地なり。」とある。

寿福寺が建立される以前の様子は『吾妻鏡』の記述からある程度読みとれる。『吾妻鏡』治承四年（1180年）十月七日条に「先奉遥拝鶴岡八幡宮給。次「監」臨故左典職之龜谷御舊跡給。即點當所可被建御亭之由。雖有其沙汰地形非廣。又岡崎平四郎義實爲奉訪彼没後。建一梵宇。仍被停其儀云々。」とあり、源頼朝は鎌倉入りした翌日に、源義朝の旧跡を訪れて、ここに第を構えようとしたが、土地が狭い上に、岡崎義実が義朝の菩提を弔うために堂を建立していたので、沙汰やみになっている。

『吾妻鏡』治承五年（1181年）三月一日条に「今日。武衛依爲御母儀御忌月。於土屋次郎義清龜谷堂。被修佛事。」とあり、頼朝の母の仏事が、岡崎義実の子である土屋義清の龜谷堂で修せられている。

『吾妻鏡』正治二年（1200年）閏二月十二日条に「爲尼御臺所御願。爲建立伽藍。被點出土屋次郎義清龜谷之地。是下野國司御舊跡也。爲報其恩岡崎四郎義實兼建草堂者也。今日。民部丞行光。大夫風入道善信巡檢地云々。」とあり、義朝の旧跡に岡崎義実が草堂を建立し、これを土屋義清が相伝していることがわかる。翌十三日条に「龜谷地被寄附葉上房律師榮西。（奥州）可爲清淨結界之地之由被印下。午刻。結衆等行道其地。施主監臨給。所右衛門尉朝光供奉御興。義清構假屋儲珍膳云々。未尅。堂舎（奥州）。營作事始也。善信。行光等奉行之。」とあり、この地を榮西に寄進し、造営が開始されたことがわかる。同年七月十五日条に「於金剛壽福寺。新圖十六羅漢像。被遂開眼供養。導師當寺長老葉上房律師榮西也。尼御臺所爲御聽聞。有參堂云々。」とあり、これが壽福寺の初見となる。ここに記載される十六羅漢像については、同年七月六日条に「尼御臺所於京都被圖十六羅漢像。佐々木左衛門尉定綱調進之。今日到來。御拜見之後。令奉送葉上房之寺給云々。」とあり、佐々木定綱が京都で調進したことがわかる。以上の記事から義朝の旧跡に壽福寺が建立されたことがわかる。

壽福寺建立後については、『吾妻鏡』建仁二年（1202年）二月廿九日条に「壞渡故大佛（奥州）。沼濱御舊宅於鎌倉。被寄附于榮西律師龜谷寺。行光奉行之。此事。當寺建立取初。雖有其沙汰。僅爲彼御記念。幕下將軍殊被修復其破壞。暫不可有顛倒儀之由。被定之處。佛興入于尼御臺所（奥州）夢中。被示云。吾常在沼濱亭。而海邊極漁。壞之令建立于寺中。欲得六樂云々。御夢覺之後。令善信記之給。被遣榮西云々。大官令云。六樂者六根樂賦云々。」とあり、沼浜の義朝旧宅から、建仁二年（1212年）七月九日条に「今日。御所侍被破却之。被寄附壽福寺。即可被新造云々。」とあり、侍所から材木が転用されている。これらの記事から、その後も壽福寺の整備が行われていたことがわかる。また、『吾妻鏡』宝治元年（1247年）十一月七日条に「丑刻。依失火。金剛壽福寺佛殿以下至控門悉以災。」「吾妻鏡」正嘉二年（1258年）

正月十七日条に「丑尅。秋田城介泰盛甘縄宅失火。南風頻扇。越薬師堂後山。到壽福寺。惣門。佛殿。庫裏。方丈巴下。堀内不殘一字。餘災。新清水寺窟堂。并其邊民屋。若宮寶藏。同別當坊寺焼失。」と二度の火災の記録があり、この時には既に伽藍が整備されていたようである。さらに、元享三年(1323年)北条貞時十三年忌供養には壽福寺から260人の僧衆の参加が確認でき、これは建長寺・円覚寺に次ぐもので、かなりの大寺になっていたことがわかる(円覚寺文書『北条貞時十三年忌供養記』神奈川県史料編2-2364)。

**英勝寺** 壽福寺の北隣。東光山英勝寺と号す。浄土宗。尼寺。もと知恩院末。開山玉峯清因。開基英勝院長誉清春。寛永十三年十一月二十三日建立。英勝院は俗名勝、徳川家康の側室。勝は太田康資(太田道灌四代の孫)の娘。『新編鎌倉志』には「此地は本太田道灌の舊宅なり。」とあり、『鎌倉攷勝考』には「此地はもと、太田持資入道道灌の舊宅の地なりといふ。」と見え、『風土記稿』には「寺域は太田道灌の舊跡にして」とある。また、「三代將軍家光は本尊を寄進、また英勝院の一周忌に境内を拡張し寺領として源氏山を寄進した。」とある(貫・川副・佐脇1959)。

**無量寺跡** 鎌倉駅西方から銭洗弁天へ抜ける隧道手前の谷戸を無量寺谷と呼ぶ。『新編鎌倉志』には「興禪寺の西の方の谷なり。昔此處に無量寺と云寺有。泉涌寺の末寺也し云。今は亡。(中略)居宅甘縄なり。此邊まで甘縄の内なれば、此寺歟。後無量寺と云傳る歟。(中略)今鍛冶綱廣が宅有。」とあり、『鎌倉攷勝考』には「興禪寺の西の谷をいふ。古へ此所に無量寺といふ寺ありし、泉涌寺の末なりしといふ。いま廢せり。(中略)此邊までも甘縄のうちなり。」と見え、『風土記稿』には「興禪寺の西にあり、今字して無量寺谷と唱ふ、無量寺は京泉涌寺の末なりしと云ふ。(中略)義景は藤九郎盛長が孫なり、甘縄に居る此地甘縄と接壤なれば無量壽院の故址ならんか、」とある。これらの記事から近世には、無量寺谷周辺まで「甘縄」と認識されていたことがわかる。

『神奈川県の地名』には「金沢文庫古文書」の伝法灌頂附法次第に建長二年(1250年)九月「相州鎌倉无量壽寺」と見え、同文書には無量壽院の名が散見する。」とあり(鈴木・鈴木1984)、これが年紀のわかるものでは、最も古いものになるか。

『吾妻鏡』文永二年(1265年)六月三日条に「日中夕立。故秋田城介義景十三年之佛事也。於無量壽院。自朔日至今日。或十種供養。或一切經供養也。而今迎正日。供養多寶塔一基。導師若宮別當僧正隆弁。(中略)伊勢入道行願。武藤少卿入道心連。信濃判官入道行一以下數輩。爲結縁詣其場。說法最中。降雨如車軸。于時山上所構之聽聞假屋傾倒。諸人希有而逝去。其中男女二人。自山巖墜于路之北。半死半生云々。」とあり、無量寺にて秋田城介義景十三年忌仏事が催され、說法の最中に大雨で山上の聽聞用仮屋が倒壊したことが記されている。また、『編智院法印灌頂資記』の弘安三年(1280年)の記事に「泰盛。號城介。

弘安三年九月三日。於關東授之。法爾。城介歸依僧。弘安三年九月十四日。於關東無量壽院授之。重受。」とある。『鎌倉大草紙』には応永二十三年(1416年)十月の上杉輝秀の乱の出来事として、「無量寺をば上杉敵人大夫憲長。飯田。海上。園田四郎手負。無量寺へ取入。さて禪寺の方には二階堂信濃守。同山城守。其外駿河下總勢各一手に成て荒手二百餘騎にて攻來る。」とあり、無量寺が戰場となっている。ただ、『新編鎌倉志』、『鎌倉攷勝考』、『新編相模國風土記稿』のいずれも「無量寺口」として記載されているが、群書類従所収の『鎌倉大草紙』は「無量寺」となっている。

**華光院跡** 『新編鎌倉志』には「壽福寺の東向なり。眞言宗。本尊は不動。佐介谷稻荷別當の所居也。昔は壽福寺の塔頭にて、壽福寺新命入院の時は先づ此院に入て、それより壽福へ入院すと云ふ。榮西は、顕密禪なる故に、始より眞言宗なり。今は別院となりぬ。」とあり、『鎌倉攷勝考』には「壽福寺の向ひなり。もとは眞言宗、本尊不動なり。佐介谷稻荷の別當、古へは壽福寺の塔頭ゆへ、今も先此院に入て、夫よ

り壽福寺へ晋山せしといふ。今は別院となりぬ。」と見え、『風土記稿』には「龍興山と號す、眞言宗、鶴岡八幡宮の社僧なり、開基を頼舜と云ふ。本尊不動を安ず、鶴岡社領の内一貫三百文を配當し、佐介稲荷社を進退す」とある。これについて、『鎌倉廃寺事典』は「しかるに『鎌倉志』にいう別院とは壽福寺の別院の意味らしいが、そうすると、鶴岡と壽福寺の両方に属しているみたいである。」としている(貫・川副1980)が、これは素直に「今は別の院となった。」と解釈し、昔は壽福寺の塔頭であったものが、鶴岡八幡宮下の佐介稲荷別当の居する所となった、と理解するのが良いのではないかと。

『新編鎌倉志』「上杉定政舊宅」の項に、「上杉定政舊宅は、華光院の前を云ふ。今は昌也。此地を扇谷と云也。」とある。

松源寺跡 「現在の窟堂東谷にあったとみられる眞言宗の寺。」(鈴木・鈴木1984)、『新編鎌倉志』には「鍔観音の西、巖窟堂の山の中壇にあり。本尊は地藏、運慶が作。相傳ふ、頼朝卿、伊豆に配流の時、伊豆日金に折て、我世に出ば必ず地藏を勧請せんと約せし故に、こゝに移すと云ふ。」とある。『鎌倉攷勝考』には「別當日金山彌勒院松源寺といふ。眞言新義。御室御所の末なり。」と見える。『風土記稿』には「日金山と號す、眞言宗、開山貞節（註）本尊地藏（註）を安ず、縁起に據に治承四年八月頼朝豆州日金山の地藏に源家の開運を祈り、成業の後彼山の像を模して爰に安置し、即日金地蔵と稱すなり」とある。『鎌倉廃寺事典』「松源寺」の項に「『神仏分離史料』下の四二〇頁には松源院に頼朝帰依の地藏菩薩があり、長谷寺に移されたが、のち三浦武山に移されたとみえている。横須賀市武の東漸寺である。」と見える(貫・川副1980)。

『吾妻鏡』弘長三年(1263年)四月七日条に「天晴。入夜。窟堂邊騒動。但則静謐。是群盜十余人隠居地藏堂之間。夜行輩等行向其庭生虜故也。」とあり、この記事に関して『鎌倉廃寺事典』「地藏堂」の項に「この地藏堂が窟堂の一部なのか、別にあったのかかわからない。ともかく近くにあったのは確かである。これが後に松源寺となるものと考えられる。」としている(貫・川副1980)。

窟堂 壽福寺から鶴岡八幡宮西南隅へ至る道の北側、山腹に岩窟があり、不動明王を祀る。『新編鎌倉志』には「巖窟不動は、松源寺の西、山の根にあり。巖窟の中に、石像の不動あり。弘法の作と云ふ。【東鑑】には、窟堂とあり。俗、或は岩井堂と云ふ。巖窟堂、今は教圓坊と云僧持分なり。昔は等覺院の持分なりけるにや。」とある。『鎌倉攷勝考』には「【東鑑】に窟堂又は岩屋堂、岩井堂と有るも此所の事なり。日金地蔵のにしの山麓にて、窟中に石像の不動あり。弘法大師のさくといふ。此前の道路を岩屋小路と唱ふ。(中略)昔は等覺院といふが別當なりしが、今は散圓坊といふ庵室の持とす。むかし等覺院別當のときは、日金堂をも兼持せしといふ。」と見える。『風土記稿』には「村西に巖窟あり。其中巖面に不動の像、彫るのみ今は堂宇なし、(中略)尊運は鶴岡別當二十三世の僧なれば元は別當坊の持なりしを、應永三十三年七月等覺院の住僧明塔を建るに依て尊運より譲りしなり、されど是等の事實都て傳を失へり、鶴岡社人山口榮存持」とある。

『吾妻鏡』文治四年(1188年)正月一日条に「日中以後風霽。大風。佐野太郎基綱窟堂下宅焼亡。始如飛。人屋數十宇災。依爲鶴岳近所。二品參宮中給。諸人競集云々。」とあるのが初見か。

『吾妻鏡』文治四年(1188年)十月十日条に「浮雲所々掩。雨僅灑即止。已尅。窟堂聖阿彌陀佛房詣勝長壽院礼佛。退出之後。於路頓滅。稀有事。」とあり、これについては「この僧が永く堂守であったとすれば、窟堂はすでに平安時代後期から存在した、古い堂ということになる。」(鈴木・鈴木1984)と、窟堂が頼朝以前から存在した可能性が示されている。

『吾妻鏡』承久二年(1220年)正月廿九日条に「入夜。窟堂邊焼亡。進士判官代工藤右衛門尉等家災」とあり、同年三月九日条に「酉刻。窟堂邊民居數十宇災。」とある。

前掲『吾妻鏡』弘長三年(1263年)四月七日条とあわせて、これらの記事から窟堂周辺が御家人と町家の混在する地帯であったことはわかるが、詳細は不明である。

『吾妻鏡』建暦三年(1213年)五月三日条に「當斯時。大學助義清自甘繩入龜谷。經窟堂前路次。欲參旅御所之處。於若宮赤橋之砌。流矢之所犯。義清亡命。件箭自北方飛來。」とあり、当時の甘繩から八幡宮前への経路の一つを窺い知ることができる。

『吾妻鏡』建長四年(1252年)五月五日条に「御所造當將軍家御方違事有其沙汰。陰陽道六人參入。(中略)亦龜谷方角罷向見定之可申之由。被仰下之間。行義。行方。景頼等令引率彼六人。登窟堂後山上。即歸參。當乾方之由。一同申之云云。」という記事も見える。

貞応二年(1223年)から、さほど時をへずに成立したとされる『海道記』には「夕に及びて西に帰りぬ。鶴が岳に登りて鳩の宮(鶴岡八幡宮)に参ず。(中略)月の光にたたずみて、石屋堂の山、梢かすかにながめて不審く帰る。」という記述が見える。また『鎌倉廃寺事典』「窟堂」の項に「永仁四年(1296)四月十六日未の刻、岩屋堂から出火し、北方へ焼けた(『随聞私記』)」とある。

鎌倉幕府滅亡後の窟堂・松源寺の状況に関しては、應永三十三年(1426年)七月十七日付の<sup>(鶴岡八幡宮文書)</sup>等覚院法印御房宛の『尊運避状』(『鶴岡八幡宮文書』神奈川県史資料編3-5761)に「岩井堂日金事、可被立卯塔之由承候、(中略)以彼所限永代奉避渡候了、兼又同以被申方候之間承候、其段可令存知候也」とあり、卯塔を立てるための敷地が、鶴岡八幡宮別当尊運から等覚院快季に与えられていることがわかる。天文十六年十月十九日付の『鎌倉代官大道寺盛昌證文』(『鶴岡八幡宮文書』神奈川県史資料編3-6846)に「鶴岡御社家御菩提<sup>(註)</sup>金免田之事、壹貫文目之所、改而爲御寄進申定、進之置候所也、仍證文如件」とあり、宛名は「社家御菩提所日金(松源寺)」となっている。このことから、松源寺が鶴岡八幡宮の菩提所であったことと、鎌倉代官大道寺盛昌から一貫文の地が寄進されたことがわかる。應永三十三年『尊運避状』と天文十六年『鎌倉代官大道寺盛昌證文』の二通は『鎌倉市史資料編第一』の『鶴岡八幡宮文書七七號文書』の注に「相州文書ニハ鶴岡八幡宮・僧松源寺所藏トシテ取メラル」とあり、このことから「窟堂は松源寺の管理するところであったと考えられる。」としている(貫・川副・佐脇1959)。また、『新編鎌倉志』に「岩井堂日金事、如来院僧正、任證文、成敗不可有相違候、恐々謹言、五月九日、等覚院へ、空然判とある状あり。」と空然書状が記されている。空然は後の小弓公方足利義明で鶴岡八幡宮別当を務めている。還俗するのが永正年間(1504年～1520年)初期になるので、これ以前の書状となる。いずれの史料にも鶴岡八幡宮及び等覚院が関わることから、鶴岡八幡宮-等覚院-松源寺-窟堂、という関係があった可能性を指摘できる。

巽神社 祭神は奥津日子神・奥津日女神・火産靈神。天正十九年(1591)十一月日付『徳川家康社領寄進状案』(『巽荒神社文書』鎌倉市史資料編1-406)には「寄進 荒神」とあり、『新編鎌倉志』及び『鎌倉攷勝考』は「巽荒神」としている。この他に「荒神社(『浄光明寺領荒神社領租税録』)」(貫・川副・佐脇1959)という呼び名もある。「勸請年月未詳。延暦二十年、坂上田村麿が葛原岡に勸請したと伝えている」という(貫・川副・佐脇1959)。「新編鎌倉志」には「今小路の南、壽福寺の巽にあり。故に名く、本壽福寺の鎮守なり。今は浄光明寺の玉泉院の持分也。」とあり、もとは壽福寺の鎮守であり、その壽福寺の巽の方角に所在することが名の由来であることが示されている。なお、「明治二年の前掲『租税録』(『浄光明寺領荒神社領租税録』)には、「当山鎮守、荒神社」とあり、浄光明寺の鎮守となっている。」とある(貫・川副・佐脇1959)。



## 第二章 調査の概要

### 1. 調査にいたる経緯

小町二丁目24番14地点で個人専用住宅建設の照会があった。当該地点は若宮大路周辺遺跡群 (No. 242) として県遺跡台帳に登録されている周知の遺跡であり、南側隣接地点の小町二丁目24番20地点において既に発掘調査が行われているため、当該地点においても遺跡の存在が確認された。

建築計画では鋼管杭の打設による基礎工事を伴い、遺構の損傷は避けられないが、強度維持の関係上設計変更は困難なため、国庫補助事業として本発掘調査が実施されることとなった。

あらかじめ平成19(2007)年8月28日に重機による表土掘削を行ない、調査は同年8月29日から開始された。

### 2. 調査の経過

#### 日誌抄

8月28日(火)	重機による表土掘削	9月14日(金)	3b面土4掘削後全景写真撮影
8月30日(木)	1面調査開始	9月18日(火)	3c面全景写真撮影
9月3日(月)	1面全景写真撮影	9月19日(水)	4b面全景写真撮影
9月4日(火)	1面土2掘削後全景写真	9月21日(金)	5b面全景写真撮影
9月10日(月)	2面全景写真撮影	9月25日(火)	7面板列写真撮影
9月13日(木)	3b面全景写真撮影	9月26日(水)	機材撤収

### 3. 調査方法

#### 掘削方法

掘削にあたって、残土は場内処理とした。南側隣接地点の調査成果から、表土下3m以上の遺構面の存在が想定されるため、安全上の理由から表土下1.5mほどから調査区を縮小して調査を進めた。

#### 測量基準の設定

ここでは作業効率を考慮して、調査区長軸中心部を通る測量基準線と、それに直交する基準線を5mおきに配した。そして、のちこれらを世界測地系に座標変換するという方法を採用した。

調査区は以下の範囲内にある。

[エリア9] X - 75 225.70 ~ X - 75 230.02  
Y - 25 611.70 ~ Y - 25 615.42



図3 調査区設定図 (1/300)

## 第三章 調査結果

### 第1節 概要

#### 1. 層序と面の概要

##### 地表面と表土

地表面の海拔は8.50 m～8.55 mほどで、ほぼ平坦な面になっている。表土層は60～70cmほどあり、一部深くなっているもの、おむね水平に堆積している。この表土層を除くと1層とした明灰色粘質土が現われ、この1層を除くと1面検出面となる。迅速測図では本地点周辺は水田や畑となっており、後世の耕作や近現代以降の開発で1層より上層は削平を受けている。

##### 1面

1層とした明灰色粘質土の下に現われる最初の検出面。標高7.67 m～7.72 m程度となる。1面構成土は2層とした暗灰色弱粘質土となるが、2層下の遺構面のもも1面遺構群として検出している。

##### 2面

1面遺構群を5cm～17cmほど掘り下げると黄灰色砂質土が現れる。これを2面とした。この黄灰色砂質土は泥岩粒や砂粒で構成されており、地行層になるか。海拔は7.51 m～7.59 m。

##### 3a面

2面を5cm～15cmほど掘り下げると黄灰色砂質土の地行層が現れる。これを3 a面とした。海拔は7.36 m～7.47 m。実際の遺構検出はこの地行層の下層に堆積した、腐植土層と炭層上面で行った。

##### 3b面

3 a面下に5cm～10cmほど堆積する黄灰色砂質土層と炭層・腐植土層を掘り下げると、黄灰色砂質土の地行層が現れる。これを3 b面とした。海拔は7.31 m～7.34 m。

##### 3c面

3 b面を15cmほど掘り下げると、主に炭土(20層)で構成された遺構面が現れる。これを3 c面とした。調査区の南側では3 b面と同一の遺構面を使用していたようである。海拔は7.16 m～7.31 m。

##### 4a面

3 c面を14cm～30cmほど掘り下げると、暗青灰色と青灰色の砂質土地行層が現れる。これを4 a面とした。海拔は6.98 m～7.17 m。

##### 4b面

4 a面を5cm～11cmほど掘り下げると、泥岩片・砂岩片を多く含んだ暗青灰色の砂質土層が現れる。これを4 b面とした。海拔は6.88 m～7.05 m。

##### 5a面

4 b面を10cm～17cmほど掘り下げると、炭土と腐植土、木くずで覆われた層が現れる。これを5 a面とし、遺構検出を行った。海拔は6.72 m～6.81 m。

##### 5b面

5 a面を7cm～10cmほど掘り下げると、炭土が薄く広く堆積した青灰色砂質土の地行層の面と、灰褐色粘質土の混入した腐植土が現れる。これを5 b面とした。海拔は6.55 m～6.65 m

##### 6a面

5 b面を14cm～17cmほど掘り下げると、暗灰褐色粘質土層上に炭土が広がった状況が現れる。これ

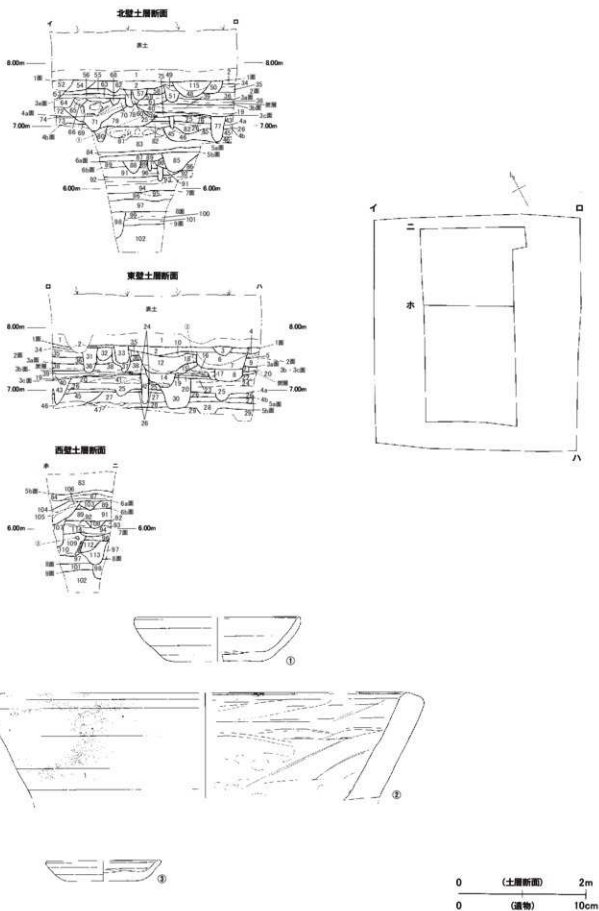


図4 調査区土層断面図

1. 明灰色粘質土 炭化物・鉄分・泥岩粒混入
2. 暗灰色弱粘質土 炭化物(多)・土器細片・砂粒・鉄分(1面構成土)
3. 灰褐色弱粘質土 砂岩(拳大)・炭化物・土器細片・泥粒(やや多)
4. 暗灰色弱砂質土 炭化物(多)・砂粒
5. 暗灰色砂質土 泥岩(小石大)・砂岩(小石大)つまる。炭化物(多)
6. 暗灰色粘質土 炭化物(多)・泥岩粒(多)・砂岩粒(多)砂粒(多)・土器細片
7. 暗青灰色砂質土 炭化物(やや多)・泥岩(小石大まで)(多)・砂岩(小石大まで)(多)
8. 黄茶褐色弱砂質土 砂岩粒・貝砂・炭化物・暗灰色粘質土混入
9. 黄灰色砂質土 砂岩(小石大まで)つまる。鉄分(2面構成土)
10. 茶褐色砂質土 砂岩粒(多)・炭化物・砂粒
11. 黄灰色砂質土 炭化物多量につまる。土器細片
12. 黄灰色砂質土 泥岩(小石大まで)・砂岩(小石大まで)白色砂粒つまる。炭化物混入。
13. 暗茶褐色粘質土 腐植土(茶褐色粘土)混入。砂粒・炭化物
14. 暗茶褐色粘質土 炭化物(多)・木片・腐植土・砂岩(拳大まで)・白色砂粒・遺物片
15. 黄灰色砂質土 暗灰色粘土混入
16. 黄灰色砂質土
17. 黄灰色砂質土 炭化土混入。砂岩(拳大)
18. 黄灰色砂質土 暗灰色粘土・炭化物(多)混入
19. 茶褐色纖維質腐食土 直上直下に薄い炭層ある(3b面構成土)
20. 炭土 砂質土・木片(多)・泥岩粒・砂岩粒・砂岩(拳大)混入(3c面構成土)
21. 黄灰色砂質土 9に比べキメ細かい泥岩粒・砂岩粒つまる。泥岩粒(微)・砂岩粒(微)・炭化物(3a面構成土)
22. 暗灰色砂質土 炭化物(多)・木片(多)(3c面構成土)
23. 暗黄灰色砂質土 木片(多)・礫(多)・遺物片(多)・泥岩粒・砂岩粒
24. 炭土 砂質土(多)・木片(多)・泥岩(半人頭大)・砂岩(半人頭大)
25. 暗茶褐色腐食土 木片(多)・炭化物(多)泥岩粒・砂岩粒
26. 暗青灰色砂質土 炭化物(やや多)・砂岩・砂粒の地行土(4a面構成土)
27. 暗青灰色砂質土 26より色調濃い。腐植土・泥岩(拳大)(やや多)・砂岩(拳大)(やや多)(4b面構成土)
28. 暗茶褐色腐食土 25と同質
29. 暗青灰色砂質土 上層、弱地行土。下層、腐植土(多)混入(5a面構成土)
30. 暗灰色粘質土 木片・炭化物・砂粒・腐植土(多)・貝殻粒・泥岩粒・砂岩粒
31. 灰褐色弱粘質土 炭化物(微)・砂粒・木片
32. 黄灰色砂質土 泥岩粒(小石大まで)・砂岩粒(小石大まで)つまる。炭化物(微)混入
33. 30と同質
34. 暗灰色弱砂質土 炭化物・泥岩粒(小石大まで)(多)
35. 暗灰色砂質土 34より砂質土
36. 暗灰色弱粘質土 炭化物(少)・木片(少)・泥岩粒・砂岩粒(2面構成土)
37. 灰褐色粘質土 炭化物(少)・泥岩粒・砂岩粒・遺物片
38. 黄灰色砂質土 砂岩粒・砂粒を含む 地行土(3a面構成土)
39. 38と同質の地行土(3b面構成土)
40. 暗灰色弱粘質土 炭化物・木片・泥岩粒(やや多)・砂岩粒(やや多)・砂粒(やや多)
41. 暗灰色弱粘質土 炭化物(少)・泥岩粒(小石大)・木片
42. 暗茶灰色粘質土 炭化物(多)・木片(多)
43. 暗灰色粘質土 木片・炭化物・泥岩粒(多)・砂岩粒(多)粘性強(3c面構成土)
44. 暗茶褐色弱粘質土 腐植土(多)・貝殻粒・炭化物
45. 暗茶褐色弱粘質土 腐植土中に砂岩粒(多)・砂粒(多)・炭化物・泥岩(小石大)
46. 暗青灰色粘質土 腐植土(少)・木片・炭化物・泥岩粒(やや多)・砂岩粒(やや多)
47. 19と同質の純正の腐植土
48. 灰褐色弱砂質土 山砂(多)・泥岩粒・砂岩粒・小石・炭化物・土器細片
49. 灰褐色弱砂質土 黄灰色砂質土(多)・炭化物・鉄分混入
50. 灰褐色弱粘質土 炭化物(やや多)・鉄分(やや多)・土器細片(やや多)・鉄塊・泥岩粒・砂岩粒・砂粒・小石
51. 灰褐色弱砂質土 土器細片・炭化物・山砂(少)
52. 2と同質 色調濃い。鉄分(微)
53. 灰褐色弱砂質土 山砂(多)・炭化物(微)
54. 2と同質 鉄分・炭化物、2より多い
55. 黄灰色砂質土 山砂(多)
56. 黄灰色砂質土 上層灰褐色粘土混入、木片・炭化物(2面構成土)
57. 灰褐色弱砂質土 炭化物・黄灰色砂(多)・土器細片・鉄分(少)
58. 黄灰色砂質土 砂岩(拳大まで)つまる地行土
59. 灰褐色弱砂質土 黄灰色砂と灰褐色粘土混合物・土器片・土器片
60. 黄灰色砂質土 砂岩(拳大)
61. 黄灰色砂質土 58に比べきめ細かい砂岩・砂粒つまった地行土、炭化物
62. 黄灰色砂質土 灰褐色土・礫・鉄分・炭化物(やや多)
63. 黄灰色砂質土 上層、鉄分(多) 下層、灰褐色土混入(2面構成土)
64. 黄灰色砂質土 上層、砂岩粒 下層、炭化物(多)・灰褐色粘土
65. 黄灰色砂質土
66. 黄灰色砂質土 炭化物・砂粒塊(小石大)
67. 黄灰色砂質土 砂粒・炭化物つまる
68. 黄灰色砂質土 下層、炭化物(多)
69. 黒褐色土 炭化物(多)・木片(多)・大型砂岩
70. 暗灰褐色粘質土 木片・炭化物含む
71. 茶褐色腐植土 多量の木片・炭化物混入、しまり弱い
72. 茶褐色腐植土 炭化物(やや多)
73. 茶褐色腐植土 炭化物・木片(少)
74. 青灰色砂質土 弱い地行土(4a面構成土)
75. 20と同質
76. 青灰色砂質土 地行土
77. 暗茶褐色腐植土 木片(多)・炭化物(多)
78. 青灰色弱砂質土 灰褐色砂質土・炭化物混入
79. 暗茶褐色腐植土 木片・炭化物・泥岩粒(少)・砂岩粒(少)
80. 暗茶褐色腐植土 暗灰色砂質土・炭化物混入
81. 青灰色砂質土 大型泥岩(多)・大型砂岩(多)(4b面構成土)
82. 青灰色砂質土 腐植土混入、炭化物・木片・泥岩粒・砂岩粒
83. 暗茶褐色腐植土 炭化物・貝片・泥岩粒・砂岩粒
84. 暗茶褐色腐植土 灰褐色粘質土混入(5a面構成土)

85. 暗茶褐色腐植土 有機質土がつまる
86. 暗茶褐色腐植土 85に似るが木片含む
87. 暗茶褐色腐植土 83と同じ(5b面構成土)
88. 暗茶褐色腐植土 灰色粘土・炭化物(多)
89. 暗茶褐色粘質土 黒褐色粘土(炭)・砂岩・小石・茶灰色粘土混入(6面構成土)
90. 暗茶褐色粘質土 腐植土(多)・炭化物(多)・木片(多)・泥岩粒・砂岩粒
91. 暗茶褐色粘質土 鉄分・腐植土・炭化物・木片・灰
92. 暗茶褐色粘質土 91と似るが含有量少ない
93. 茶褐色腐植土 炭化物・泥岩粒・砂岩粒混入
94. 灰褐色粘質土 腐植土(少)混合、炭化物・泥岩粒(微)・砂岩粒
95. 灰褐色粘質土 腐植土・木片・炭化物・泥岩粒(多)(7面構成土)
96. 灰褐色粘質土 95より混入物少ない(7面構成土)
97. 灰茶褐色粘質土 腐植土・炭化物・貝殻片・泥岩粒(微)・小石(微)、粘性強
98. 灰褐色粘質土 木片(少)・炭化物・黄灰色粘土・泥岩(小石大)
99. 灰褐色粘質土 木片(ごく微)・炭化物・泥岩粒(8面構成土)
100. 明灰褐色弱砂質土 青灰色砂・木片・炭化物(少)
101. 茶灰色粘土と青灰色粘土 木片(ごく微)・炭化物混入(8面構成土)
102. 暗茶褐色粘質土 茶灰色粘土(微)・遺物片(9面構成土)
103. 暗茶褐色腐植土 炭化物(多)・木片(多)・灰褐色粘土・泥岩粒
104. 暗茶褐色腐植土 木片(多)・炭化物(多)・灰褐色粘土・泥岩粒・小石
105. 灰褐色粘質土 炭化物(少)・腐植土(少)・泥岩粒
106. 茶褐色有機質土 炭化物(少)・灰褐色粘質土(少)混入
107. 灰褐色粘質土 腐植土・木片・炭化物・泥岩粒(やや多)
108. 暗茶褐色粘質土 木片(少)・炭化物(少)・泥岩(拳大)・貝殻片
109. 灰褐色粘質土 炭化物(少)・腐植土(少)・黄灰色粘土・泥岩粒・小石・木片
110. 暗茶色弱腐植土 炭化物(少)・木片混入
111. 青灰色砂質土 地行土
112. 暗茶褐色腐植土 大型の木製品(多)・遺物片・青灰色砂質土
113. 暗茶褐色粘質土 木片(少)・腐植土・炭化物・泥岩粒・小石・黄茶色粘土
114. 94に似るが混入物少ない
115. 暗灰色弱粘質土 鉄分(多)・炭化物(多)・土器細片・泥岩粒・小石

を6a面とした。海拔は6.31m～6.49m。

## 6b面

6a面を12cmほど掘り下げると、暗茶褐色粘質土が広がり、遺物がまとも出土したため、ここで一度精査を行った。遺構は検出されず、6a面出土遺物との接合も認められたため、生活面として評価できるかは定かではない。海拔は6.31m～6.33m。

## 7面

6b面を37cm～40cmほど掘り下げると、灰褐色粘質土層の広がる面を検出する。板列を伴う落込みを確認できたため、これを7面とした。海拔は5.92m～5.97m。

## 8面

7面を42cm～47cmほど掘り下げると、茶灰色と青灰色の粘土層が検出された、遺物の出土と、土層断面から遺構の存在を確認できたため、これを8面とした。海拔は5.45m～5.65m。

## 9面

8面から11cm～13cmほど掘り下げると、暗茶褐色粘質土層になる。土層注記には遺物片が含まれるとあるが、茶褐色粒子を遺物片と誤認した可能性もあり、地山層である可能性を否定できない。海拔は5.32m～5.45m。

## 第2節 各説

### 1. 1面

#### 面の概要(図5)

検出高: 7.70 m ~ 7.64 m 面構成土: 暗灰色弱粘質土 検出遺構: 建物1棟・土坑2基・ビット45穴  
1面出土遺物: 土師器皿R種小型(1~4) 穿孔土師器皿R種小型(5)・土師器皿R種大型(6)・フイゴ羽口(7)・常滑片口鉢I類(8)・渥美甕(9)・常滑甕(10・11)・常滑片口鉢II類(12)・備前播鉢(13・14)・瀬戸卸皿(15・16)・瀬戸折縁深皿(17)・瀬戸香炉か(18)・竜泉窯青磁I類碗(19)・瀬戸碗か(20)・石製品硯(21) 特記事項: 13の備前播鉢は四辺が磨耗している。20の瀬戸は大窯期まで下る可能性あり。

#### 建物1(図5)

位置: X(-75 226.39) ~ -75 229.25 Y-25 612.70 ~ (-25 615.69) 規模: 東西1間, 2.00 m × 南北1間, 2.00 m 主軸方位: N-28°-E 重複関係: 土坑2・P.1・P.12・P.32を切る、P.5に切られる  
出土遺物: (P.4) 土師器皿R種小型(22) 特記事項: 南東端は調査区外のため確認できず。また調査区が狭小なため建物の全容を明らかにしたとは言えない。

#### 土坑1(図5)

位置: X-75 228.03 ~ (-75 228.96) Y-25 614.05 ~ (-25 615.33) 平面形: 楕円形 断面形: 浅皿形 規模: 長径1.24 m × 短径(0.85 m) × 深さ0.10 m 主軸方位: N-24.5°-W 重複関係: 土坑2・P.25・P.28・P.29を切る、P.2・P.3を切られる 出土遺物: 常滑片口鉢II類(23)・瀬戸平底末広碗(24)・瀬戸卸皿(25) 特記事項: 調査区南壁よりで検出したため、南側の範囲は不明。23の常滑鉢は中野編年8~9型式のもの。

#### P. 3(図5)

位置: X-75 228.37 ~ -75 228.73 Y-25 614.52 ~ -25 614.95 規模: 長径0.45 m × 短径0.34 m × 深さ0.20 m 主軸方位: N-35°-W 重複関係: 土坑1・P.25を切る 出土遺物: 土師器皿R種大型(26)  
特記事項: 26の土師器皿は13世紀後葉を上限とするもの。

#### 土坑2(図6)

位置: X-75 226.51 ~ (-75 229.63) Y(-25 612.17 ~ -25 615.03) 平面形: 隅丸方形 断面形: 浅皿形 規模: 長径(2.54 m) × 短径(2.08 m) × 深さ0.22 m 主軸方位: N-25°-W 重複関係: 1面すべての遺構に切られる 出土遺物: 土師器皿R種小型(1・2)・瓦器質輪花火鉢(3)・常滑甕(4~6)・常滑甕転用摩耗陶片(7)・瀬戸卸皿(8)・瀬戸蓋か(9)・青白磁碗(10) 特記事項: 調査区が狭小のため東側と南側の範囲は不明。ただし東壁土層断面では土坑の落込みを確認していない。土師器皿は13世紀後葉が上限のもの。4・5の常滑甕は中野編年7~8型式。8の卸皿は古瀬戸前IV期~中期のものか。

#### 1面ビット出土遺物(図6)

出土遺物: (P.1) 土師器皿R種小型(11・12)・土師器皿R種大型(13)・瀬戸柄付片口(14)・(P.6) 瓦器質火鉢(15)・(P.8) 瓦質火鉢(16)・(P.10) 土師器皿R種小型(17)・(P.13) 常滑壺(18)・(P.15) 土師器皿R種大型(19)・瀬戸卸皿(20)・(P.16) 鉄製品鑿か(21)・(P.18) 穿孔土師器皿R種小型(22)・(P.19) 常滑甕(23)・(P.25) 土師器皿R種大型(24)・青白磁梅瓶(25)・(P.26) 瓦器質土鍋(26)・(P.27) 土師器皿R種小型(27)・(P.29) 土師器皿R種大型(28)・(P.37) 土師器皿R種小型(29)・(P.43) 白磁輪花碗(30)・(P.44) 常滑片口鉢II類(31) 特記事項: 土師器皿は13世紀後葉が上限のもの。20の卸皿は古瀬戸前IV期~中I期のものか。23の常滑甕は中野編年6a~6b型式、31の片口鉢は8型式。

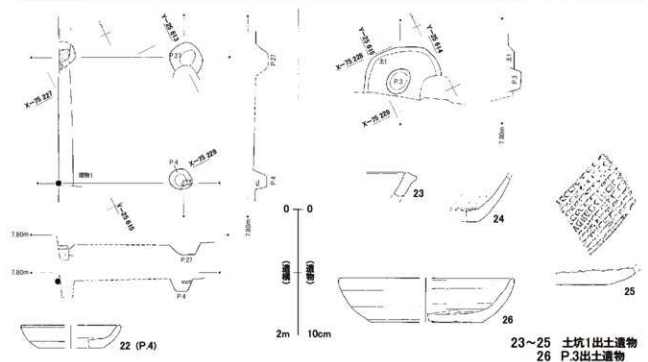
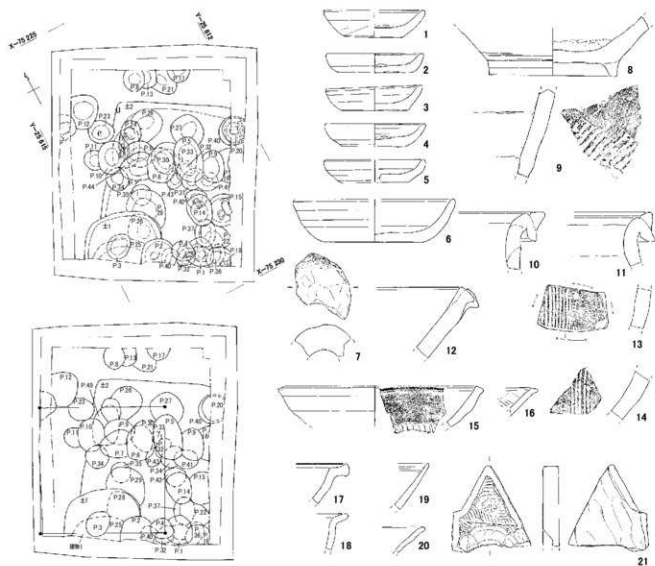
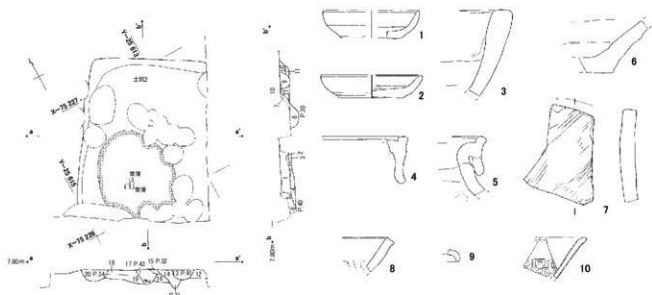


図5 1面遺構全図、同出土遺物・建物1・土坑1・P.3、同出土遺物

23~25 土坑1出土遺物  
26 P.3出土遺物





1. 暗青灰色弱砂質土  
炭化物・泥岩粒・小石大泥岩・土師器皿細片やや多く含む
2. 暗青灰色弱砂質土  
砂質土に暗茶色土少量混入・炭化物含む
3. 暗青灰色弱砂質土  
2と同質
4. 暗青灰色弱砂質土  
炭化物多く含む・少量の小石大泥岩片・土師器皿片を含む
5. 暗青灰色弱砂質土  
黄色粘土・炭化物・泥岩片・砂質土を含む
6. 暗青灰色弱砂質土  
灰茶褐色粘土・炭化物混入
7. 暗青灰色弱砂質土  
5と同質
8. 黄茶褐色砂質土  
炭化物・灰褐色粘質土混入
9. 暗青灰色弱粘質土  
土師器皿細片・炭化物・泥岩粒・黄色粘土を多く含む・砂質土含む
10. 暗青灰色弱砂質土  
炭化物・泥岩粒を少量含む
11. 青灰色弱砂質土  
泥岩粒・小石大泥岩をやや多く含む
12. 暗青灰色粘質土  
鉄分多く含む・炭化物・泥岩粒微量含む
13. 暗青灰色粘質土  
鉄分・礫までの泥岩・炭化物・やや多く含む
14. 暗青灰色粘質土  
粘性強・炭化物多く含む・土師器皿細片・礫までの泥岩・鉄分少量含む
15. 暗青灰色粘質土  
14と同質・炭化物多く含む
16. 暗茶褐色弱粘質土  
鉄分・炭化物少量含む・土師器皿細片・山砂・泥岩粒含む
17. 茶褐色弱砂質土  
鉄分・土師器皿細片やや多く含む・炭化物・泥岩粒含む
18. 茶褐色弱砂質土  
泥岩粒・炭化物・山砂を多く含む
19. 茶褐色弱砂質土  
砂質土多く含む・炭化物・小石・大泥岩少量含む
20. 暗青灰色弱砂質土  
炭化物多く含む・泥岩粒・鉄分・土師器皿細片含む

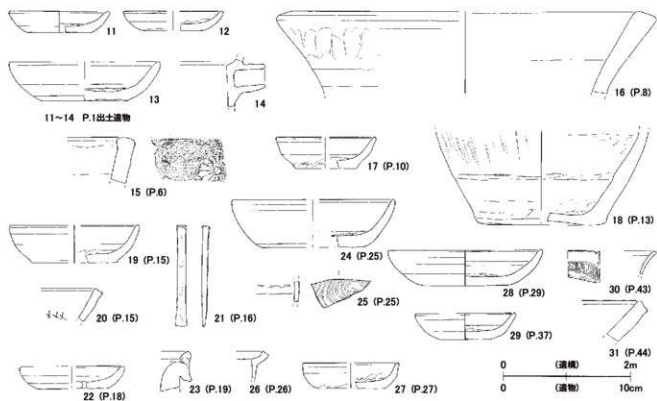


図6 土坑2、同出土遺物・1面ビット出土遺物

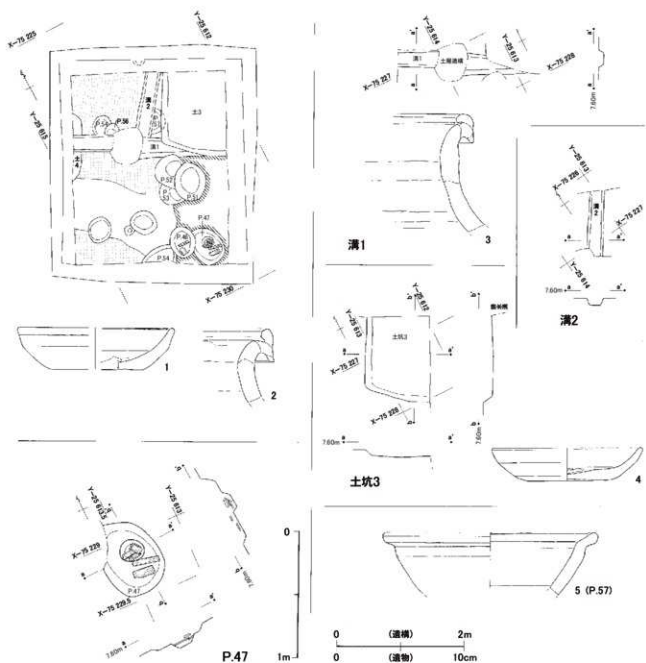


図7 2面遺構全図、同出土遺物・溝1、同出土遺物・溝2・土坑3、同出土遺物・P.47・2面ビット出土遺物

## 2. 2面

### 面の概要(図7)

検出高：7.40 m～7.57 m 面構成土：黄灰色砂質土・暗灰色弱粘質土 検出遺構：溝2条・土坑2基・ビット12穴 2面出土遺物：土師器皿R種大型(1)・常滑甕(2)

### 溝1(図7)

位置：X(-75 226.53～-75 227.88) Y(-25 612.84～-25 614.65) 断面形：逆台形 規模：最大幅0.35 m×長さ(2.07 m)×深さ0.08 m 主軸方位：N-70.5°-W 重複関係：土坑4・溝2・P.54・P.56を切る、土坑3・P.52に切られる 出土遺物：常滑甕(3) 特記事項：常滑甕は中野編年6a～6b。

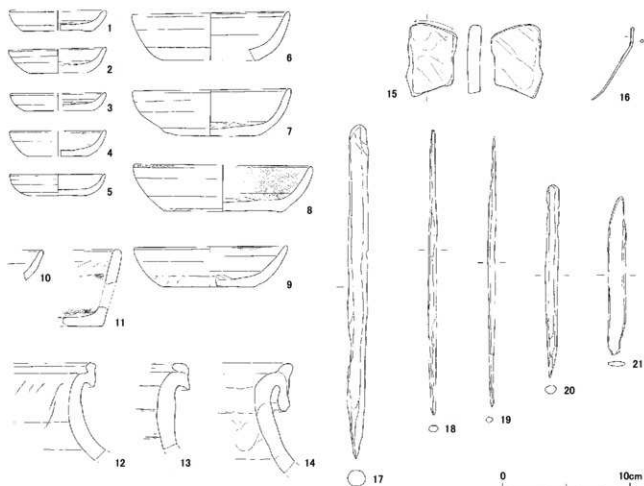


図8 2面構築土内出土遺物

### 溝2 (図7)

位置: X (-75 226.27 ~ -75 227.22) Y (-25 612.86 ~ -25 613.39) 断面形: 逆台形 規模: 最大幅0.25 m × 長さ(1.04 m) × 深さ0.11 m 主軸方位: N-38.5° -E 重複関係: P.57を切る、溝1に切られる。  
出土遺物: 凶化可能遺物なし

### 土坑3 (図7)

位置: X (-75 226.41 ~ -75 228.04) Y (-25 612.05) ~ -25 613.34 平面形: 不整隅丸方形 断面形: 浅鉢形 規模: 長径(1.34 m) × 短径(1.03 m) × 深さ0.14 m 主軸方位: N-24° -E 重複関係: 溝1・P.57を切る 出土遺物: 土師器皿R種大型(4)

### P.47 (図7)

位置: X -75 228.84 ~ -75 229.46 Y -25 613.23 ~ -25 613.70 平面形: 不整楕円形 断面形: 浅皿形 規模: 長径0.63 m × 短径0.46 m × 深さ0.06 m 主軸方位: N-5° -W 重複関係: P.46に切られる  
出土遺物: 凶化可能遺物なし 特記事項: 礎板を敷き詰めた穴をもつ。

### 2面ビット出土遺物 (図7)

出土遺物: (P.46) 瀬戸折縁中皿(5) 特記事項: 瀬戸は中I・II期のものか。

### 2面構築土内出土遺物 (図8)

出土遺物: 土師器皿R種小型(1~5)・土師器皿R種大型(6~9)・白色土師器皿R種大型(10)・

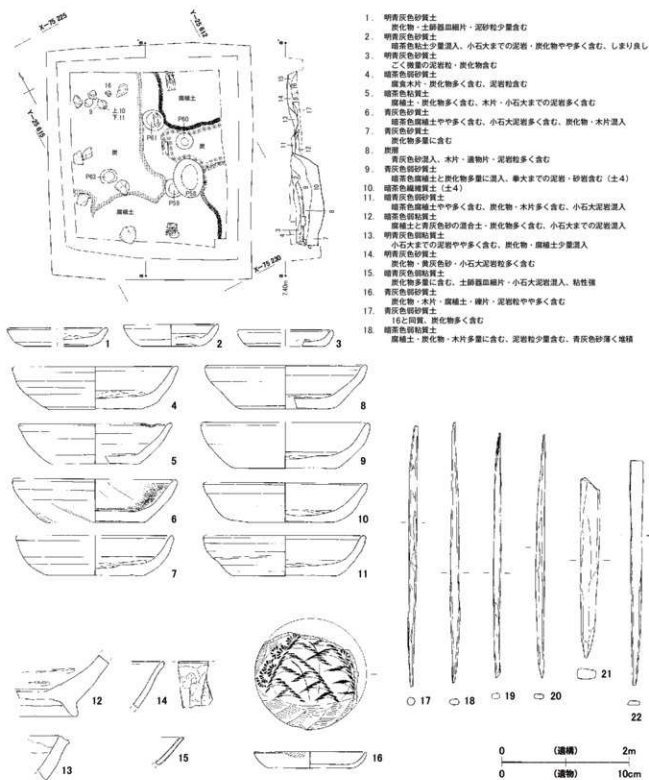


図9 3a面遺構全図、同出土遺物

土器香炉か(11)・常滑甕(12～14)・常滑甕転用磨耗陶片(15)・不明銅製品(16)・串状木製品(17)・箸状木製品(18・19)・へら状木製品(20・21) 特記事項：土師器皿は13世紀後葉が上限のもの。常滑甕は中野編年6a～8型式のもの。16の銅製品は近現代の可能性もある。調査区壁からの落下により近現代遺物が混入した可能性を指摘しておく。

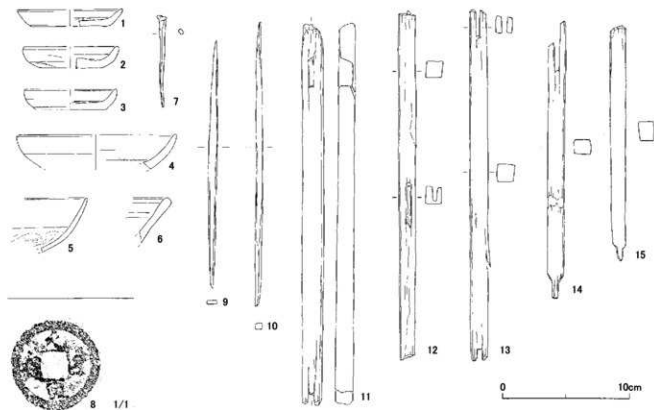


図10 3a面構築土内出土遺物

### 3. 3a面

#### 面の概要 (図9)

検出高：7.35m～7.40m 面構成土：黄灰色砂質土 検出遺構：ピット5穴 3a面出土遺物：土師器皿R種小型(1～3)・土師器皿R種大型(4～11)・常滑片口鉢I類(12)・常滑片口鉢II類(13)・竜泉窯青磁II類碗(14)・白磁I類皿(15)・漆器皿(16)・箸状木製品(17～20)・へら状木製品(21)・棒状木製品(22) 特記事項：土師器皿は13世紀後半以降のもの。14の青磁は13世紀中葉頃までのもの。15の白磁は13世紀後半のもの。

#### 3a面構築土内出土遺物 (図10)

出土遺物：土師器皿R種小型(1～3)・土師器皿R種大型(4)・瓦器質碗(5)・常滑片口鉢I類(6)・鉄釘(7)・元豊通宝(8)・箸状木製品(9・10)・不明木製品部材(11～15) 特記事項：土師器皿は13世紀中頃が上限となる。6の常滑片口鉢I類は中野編年5～6a型式のもの。11～15の木製品は建具の部材となる可能性もある。

### 4. 3b面

#### 面の概要 (図11)

検出高：7.25m～7.30m 面構成土：黄灰色砂質土 検出遺構：土坑1基・ピット8穴 3b面出土遺物：土師器皿R種小型(1・2)・土師器皿R種大型(3・4) 特記事項：上面に炭化層が広く堆積している。土師器皿は13世紀後半以降のもの。

#### 遺物集中部 (図11・12)

位置：X-75 226.01～75 227.65 Y-25 612.13～25 614.55 出土遺物：土師器皿R種小型(5)

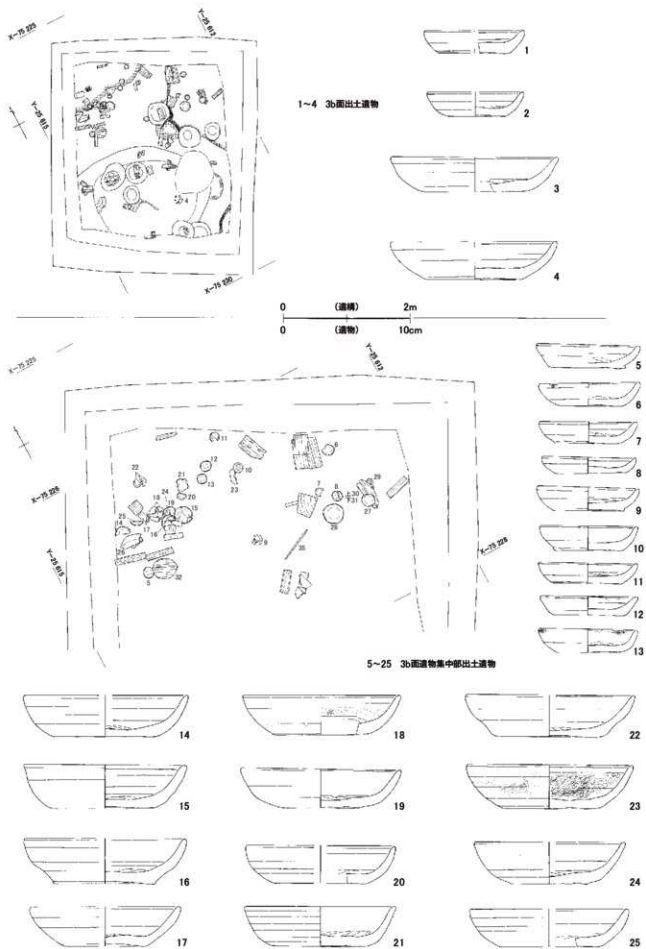


図11 3b面遺構全図、同出土遺物・3b面遺物集中部、同出土遺物(1)

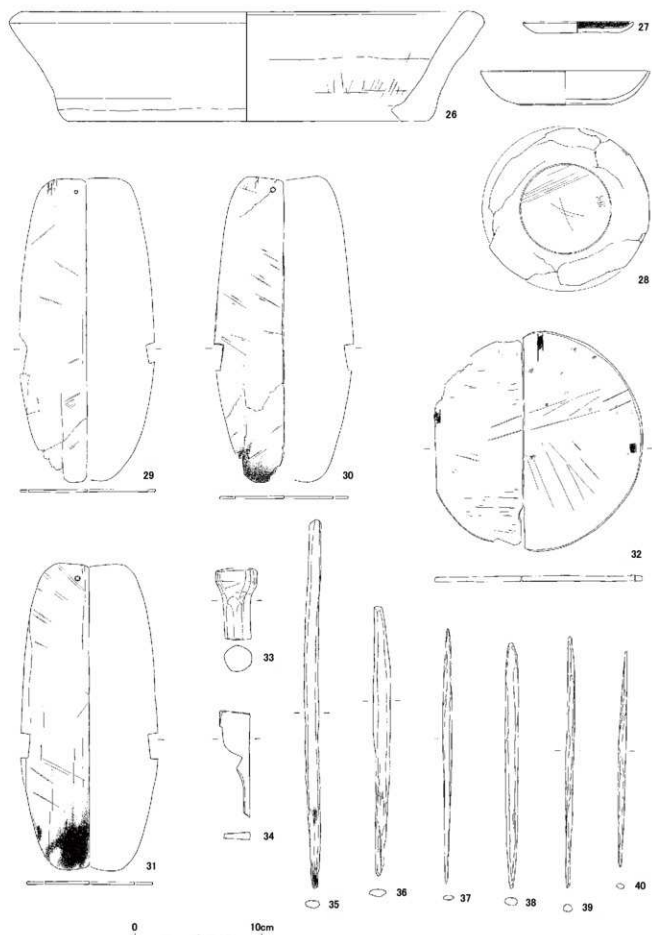


图 12 3 b 面遺物集中部出土遺物 (2)

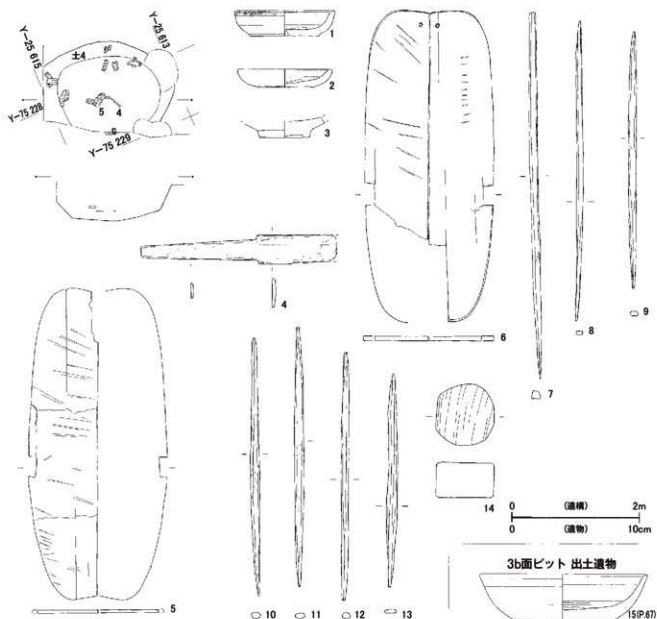


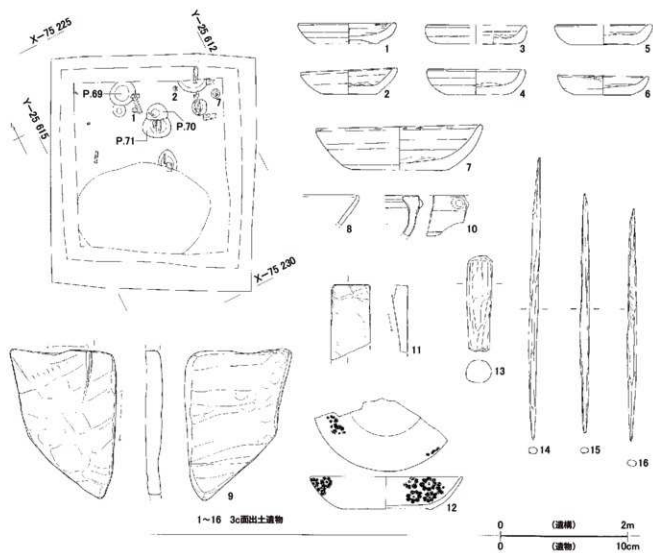
図13 土坑4、同出土遺物・3b面ビット出土遺物

～13)・土師器皿R種大型(14～25)・土器質火鉢(26)・漆器皿(27)・漆器椀(28)・板草履芯(29～31)・木製品円盤(32)・木製品栓(33)・木製品肘木(34)・串状木製品(35・36)・箸状木製品(37)・串状木製品(38)・箸状木製品(39・40) 特記事項：土師器皿は13世紀中頃を上限とするもの。33の木製品は栓になるか。

#### 土坑4(図13)

位置：X-75 227.31～-75 228.90 Y-25 613.04～-25 615.18 充填土：青灰色弱砂質土・暗茶色繊維質土 平面形：楕円形 断面形：深鉢形 規模：長径(2.16m)×短径(1.48m)×深さ(0.52m) 主軸方位：N-74°-W 重複関係：P.64・67・68他ビット2穴に切られる 出土遺物：土師器皿R種小型(1・2)・竜泉窯青磁碗(3)・鉄製品刀子(4)・板草履芯(5・6)・串状木製品(7)・箸状木製品(8～13)・不明木製品(14) 特記事項：繊維質土が厚く堆積し、ウジのサナギも確認できた。有機質の廃棄物が充填されていた土坑か。土師器皿は13世紀中頃を上限とするもの。3の青磁は大宰府I類かII類にあたるが施文の有無が不明。図示した遺物は全て繊維質土内か繊維質直上のもの。





1~16 3c面出土遺物

17~27 3c面構築土内出土遺物

图 14 3c面遺構全図、同出土遺物・3c面構築土内出土遺物

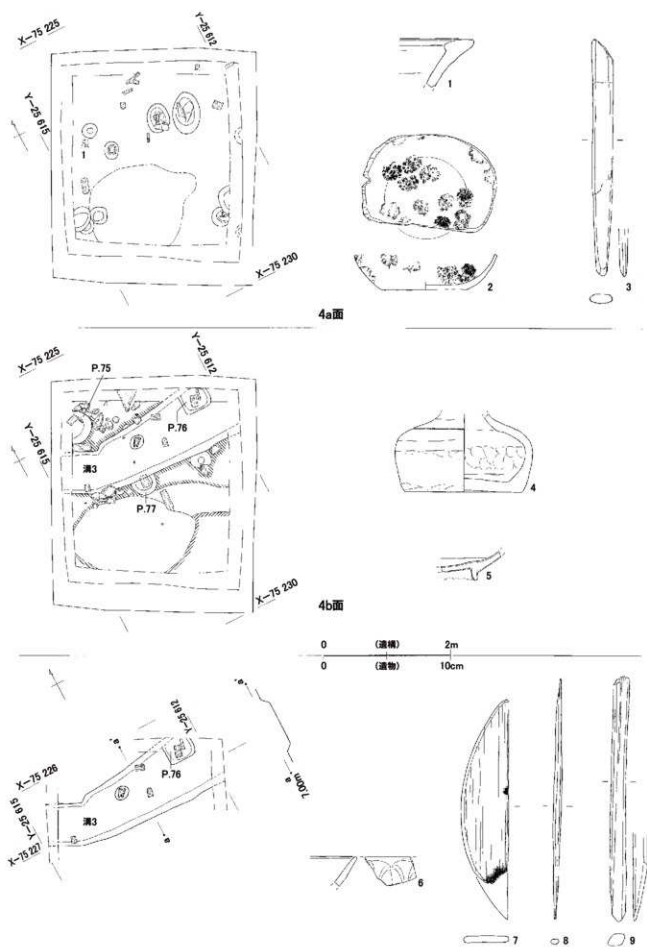


図15 4a面遺構全図、同出土遺物・4b面遺構全図、同出土遺物・溝3、同出土遺物

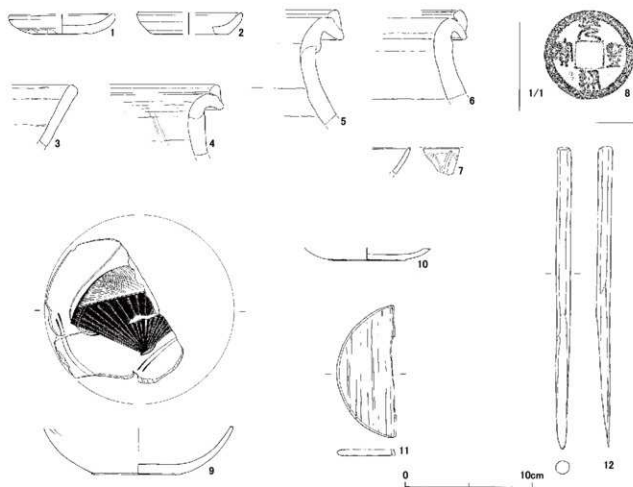


図16 4b面構築土内出土遺物

### 3b面ビット出土遺物 (図13)

出土遺物：(P.67) 土師器皿R種 (15) 特記事項：土師器皿は13世紀後葉を上限とするもの。

## 5. 3c面

### 面の概要 (図14)

検出高：7.15m～7.20m 面構成土：炭化物を多く含む砂質土 検出遺構：ビット6穴 3c面出土遺物：土師器皿R種小型(1～6)・土師器皿R種大型(7)・白色系土師器皿R種大型(8)・常滑甕転用摩耗陶片(9)・竜泉窯青磁Ⅲ類香炉(10)・砥石仕上砥(11)・漆器椀(12)・不明木製品(13)・箸状木製品(14～16) 特記事項：土師器皿は13世紀後半以降のもの。10の青磁は大宰府分類Ⅲ類併行のもの。

### 3c面構築土内出土遺物 (図14)

出土遺物：土師器皿R種極小型(17)・土師器皿R種小型(18)・常滑甕(19・20)・竜泉窯青磁Ⅲ類碗(21)・白磁Ⅸ類皿(22)・不明木製品(23～25)・不明木製品部材(26・27) 特記事項：土師器皿は13世紀後半以降のもの。21の青磁は大宰府分類Ⅲ類。22の白磁は大宰府分類Ⅸ類。25の木製品は糸巻きか。27の木製品は建具の部材になる可能性がある。

## 6. 4a面

### 面の概要 (図15)

検出高：6.95m～7.15m 面構成土：暗青灰色砂質土・青灰色砂質土 検出遺構：ビット9穴 4a

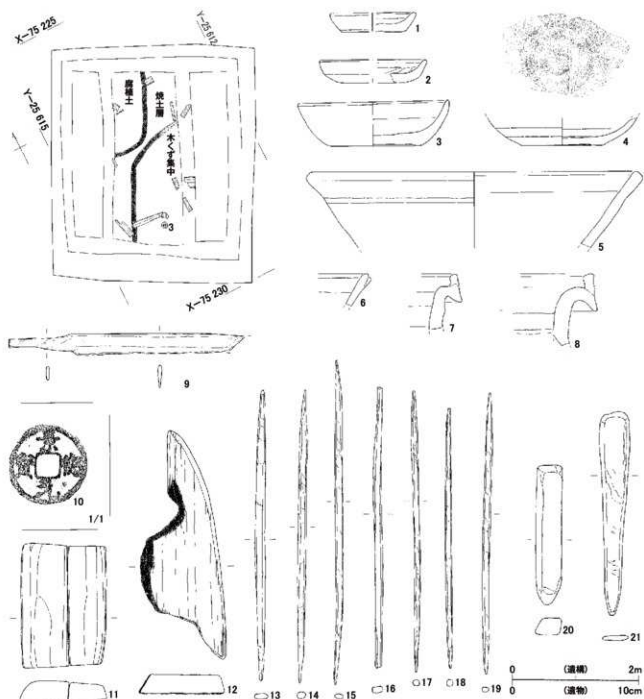


図17 5a面遺構全図、同出土遺物

面出土遺物：土器質火鉢(1)・漆器碗(2)・ヘラ状木製品(3) 特記事項：調査区南側は上層土坑により大きく削平されている。

#### 7.4 b面

面の概要(図15)

検出高：6.81m～6.95m 面構成土：暗青灰色砂質土・青灰色砂質土 検出遺構：溝1・ピット5穴

4b面出土遺物：常滑高口壺(4)・竜泉窯青磁Ⅲ類鉢(5) 特記事項：調査区南側は上層土坑により大きく削平されている。4の常滑高口壺は13世紀中葉頃に多く生産されたもの。5の青磁は大宰府分類Ⅲ類。

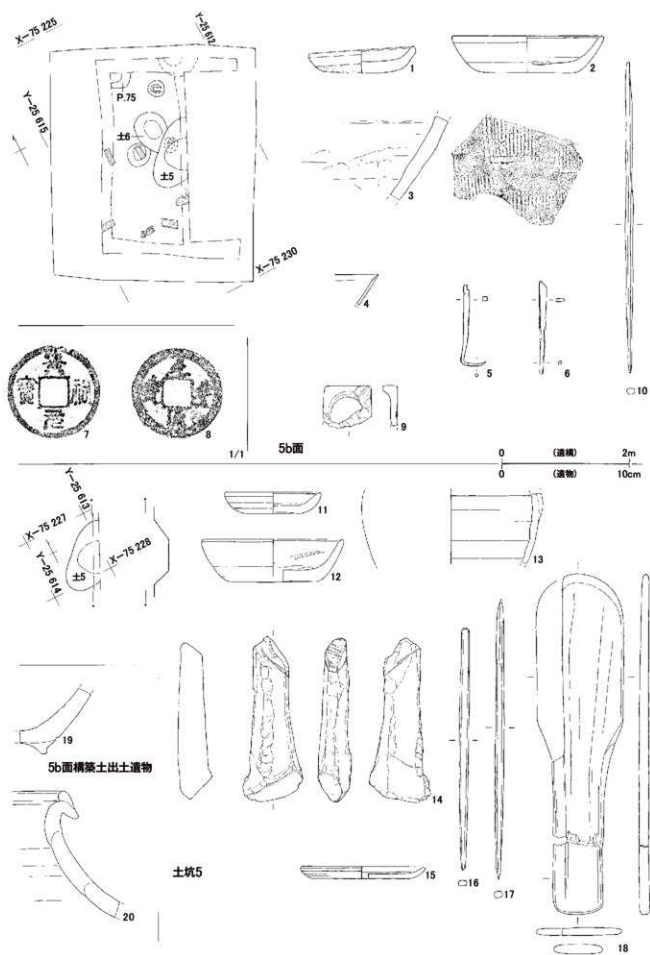


图18 5b遺構全圖、同出土遺物・土坑5、同出土遺物・5b面構築土

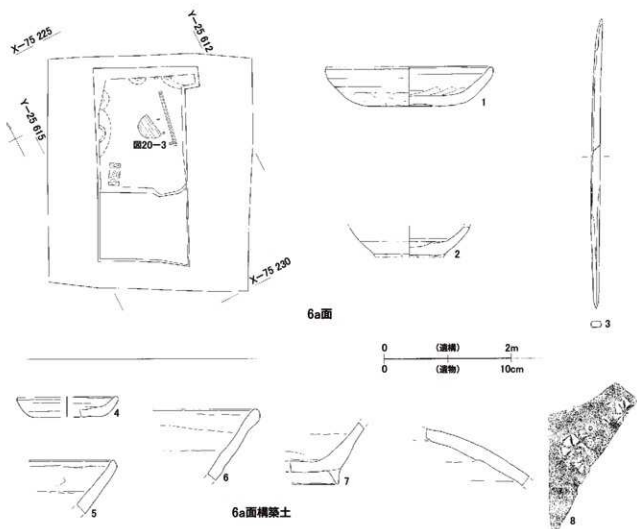


図19 6a面遺構全図、同出土遺物・6a面構築土内出土遺物

### 溝3 (図15)

位置: X(-75 226.32 ~ -75 227.40) Y(-25 611.90 ~ -25 615.92) 断面形: 浅皿形 規模: 最大幅1.07 m × 長さ(3.22 m) × 深さ0.11 m 主軸方位: N-90° -E 重複関係: P.76・77を切る 出土遺物: 竜泉窯青磁Ⅱ類碗(6)・木製品円盤(7)・箸状木製品(8)・へら状木製品(9) 特記事項: 6の青磁は大宰府分類Ⅱ類。7の円盤は蓋ないし底になるものか。

### 4 b面構築土内出土遺物 (図16)

出土遺物: 土師器皿T種小型(1)・土師器皿R種小型(2)・常滑片口鉢Ⅰ類鉢(3)・常滑甕(4~6)・竜泉窯青磁Ⅱ類碗(7)・元豊通宝(8)・漆器椀(9・10)・木製品円盤(11)・へら状木製品(12) 特記事項: 土師器皿は13世紀後半以降のもの。3の片口鉢は中野編年5型式~6 a型式のもの。常滑甕は6 a型式から6 b型式のもの。11の円盤は蓋か底になるか。

## 8.5 a 面

### 面の概要 (図17)

検出高: 6.60 m ~ 6.70 m 面構成土: 暗青灰色砂質土・暗茶褐色腐植土 検出遺構: 5 a面出土遺物: 土師器皿R種小型(1・2)・土師器皿R種大型(3・4)・常滑片口鉢Ⅰ類(5・6)・常滑甕(7・8)・鉄製品刀子(9)・景德元宝(10)・不明木製品(11)・木製品円盤(12)・箸状木製品(13~15)・棒状木製品(16)・

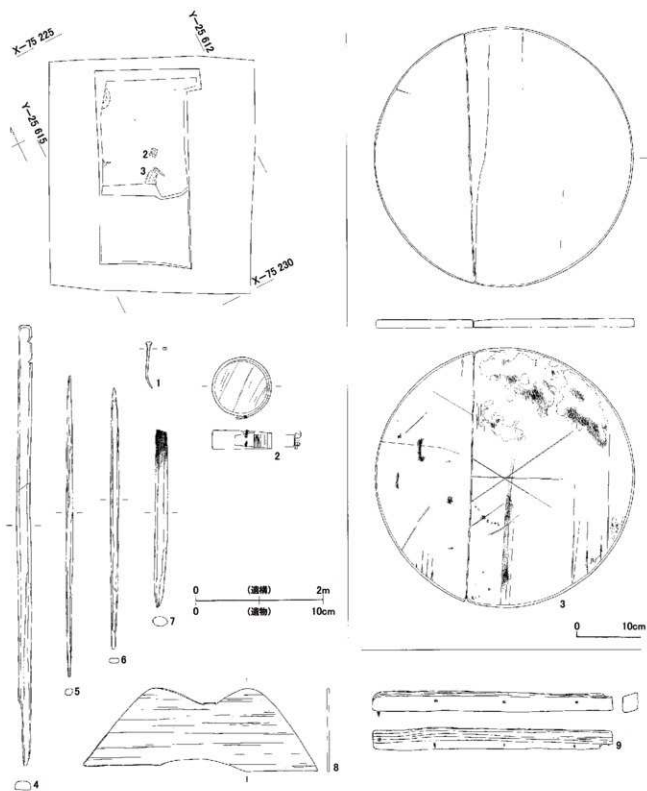


図20 6b面遺構全図、同出土遺物

箸状木製品 (17～19)・不明木製品 (20・21) 特記事項：腐植土、焼土、木くず集中で構成されており、遺構面と評価できるかは定かではない。土師器皿は13世紀後半以降のもの。片口鉢1類は中野編年5～6b型式のもの。常滑甕は6b～7型式のもの。

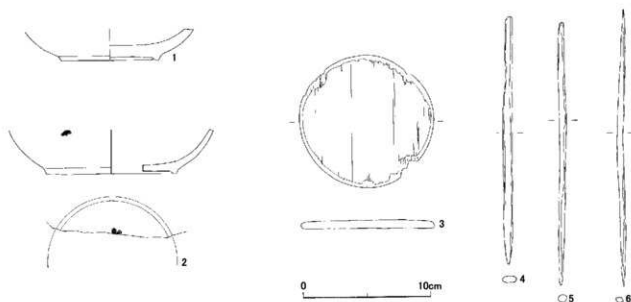


図21 6b面構築土内出土遺物

## 9. 5 b 面

### 面の概要 (図18)

検出高: 6.52 m ~ 6.63 m 面構成土: 暗茶褐色腐植土 検出遺構: 土坑2基・ビット6穴 5b面出土遺物: 土師器皿T種小型(1)・土師器皿R種大型(2)・常滑甕(3)・青白磁碗(4)・鉄釘(5)・不明鉄製品(6)・景祐元宝(7)・元豐通宝(8)・石製品硯(9)・箸状木製品(10) 特記事項: 土師器皿は13世紀中葉頃のもの。

### 土坑5 (図18)

位置: X (-75 227.18 ~ -75 228.12) Y (-25 612.75) ~ -25 613.73 充填土: 暗茶褐色繊維質土  
断面形: 深皿形か 規模: 最大幅(0.90 m) × 長さ(0.65 m) × 深さ0.25 m 主軸方位: N-57° -W 重複関係: 土6を切る 出土遺物: 土師器皿R種小型(11)・土師器皿R種大型(12)・白磁水注(13)・滑石鍋転用陽物(14)・漆器皿(15)・箸状木製品(16・17)・木製品杓子(18) 特記事項: 繊維質土が充填され、ウジのサナギも確認できたことから有機物の廃棄土坑の可能性ある。土師器皿は13世紀前半のもの。

### 5b面構築土内出土遺物 (図18)

出土遺物: 常滑片口鉢I類(19)・常滑甕(20) 特記事項: 常滑甕は6a~6b型式か。

## 10. 6 a 面

### 面の概要 (図19)

検出高: 6.40 m ~ 6.48 m 面構成土: 暗灰褐色粘質土 検出遺構: ビット4穴 6a面出土遺物: 土師器皿T種小型(1)・尾張型山茶碗(2)・箸状木製品(3) 特記事項: この検出面で出土した木製品円盤は下層のものと接合した。1の土師器皿は13世紀前半のもの。2の山茶碗は藤澤編年第6型式ないし第7型式のもの。

### 6a面構築土内出土遺物 (図19)

出土遺物: 土師器皿R種小型(4)・常滑片口鉢II類(5)・常滑片口鉢I類(6・7)・常滑甕(8) 特記事項: 土師器皿は13世紀後半のもの。常滑片口鉢I類は中野編年5~6a型式のもの。



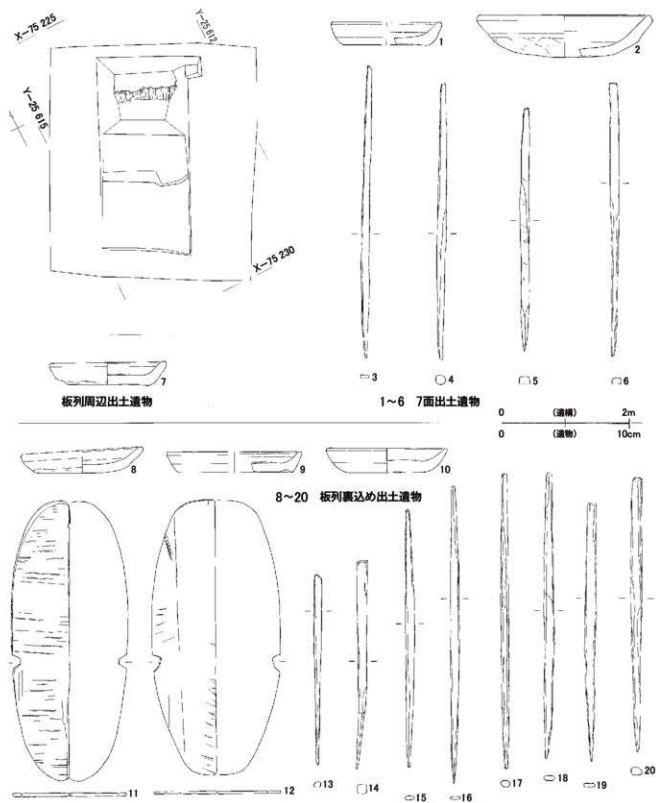


图22 7面遺構全図、同出土遺物・板列裏込め出土遺物

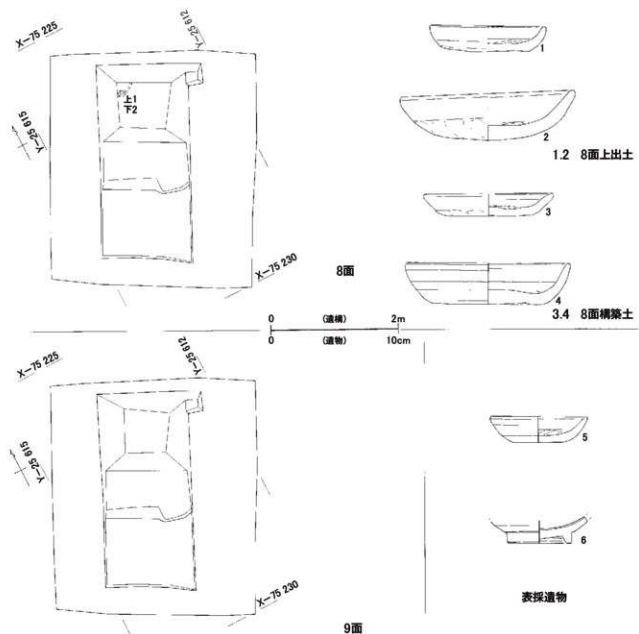


図23 8面遺構全図、同出土遺物・9面遺構全図、同出土遺物

## 11. 6 b 面

### 面の概要 (図20)

検出高: 6.15 m ~ 6.20 m 面構成土: 暗灰褐色粘質土 検出遺構: ビット1穴 6 b 面出土遺物: 釘状鉄製品 (1)・曲物 (2)・木製品円盤 (3)・棒状木製品 (4)・箸状木製品 (5・6)・ヘラ状木製品 (7)・不明木製品 (8)・不明木製品部材 (9) 特記事項: 2の木製品円盤は6 a 面出土のものと接合。底か蓋になるか。8・9の木製品は調度品の部材になる可能性もある。

### 6 b 面構築土内出土遺物 (図21)

出土遺物: 漆器椀 (1・2)・木製品円盤 (3)・箸状木製品 (4~6) 特記事項: 漆器椀はいずれも輪高台のもの。1は厚手、2は薄手である。

## 12. 7面

### 面の概要(図22)

検出高：5.92 m～5.97 m 面構成土：灰褐色粘質土 検出遺構：板列1列 7面出土遺物：土師器皿R種小型(1)・土師器皿T種大型(2)・棒状木製品(3～6) 特記事項：調査区狭小のため板列とそれに伴う落ちを検出したに留まる。調査区が狭小なため、板列とそれに伴う落ち等が逆である可能性を否定しない。土師器皿は13世紀中葉を中心とするもの。

### 板列周辺出土遺物(図22)

出土遺物：土師器皿R種小型(7)

### 板列裏込め出土遺物(図22)

出土遺物：土師器皿T種小型(8)・土師器皿R種小型(9・10)・板草履芯(11・12)・串状木製品(13・14)・箸状木製品(15～20) 特記事項：土師器皿は13世紀中葉を中心とするもの。

## 13. 8面

### 面の概要(図23)

検出高：5.60 m～5.62 m 面構成土：灰褐色粘質土 検出遺構：ピット1穴 8面出土遺物：土師器皿R種小型(1)・土師器皿T種大型(2) 特記事項：調査区狭小のため全容は不明。土師器皿は13世紀第2四半期あたりを上限とする。

8面構築土内出土遺物：土師器皿T種小型(3)・土師器皿R種大型(4) 特記事項：調査区狭小のため全容は不明。土師器皿は13世紀第2四半期あたりを上限とする。

## 14. 9面

### 面の概要(図23)

検出高：5.30 m～5.45 m 面構成土：暗灰褐色粘質土 検出遺構：なし 9面出土遺物：図化可能遺物なし 特記事項：面構成土にあたる102層の土層注記には「遺物片含む」とあるが、現地調査では遺物の取り上げはない。土層中に茶色の5mm程度までの粒子が含まれることがあるが、これを遺物片と誤認した可能性もあるので、この面を遺構面とできるかは定かではない。

## 15. 表採遺物

### 面の概要(図23)

土師器皿R種小型(5)・瀬戸丸碗か(6)

## 16. 土層断面出土遺物

### 土層の概要(図4)

土師器皿R種大型(1)・瓦質火鉢(2)・土師器皿R種小型(3)

表1 出土遺物観察表(1)

神沢番号	出土遺構	種別	備考
図4-1	調査区 北壁	土師器Ⅲ R種大型	口径(12.9)cm 底径(6.9)cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	調査区 東壁	瓦質 火鉢	口径(32.0)cm 胎土は灰白色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 外面に焼きムラ・煤 内外面にナデ
3	調査区 西壁	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.0)cm 底径(6.4)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は 灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
図5-1	1面	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.7)cm 底径4.7cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 胎土はぶい黄褐色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	1面	土師器Ⅲ R種小型	口径7.6cm 底径6.0cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	1面	土師器Ⅲ R種小型	口径7.5cm 底径5.3cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	1面	土師器Ⅲ R種小型	口径7.8cm 底径5.1cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で雲母・黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	1面	穿孔土師器Ⅲ R種小型	口径(7.7)cm 底径(5.4)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
6	1面	土師器Ⅲ R種大型	口径(12.5)cm 底径7.8cm 器高3.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内外面に煤
7	1面	フイゴ 羽口	残存長(5.0)cm 残存幅(4.3)cm 厚さ2.0cm 胎土は橙色で赤色粒子・白色粒子・泥岩粒・礫片を含む 先端に紐穿孔付
8	1面	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・石英・礫片を含む 付高台 内面距離するほど磨耗 体部外面下位回転へつ削り 高台端部磨耗
9	1面	刷美 甕	胴部片 輪積み成形 胎土は灰褐色で白色粒子・礫片を含む 器表面に叩き目
10	1面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・石英・礫片を含む 器表面は暗赤褐色
11	1面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 器表面は暗赤褐色で、器表面外面に淡黄色の降灰
12	1面	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 口縁部横ナデ 胎土は暗赤褐色で白色粒子・長石・礫片を含む 器表面は暗赤褐色
13	1面	備前 擂鉢	胴部小片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰白色で黒色粒子・白色粒子を含む 器表面は暗赤褐色 内面に8本の筋目が入る 断面四面を弱く研磨している
14	1面	備前 擂鉢	胴部小片 輪積み成形 胎土は暗赤褐色で白色粒子・礫片を含む 器表面は褐色 内面に4本の筋目、灰白色の自然釉・内面調整確認できるが磨耗
15	1面	瀬戸 脚皿	口径(15.2)cm 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色 器表面内面に灰白色の灰釉・ハケ塗り
16	1面	瀬戸 脚皿	口縁部小片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は淡黄色で白色粒子を含む 灰オリーブ色の灰釉漬け掛け
17	1面	瀬戸 折縁深皿	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子を含む 灰白色の灰釉漬け掛け
18	1面	瀬戸 香伊か	口縁部小片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は淡黄色 オリーブ褐色の鉄釉漬け掛け
19	1面	電泉窯青磁 I類類	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬は灰オリーブ色透明 内面に片切り取りによる区画線
20	1面	瀬戸 碗小	口縁部片 ロクロ成形 胎土は灰色で黒色粒子を含む 灰白色の灰釉漬け掛け
21	1面	土製品 硯	残存長(6.9)cm 残存幅(6.2)cm 厚さ1.3cm 鳴瀬硯 表面に花と波模様の縁取り 裏面に平タガネ痕と刷痕による浅いぼみあり
22	建物1 P.4	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.2)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は橙色で赤色粒子・白色粒子・海綿骨芯を含む
23	土坑1	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は赤褐色で黒色粒子・白色粒子・長石を含む 口縁部横ナデ
24	土坑1	瀬戸 平底末広碗	底部片 輪積み成形後、ロクロ整形 外底部右回転糸切り 胎土は灰色 内外面に灰白色の灰釉・ハケ塗り
25	土坑1	瀬戸 脚皿	底部片 外底部右回転糸切り 板状圧痕 胎土は灰色 灰白色の灰釉・ハケ塗り
26	P.3	土師器Ⅲ R種大型	口径(13.7)cm 底径(9.1)cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は 褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
図6-1	土坑2	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.4)cm 底径(4.6)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	土坑2	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.1)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・赤色粒子・白色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む

表2 出土遺物観察表(2)

図番号	出土遺構	種別	備考
図6-3	土坑2	瓦器質 輪花火鉢	口縁部片 胎土は灰白色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・石英・礫片を含む 外面に煤 内外面にへう磨き 残存長(7.0)cm 残存幅(4.5)cm
4	土坑2	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・石英・礫片を含む 器表面は赤褐色で、口縁上部に灰白色の降灰
5	土坑2	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は暗赤褐色で、口縁上部に灰白色の降灰 胎土は黄灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む
6	土坑2	常滑 甕	底部片 輪積み成形 胎土は黄灰色で白色粒子・長石・石英・礫片を含む
7	土坑2	常滑甕 転用磨耗陶片	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・石英を含む 表面は赤褐色 内面は黄灰色 断面3面磨耗
8	土坑2	瀬戸 脚皿	口縁部片 ロクロ彫形 胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子を含む 器表面に灰白色の灰釉ハケ塗り
9	土坑2	瀬戸 蓋か	口縁部小片 胎土は灰色 灰オリーブ色の灰釉漬け掛け
10	土坑2	青白磁 碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰白色 釉薬は明緑灰色透明 口縁部は輪面取り
11	P. 1	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.0)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
12	P. 1	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(4.8)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
13	P. 1	土師器皿 R種大型	口径(11.7)cm 底径7.2cm 器高3.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
14	P. 1	瀬戸 柄付片口	把手部 胎土は灰黄色 灰オリーブ色の灰釉漬け掛け
15	P. 6	瓦器質 火鉢	口縁部片 胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・礫片・小石粒を含む 器表面は灰赤色 外面に菊花押印文あり 内外面にへう磨き
16	P. 8	瓦質 火鉢	口径(27.2)cm 胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子・礫片・小石粒を含む 器表面は灰色 内外面に横ナデ
17	P. 10	土師器皿 R種小型	口径(7.6)cm 底径(4.7)cm 器高2.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒を含む
18	P. 13	常滑 甕	底径(10.0)cm 輪積み成形 胎土は暗灰色で白色粒・石英・礫片・小石粒を含む 底面に離れ砂 器表面は褐色・内面は暗赤褐色で灰白色の降灰 外面は板状工具による縦位ナデの後、横位ナデ
19	P. 15	土師器皿 R種大型	口径(10.0)cm 底径(6.4)cm 器高3.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
20	P. 15	瀬戸 脚皿	口縁部片 ロクロ彫形 胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子・礫片を含む 器表面は灰釉ハケ塗り
21	P. 16	鉄製品 鋳か	長さ8.0cm 幅1.0cm 厚さ0.5cm 重さ16.0g
22	P. 18	穿孔土師器皿 R種小型	口径(8.1)cm 底径(5.6)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
23	P. 19	常滑 甕	口縁部小片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子を含む 器表面は暗赤褐色 口縁部に灰オリーブ色の降灰
24	P. 25	土師器皿 R種大型	口径(12.7)cm 底径(8.0)cm 器高3.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
25	P. 25	青白磁 梅瓶	胴部小片 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は明緑灰色透明 内面は無釉 断面に漆が付着してより漆継ぎ痕か
26	P. 26	瓦器質 土鍋	口縁部小片 胎土は灰色 口縁上部に灰素吸着あり 西国産か
27	P. 27	土師器皿 R種小型	口径(7.4)cm 底径(5.2)cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で金雲母・黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒を含む
28	P. 29	土師器皿 R種大型	口径(12.0)cm 底径(6.6)cm 器高2.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒を含む
29	P. 37	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(3.6)cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む 焼きムラあり
30	P. 43	白磁 輪花碗	口縁部小片 素地は灰白色 釉薬は灰白色の透明 口縁部は輪面取り
31	P. 44	常滑 片口鉢II類	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒・石英を含む 口縁へ内面に灰白色の降灰
図7-1	2面	土師器皿 R種大型	口径(12.0)cm 底径(7.6)cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	2面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・礫片を含む 器表面は暗赤褐色 内面上部に灰白色の降灰

表3 出土遺物観察表(3)

神原番号	出土遺構	種別	備考
図7-3	溝1	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は暗赤褐色 口縁上部と外面下部に灰色の降灰 胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片・小石粒を含む 図8-13と接合
4	土坑3	土師器Ⅲ R種大型	口径(11.6)cm 底径(6.8)cm 器高2.6cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は にぶい黄褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	P.4.6	瀬戸 折鉢中皿	口径(16.4)cm 輪積み成形後、ワロク整形 胎土は灰色で白色粒子を含む 内面は灰白色、外面は灰オレンジ色の灰緑ハベ塗り 口縁部は輪周落
図8-1	2面 構築土	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.4)cm 底径(5.6)cm 器高1.6cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	2面 構築土	土師器Ⅲ R種小型	口径7.6cm 底径4.7cm 器高1.9cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯・礫片を含む 口縁部一部褐色・煤あり
3	2面 構築土	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.5)cm 底径(5.5)cm 器高1.4cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	2面 構築土	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.4)cm 底径(4.6)cm 器高2.0cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子を含む 口縁部に煤付着
5	2面 構築土	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.4)cm 底径(4.4)cm 器高1.7cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子を含む
6	2面 構築土	土師器Ⅲ R種大型	口径12.2cm 底径(7.8)cm 器高3.8cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
7	2面 構築土	土師器Ⅲ R種大型	口径12.3cm 底径7.8cm 器高3.7cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
8	2面 構築土	土師器Ⅲ R種大型	口径(13.8)cm 底径(9.3)cm 器高3.7cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ胎土は 褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内面に煤付着
9	2面 構築土	土師器Ⅲ R種大型	口径12.0cm 底径7.4cm 器高3.2cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ胎土は灰黄色で黒色粒子・ 赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁に煤付着 外面に灰色の付着物
10	2面 構築土	白色系土師器Ⅲ R種大型	口縁部小片 回転クロロ 胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子を含む
11	2面 構築土	土器 香印か	口縁部片・底部片 胎土は褐色で黒色粒子・白色粒子を含む 内面一部に煤付着
12	2面 構築土	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で赤色粒子・白色粒子・長石・石英を含む 器表面は赤褐色 長石の吹き出しあり
13	2面 構築土	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む 器表面は赤褐色 口縁～内面上部に灰オレンジ色の降灰 図7-3と接合
14	2面 構築土	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で赤色粒子・白色粒子・石英・礫片を含む 器表面は黒褐色
15	2面 構築土	常滑甕 転用磨粒陶片	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色で赤色粒子・白色粒子・石英を含む 表面は暗赤褐色 断面2面磨粒
16	2面 構築土	不明 銅製品	残存長(6.5)cm 残存幅(0.2)cm 厚さ0.2cm 重さ1.3g 近現代製品の可能性あり
17	2面 構築土	串状 木製品	長さ26.5cm 幅1.5cm 厚さ1.2cm 片口 端部曲線状と尖頭状に加工
18	2面 構築土	箸状 木製品	長さ22.7cm 幅0.8cm 厚さ0.5cm 片口
19	2面 構築土	箸状 木製品	長さ21.3cm 幅0.7cm 厚さ0.4cm 両口
20	2面 構築土	へら状 木製品	長さ15.3cm 幅1.0cm 厚さ0.7cm 片口 端部曲線状と5回の削りて細く加工
21	2面 構築土	へら状 木製品	長さ12.5cm 幅1.4cm 厚さ0.4cm 端部曲線状とナイフ状に加工
図9-1	3a面	土師器Ⅲ R種大型	口径(7.8)cm 底径(5.3)cm 器高1.4cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	3a面	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.3)cm 底径(5.3)cm 器高1.7cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	3a面	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.5)cm 底径(5.5)cm 器高1.4cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	3a面	土師器Ⅲ R種大型	口径12.8cm 底径7.2cm 器高3.4cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁一部に煤
5	3a面	土師器Ⅲ R種大型	口径(12.0)cm 底径(7.2)cm 器高3.2cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ胎土は にぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁一部に煤
6	3a面	土師器Ⅲ R種大型	口径12.9cm 底径8.0cm 器高3.4cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内底部暗灰色に煤けている
7	3a面	土師器Ⅲ R種大型	口径(12.2)cm 底径(7.7)cm 器高3.2cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ胎土は にぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む

表4 出土遺物観察表(4)

図回番号	出土遺構	種別	備考
図9-8	3 a 面	土師器皿 R種大型	口径(12.6)cm 底径(7.3)cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は黄褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 外周隅灰色に燻けている
9	3 a 面	土師器皿 R種大型	口径(13.0)cm 底径8.4cm 器高3.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
10	3 a 面	土師器皿 R種大型	口径12.7cm 底径8.3cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
11	3 a 面	土師器皿 R種大型	口径12.5cm 底径8.2cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
12	3 a 面	常滑 片口鉢I類	底部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・長石を含む 内面調整跡が目立たないほど磨耗 付け高台
13	3 a 面	常滑 片口鉢II類	口縁部小片 輪積み成形 胎土は灰褐色で白色粒子・長石・礫片を含む 口縁部一部破損
14	3 a 面	竜泉窯青磁 II類碗	口縁部 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は灰オリーブ色透明
15	3 a 面	白磁 IX類皿	口縁部小片 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は灰白色透明 口縁部釉面取り
16	3 a 面	漆器 皿	口径8.8cm 底径6.8cm 器高1.3cm 黒漆 朱漆で手掻きで施文
17	3 a 面	箸状 木製品	長さ20.7cm 幅0.6cm 厚さ0.6cm 両口
18	3 a 面	箸状 木製品	長さ20.7cm 幅0.8cm 厚さ0.5cm 両口
19	3 a 面	箸状 木製品	長さ19.5cm 幅0.7cm 厚さ0.4cm 片口
20	3 a 面	箸状 木製品	長さ19.4cm 幅0.7cm 厚さ0.4cm 両口
21	3 a 面	へう状 木製品	長さ14.3cm 幅1.5cm 厚さ0.8cm 端部は斜めの切り出しと3面が1回、1面が2回の削り出し
22	3 a 面	棒状 木製品	長さ17.9cm 幅0.9cm 厚さ0.3cm 端部は直線の切り出しと4回の削りで細く加工
図10-1	3 a 面 構築土	土師器皿 R種小型	口径(8.2)cm 底径(6.0)cm 器高1.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む 焼成非常に良好
2	3 a 面 構築土	土師器皿 R種小型	口径(7.3)cm 底径(5.0)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	3 a 面 構築土	土師器皿 R種小型	口径(7.2)cm 底径5.6cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	3 a 面 構築土	土師器皿 R種大型	口径(12.6)cm 回転ロクロ 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内部一部に燻け着
5	3 a 面 構築土	瓦器質 碗	口縁部片 手づくね 胎土は黒色 器表内面は灰色 口縁部・体部下に炭素吸着
6	3 a 面 構築土	常滑 片口鉢I類	口縁部小片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子を含む 内面に灰白色の降灰
7	3 a 面 構築土	鉄釘	長さ7.2cm 幅0.4cm 厚さ0.3cm 重量4.1g
8	3 a 面 構築土	元豊通宝	北宋 初鑄1078年 行書
9	3 a 面 構築土	箸状 木製品	長さ19.7cm 幅0.7cm 厚さ0.3cm 両口
10	3 a 面 構築土	箸状 木製品	長さ22.7cm 幅0.5cm 厚さ0.5cm 片口
11	3 a 面 構築土	不明 木製品部材	残存長(30.2)cm 幅1.5cm 厚さ1.3cm 不貫通納穴あり
12	3 a 面 構築土	不明 木製品部材	残存長(27.7)cm 幅1.3cm 厚さ1.3cm 不貫通納穴あり
13	3 a 面 構築土	不明 木製品部材	残存長(27.8)cm 幅1.4cm 厚さ1.4cm 貫通納穴あり
14	3 a 面 構築土	不明 木製品部材	残存長(22.1)cm 幅1.3cm 厚さ1.1cm 不貫通納穴と柄を有する
15	3 a 面 構築土	不明 木製品部材	残存長(18.6)cm 幅1.2cm 厚さ1.5cm 柄を有する(中央突起)

表5 出土遺物観察表(5)

神沢番号	出土遺構	種別	備考
図11-1	3 b 面	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.7) cm 底径(5.6) cm 器高1.8cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	3 b 面	土師器Ⅲ R種小型	口径7.4cm 底径4.6cm 器高1.9cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	3 b 面	土師器Ⅲ R種大型	口径12.9cm 底径8.1cm 器高2.8cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	3 b 面	土師器Ⅲ R種大型	口径(13.0) cm 底径7.6cm 器高3.0cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	遺物集中部	土師器Ⅲ R種小型	口径7.9cm 底径5.8cm 器高1.9cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
6	遺物集中部	土師器Ⅲ R種小型	口径7.8cm 底径4.9cm 器高1.9cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部に油煤付
7	遺物集中部	土師器Ⅲ R種小型	口径7.4cm 底径5.1cm 器高1.6cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
8	遺物集中部	土師器Ⅲ R種小型	口径7.2cm 底径5.0cm 器高1.3cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 焼きムラあり
9	遺物集中部	土師器Ⅲ R種小型	口径7.8cm 底径5.5cm 器高1.9cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 焼きムラあり
10	遺物集中部	土師器Ⅲ R種小型	口径7.5cm 底径5.5cm 器高2.0cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい 黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 焼きムラあり
11	遺物集中部	土師器Ⅲ R種小型	口径7.7cm 底径5.4cm 器高1.6cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
12	遺物集中部	土師器Ⅲ R種小型	口径7.5cm 底径5.5cm 器高1.5cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部に煤状付着
13	遺物集中部	土師器Ⅲ R種小型	口径7.6cm 底径5.2cm 器高1.9cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部に油煤付
14	遺物集中部	土師器Ⅲ R種大型	口径(12.8) cm 底径8.3cm 器高3.3cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部に油煤付
15	遺物集中部	土師器Ⅲ R種大型	口径12.7cm 底径7.9cm 器高3.5cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
16	遺物集中部	土師器Ⅲ R種大型	口径(12.6) cm 底径7.9cm 器高(3.6) cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は 灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 焼きムラあり
17	遺物集中部	土師器Ⅲ R種大型	口径(11.7) cm 底径(6.5) cm 器高3.1cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
18	遺物集中部	土師器Ⅲ R種大型	口径12.2cm 底径7.4cm 器高3.2cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色 で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内外面に煤状の付着物
19	遺物集中部	土師器Ⅲ R種大型	口径12.4cm 底径7.0cm 器高3.1cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
20	遺物集中部	土師器Ⅲ R種大型	口径(11.6) cm 底径(7.3) cm 器高3.0cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
21	遺物集中部	土師器Ⅲ R種大型	口径(11.8) cm 底径7.9cm 器高3.2cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 外周面に煤状付着物
22	遺物集中部	土師器Ⅲ R種大型	口径(13.1) cm 底径8.5cm 器高3.3cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
23	遺物集中部	土師器Ⅲ R種大型	口径12.9cm 底径7.1cm 器高3.5cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部に油煤付 内外面に煤状付着物
24	遺物集中部	土師器Ⅲ R種大型	口径(11.8) cm 底径(6.0) cm 器高3.3 cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は黄褐色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
25	遺物集中部	土師器Ⅲ R種大型	口径(12.4) cm 底径(8.0) cm 器高3.0cm 右回転クワロク 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
図12-26	遺物集中部	土器貫 火鉢	口径(35.4) cm 底径(28.4) cm 器高8.7cm 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・礫片を含む 内 面上半部に漆喰の塗布あり 底面付近に火鉢の使用痕が認められる
27	遺物集中部	漆器 皿	口径8.4cm 底径6.8cm 器高0.9cm 外面黒漆・内面黒漆の上に朱漆
28	遺物集中部	漆器 碗	口径12.9cm 底径7.3cm 器高2.7cm 内外面黒漆 輪高台
29	遺物集中部	板草履芯	長さ24.2cm 幅5.3cm 厚さ0.2cm 板目材
30	遺物集中部	板草履芯	長さ24.3cm 幅5.4cm 厚さ0.2cm 板目材
31	遺物集中部	板草履芯	長さ24.4cm 幅5.4cm 厚さ0.2cm 板目材



表6 出土遺物観察表(6)

図回番号	出土遺構	種別	備考
図12-32	遺物集中部	木製品 円盤	径17.5cm 厚さ0.4cm 板皮3カ所付着 曲物の底板か 椀目材
33	遺物集中部	木製品 椀	頭部径3.3cm 胴部径2.2cm 長さ5.6cm 椀目材
34	遺物集中部	木製品 肘木	長さ8.4cm 幅2.3cm 厚さ0.6cm 表面に黒漆
35	遺物集中部	串状 木製品	長さ29.3cm 幅1.2cm 厚さ0.6cm 尖端部炭化
36	遺物集中部	串状 木製品	長さ21.4cm 幅1.4cm 厚さ0.6cm 4回以上の削りにより尖端部を加工
37	遺物集中部	箸状 木製品	長さ20.3cm 幅0.8cm 厚さ0.3cm 両口
38	遺物集中部	串状 木製品	長さ19.7cm 幅1.0cm 厚さ0.6cm 4回以上の削りにより尖端部を加工
39	遺物集中部	箸状 木製品	長さ20.0cm 幅0.7cm 厚さ0.6cm 両口
40	遺物集中部	箸状 木製品	長さ17.2cm 幅0.5cm 厚さ0.5cm 両口
図13-1	土坑4	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(5.4)cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状任痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内外面煤状付着物
2	土坑4	土師器皿 R種小型	口径(7.4)cm 底径(4.2)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・海綿骨芯を含む 混入物少ない
3	土坑4	竜泉青青磁 碗	底径(3.9)cm ロクロ成形 素地は灰色で黒色粒子(霞)を含む 輪郭は灰ナラブ色透明 高台内面は無釉 削り出し高台
4	土坑4	鉄製品 刀子	残存長15.6cm 最大幅2.3cm 最大厚0.3cm 重さ31.8g
5	土坑4	板草履芯	長さ24.7cm 幅5.4cm 厚さ0.2cm 植物任痕あり
6	土坑4	板草履芯	長さ24.5cm 幅10.4cm 厚さ0.45cm 植物任痕あり
7	土坑4	串状 木製品	長さ29.0cm 幅0.7cm 厚さ0.6cm 尖端部を5回以上の削りで細く加工
8	土坑4	箸状 木製品	長さ23.6cm 幅0.5cm 厚さ0.3cm 両口
9	土坑4	箸状 木製品	長さ20.3cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 両口
10	土坑4	箸状 木製品	長さ20.4cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 両口
11	土坑4	箸状 木製品	長さ20.5cm 幅0.8cm 厚さ0.4cm 両口
12	土坑4	箸状 木製品	長さ19.6cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 両口
13	土坑4	箸状 木製品	長さ16.9cm 幅1.0cm 厚さ0.3cm 両口
14	土坑4	不明 木製品	径4.9cm 厚さ2.7cm 円柱状の部材を短く切断か 椀目材
15	P. 67	土師器皿 R種大型	口径(13.1)cm 底径(8.0)cm 器高3.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
図14-1	3 c 面	土師器皿 R種小型	口径7.5cm 底径4.7cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部に油煤付着
2	3 c 面	土師器皿 R種小型	口径7.4cm 底径4.3cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状任痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	3 c 面	土師器皿 R種小型	口径(7.6)cm 底径(6.0)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状任痕 胎土は橙色で黒色粒子・海綿骨芯を含む
4	3 c 面	土師器皿 R種小型	口径7.4cm 底径5.2cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	3 c 面	土師器皿 R種小型	口径(7.3)cm 底径(5.2)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
6	3 c 面	土師器皿 R種小型	口径(6.9)cm 底径(5.2)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 外面一部黒色に黄色
7	3 c 面	土師器皿 R種大型	口径12.8cm 底径7.8cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 口縁部に油煤 内面まだらに黒色に紫色

表7 出土遺物観察表(7)

図番号	出土遺構	種別	備考
図14-8	3 c 面	白色系土師器皿 R種大型	口縁部小片 回転ロクロ 胎土は灰白色で黒色粒子・礫片を含む
9	3 c 面	常滑甕 転用磨料陶片	胴部片 輪積み成形 胎土は褐灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・礫片を含む 鉄分の吹き出しあり 断面2面磨耗
10	3 c 面	竜泉窯青磁 皿類香炉	口縁部小片 胎土は灰色・一部黒色で黒色粒子・赤色粒子を含む 釉薬は明緑灰色不透明
11	3 c 面	砥石 仕上げ砥	残存長(5.3)cm 幅3.1cm 厚さ1.2~0.6cm 灰白色 鳩淵 1面使用
12	3 c 面	漆器 椀	口径(11.8)cm 底径(7.0)cm 器高2.6cm 黒漆に朱漆で印刷施文
13	3 c 面	不明 木製品	最大径2.0cm 最小径1.4cm 長さ7.8cm 両端で径が違い、栓のような形状 板目材
14	3 c 面	箸状 木製品	長さ22.3cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 両口
15	3 c 面	箸状 木製品	長さ19.0cm 幅0.7cm 厚さ0.4cm 両口
16	3 c 面	箸状 木製品	長さ18.5cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 両口
写真図 版11	3 c 面	常滑 甕	胴部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・長石・石英・礫片を含む 外面は褐灰色 内面に黒色の漆様の付着物
図14-17	3 c 面 構築土	土師器皿 R種極小型	口径4.5cm 底径3.8cm 器高0.9cm 右回転ロクロ 外底部回転赤切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子を含む 内折れ 外面に黒色の付着物
18	3 c 面 構築土	土師器皿 R種小型	口径(8.1)cm 底径(5.3)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転赤切り 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
19	3 c 面 構築土	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で赤色粒子・白色粒子・石英・礫片を含む 口縁の緑帯部が赤褐色・外面がぶい黄褐色 内面が暗赤褐色で灰オリーブ色の降灰あり
20	3 c 面 構築土	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英を含む 内面は赤褐色 外面に灰オリーブ色の自然釉、叩き目
21	3 c 面 構築土	竜泉窯青磁 皿類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は明緑灰色半透明 釉層厚い
22	3 c 面 構築土	白磁 IX類皿	口径(11.6)cm ロクロ成形 素地は灰白色 釉薬は透明 口縁部釉を面取り
23	3 c 面 構築土	不明 木製品	長さ5.4cm 幅5.4cm 厚さ3.9cm 端部を斜めに面取りしている
24	3 c 面 構築土	不明 木製品	長さ12.7cm 幅2.4cm 厚さ1.3cm 1ヶ所鉄釘あり
25	3 c 面 構築土	不明 木製品	長さ20.0cm 幅5.0cm 厚さ0.8cm 端部半円状に切り取り加工 糸巻さか
26	3 c 面 構築土	不明 木製品部材	長さ14.5cm 幅1.7cm 厚さ1.6cm 柄を有する(片側突起)
27	3 c 面 構築土	不明 木製品部材	残存長(27.3)cm 幅1.4cm 厚さ1.2cm 不貫通柄と柄を有する
図15-1	4 a 面	土器質 火鉢	口縁部片 輪積み成形 外面は褐灰色 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・礫片・海綿骨芯を含む
2	4 a 面	漆器 椀	口径10.5cm 底径6.6cm 器高2.8cm 黒漆に朱漆で印刷で施文
3	4 a 面	へら状 木製品	長さ18.8cm 幅1.7cm 厚さ0.7cm 先端部4回以上の削りでへら状に加工 端部周辺2ヶ所に切り込みあり 端部は切り込みから折れた、あるいは折って成形
4	4 b 面	常滑 露口壺	底径9.2cm 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・長石・石英・礫片を含む 器表面は褐灰色 外周上部に灰オリーブ色の降灰 内面に暗赤色の付着物あり 長石の吹き出しあり 肩部から上部に打ら欠い たような痕跡多くあり
5	4 b 面	竜泉窯青磁 皿類鉢	底部片 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は明緑灰色不透明 釉層厚い
6	溝3	竜泉窯青磁 皿類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色で白色粒子を含む 釉薬はオリーブ灰色不透明
7	溝3	木製品 円盤	残存長(13.4)cm 残存幅3.7cm 厚さ0.6cm 一部灰化 曲物等の底板か 板目材
8	溝3	箸状 木製品	長さ19.3cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 両口
9	溝3	へら状 木製品	長さ19.4cm 幅1.2cm 厚さ0.9cm 角材の端部を斜めに削りへら状に加工
図16-1	4 b 面 構築土	土師器皿 T種小型	口径(8.1)cm 底径(5.1)cm 器高1.6cm 手づくお後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む

表8 出土遺物観察表(8)

図回番号	出土遺構	種別	備考
図16-2	4 b面 構築土	土師器Ⅲ R種小型	口径(8.1)cm 底径(6.0)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	4 b面 構築土	常滑 片口鉢1類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 一部煤状付着物
4	4 b面 構築土	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土にはふい褐色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む 器表面は褐色
5	4 b面 構築土	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・石英・礫片を含む 内面は暗赤褐色 口縁部に灰白色の降灰
6	4 b面 構築土	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英を含む 内面は褐灰色 外面は暗赤褐色 口縁部・体部下部に灰オリブ色の自然釉 長石の吹き出しあり
7	4 b面 構築土	竜泉窯青磁 Ⅱ類碗	口縁部小片 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は緑灰色半透明 気泡あり 輪厚厚い
8	4 b面 構築土	元豊通宝	北宋 初鑄1078年 篆書
9	4 b面 構築土	漆器 椀	口径15.0cm 底径7.1cm 器高3.8cm 黒漆に朱漆で手描きで施文 輪高台
10	4 b面 構築土	漆器 椀	口径(9.8)cm 底径(5.9)cm 器高1.0cm 黒漆 輪高台
11	4 b面 構築土	木製品 円盤	長さ10.5cm 幅4.6cm 厚さ0.5cm 曲物等の底板か 椀目材
12	4 b面 構築土	へう状 木製品	長さ23.5cm 幅1.2cm 厚さ1.1cm 円柱状の先端部を斜めに削り加工
図17-1	5 a面	土師器Ⅲ R種小型	口径(6.7)cm 底径(4.8)cm 器高1.5cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	5 a面	土師器Ⅲ R種小型	口径(8.3)cm 底径(5.6)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状瓦痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	5 a面	土師器Ⅲ R種大型	口径11.9cm 底径7.0cm 器高3.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状瓦痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	5 a面	土師器Ⅲ R種大型	底径(6.6)cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部高状ナデ 胎土は灰黄色で金雲母・黒色光沢粒子・黒色粒子・海綿骨芯を含む 混入物少ない
5	5 a面	常滑 片口鉢1類	口径(25.5)cm 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む
6	5 a面	常滑 片口鉢1類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・長石・石英を含む
7	5 a面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は褐灰色で白色粒子・石英を含む 内面は褐色で口縁部に灰オリブ色の自然釉 外面は褐灰色
8	5 a面	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は黄灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む 内面下部・外面はオリブ黒色の自然釉 口縁部に灰白色の降灰
9	5 a面	鉄製品 刀子	長さ18.8cm 幅1.6cm 厚さ0.3cm 重さ29.5g
10	5 a面	景德元宝	北宋 初鑄1004年 真書
11	5 a面	不明 木製品	長さ9.9cm 幅6.8cm 厚さ1.6cm 上面端部は曲線状になるように加工か 椀目材
12	5 a面	木製品 円盤	長さ18.2cm 幅6.7cm 厚さ1.5cm 一部炭化 端部を曲線状に削る
13	5 a面	箸状 木製品	長さ22.8cm 幅1.0cm 厚さ0.4cm 両口
14	5 a面	箸状 木製品	長さ23.1cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 両口
15	5 a面	箸状 木製品	長さ25.6cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 両口
16	5 a面	棒状 木製品	長さ22.1cm 幅0.7cm 厚さ0.4cm 端部4回の削りで細く加工
17	5 a面	箸状 木製品	長さ22.1cm 幅0.5cm 厚さ0.5cm 両口
18	5 a面	箸状 木製品	長さ20.5cm 幅0.4cm 厚さ0.5cm 両口
19	5 a面	箸状 木製品	長さ22.1cm 幅0.5cm 厚さ0.4cm 両口
20	5 a面	不明 木製品	長さ11.0cm 幅2.0cm 厚さ1.3cm 先端部直線状の切り出しと、3面が1回の削りで尖頭状に加工

表9 出土遺物観察表(9)

神原番号	出土遺構	種別	備考
図17-21	5 a 面	不明 木製品	長さ16.1cm 幅2.3cm 厚さ0.4cm 幅広端の方が薄くなっている
図18-1	5 b 面	土師器Ⅲ T種小型	口径8.1cm 底径5.8cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・海綿骨芯を含む 割れ目の一部褐色
2	5 b 面	土師器Ⅲ R種大型	口径(11.8)cm 底径7.4cm 器高2.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	5 b 面	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 内面はふい黄褐色 外面は赤褐色で、板状工具による縦位のナデ、叩き目あり
4	5 b 面	青白磁 碗	口縁部小片 ロクロ成形 素地は灰白色で黒色粒子を含む 釉薬は明緑灰色透明 素地・釉層薄い 口縁部輪面取り
5	5 b 面	鉄釘	長さ7.5cm 幅0.5cm 厚さ0.3cm 重さ3.7g
6	5 b 面	不明 鉄製品	長さ7.5cm 幅0.6cm 厚さ0.3cm 重さ3.2g 釘状ではあるが頭部の形状が違う
7	5 b 面	景祐元宝	北宋 初鑄1034年 篆書
8	5 b 面	元豊通宝	北宋 初鑄1078年 行書
9	5 b 面	石製品 硯	残存長(3.4)cm 幅3.8cm 厚さ1.1cm 鳴滝より柔らかい石を使用か
10	5 b 面	箸状 木製品	長さ24.7cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 両口
11	土坑5	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.5)cm 底径(4.6)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土はふい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む 内面は口縁部付近まで褐色・赤褐色
12	土坑5	土師器Ⅲ R種大型	口径(11.0)cm 底径(7.4)cm 器高3.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 黄灰色の付着物あり
13	土坑5	白磁 水注	胴部片 ロクロ成形 素地は灰色で黒色粒子を含む 釉薬は明オリブ灰色半透明
14	土坑5	滑石磨 転用陶物	長さ13.2cm 幅4.8cm 厚さ2.4cm 灰白色 滑石磨の底部を転用
15	土坑5	漆器 皿	口径(9.5)cm 底径(8.0)cm 器高0.9cm 黒漆
16	土坑5	箸状 木製品	長さ19.2cm 幅0.7cm 厚さ0.3cm 片口
17	土坑5	箸状 木製品	長さ22.2cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 両口
18	土坑5	木製品 杓子	長さ27.1cm 幅3.9・(6.8)cm 厚さ0.7cm
19	5 b 面 構築土	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片 輪積み成形後、ロクロ整形 内面調整するほど磨耗 付け高台 外面下位回転へつ削り 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片・小石粒を含む
20	5 b 面 構築土	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む 内面は暗赤褐色 外面は黒褐色 口縁部に灰オリブ色・灰白色の降灰 長石の吹き出しあり
図19-1	6 a 面	土師器Ⅲ T種小型	口径13.0cm 底径7.2cm 器高3.1cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
2	6 a 面	瓦張型 山茶碗	底径5.3cm 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石を含む 外底部板状圧痕 付け高台 内底部中央に指頭ナデ 内面黒褐色に変色、外面にふい黄褐色 内面調整確認できるが磨耗
3	5 b 面	箸状 木製品	長さ23.0cm 幅0.7cm 厚さ0.45cm 両口
4	6 a 面 構築土	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.7)cm 底径(5.3)cm 器高1.6cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
5	6 a 面 構築土	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形 胎土は褐色で赤色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片を含む
6	6 a 面 構築土	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 内面は黄褐色、外面は灰黄色 胎土は黄灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片(多)・小石粒を含む
7	6 a 面 構築土	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部片 輪積み成形後、ロクロ整形 内面調整が確認できないほど磨耗 外面下位回転へつ削り 胎土は黄灰色で黒色粒子・白色粒子・長石・石英・礫片(多)・小石粒を含む 付け高台
8	6 a 面 構築土	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 胎土は黄灰色で赤色粒子・白色粒子・長石・石英を含む 内面は暗褐色 外面にオリブ灰色の自然焼、叩き目あり
図20-1	6 b 面	釘状 鉄製品	長さ3.6cm 幅0.2cm 厚さ0.1cm 重さ0.6g 頭部の形状が釘と若干違う

表10 出土遺物観察表(10)

図回番号	出土遺構	種別	備考
図20-2	6 b 面	曲物	径4.7cm 厚さ1.3cm 厚さ0.7cmの底板に木の板を巻きつけ、木の皮で留めている
3	6 b 面	木製品 円盤	径41.7cm 厚さ0.7cm 灰白色の付着物あり 椀目材
4	6 b 面	棒状 木製品	長さ35.0cm 幅1.2cm 厚さ0.7cm 角柱状の棒に2ヶ所の切込みあり
5	6 b 面	箸状 木製品	長さ23.9cm 幅0.6cm 厚さ0.5cm 両口
6	6 b 面	箸状 木製品	長さ20.8cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 両口
7	6 b 面	へら状 木製品	長さ14.1cm 幅1.1cm 厚さ0.7cm 先端部6回の削りで細く加工 端部炭化
8	6 b 面	不明 木製品	長さ18.5cm 幅6.6cm 厚さ0.15cm 加工により形状を作る 椀目材
9	6 b 面	不明 木製品部材	長さ11.0cm 幅1.5cm 厚さ1.2cm 平坦面1面に3ヶ所、1面に1ヶ所木釘あり
図21-1	6 b 面 構築土	漆器 椀	底径7.8cm 器高(2.4) cm 内外面黒漆
2	6 b 面 構築土	漆器 椀	口径(15.7) cm 底径10.2cm 器高(3.5) cm 黒漆に朱漆で印判で施文
3	6 b 面 構築土	木製品 円盤	径10.6cm 厚さ0.6cm 曲物の底板か 椀目材
4	6 b 面 構築土	箸状 木製品	長さ19.8cm 幅0.8cm 厚さ0.5cm 両口
5	6 b 面 構築土	箸状 木製品	長さ20.9cm 幅0.6cm 厚さ0.6cm 両口
6	6 b 面 構築土	箸状 木製品	長さ22.1cm 幅0.5cm 厚さ0.4cm 両口
図22-1	7 面	土師器皿 R種小型	口径(8.4) cm 底径(6.8) cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はふい黄褐色で赤色粒子・海綿骨芯を含む 外面焼きムラあり
2	7 面	土師器皿 T種小型	口径13.3cm 底径8.2cm 器高3.4cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はふい黄褐色で黒色光沢粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む 粉質土、混入物少ない
3	7 面	棒状 木製品	長さ23.4cm 幅0.6cm 厚さ0.3cm 先端部2面が1回、1面が2回の削り 端部平たく加工
4	7 面	棒状 木製品	長さ21.9cm 幅0.7cm 厚さ0.7cm 先端部3回の削りと5回の削りで形成
5	7 面	棒状 木製品	長さ19.3cm 幅0.8cm 厚さ0.6cm 先端部4回の削り
6	7 面	棒状 木製品	長さ21.7cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 先端部3回の削りで細く加工
7	板列周辺	土師器皿 R種小型	口径9.1cm 底径7.4cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む
8	板列裏込め	土師器皿 T種小型	口径9.4cm 底径6.5cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む
9	板列裏込め	土師器皿 R種小型	口径(10.3) cm 底径(9.0) cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内面に焼きムラ
10	板列裏込め	土師器皿 R種小型	口径9.3cm 底径6.3cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 内面に焼きムラ
11	板列裏込め	板草履芯	長さ22.3cm 幅4.6cm 厚さ0.3cm 植物圧痕あり
12	板列裏込め	板草履芯	長さ21.9cm 幅5.0cm 厚さ0.2cm 植物圧痕あり
13	板列裏込め	串状 木製品	長さ15.1cm 幅0.6cm 厚さ0.4cm 端部斜めの切り出しと先端部2回の削りで加工
14	板列裏込め	串状 木製品	長さ16.6cm 幅0.8cm 厚さ0.7cm 先端部4回の削りで加工
15	板列裏込め	箸状 木製品	長さ20.5cm 幅0.7cm 厚さ0.3cm 両口
16	板列裏込め	箸状 木製品	長さ23.5cm 幅0.8cm 厚さ0.3cm 両口
17	板列裏込め	箸状 木製品	長さ23.5cm 幅0.7cm 厚さ0.5cm 片口

表 11 出土遺物観察表 (11)

神岡番号	出土遺構	種別	備考
図22-18	板列裏込め	箸状木製品	長さ22.6cm 幅0.9cm 厚さ0.4cm 両口
19	板列裏込め	箸状木製品	長さ21.6cm 幅0.8cm 厚さ0.3cm 片口
20	板列裏込め	箸状木製品	長さ21.7cm 幅0.8cm 厚さ0.6cm 片口
図23-1	8面	土師器皿 R種小型	口径8.9cm 底径6.4cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む 混人物少ない
2	8面	土師器皿 T種大型	口径13.5cm 底径9.1cm 器高3.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
3	8面 構築土	土師器皿 T種小型	口径(10.0)cm 底径(6.2)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
4	8面 構築土	土師器皿 R種大型	口径12.7cm 底径8.9cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨芯を含む 焼成良好
5	表探	土師器皿 R種小型	口径7.5cm 底径4.0cm 器高2.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨芯を含む
6	表探	瀬戸丸碗か	底径5.0cm 胎土は淡黄色で黒色粒子を含む 内面に灰オリーブ色の釉薬 釉層厚く、気泡あり 削り出し高台

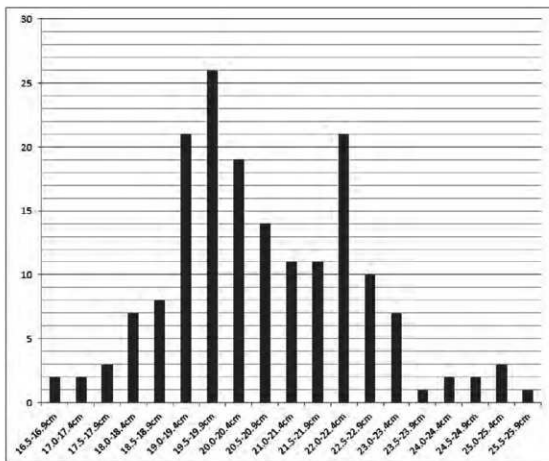


図24 箸状木製品寸法分布









## 第四章 自然科学分析

### 第1節 北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群出土の大型植物遺体

佐々木由香・パンダリ スダルジャン (パレオ・ラボ)

#### 1. はじめに

北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群の中世の遺構から出土した大型植物遺体を同定し、食用などとして利用された植物や、遺跡周辺における栽培状況および植生について検討する。なお、同一試料を用いて花粉分析と寄生虫卵分析も行われている(各分析の項参照)。

#### 2. 試料と方法

試料は、北条小町邸跡の土坑16の11層から採取された堆積物、若宮大路周辺遺跡群の土坑4の10層から採取された堆積物である。考古学的な所見による遺構の時期は、土坑16が12世紀末～14世紀初頭、土坑4が13世紀前半～14世紀半ばである。

試料は、300ccを最小0.5mm目の篩で水洗した。試料の抽出および同定は、実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群については、おおよその産出数を記号(+)で表記した。試料は、鎌倉市教育委員会に保管されている。

#### 3. 結果

##### 3-1. 北条小町邸跡の土坑16

同定した結果、木本植物は含まれておらず、草本植物ではミチヤナギ属果実と、スベリヒユ属種子、ウシハコベ種子、アカザ属種子、キケマン属種子、エノキグサ属種子、メロン仲間種子、イヌコウジュ属果実、キク科果実、ヘラオモダカ果実、ヒエ炭化種子、ヒエ属有ふ果、イネ籾殻・小穂軸・炭化種子、アワ有ふ果、ハリイ属果実、サンカクイーフトイ果実の16分類群、シダ植物のワラビ裂片1分類群の、計17分類群が見いだされた。不明の芽は一括した。種実以外には昆虫遺体のみられた(表1)。

キケマン属がやや多く、イネが少量、スベリヒユ属とアカザ属がわずかに得られた。それ以外はいずれも産出数が4点以下であった。栽培植物ではメロン仲間とヒエ、アワがわずかに得られた。

表1 北条小町邸跡出土の大型植物遺体 (括弧内は破片数)

分類群	水洗量 (cc)	土坑 16	
		層位 11層	
		時期 12世紀末～14世紀初頭	
		300	
ミチヤナギ属	果実	1 (1)	
スベリヒユ属	種子	8	
ウシハコベ	種子	4	
アカザ属	種子	10	
キケマン属	種子	47 (10)	
エノキグサ属	種子	(1)	
メロン仲間	種子	2	
イヌコウジュ属	果実	1	
キク科	果実	3	
ヘラオモダカ	果実	1	
ヒエ	炭化種子	1	
ヒエ属	有ふ果	1	
イネ	籾殻	(2+)	
	小穂軸	(14)	
	炭化種子	(1)	
アワ	有ふ果	1	
ハリイ属	果実	1	
サンカクイーフトイ	果実	1 (1)	
ワラビ	裂片	(1)	
昆虫		(++)	

+:1-9, ++:10-49

### 3-2. 若宮大路周辺遺跡群の土坑4

同定した結果、木本植物のクリ果実と、キイチゴ属核、キブシ種子の3分類群、草本植物ではヤナギタデ果実と、イヌタデ果実、キケマン属種子、メロン仲間種子、トウダイグサ種子、スマレ属種子、トウバナ属果実、メハジキ属果実、イヌコウジュ属果実、シソ属果実、ニガクサ属果実、ナス種子、コウゾリナ果実、メナモミ属果実、タカサプロウ果実、オトコエシ属果実、イネ籾殻・小穂軸、オオムギ炭化種子、スゲ属果実、ヒメクグ果実、カワラスガナ果実、カヤツリグサ属果実、ホタルイ属果実の23分類群、計26分類群が得られた。種実以外には昆虫遺体のみ得られた(表2)。

イネが非常に多く(図版2-5)、ヤナギタデとイヌタデ、キケマン属、トウバナ属、タカサプロウ、ヒメクグがわずかに得られた。その他の分類群はいずれも産出数が2点以下であった。栽培植物ではメロン仲間とナス、オオムギがわずかに得られた。

次に、主要な大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

#### (1) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. 果実 ブナ科

黒褐色で、完形ならば側面は広卵形。表面は平滑で、細い縦筋がみられる。底面にある殻斗着痕はざらつく。果皮内面にはいわゆる渋皮が厚く付着する。残存高10.3mm、残存幅6.0mm。

#### (2) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

黄白色～黄褐色で、上面観は扁平、側面観は倒卵形。表面は平滑で、基部は突出せず直線状の隆線となる。藤下(1984)は、種子の大きさからおおむね次の3群に分けられるとしている。長さ6.0mm以下の雑草メロン型、長さ6.1～8.0mmのマクワウリ・シロウリ型、長さ8.1mm以上のモモルディカメロン型である。北条小町邸跡の土坑16から出土した種子は、長さ8.0mm、残存幅2.5mmと、長さ5.7mm、幅3.4mmの2点で、マクワウリ・シロウリ型と雑草メロン型の大きさであった。若宮大路周辺遺跡群の土坑4から出土した種子は長さ8.4mm、残存幅3.0mmで、モモルディカメロン型であった。

#### (3) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.6mm、幅1.3mm。

#### (4) ナス *Solanum melongena* L. 種子 ナス科

赤褐色で、上面観は長楕円形、側面観は完形ならばいびつな円形。着点は明瞭に窪む。種皮細胞の細胞壁が屈曲し、それが網目状隆線を構成する。残存長2.4mm、残存幅3.2mm。

表2 若宮大路周辺遺跡群出土の大型植物遺体(括弧内は破片数)

分類群	水流量 (cc)	土坑	
		層位	
		時期	
		13世紀前半	～14世紀半
		300	
クリ	果実	(1)	
キイチゴ属	核	(1)	
キブシ	種子	1	
ヤナギタデ	果実	1 (2)	
イヌタデ	果実	4 (2)	
キケマン属	種子	4	
メロン仲間	種子	1	
トウダイグサ	種子	1	
スマレ属	種子	(2)	
トウバナ属	果実	5	
メハジキ属	果実	1	
イヌコウジュ属	果実	2	
シソ属	果実	1 (1)	
ニガクサ属	種子	1	
ナス	種子	(1)	
コウゾリナ	果実	1	
メナモミ属	果実	(1)	
タカサプロウ	果実	4	
オトコエシ属	果実	2	
イネ	籾殻	(++++)	
	小穂軸	(++++)	
オオムギ	炭化種子	1	
スゲ属	果実	2	
ヒメクグ	果実	4	
カワラスガナ	果実	1	
カヤツリグサ属	果実	2	
ホタルイ属	果実	1 (1)	
昆虫		(+++)	

\*:1-9, \*\*:10-49, \*\*\*:50-99, \*\*\*\*:100以上

(5) キク科 Asteraceae sp. 果実

黒褐色で、側面観は非対称の狭倒卵形。頂部はやや切形になり、冠毛着点の隆起がある。長さ2.4mm、幅0.7mm。

(6) ヒエ *Echinochloa esculenta* (A.Braun) H.Scholz 炭化種子 イネ科

側面観が卵形、断面が片凸レンズ形であるが、厚みは薄くやや扁平である。胚は幅が広く、長さは全長の2/3程度と長い。臍は幅が広いうちわ型。長さ1.9mm、幅1.7mm。

(7) ヒエ属 *Echinochloa* spp. 有ふ果 イネ科

茶褐色で、紡錘形。基部と先端はやや尖る。縦方向に細かい顆粒状の模様がある。壁は薄く弾力がある。内穎は膨らまない。残存長3.0mm、残存幅1.5mm。全体の形状は、栽培種であるヒエよりも細長く、野生のイヌビエに近い。

(8) イネ *Oryza sativa* L. 初殻・小穂軸・炭化種子 イネ科

初殻は黄褐色～淡褐色で、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。基部は突出し、小穂軸がある。北条小町邸跡の土坑16から出土した初殻は残存長1.8mm、残存幅1.3mm、小穂軸は残存長1.7mm、残存幅1.1mm。若宮大路周辺遺跡群の土坑4から出土した初殻は残存長3.2mm、残存幅1.7mm、小穂軸は残存長1.5mm、残存幅1.0mm。種子の上面観は両凸レンズ形、側面観は楕円形。両面に縦方向の2本の浅い溝がある。残存長2.2mm、幅2.9mm。

(9) アワ *Setaria italica* P.Beauv. 有ふ果 イネ科

赤褐色で、紡錘形。内穎と外穎に独立した微細な乳頭突起がある。長さ1.8mm、幅1.5mm。

(10) オオムギ *Hordeum vulgare* L. 炭化種子 イネ科

状態が悪いが、側面観は長楕円形。腹面中央部には上下に走る1本の溝がある。背面の下端中央部には三角形の胚がある。断面は楕円形となる。長さ5.4mm、幅2.9mm、厚さ2.4mm。

(11) ワラビ *Pteridium aquilinum* (L.) Kuhn subsp. *japonicum* (Nakai) A. et S.Löve 裂片 ワラビ科

暗褐色で、長楕円形。鈍頭で全縁。葉脈は2～3叉状に分岐し、平行に並ぶ。残存長3.3mm、残存幅3.1mm。

## 4. 考察

以下、遺跡ごとに考察を行う。

### 4-1. 北条小町邸跡の土坑16

12世紀末～14世紀初頭の土坑16から産出した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物はメロン仲間とヒエ、イネ、アワが得られた。メロン仲間は種子の大きさからマクワウリ・シロウリ型と雑草メロン型に分類され、栽培種のマクワウリ・シロウリ型が含まれていた。ヒエとイネは食用部位が炭化して産出している状況から判断して、調理で炭化した種子が土坑内に入り込んだ可能性がある。野生植物ではあるが食用あるいは他の用途に利用可能な植物としては、葉や茎を食用にするスベリヒユ属やウシハコベ、若芽を食用にするワラビがある。

種実から周囲の植生を検討すると、周辺には森林要素はなく、遺構のごく近くには、ミチヤナギ属やアカザ属、キケマン属など、道端や荒地などの乾いた草地に生育する草本が生育していたと考えられる。

畑作物であるメロン仲間やヒエ、アワは、持ち込まれた可能性と付近で栽培されていた可能性の両方の可能性が考えられる。スベリヒユ属やウシハコベ、エノキグサ属などは畑雑草として畑地に生育していた可能性もある。

イネは炭化種子だけでなく、初殻や初穂軸にあたる小穂軸が少量産出しており、初殻を土坑内に廃棄

した可能性がある。水生植物であるハリイ属やサンカクイ-フトイなども多産しており、遺構周辺に存在した湿地や水田の堆積物が土坑内に堆積した可能性がある。

#### 4-2. 若宮大路周辺遺跡群の土坑4

13世紀前半～14世紀半の土坑4から産出した大型植物遺体を同定した結果、栽培植物は、メロン仲間とナス、イネ、オオムギが得られた。メロン仲間は種子の大きさからモモルディカメロン型に分類された。オオムギは食用部位が炭化して産出している状況から判断して、調理で炭化した種子が入り込んだ可能性がある。野生植物ではあるが食用あるいは他の用途に利用可能な植物としては、食用可能なクリとキイチゴ属、シソ属や、染料に利用するキブシなどがある。

種実から周囲の植生を検討すると、周辺にはほとんど森林要素はなく、遺構のごく近くには落葉樹がわずかに生えていた可能性と、産出した種実はすべて利用可能な植物のため、なんらかの用途のために持ち込まれた可能性、庭木として植栽された可能性などが考えられる。遺構周辺には、イヌタデやトウダイグサ、メハジキ属、キケマン属など道端や荒地などの乾いた草地に生育する草本が生育していたと考えられる。

畑作植物であるメロン仲間やナス、オオムギは持ち込まれた可能性と付近で栽培されていた可能性の両方の可能性が考えられる。イヌタデやタカサブロウなどは畑雑草として畑地に生育していた可能性もある。

イネは籾殻や籾の軸にあたる小穂軸が非常に多産しているため、籾殻をまとめて土坑内に廃棄した可能性がある。水生植物であるヒメクグやカワラスガナ、ホタルイ属なども産出しており、遺構周辺に存在した湿地や水田の堆積物が土坑内に堆積したと考えられる。

#### 引用文献

藤下典之(1984)出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法。渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学-総括報告書」:638-654, 同朋舎出版。

## 第2節 北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群の花粉分析と寄生虫卵分析

森 将志 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

鎌倉市雪ノ下一丁目427番2外地点在する北条小町邸跡と、鎌倉市小町二丁目24番14地点に所在する若宮大路周辺遺跡群において、花粉分析用と寄生虫卵分析用の試料が採取された。以下では、採取された試料について行った花粉分析と寄生虫卵分析の結果を示し、考察を行った。なお、同一試料を用いて大型植物遺体分析も行われている(大型植物遺体分析の節参照)。

### 2. 試料と方法

北条小町邸跡の分析試料は、土坑16の第11層から採取された黒色(10YR2/1)有機質シルト1点である。土坑16は、12世紀末～14世紀初頭の井戸の可能性が考えられている。若宮大路周辺遺跡群の分析試料は土坑4の第10層から採取された黒色(10YR2/1)有機質シルト1点である。土坑4は、13世紀前半～14世紀半ばのゴミ穴の可能性が考えられている。これらの試料について、以下の手順で分析を行った。

#### 2-1. 花粉分析

試料(湿重量約1～2g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは全面を検鏡し、その間に現れる花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良い花粉を選んで単体標本(PLC.1577～1583)を作製し、写真を図版1に載せた。

#### 2-2. 寄生虫卵分析

試料を計量し、花粉分析と同様の方法で処理を行った。処理後の残渣に適容量のグリセリンを加え、計量を行った。この残渣からプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。なお、試料1g中の寄生虫卵含有数は、次式で求める。

$$X = BD/AC$$

X: 試料1g中の寄生虫卵含有数、A: 分析に用いた試料の重量(g)、B: 濃縮試料+グリセリンの重量(g)、C: 濃縮試料+グリセリンのうち、封入に用いた重量(g)、D: プレパラート中の寄生虫卵数

また、保存状態の良い寄生虫卵を選んで単体標本(PLC.1584)を作製し、写真を図版1に載せた。

### 3. 結果

#### 3-1. 花粉分析

試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉7、草本花粉12、形態分類のシダ植物胞子2の総計21である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表1に、分布図を図1に示した。分布図の樹木花粉・草本花粉・シダ植物胞子は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン(-)で結んだ分類群はそれら分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科とマメ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括

して入れてある。

今回の分析試料は、両試料ともに樹木花粉の含有量が少なく、ほとんどが草本花粉で占められる。草本花粉のなかではイネ科とヨモギ属の産出が突出するが、北条小町邸跡の土坑16の試料ではイネ科の産出は少ない。北条小町邸跡の土坑16の試料ではイネ科が3%、ヨモギ属が97%、若宮大路周辺遺跡群の土坑4の試料ではイネ科が51%、ヨモギ属が46%の産出率である。

### 3-2. 寄生虫卵分析

計量し、検鏡した結果を表2に示す。両試料ともに鞭虫卵が検出された。北条小町邸跡の土坑16の試料では試料1g当たり86個、若宮大路周辺遺跡群の土坑4の試料では試料1g当たり83個である。

## 4. 考察

花粉分析の結果では、両試料ともにヨモギ属の産出が突出している。特に北条小町邸跡の土坑16の試料では、産出花粉のうち、ほとんどがヨモギ属であった。このような特定の分類群が突出するような産状は、自然状態よりも人為的な影響を反映している可能性がある。例えば、土坑内にヨモギ属が人為的に投げ込まれた状況などが推測できる。また、若宮大路周辺遺跡群の土坑4の試料では、ヨモギ属とともにイネ科の産出も多い。同試料は、大型植物遺体分析で初殻が大量に検出されている（大型植物遺体の節参照）。初殻には花粉が多量に付着しているため、検出されたイネ科花粉は初殻由来であると考えられる。

寄生虫卵分析の結果では、両試料ともに鞭虫卵が検出された。鎌倉時代の鎌倉では市内各地で回虫卵や鞭虫卵などの寄生虫卵が大量に産出しており（鈴木，2008）、鎌倉時代の鎌倉における寄生虫卵の産出は一般的な現象であると考えられる。ただし、今回の試料では鞭虫卵が検出されたものの、比較的産出量が少なく、回虫卵などは一切検出されていない。寄生虫卵の有無を決める要因は不明であるが、今回の北条小町邸跡の土坑16と若宮大路周辺遺跡群の土坑4は、寄生虫卵の汚染が軽度な遺構であると考えられる。

### 引用文献

鈴木 茂 (2008) 鎌倉の遺跡と寄生虫卵. 考古論業神奈河第16集, 77-83.

学名	和名	北条小町邸跡 土坑16	若宮大路周辺遺跡群 土坑4
樹木			
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属雑種常葉松属	-	2
<i>Crataegus</i>	スズナギ	3	-
<i>Quercus-ilex</i>	クワシロノミ - アシナガ属	-	1
<i>Rhus Toxicodendron</i>	スズナギ属 - カンナ属	-	1
<i>Acer</i>	カヌツギ属	-	1
<i>Urtica</i>	ウコギ科	4	3
イネ科	イネ科	3	7
雑草			
Gramineae	イネ科	255	1245
Cyperaceae	カヤブク科	-	1
Hordeaceae	ワリ科	1	-
<i>Polygonum soci. Pericaria</i> - <i>Echinochloa</i>	オオアザミ属 - ウナギツグミ属	-	2
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科 - ヒユ科	18	6
Leguminosae	マメ科	1	-
Apiaceae	セリ科	1	-
Labiatae	シソ科	-	3
<i>Urtica</i>	ウコギ科	6	4
<i>Asteria</i> - <i>Ranuncul</i>	アスター科属 - オオアザミ属	1	-
<i>Artemisia</i>	ヨモギ属	9797	1197
Tubiflora	ユキノシタ科	41	36
Lignif. Char. ....	木質炭素	2	7
イネ科植物			
monolete type spore	単葉体孢子	2	-
trilete type spore	三葉体孢子	1	1
Arboreal pollen	樹木花粉	9	9
Nonarboreal pollen	草本花粉	10123	2411
Spores	シソ科植物	3	1
Total Pollen & Spores	花粉・孢子総数	10132	2421
Unknown pollen	不明花粉	3	3

表2 寄生虫卵分析に用いた試料の計量値と寄生虫卵数

	北条小町邸跡 若宮大路遺跡群	
	土坑16	土坑4
分析に用いた試料(g)	2.5716	1.6005
残渣+グリセリン(g)	1.5177	1.3139
封入に用いた量(g)	0.0482	0.0791
鞭虫卵	7	8
(試料1g当たりの個数)	86	83





## 第3節 若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市小町二丁目24番14地点）から出土した大型植物遺体

バンダリ スダルシャン・佐々木由香（パレオ・ラボ）

### 1. はじめに

神奈川県鎌倉市の若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市小町二丁目24番14地点）は、沖積平野である市内中心部の小町に所在し、13世紀前半から14世紀半の遺構などが検出されている。以下では、13世紀中葉～後半の堆積物を掘り込んで作られたゴミ穴である土坑の土壌より得られた大型植物遺体の同定結果を報告し、当時の利用植物や植生について検討した。

### 2. 試料と方法

分析試料は、第5b面を掘り込んだ遺構である土坑5の埋土から採取された堆積物である。土相は、暗茶褐色の砂礫混じりの砂質シルトである。第5b面は、13世紀中葉～後半の遺構面と推定されている。

試料の水洗は、パレオ・ラボで行った。試料500ccについて最小0.5mm目の篩を用いて水洗した。同定・計数は、肉眼および実体顕微鏡下で行った。計数の方法は、完形または一部が破損していても1個体とみなせるものは完形として数え、1個体に満たないものは破片とした。計数が難しい分類群は、おおよその産出数を記号(+)で表記した。試料は、鎌倉市教育委員会に保管されている。

### 3. 結果

同定した結果、木本植物ではクワ属核と、キイチゴ属核、ブドウ属種子、カキノキ種子の4分類群、草本植物ではソバ果実と、イスタデ果実、サナエタデ・オオイスタデ果実、ミチヤナギ属果実、スベリヒユ属種子、アカザ属種子、キケマン属種子、ゴマ種子、メロン仲間種子、オトコエシ属果実、トウバナ属果実、メハジキ属果実、シソ属果実、タカサブrow果実、メナモミ属果実、コウゾリナ属果実、ナス種子、ナス属種子、ヘラオモダカ種子、オモダカ属果実、メヒシバ属果実、イネ籾殻・炭化籾殻・炭化種子、エノコログサ属有ふ果、ヒメクグ果実、カヤツリグサ属果実、サンカクイ・フトイ果実、ホタルイ属果実の27分類群の、計31分類群が見いだされた（表1）。大型植物遺体以外には昆虫遺体や骨片、鉄釘がみられたが、同定の対象外とした。

産出した大型植物遺体では、イネの籾殻（炭化籾殻を含む）が多量で、キケマン属とナス、カヤツリグサ属が少量、クワ属とキイチゴ属、ブドウ属、カキノキ、ソバ、イスタデ、サナエタデ・オオイスタデ、ミチヤナギ属、スベリヒユ属、アカザ属、ゴマ、メロン仲間、オトコエシ属、トウバナ属、メハジキ属、シソ属、タカサブrow、メナモミ属、コウゾリナ属、ナス属、ヘラオモダカ、オモダカ属、メヒシバ属、イネ（種子）、エノコログサ属、ヒメクグ、サンカクイ・フトイ、ホタルイ属がわずかに得られた。

次に、主要な大型植物遺体の記載を行い、図版に写真を示して同定の根拠とする。

#### (1)クワ属 *Morus* sp. 核 クワ科

淡褐色で、側面観はいびつな広倒卵形または三角状倒卵形、断面形は卵形または三角形。背面は稜をなす。表面にはゆるやかな凹凸があり、厚くやや硬い。基部に嘴状の突起を持つ。長さ1.7mm、幅1.5mm。

#### (2)ブドウ属 *Vitis* sp. 種子 ブドウ科

黒褐色で、上面観は楕円形、側面観は先端が尖る卵形。背面の中央もしくは基部寄りに匙状の着点

があり、腹面には縦方向の2本の深い溝がある。種皮は薄く硬い。長さ4.2m、幅3.9mm、厚さ2.4mm。

(3) カキノキ *Diospyros kaki* Thunb. 種子 カキノキ科

黒褐色で、上面観は両凸レンズ形、側面観は倒卵形。基部がやや曲がり、突出する。表面にはちりめん状のしわが見られる。明らかに大型の果実であったと想定される種子をカキノキとした。残存長12.4mm、幅8.1mm。

(4) ソバ *Fagopyrum esculentum* Moench 果実 タデ科

暗褐色で、完形ならば横断面が正三角形の三稜形。着点付近には膜状の果皮が残存する。残存長3.4mm、幅4.1mm。

(5) ゴマ *Sesamum orientale* L. 種子 ゴマ科

茶褐色で、上面観は扁平、側面観は狭倒卵形。表面は平滑。縁に沿って浅い溝がある。長さ2.8mm、残存幅2.1mm。

(6) メロン仲間 *Cucumis melo* L. 種子 ウリ科

赤褐色で、上面観は扁平、側面観は細長い卵形で頂部が尖る。幅狭でやや厚みがある。藤下(1984)は、種子の大きさで次の3群に分類している。長さ6.0mm以下の雑草メロン型、長さ6.1～8.0mmのマクワウリ・シロウリ型、長さ8.1mm以上のモモルディカメロン型である。計測可能な3点の大きさは、長さ5.9～7.9(平均6.9±1.0)mm。図版に示した種子は、長さ6.9mm、残存幅3.5mm。ほぼすべてマクワウリ・シロウリ型の大きさである。

(7) シソ属 *Perilla* spp. 果実 シソ科

赤褐色で、いびつな球形。端部に着点がある。表面には、低い隆起で多角形の網目状隆線がある。エゴマ以外のシソ属である。長さ1.7mm、幅1.6mm。

(8) ナス *Solanum melongena* L. 種子 ナス科

黄褐色で、上面観は長楕円形、側面観は楕円形。着点は明瞭に窪む。表面には畝状突起が覆瓦状となる細かい網目状隆線がある。長さ3.1mm、幅3.7mm。

(9) ナス属 *Solanum* spp. 種子 ナス科

黄褐色で、上面観は扁平、側面観は楕円形。表面には細かい畝状突起をもつ網目状隆線がある。長さ1.3mm、幅1.5mm。

(10) イネ *Oryza sativa* L. 籾殻・炭化籾殻・炭化種子(穎果) イネ科

表1 出土した大型植物遺体(括弧内は破片数)

検出面	第5b面	
	遺構	土坑5
採取位置	埋土	
時期	13世紀中葉～後半	
水洗量(cc)	500	
分類群		
タワ属	核	1
キイチゴ属	核	6 (1)
ブドウ属	種子	1 (1)
カキノキ	種子	(2)
ソバ	果実	(1)
イヌタデ	果実	2 (4)
サナエタデ-オオイヌタデ	果実	(1)
ミチヤナギ属	果実	1
スベリヒユ属	種子	2 (1)
アカザ属	種子	5 (1)
キケマン属	種子	11 (6)
ゴマ	種子	2
メロン仲間	種子	3 (1)
オトコエシ属	果実	1
トウバナ属	果実	3
メハジキ属	果実	2
シソ属	果実	1 (1)
タカサプロウ	果実	(1)
メナモミ属	果実	(1)
コウゾリナ属	果実	1
ナス	種子	4 (11)
ナス属	種子	4 (1)
ヘラオモダカ	種子	1
オモダカ属	果実	1
メヒシバ属	果実	1
イネ	籾殻	(+++)
	炭化籾殻	4 (++)
	炭化種子	1
エノコログサ属	有ふ果	1 (9)
ヒメクダ	果実	1
カヤツリグサ属	果実	24
サンカクイ-フトイ	果実	1
ホタルイ属	果実	3
昆虫		(+++)

+:1-9, ++:10-49, +++:50-99, ++++:100以上

初殻は橙褐色で、完形ならば側面観が長楕円形。縦方向に明瞭な稜線があり、基部は突出する。表面には規則的な縦方向の顆粒状突起がある。残存長3.8mm、残存幅1.2mm。炭化初殻は残存長4.6mm、残存幅1.8mm。種子（穎果）は上面観が両凸レンズ形、側面観が楕円形。一端に胚が脱出した凹みがあり、両面に縦方向の2本の浅い溝がある。長さ4.7mm、幅2.4mm。

(11) エノコログサ属 *Setaria* spp. 有ふ果 イネ科

赤褐色で、上面観は楕円形、側面観は長楕円形で先端がやや突出する。アワよりも細長く、乳頭突起が畝状を呈する。長さ1.9mm、幅1.1mm。

(12) カヤツリグサ属 *Cyperus* spp. 果実 カヤツリグサ科

黒褐色で、上面観は三稜形、側面観は狭倒卵形。頂部と基部が突出する。表面には微細な網目状の文様がある。やや光沢がある。長さ1.3mm、幅0.6mm。

#### 4. 考察

13世紀中葉～後半の第5b面を掘り込んでつくられた土坑5の堆積物を水洗した結果、栽培植物ではカキノキとソバ、ゴマ、メロン仲間、ナス、イネが得られた。食用として利用可能な野生植物ではクワ属とブドウ属、シソ属、エノコログサ属が得られた。イネは籾摺り後の初殻がゴミとしてまとめて廃棄されたと考えられる。イネ籾は目視でおおよその数を計数すると、約800点に相当する量が含まれていた。

木本植物はほとんど産出しておらず、クワ属やキイチゴ属、ブドウ属子、カキノキがわずかずつの産出であった。これらは食用可能な種であるため、食べられた後の残渣の可能性もある。草本植物のイヌタデやミチヤナギ属、アカザ属、キケマン属、メハジキ属、メナモミ属、コウゾリナ属、メヒシバ属などは、遺構周辺の道端や荒地、畑地に生育していたと考えられる。やや湿った道端や田の畔などにはトウバナ属やタカサブrow、ヒメクダなど、湿地にはサンカクイ・フトイ、水田や浅い水域にはヘラオモダカやホタルイ属などが生育していたと考えられる。今回検討した試料には、明瞭な水田雑草は含まれていなかった。

#### 引用文献

藤下典之（1984）出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法。渡辺直経編「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学—総括報告書」：638-654、同朋舎。

## 第4節 若宮大路周辺遺跡群の花粉分析と寄生虫卵分析

森 将志 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

鎌倉市小町二丁目24番14地点に所在する若宮大路周辺遺跡群において、花粉分析用と寄生虫卵分析用の試料が採取された。以下では、採取された試料について行った花粉分析と寄生虫卵分析の結果を示し、考察を行った。なお、同一試料を用いて大型植物遺体分析も行われている(大型植物遺体分析の節参照)。

### 2. 試料と方法

分析試料は、第5b面(13世紀中葉～後半)を掘り込んだ遺構(土坑5)の埋土から採取された黒色(10YR2/1)有機質シルト1点である。土坑5の埋土には繊維質の有機物が多数含まれており、土坑5はゴミ穴の可能性が考えられている。この試料について、以下の手順で分析を行った。

#### 2-1. 花粉分析

試料(湿重量約1～2g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは全面を検鏡し、その間に現れる花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良い花粉を選んで単体標本(PLC.1656～1662)を作製し、写真を図版1に載せた。

#### 2-2. 寄生虫卵分析

試料を計量し、花粉分析と同様の方法で処理を行った。処理後の残渣に適容量のグリセリンを加え、計量を行った。この残渣からプレパラートを作製し、プレパラート全面に渡り検鏡した。なお、試料1g中の寄生虫卵含有数は、次式で求める。

$$X = BD/AC$$

X: 試料1g中の寄生虫卵含有数、A: 分析に用いた試料の重量(g)、B: 濃縮試料+グリセリンの重量(g)、

C: 濃縮試料+グリセリンのうち、封入に用いた重量(g)、D: プレパラート中の寄生虫卵数

また、保存状態の良い寄生虫卵を選んで単体標本(PLC.1663、PLC.1664)を作製し、写真を図版1に載せた。

### 3. 結果

#### 3-1. 花粉分析

試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉10、草本花粉21、形態分類のシダ植物胞子1の総計32である。これら花粉・シダ植物胞子の一覧を表1に、分布図を図1に示した。分布図の樹木花粉・草本花粉・シダ植物胞子は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。また、図表においてハイフン(-)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。さらに、クワ科の花粉には樹木起源と草本起源のものがあるが、各々に分けるのが困難なため、便宜的に草本花粉に一括して



#### 4. 考察

花粉分析の結果ではイネ科が突出して多く産出した。大型植物遺体分析によると、土坑5内からはイネの籾殻が大量に検出されている（大型植物遺体の節参照）。イネの花は、開花後すぐに籾殻が閉じるため、籾殻内に花粉が取り込まれ、籾殻には多量の花粉が付着している。よって、土坑5の埋土から検出されたイネ科花粉の大半は、籾殻に付着していたイネ花粉であると考えられる。その他では、ヨモギ属をはじめカヤツリグサ科やスベリヒユ属、アブラナ科、オオバコ属、ブタクサ属・オナモミ属、キク亜科、タンポポ亜科などの草本類が検出されており、土坑周辺に生育していたと思われる。また、ガマ属やサジオモダカ属、オモダカ属、イボクサ属、キカングサ属などの好湿性植物の花粉も検出されており、土坑周辺には湿地的環境も存在していたと考えられる。一方で、樹木花粉の産出は非常に少なく、大型植物遺体分析でも木本植物はほとんど産出していない。土坑周辺に木本植物が生育していなかったか、あるいは、土坑の形状が小さいため、土坑周辺の草本類の花粉のみが土坑内に供給され、遺跡周辺に分布する樹木花粉はあまり入り込めなかったか、または、土坑内堆積物が人為的に短時間で供給されたために樹木花粉が堆積する余地がなかったなどの理由が考えられよう。

寄生虫卵分析の結果では、回虫卵や鞭虫卵、肝吸虫卵が検出された。寄生虫卵数については、試料1 cm<sup>3</sup>中に1,000個以上あれば糞便の可能性があると考えられている（金原，1997）。この値に照らし合わせると、土坑5から産出した寄生虫卵数は試料1 cm<sup>3</sup>当たり1264個であるため、糞便が含まれていた可能性は高いと思われる。ただし、鎌倉時代の鎌倉では市内各地で回虫卵や鞭虫卵などの寄生虫卵が大量に産出しており（鈴木，2008）、鎌倉時代の鎌倉における寄生虫卵の産出は一般的な現象とも考えられる。

#### 引用文献

- 金原正明（1997）自然科学的研究からみたトイレ文化。大田区立郷土博物館編「トイレの考古学」：197-216。東京美術。  
鈴木 茂（2008）鎌倉の遺跡と寄生虫卵。考古論業神奈河，16，77-83。

## 第五章 まとめと考察

### 1. 遺構の変遷と年代

#### 1期-9面

調査区が狭小なため定かではないが、遺構は検出されていない。また現地でも9面から確実に取り上げられた遺物はない。このため、9面を遺構面とする確証はなく、出土遺物がないことから年代も不明。

#### 2期-8面

調査区が狭小のため全容は定かではないが、ピットが1穴のみ検出されている。また出土遺物が確認できることから、本期以降、人の手が入ったことは確実にと言える。出土遺物から見て、13世紀前葉の後半(13世紀第2四半期あたり)が上限となる。

#### 3期-7面

調査区が狭小なため、板列とそれに伴う落ちを検出したに留まる。板列裏込めおよび板列に伴う落ちの埋土からの出土遺物は、ともに大きな年代差を認められず、ほぼ同時期のものと言える。年代は13世紀前葉の後半(13世紀第2四半期あたり)が上限。

#### 4期-6b面

調査区が狭小なため、全容は不明。木製品の出土が多い。遺構の検出状況も悪く、上層の6a面と接合した木製品もあるため、生活面として評価できるかどうか定かではない。接合状況から考えて、上層の6a面と近似する年代か。

#### 5期-6a面

調査区が狭小なため全容は不明。生活面の上に火災等の何らかの理由により、炭土が広がる状況が形成されたか。出土遺物からみて13世紀中葉が上限か。

#### 6期-5b面

調査区が狭小なため全容は不明。確認された遺構のうち、土坑5は有機物が腐植した繊維質土が充填されていた。この他に礎板の可能性もある板が面上で複数確認している。構築土内の出土遺物から、上限は13世紀の中頃と言えよう。

#### 7期-5a面

腐植土・焼土・木くず集中で覆われており、生活面として評価できるか定かではない。ただし、次の整地(地行)を行う直前の廃絶時の状況を反映している可能性を指摘できる。年代は出土遺物からみて、13世紀後半以降と考えられる。

#### 8期-4b面

調査区南側は上層の土坑により削平されている。調査区北半分はほとんど溝3のみとなっており、この溝は区画を示す可能性もあるが、全容は不明。出土遺物に13世紀中葉のものも含まれるが、構築土の出土遺物からみて、年代は13世紀後半以降と言える。

#### 9期-4a面

調査区が狭小なこと、調査区南側が上層の土坑により削平されていることから全容は不明。出土遺物から年代を特定するには至らないが、上下層から勘案すると、13世紀後半以降となるか。

#### 10期-3c面

調査区が狭小なこと、調査区南側が上層の土坑により削平されていることから全容は不明。出土遺物からみて、年代は13世紀後半以降と言える。

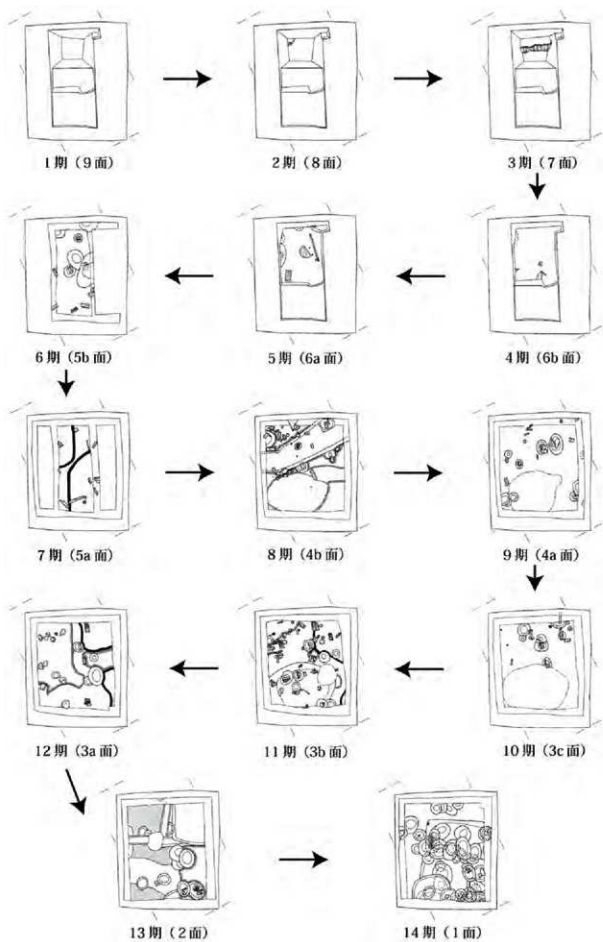


图25 遗構変遷図



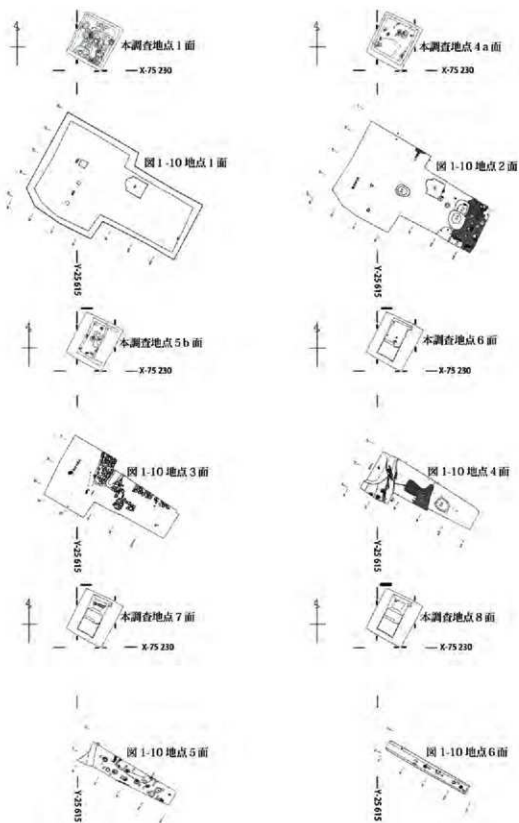


図 26 南側隣地調査区と本調査区 (1/300)

### 11期-3b面

調査区が狭小なため全容は不明。検出面上に遺物が散乱する状況と底部に繊維質土が厚く堆積する土坑 4 が検出された。遺物の散乱状況から廃絶時の状況を反映している可能性を指摘できる。年代は出土遺物からみて 13 世紀後葉を上限とするか。

## 12期-3a面

調査区が狭小なため全容は不明。遺構の検出もまばらな状況である。出土遺物は13世紀中葉までのものを含むが、上下層の年代を勘案すると、13世紀後葉が上限となるか。

## 13期-2面

調査区が狭小なため全容は不明。溝2条が検出されているが、これが区画を示すものかは不明。年代は13世紀後葉を上限とするが、14世紀以降が主体となる可能性もある。

## 14期-1面

調査区が狭小なため全容は不明。調査区の大半を占める土坑2とそれを切るピット群の2時期に大別することができる。ピット群の時期に建物1棟ありそうではあるが、調査区外に広がるため全容は不明。年代は13世紀後葉を上限とするが、最上層であるため、より後世の出土遺物も認められる。

図26は南側隣地の調査区と本調査区の合成図になるが、これは遺構面標高を元に合成したもので、必ずしも整合性が取れているとは言えない。

## 2. 土坑内繊維質土の土壌分析から

平成27年度報告の北条小町邸跡1b面土坑16（沖元2015）、及び本調査地点の3b面土坑4、5b面土坑5に堆積していた繊維質土の分析結果を第四章に提示した。このうち土坑16、土坑4の堆積状況及び繊維質土の採集土層は図27に再提示、土坑5に関しては土坑内埋土がすべて繊維質土であった。

第四章の分析結果をみると、北条小町邸跡の土坑16はヨモギ属が97%と極めて高く、分析者も人為的な影響の可能性を指摘している。また、本調査地点の土坑4及び土坑5においてはイネ科花粉が51%、86%と高比率を示しているが、当該土坑では籾殻も多数検出されていることから、その影響が指摘されている。いずれにしろ、大きな特徴としてヨモギ属とイネ科の花粉が、それぞれの比率は違えど他の分類群よりも多く産出されていることである。

これらを踏まえた上で、日本人とヨモギの関わりについて他分野、史料上から探してみる。

『日本民俗大辞典』（福田ほか編2000）には「葉裏の綿毛は灸療治に用いるもぐさとして利用されている。」とあり、ヨモギの利用法としてもぐさが一つあげられる。

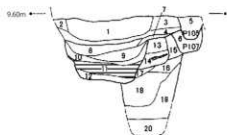
『万葉集』巻十八4116の伴家持の歌に「ほどぎす 來鳴く五月の 菖蒲草 よもぎかづらき」（原文万葉仮名）とあり「奈良時代には五月にアヤメとともにヨモギをカズラとしたことが確認できる。これは、アヤメと同じく芳香を楽しむことのほか、魔除けの意味合いもあったものと思われる」とある（福田ほか編2000）。

『和名類聚抄』（註）には「本草云艾一名醫草」とあり平安期にはヨモギが薬草として認識されている。

『平家物語』巻第三「御産」には「桑の弓・蓬の矢にて、天地四方を射させらる。」、『太平記』巻第二十五「宮方怨靈会六本杉事付医師評定事」には「蓬矢ノ慶賀天下ニ開ヘシカバ」とあり、中世には男子誕生の際、蓬矢を天地四方に放つ儀礼が存在した可能性を確認できる。

安倍清明が編纂者として仮託されている『三国相傳陰陽輔輪内傳金鳥玉兔集』には「三月三日蓬菜草餅巨旦皮膚」とあり、ヨモギの草餅と蘇民将来の説話とが関連づけられている。

江戸期に編纂された『日本歳時記』三月二日項に「沐浴、艾餅を製すべし。」続く三日項に「さて今日艾餅を食し、桃花酒をのみ、艾餅を親戚にをくる。」とある。さらに、五月四日項に「国俗、今日艾、菖蒲を屋ののきに挟む。按ずるに、歳時記に、五月五日艾をむすびて、人の形のごとくして、戸上にかくれば、毒気をはらふ、と見えたり。国俗、艾、菖蒲をのきに挟むも、かゝる遺意なるべし。弘仁式に、



北条小町邸跡（雪ノ下一丁目427番2外）  
土坑16土層堆積（沖元2015より転載加筆）



本調査地点 土坑4土層堆積

図27 各遺構繊維質土採集土層図

五月三日平坦に、菖蒲、蓬花など、南殿の前にをくとあれば、其時より有ける事とみえたり。」とあり、江戸時代にはヨモギを軒に扶む儀礼が存在したことが確認できる。また五月五日項に「又いにしへは、今日薬玉とて、菖蒲、よもぎ、そのほか雑花十種ばかりを、五色の糸にてとゝのへて、ひぢにかくる事侍り。」とあり薬玉にもヨモギが使用されていたことがわかる。

中国最古の詩編である『詩経』王風さいかっには「彼采蕭兮、一日不見、如三秋兮、彼采艾兮、一日不見、如三歲兮」とあり、守屋美都雄氏は「艾をとる風習が古くよりあったことがわかる。」としている（守屋1950・1978）。

楚の屈原の詩とされる『楚辞』離騷には「惟此黨人其獨異、戸服艾以盈要」とあり、守屋氏は「艾を帯びることによって、却って悪をさけうるものと考えている。」としている（守屋1950・1978）。

『孟子』離婁篇七十章に「今之欲王者。猶七年之病。求三年之艾也。」とあり、守屋氏は「艾を摘る目的は、(中略)薬用に供するためであったらう。」としている（守屋1950・1978）。

漢代に原形が成立した『礼記』内則には「國君世子生。(中略)射人以桑弧蓬矢六。射天地四方。」とあり、世子生誕の際に蓬矢よもぎやを天地四方に放つ儀礼が中国に存在したことが確認できる。

中国南朝梁代に成立した『荆楚歲時記』には「五月五日、謂之浴蘭節。四民並躡百草之戲、採艾以爲人、懸門戸上、以禳毒氣。以菖蒲或鏤或屑以泛酒。按大戴禮曰、五月五日蓄蘭爲沐浴、楚辭曰、浴蘭湯兮沐芳華、今謂之浴蘭節、又謂之端午。躡百草、即今人有鬪百草之戲也。宗則字文度、常以五月五日鷄未鳴時採艾、見似人處、攬而取之、用灸有驗。師曠占曰、歲多病、則病草先生。艾是也。今人以艾爲虎形、或剪綵爲小虎、粘艾葉以戴之。」とあり、荆楚地方では五月五日の端午の節句の際に邪氣払いとしてヨモギを門戸の上にかける風習が存在したことが窺え、また、灸にもぐさや薬草としての効用も期待されていたことがわかる。この他に、ヨモギを使って虎形を作成していたこともわかる。

このように、古来より日本人は「ヨモギ」に対して特別な観念を抱いていたことが把握でき、さらに中国ではそれ以前の史料上においても「ヨモギ」に対する特別な観念を確認できる。土坑内におけるヨモギ花粉や羽殻の偏在が何を示すかは容易にわかるものではないが、正月飾りのように「廃棄までが儀礼」であることを視野にいたれた分析が必要になる。さしあたり考古学的に行えることは、偏った分析結果を示す遺構や土層はどのようなものがあるか、土壌サンプル採取箇所の違いが分析結果の違いにつながるのか、あるいは地域的・年代的偏在の有無(例えば京都・奈良、古代・中世)といったデータを集積していくことが肝要であろう。

(註) 国立国会図書館デジタルコレクションにて閲覧

## 引用・参考文献(本報全体に共通)

- 赤星直忠 1959『鎌倉市史 考古編』吉川弘文館  
秋山哲雄 2006『北条氏権力と都市鎌倉』吉川弘文館  
蘆田伊人編 1958『大日本地誌大系(二十一) 新編鎌倉志 鎌倉攷略考』雄山閣  
蘆田伊人編 1998『大日本地誌大系 22 新編相模国風土記稿』雄山閣  
上木進二 2000『第 4 節 鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成』『池子棧敷戸遺跡(逗子市№100)』(仮称)医療保健センター建設地  
内埋蔵文化財発掘調査団・東国歴史考古学研究所  
沖元道 2015『北条小町跡跡 雪ノ下一丁目 427 番 2 外地点』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 31 (第 2 分冊) 鎌倉市教育委員会  
小川裕久・服部実喜 1984『蔵屋敷遺跡』鎌倉駅舎改築にかかる遺跡調査会  
貝原景軒副補・貝原好古編録・大森志郎解説・注 1972『日本歳時記』八坂書房  
神奈川県史編纂室編 1971『神奈川県史 資料編 1 古代・中世(1)』神奈川県県史編纂室  
神奈川県史編纂室編 1973『神奈川県史 資料編 2 古代・中世(2)』神奈川県県史編纂室  
神奈川県史編纂室編 1975『神奈川県史 資料編 3 古代・中世(3上)』神奈川県県史編纂室  
神奈川県史編纂室編 1979『神奈川県史 資料編 3 古代・中世(3下)』神奈川県県史編纂室  
金谷治 1966『孟子 新訂中国古典選第 5 巻』朝日新聞社  
河野真知郎ほか 1990『今小路西遺跡(御成小学校内)発掘調査報告書』鎌倉市教育委員会  
菊川英政 1992『若宮大路周辺遺跡群』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 8 鎌倉市教育委員会  
菊川英政ほか 1999『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書(御成町 819 番 1 地点)』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団  
菊川英政ほか 2008『今小路西遺跡(№201)発掘調査報告書』斉藤建設  
木村大代治ほか 1992『若宮大路周辺遺跡群 御成 872-14』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 8 鎌倉市教育委員会  
熊谷満 2003『若宮大路周辺遺跡群の調査』第 13 回鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨 鎌倉考古学研究所  
熊谷洋一ほか 1993『宇津宮辻子幕府跡』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 9 (第 3 分冊) 鎌倉市教育委員会  
黒坂勝美編 1933『新訂増補国史大系 吾妻鏡』吉川弘文館  
國平健三・長谷川厚 1990『富久保遺跡Ⅲ』(神奈川県立埋蔵文化財センター 15) 神奈川県立埋蔵文化財センター  
後藤丹治・釜田喜三郎校注 1961『太平記 二 日本古典文学大系 35』岩波書店  
齋木秀雄ほか 1982『御成町 806-3 番地点』鎌倉考古学研究所  
齋木秀雄ほか 2007『大倉幕府周辺遺跡群発掘調査報告書 鎌倉遺跡調査会報告書第 47 集』鎌倉遺跡調査会  
澤邊久孝ほか編 1954『萬葉集大成 14 本文編 3』平凡社  
宗室秀明・宗室富貴子 1998『北条時房・顕時邸跡』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14 (第 1 分冊) 鎌倉市教育委員会  
鈴木茂 1996『宇津宮辻子幕府跡の花粉化石』(『宇津宮辻子幕府跡』附編)鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 12 (第 1 分冊)  
鎌倉市教育委員会  
鈴木栄三・鈴木良一監修 1984『神奈川県の地名』平凡社  
宗懐撰 1965『荆楚歲時記』藝文印書館  
高木市之助ほか校注 1959『平家物語 上 日本古典文学大系 32』岩波書店  
長崎健校注・訳 1994『海道記』『中世日記行集』小学館  
滝澤品子 2012『若宮大路周辺遺跡群(№242)発掘調査報告書』博通  
塚本哲三編 1927『漢文叢書 禮記』有朋堂書店  
手塚直樹 1989『小町一丁目 120 番 1 地点』風門社ビル発掘調査団  
手塚直樹ほか 1982『千葉地遺跡』千葉地遺跡発掘調査団  
手塚直樹ほか 1983『蔵屋敷東遺跡』江ノ電鎌倉ビル発掘調査団  
貫達人・川副武風・佐藤栄智 1959『鎌倉市史 社寺編』吉川弘文館  
貫達人・川副武風 1980『鎌倉佛寺事典』有隣堂  
野口実 1993『頼朝以前の鎌倉』『古代文化 45』(財)古代学協会  
服部実喜・穴戸信悟 1986『千葉地東遺跡』(神奈川県立埋蔵文化財センター 10) 神奈川県立埋蔵文化財センター  
塚保己一編 1932『鎌倉大草紙』『群書類従 第 20 輯』平文社  
塚保己一編 1923『編智院法印灌頂實記』『群書類従 第 26 輯上』平文社  
塚保己一編 1927『蘆屋内傳』『群書類従 第 31 輯上』群書類従完成会  
原廣志・田代郁夫 1989『北条時房・顕時邸跡』北条時房・顕時邸跡発掘調査団  
福田アジオほか編 2000『日本民俗大辞典 下』吉川弘文館  
福田誠ほか 1999『若宮大路周辺遺跡群』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 15 (第 1 分冊) 鎌倉市教育委員会  
松尾宣方・藤実 1993『若宮大路周辺遺跡群 御成町 811 番地点』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 9 鎌倉市教育委員会  
松尾剛次 1993『中世都市鎌倉の風景』吉川弘文館  
馬淵和雄 1986『若宮大路周辺遺跡群 小町一丁目 116 番地点』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 2 鎌倉市教育委員会  
馬淵和雄 1994『武士の都 鎌倉一その成立と構想をめぐって』『都市鎌倉と坂東の海に暮らす』(『中世の風景を読む』2)  
新人物往来社  
馬淵和雄 1998『大倉幕府周辺遺跡群』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 14 (第 2 分冊) 鎌倉市教育委員会  
馬淵和雄 1999『大倉幕府周辺遺跡群 雪ノ下四丁目 620 番 5 地点』大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団  
馬淵和雄 2000『北条時房・顕時邸跡』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 16 (第 2 分冊) 鎌倉市教育委員会  
馬淵和雄 2014『大倉幕府周辺遺跡群 雪ノ下四丁目 570 番 1 地点』鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 30 (第 1 分冊)  
鎌倉市教育委員会  
宮田眞 1997『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡発掘調査団  
目加田誠訳 1969『詩経・楚辞 中国古典文学大系第 15 巻』平凡社  
守屋美都雄 1950『校註 荆楚歲時記 中国民俗の歴史的研究』帝國書院  
守屋美都雄訳注・布目潮風・中村裕一補訂 1978『荆楚歲時記 東洋文庫 324』平凡社



1-1 調査地点近景①(南から)



1-2 調査地点近景②(西から)



1-3 調査地点近景③(北から)



1-4 調査地点近景④(西から)



1-5 1面土坑2掘削前全景(南から)



1-6 1面土坑2掘削前全景(東から)



1-7 1面全景(南から)

図版2



2-1 1面全景(西から)



2-2 2面全景(南から)



2-3 2面全景(東から)



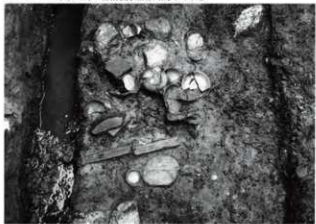
2-4 3a面遺物(図9-10・11・16)出土状況(東から)



2-5 3b面土坑4掘削前全景(南から)①



2-6 3b面土坑4掘削前全景(東から)①



2-7 3b面北西部遺物出土状況(南から)



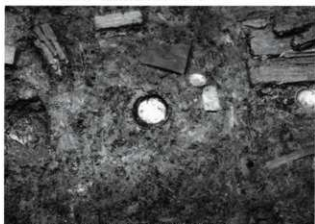
2-8 3b面土坑4掘削前全景(南から)②



3-1 3b面土坑4 掘削前全景(東から)②



3-2 3b面北東部遺物出土状況(北から)



3-3 3b面漆器碗(図12-28)出土状況(東から)



3-4 3b面全景(南から)



3-5 3b面全景(東から)



3-6 3b面土坑4(南から)



3-7 3c面全景(東から)



3-8 4a面全景(南から)

図版4



4-1 4a面全景(東から)



4-2 4a面破板出土状況(北から)



4-3 4b面全景(南から)



4-4 4b面全景(東から)



4-5 5a面全景(南から)



4-7 5b面全景(東から)



4-6 5b面全景(南から)





5-1 6面全景(南から)



5-2 7面板列(南から)



5-3 8面全景(西から)



5-4 8面土師器皿(図23-1・2)出土状況(東から)



5-5  
最終トレンチ  
西壁土層断面



6-1 北壁土層剖面



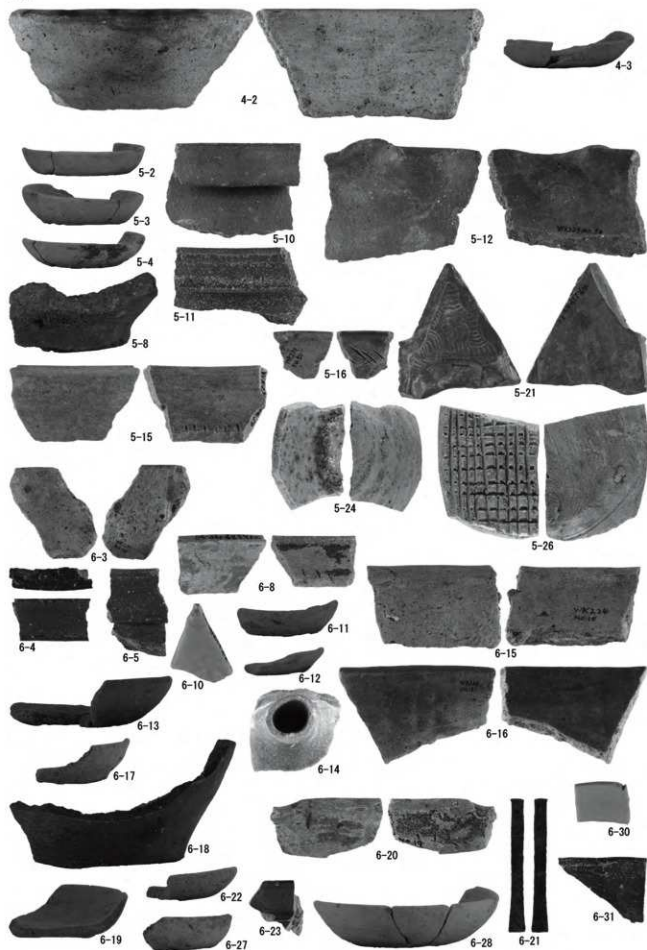
6-2 東壁土層剖面



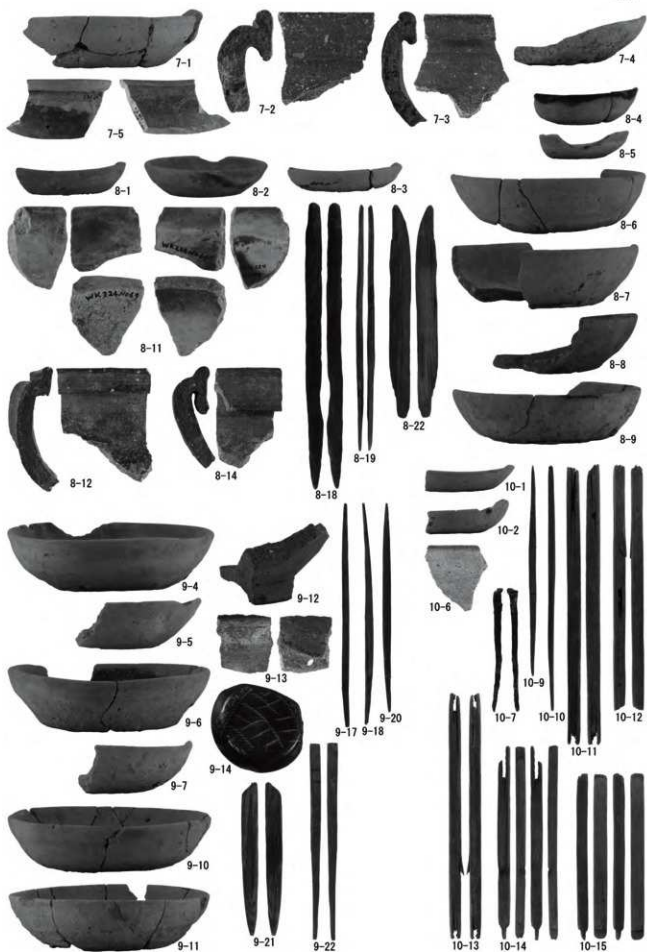
7-1 1面土坑2東西ベルト土層断面(南から)



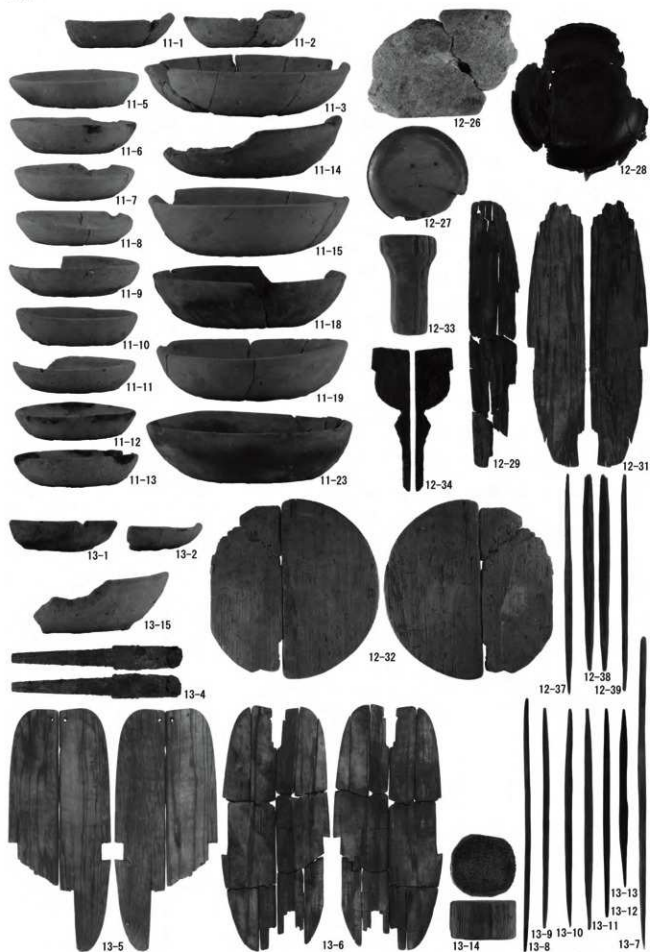
7-2 3a面中央ベルト土層断面(南東から)



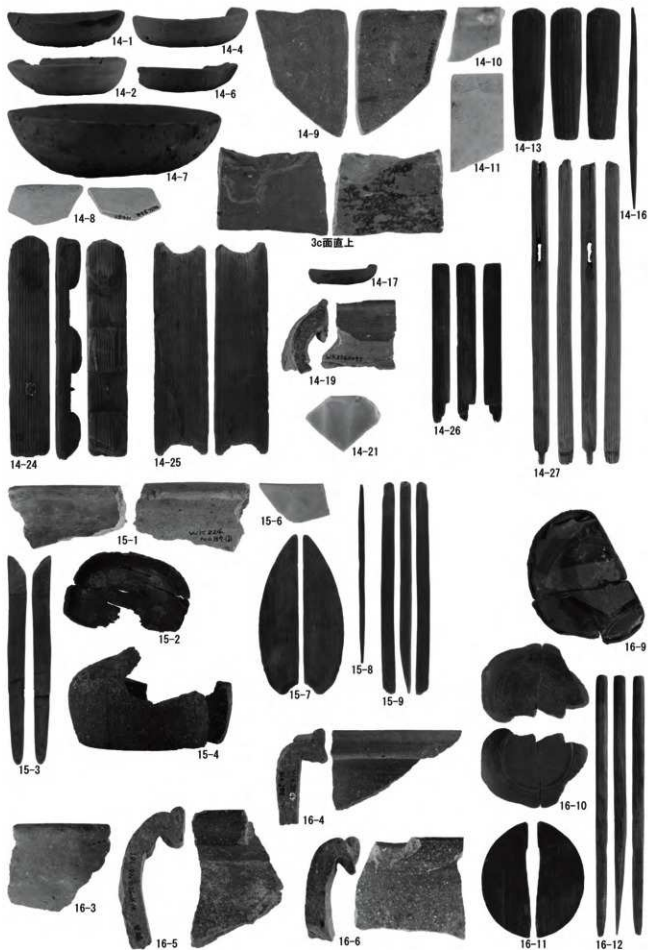
出土遺物 1



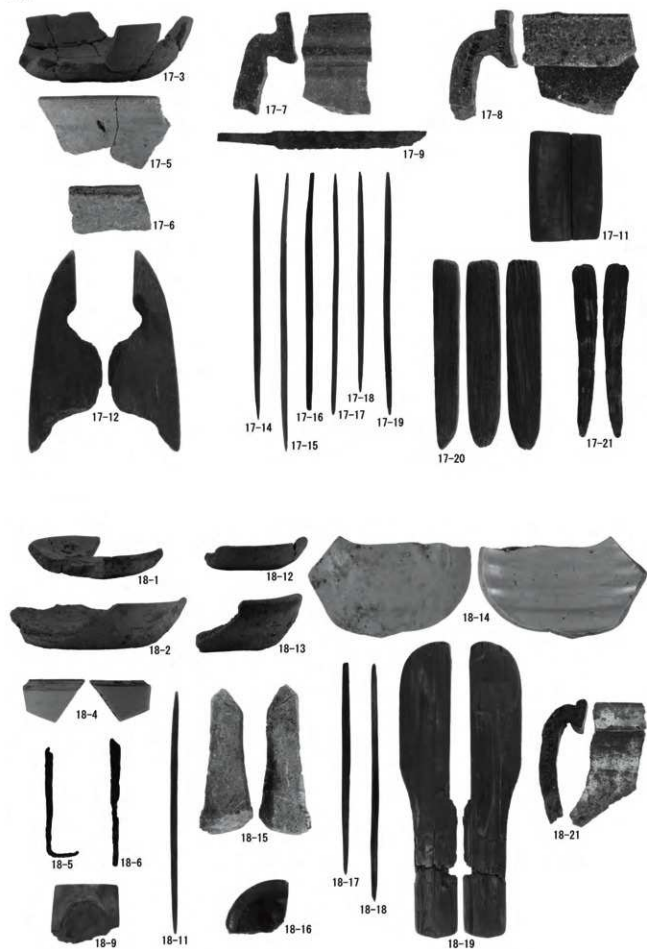
出土遺物2



出土遺物 3

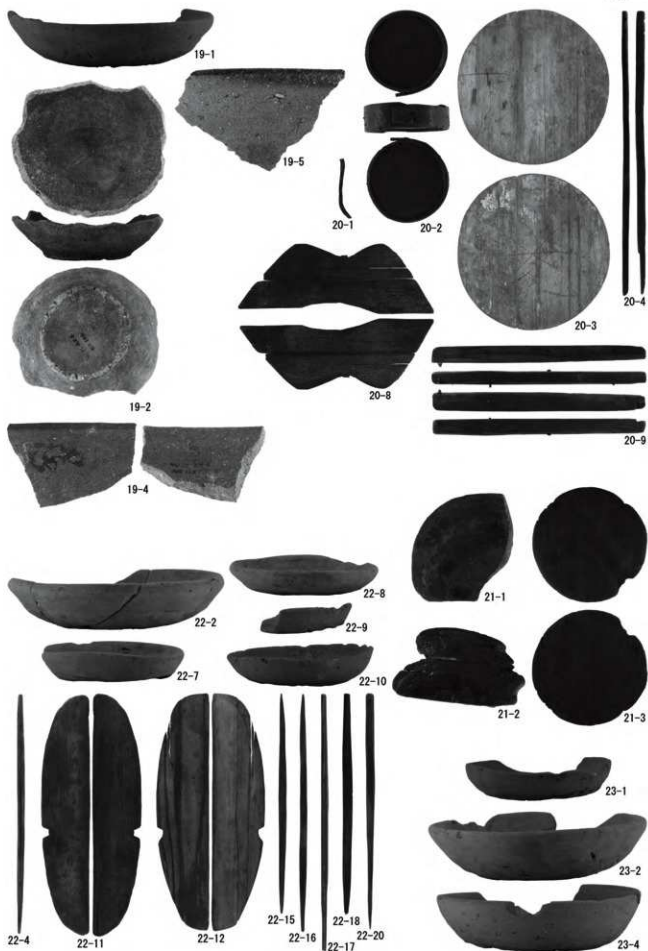


出土遺物 4



出土遺物 5





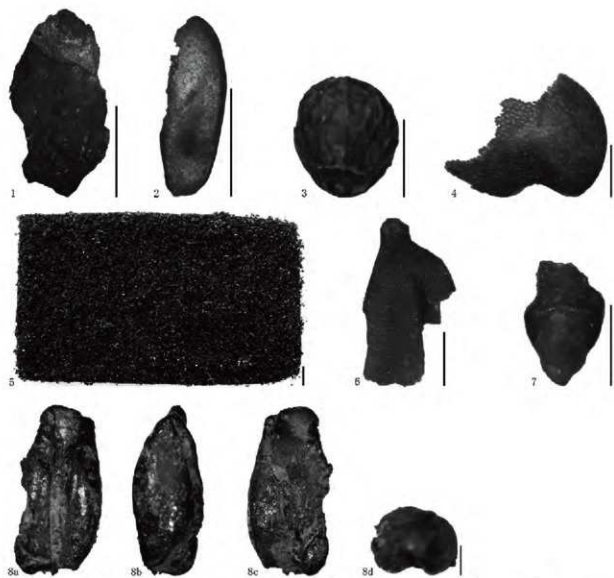
出土遺物 6



スケール 1-2:5mm, 3-10:1mm

図版 14 北条小町邸跡の土坑 16 から出土した大型植物遺体

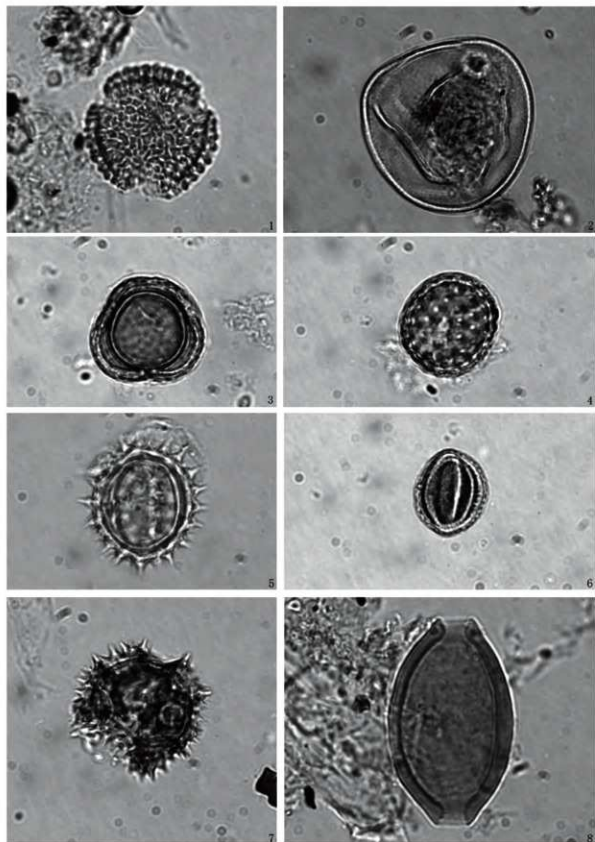
1・2. メロン仲間種子、3. キタ科果実、4. ヒエ炭化種子、5. ヒエ属有ふ果、6. イネ籾殻、7. イネ小穂軸、  
8. イネ炭化種子、9. アワ有ふ果、10. ワラビ裂片



スケール 1, 2:5mm, 3, 4, 6-8:1mm, 5:10mm

図版15 若宮大路周辺遺跡群の土坑4から出土した大型植物遺体

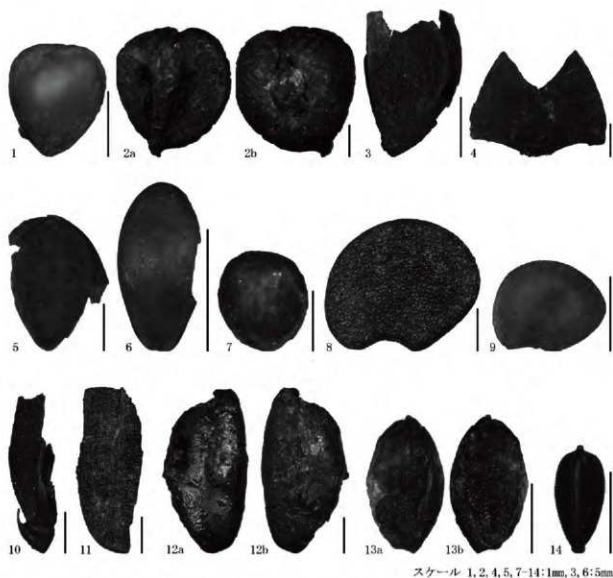
1. クリ果実、2. メロン仲間種子、3. シソ属果実、4. ナス種子、5. イネ初穀（全体）、6. イネ初穀、  
7. イネ小穂軸、8. オオムギ炭化種子



図版16 北条小町邸跡と若宮大路周辺遺跡群から産出した花粉化石・寄生虫卵

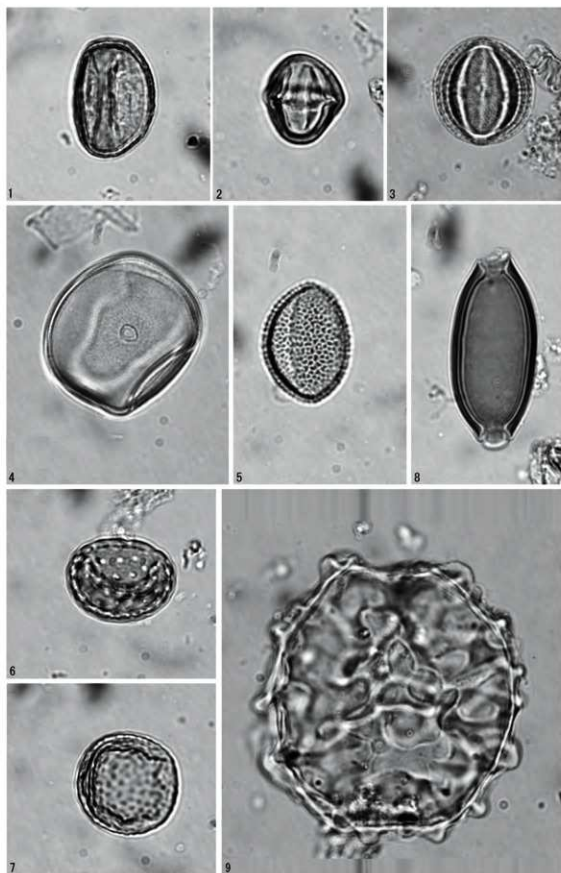
0.02mm

- |                                   |                                   |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. イボタノキ属 (若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1577)   | 2. イネ科 (若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1578)      |
| 3. ブタクサ属-オナモミ属 (北条小町邸跡 PLC. 1579) | 4. アカザ科-ヒユ科 (若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1580) |
| 5. キク亜科 (若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1581)     | 6. ヨモギ属 (北条小町邸跡 PLC. 1582)        |
| 7. タンポポ科 (若宮大路周辺遺跡群 PLC. 1583)    | 8. 鞭虫卵 (北条小町邸跡 PLC. 1584)         |



図版17 若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市小町二丁目24番14地点）の土坑5から出土した大型植物遺体

1. タワ属核、2. ブドウ属種子、3. カキノキ種子、4. ソバ果実、5. ゴマ種子、6. メロン仲間種子、7. シソ  
 属果実、8. ナス種子、9. ナス属種子、10. イネ稃殻、11. イネ炭化稃殻、12. イネ炭化種子、13. エノコロ  
 グサ属有ふ果、14. カヤツリグサ属果実



図版18 若宮大路周辺遺跡(土坑5)から産出した花粉化石・寄生虫卵

- |                          |                         |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. コナラ属コナラ亜属 (PLC. 1656) | 2. ワレモコウ属 (PLC. 1657)   |
| 3. ヨモギ属 (PLC. 1658)      | 4. イネ科 (PLC. 1659)      |
| 5. アブラナ科 (PLC. 1660)     | 6. アカザ科-ヒユ科 (PLC. 1661) |

0.02mm

おおくらぼくふしゅうへんいせきぐん  
大倉幕府周辺遺跡群 (No.49)

雪ノ下天神前 562 番 30 地点

## 例 言

1. 本報は、「大倉幕府周辺遺跡群」(No.49)内、雪ノ下天神前562番30地点における埋蔵文化財発掘調査の報告である。
2. 調査期間 平成19(2007)年11月7日～平成19(2007)年12月14日
3. 調査面積 26.25㎡
4. 略 称 OSYT562
5. 調査体制

担 当 者	馬淵和雄
調 査 員	鍛冶屋勝二・松原康子・岩崎卓治(資料整理)・沖元道(同前)
調査補助員	佐藤あおい・佐藤千尋(資料整理)・田中聡(同前)
作 業 員	小口照男・金丸義一・伴一明・渡辺輝彦(以上(社)鎌倉市シルバー人材センター)
6. 本報作成分担

遺構図整理	沖元
遺物実測	岩崎・沖元・松原・佐藤(千)・田中
同墨入れ	岩崎・沖元・佐藤(千)
同観察表	沖元
同計量表	沖元・佐藤(千)
同写真撮影	沖元
図版作成	沖元
原稿執筆	沖元・馬淵
編 集	沖元
7. 整理段階において、遺物の分類及び編年は以下を参考にした。  
土 師 器 皿：馬淵和雄1998『鎌倉大仏の中世史』新人物往来社  
瓦：原 廣志2002「第4章 出土瓦について」『永福寺跡-遺物・考察編-』鎌倉市教育委員会  
瀬 戸：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院  
尾張型山茶碗：藤澤良祐2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院  
常 滑：中野晴久2012『愛知県史別編窯業3 中世・近世常滑系』愛知県  
渥 美：安井俊則2012『愛知県史別編窯業3 中世・近世常滑系』愛知県  
貿易陶磁：太宰府市教育委員会2000『太宰府条坊跡XV-陶磁器分類編-』
8. 本報告掲載の現地写真は馬淵・鍛冶屋が撮影した。
9. 発掘調査における出土遺物・図面類・写真などの資料は鎌倉市教育委員会が保管している。
10. 本報告では世界測地系(第IX系)の座標軸に基づく測量成果を掲げたが、平成23(2011)年3月11日の東日本大震災以前の測量数値を使用している。

本報告作成に際し、次の方々の御教示を得た。記して謝意を示したい。

押木弘己・汐見一夫・原廣志・福田誠



# 目次

## 本文目次

第一章 遺跡と調査地点の概観 .....	99
1. 位置と地勢	
2. 歴史的環境	
第二章 調査の概要 .....	104
1. 調査にいたる経緯	
2. 調査の経過	
3. 調査方法	
第三章 調査結果 .....	106
第1節 概要	
1. 層序と面の概要	
第2節 各説	
1. 1面遺構群	
2. 2面遺構群	
3. 3面	
4. 最終トレンチ	
5. 表採・攪乱坑出土遺物	
第四章 まとめと考察 .....	139
1. 遺構の変遷と年代	
2. 本調査地点と周辺の調査成果より	

## 挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡・旧跡 .....	100	図12 2面遺構群全図、同出土遺物 .....	117
図2 明治15年頃の調査地点周辺 .....	103	図13 2面遺構群炭層直上・炭層内・	
図3 調査区設定図 .....	105	構築土出土遺物 .....	118
図4 調査区土層断面図 .....	106	図14 溝1上層・下層、同出土遺物 .....	119
図5 1面遺構群遺構全図、		図15 土坑7・8・10・13・	
同出土遺物・攪乱B出土遺物 .....	109	P.11・87・88、同出土遺物 .....	121
図6 1面遺構群上層・1面遺構群直上・		図16 土坑13炭層内・炭層下出土遺物、	
1面遺構群構築土出土遺物 .....	110	土坑14・15・16、同出土遺物 .....	123
図7 土坑1・3・4・5・6、同出土遺物 .....	111	図17 P.40・41・2面遺構群ピット出土遺物 .....	124
図8 土坑2、同出土遺物 .....	112	図18 3面遺構全図・溝2、同出土遺物 .....	125
図9 土坑9・11・P.13・29・30・		図19 最終トレンチ、同出土遺物 .....	126
60・66・106・107、同出土遺物 .....	113	図20 表採・攪乱坑出土遺物 .....	127
図10 P.44、同出土遺物・		図21 北壁土層概念図 .....	139
1面遺構群ピット出土遺物(1) .....	114	図22 本調査地点と周辺の調査成果 .....	141
図11 1面遺構群ピット出土遺物(2) .....	115		

## 表 目 次

表1 出土遺物観察表(1).....	128	表7 出土遺物観察表(7).....	134
表2 出土遺物観察表(2).....	129	表8 出土遺物観察表(8).....	135
表3 出土遺物観察表(3).....	130	表9 出土遺物観察表(9).....	136
表4 出土遺物観察表(4).....	131	表10 出土遺物観察表(10).....	137
表5 出土遺物観察表(5).....	132	表11 出土遺物計量表.....	138
表6 出土遺物観察表(6).....	133		

## 図 版 目 次

図版1 .....	144	3-5 2面遺構群土坑13上層炭層 (東から、遺物は図15-5)	
1-1 県道204号線(六浦路)調査地点入口 より西を臨む		3-6 2面遺構群土坑13完掘状況(北から)	
1-2 近景、県道204号線(六浦路)(東から)		3-7 2面遺構群土坑13完掘状況(北東から)	
1-3 手前・県道204号線(六浦路)、 奥・調査区(南から)		図版4 .....	147
1-4 1面遺構群全景(東から)		4-1 北壁際最終トレンチ内集石 (3面)出土状況(南から)	
1-5 1面遺構群全景(北から)		4-2 北壁際最終トレンチ(東から)	
1-6 1面遺構群土坑2(西から)		4-3 北壁際最終トレンチ大溝内 木製品出土状況(南から)	
1-7 1面遺構群土坑2・3(西から)		4-4 北壁際最終トレンチ大溝内 木製品出土状況(南から・拡大)	
1-8 1面遺構群土坑3南北ベルト(西から)		4-5 北壁土層断面	
図版2 .....	145	図版5 .....	148
2-1 1面遺構群土坑1 遺物出土状況 (北から)		5-1 北壁土層断面(中央)	
2-2 1面遺構群土坑1 東西土層断面 (北から)		5-2 北壁土層断面(東側)	
2-3 1面遺構群土坑1 完掘状況(南から)		図版6 .....	149
2-4 1面遺構群P.44(北から)		6-1 北壁土層断面(土塁状遺構と大溝)①	
2-5 1面遺構群P.13内遺物出土状況 (南から)		6-2 北壁土層断面(土塁状遺構と大溝)②	
2-6 2面遺構群全景(東から)		図版7 出土遺物1 .....	150
2-7 2面遺構群全景(北から)		図版8 出土遺物2 .....	151
図版3 .....	146	図版9 出土遺物3 .....	152
3-1 2面遺構群全景(南から)		図版10 出土遺物4 .....	153
3-2 2面遺構群溝1上層(北から)		図版11 出土遺物5 .....	154
3-3 2面遺構群溝1上層(南から)		図版12 出土遺物6 .....	155
3-4 2面遺構群焼土内青磁(図13-14) 出土状況(北から)		図版13 出土遺物7 .....	156

# 第一章 遺跡と調査地点の概観

## 1. 位置と地勢

### 地勢

大倉幕府周辺遺跡群は、大倉幕府跡比定地の東・南・西側に隣接する一帯の遺跡名称である。本地点は、遺跡地のなかでも東側に位置し、幕府比定地の南東角に面した場所にあたる。鶴岡八幡宮東側から東京湾側の六浦に向かう旧街道が、大倉幕府前の約400m続く直線が尽きていくらか南に曲がり始めたあたりの北側になる。ちょうどこの地点から、二階堂川の右岸を北東方向に路地が通じており、これが鎌倉時代には二階堂大路と称された道と推定される。

調査地点の現地表面は海拔12.00mほどで、調査地点南の旧街道にあたる県道204号金沢鎌倉線の海拔は、10.30mほどである。

(馬淵・沖元)

## 2. 歴史的環境

### 縄文～古墳時代

縄文海進期、鎌倉市街地は全体的に水面下であったと考えられる。旧市内では荏柄天神社前の民家での井戸掘削時に諸磯式と阿玉台式(赤星1959)、15世紀以降に人為的に滑川を埋めた土中から加曾利E式と縄文晩期から弥生前期にかけての土器(地点12・馬淵2014)、現在の横浜国大付属小学校敷地内から称名寺式(赤星1959)の出土が知られる程度で、全体的にきわめて乏しい。

上本進二氏によれば、当初鎌倉中心部の沖積平野中心部を流れていた古滑川が、現在の位置に近い東の山裾に流路を変えるのは縄文時代晩期から弥生中期にかけてである(上本2000)。

旧市街で人の生活痕跡が確認できるのは弥生時代中期後半からである。地点14・16において、大規模な集落が確認されている(馬淵1998・1999、齋木ほか2007)。また、地点14においては、方形周溝墓とおぼしき周溝が検出されている(齋木ほか2007)。

古墳時代の集落・住居址は、海岸部の砂丘上、二階堂付近、御成小学校近辺の平坦な微高地で発見されている。調査地点付近では地点5において、古墳時代後期から奈良・平安時代にかけての集落址が確認されている(馬淵1993)。この他、宇津宮辻子幕府跡において、古墳時代土師器が出土する中世基盤層下層の粘土層内の花粉分析が行われている。この結果、イネ科のプラントオパールが検出されていることから、この一帯で水田耕作がおこなわれていた可能性がある(鈴木1996)。

### 奈良・平安期

鎌倉の文字史料上の最も早い年紀は綾瀬市宮久保遺跡出土木簡に「鎌倉郷鎌倉里 軽マ□寸幅 天平五年九月」とあるものである(國平・長谷川1990)。文献史料上では、天平七年(735年)の裏書を持つ『相模国封戸租交易帳』(『正倉院文書』正集十八『神奈川県史 資料編』1-58)に「従四位下高田王食封

鎌倉郡鎌倉郷參拾戸 田壹伯參拾伍町壹伯玖歩」とあるものが知られている。この『相模国封戸租交易帳』に見える郷名のうち、他に尺度郷、荏草郷が鎌倉部内とされる。承平年間(931年-938年)に編纂された『和名類聚抄』(高山寺本『神奈川県史 資料編』1-490)には、鎌倉部内の郷名として沼濱、鎌倉、埵立、荏草、梶原、尺度、大島が見える。この他に天平勝宝元年(749年)の『調庸布墨書』(東大寺正倉院御物『神奈川県史 資料編』1-102)に「相模國鎌倉郡方瀬郷」と見える。これらの郷のうち荏草郷については、『新編相模國風土記稿』(荏柄天神社)の項にて、「當郡郷名に荏草と記すあり、今其唱を

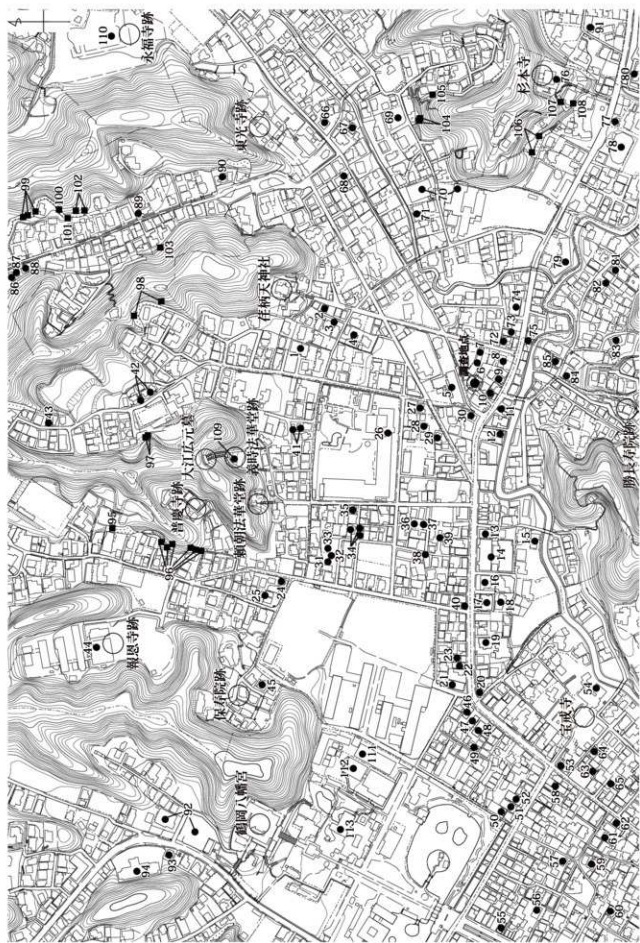


図1 調査地点と周辺の遺跡・旧跡 (1/5000)

大倉幕府周辺遺跡群 (No.49) 本調査地点 雪ノ下字天神前 562-30 1. 二階堂字在柄54-4外(2000調査)原2002「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1」鎌倉市教育委員会 2. 二階堂字在柄76-8(2006調査)伊丹ほか2014「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30-1」鎌倉市教育委員会 3. 二階堂字在柄76-4(2007調査) 4. 二階堂字在柄27-3の一部(2002調査)原2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書22-1」鎌倉市教育委員会 5. 二階堂字在柄38-1(1991調査)馬淵1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-2」鎌倉市教育委員会 6. 二階堂字在柄3-6外(2006調査) 7. 二階堂字在柄3-6外(2008調査) 8. 雪ノ下大倉耕地565-4(1989調査) 菊川英1991「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」鎌倉市教育委員会 9. 雪ノ下天神前562-29(1994調査) 福田1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-1」鎌倉市教育委員会 10. 雪ノ下字大倉耕地562-16(2000調査) 菊川泉2001「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-2」鎌倉市教育委員会 11. 雪ノ下四丁目567-7(2002調査) 馬淵2004「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20-2」鎌倉市教育委員会 12. 雪ノ下四丁目570番1(2006調査) 馬淵2014「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30-1」鎌倉市教育委員会 13. 雪ノ下四丁目581-2(1981-82松尾) 14. 雪ノ下四丁目581-5(2003調査) 齋木2007「大倉幕府周辺遺跡発掘調査報告書(布織遺跡調査報告書) 15. 雪ノ下四丁目580-10外(2000原)原2001「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-2」鎌倉市教育委員会 16. 雪ノ下四丁目620-5(1996調査) 馬淵1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-2」鎌倉市教育委員会、馬淵1999「大倉幕府周辺遺跡群」大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団 17. 雪ノ下四丁目620-18(1980調査) 18. 雪ノ下四丁目620-2(1980調査) 19. 雪ノ下四丁目610-2(1983-84調査) 20. 雪ノ下四丁目600(1980調査) 21. 雪ノ下三丁目606-1(1991調査) 菊川英1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」鎌倉市教育委員会 22. 雪ノ下三丁目607外(1992調査) 菊川英1994「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10-1」鎌倉市教育委員会 23. 雪ノ下三丁目607-1(2001調査) 降矢2004「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20-2」鎌倉市教育委員会  
西御門遺跡 (No.325) 24. 西御門一丁目11-4(2006調査) 25. 西御門一丁目681-1(2006調査)  
大倉幕府跡 (No.253) 26. 雪ノ下三丁目707-1(1990調査) 27. 雪ノ下三丁目637-4(2006調査) 熊谷2011「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27-2」鎌倉市教育委員会 28. 雪ノ下三丁目637-6外(2008調査) 29. 雪ノ下三丁目635-2外(2008齋木、熊谷) 30. 雪ノ下字大倉耕地569-1(1989調査) 馬淵1990「大倉幕府周辺遺跡群」大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団 31. 雪ノ下三丁目693-8(2009調査) 押木2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-2」鎌倉市教育委員会 32. 雪ノ下三丁目693-1(2010調査) 滝澤・宮田「大倉幕府跡 (No.253) 発掘調査報告書」麻博通 33. 雪ノ下三丁目694-18(2009調査) 大倉幕府跡 (No.253) 発掘調査報告書」麻博通 34. 雪ノ下三丁目701-14、701-3、701-1(2002-2003調査) 馬淵・滝澤2005「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21-1」鎌倉市教育委員会 35. 雪ノ下三丁目704-3外(2005調査) 福田2011「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書27-2」鎌倉市教育委員会 36. 雪ノ下三丁目648-3(2009原・山口) 37. 雪ノ下三丁目648-8(2010齋木・降矢) 38. 雪ノ下三丁目651-8(1997調査) 沙見1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2」鎌倉市教育委員会 39. 雪ノ下三丁目629-1(2007調査) 宮田他2011「大倉幕府跡 (No.253) 発掘調査報告書」麻博通 40. 雪ノ下三丁目618-4(2000調査) 沙見2002「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1」鎌倉市教育委員会  
大倉幕府北遺跡 (No.193) 41. 西御門二丁目756-10・756-6(2004調査) 滝澤2009「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書25-1」鎌倉市教育委員会 42. 西御門二丁目796-1外2番(2001調査) 森・宮田2002「大倉幕府北遺跡発掘調査報告書」大倉幕府北遺跡発掘調査団 43. 西御門二丁目803-17(1997調査) 熊谷1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2」鎌倉市教育委員会 97. 西御門二丁目816ほか1番(1999調査) 宮田2000「大倉幕府北遺跡発掘調査報告書」

報恩寺遺跡 (No.251) 44. 西御門一丁目91-3他(1974・75・76調査) 松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査年報1」鎌倉市教育委員会  
保寿院跡 (No.250) 45. 西御門一丁目922-4(2004宮田) 宮田・滝澤2007「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-2」鎌倉市教育委員会  
政所跡 (No.247) 46. 雪ノ下三丁目965(1990手塚) 福田1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会 47. 雪ノ下三丁目966-1(1990手塚) 福田1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8」鎌倉市教育委員会 48. 雪ノ下三丁目971-6(1997手塚・野木) 49. 雪ノ下三丁目970-2外(1997手塚) 野木1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2」鎌倉市教育委員会 50. 雪ノ下三丁目989-4(1999調査) 宗憲秀ほか2001「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-1」鎌倉市教育委員会 51. 雪ノ下三丁目988(1991調査) 手塚・田畑1993「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9-3」鎌倉市教育委員会 52. 雪ノ下三丁目987-1・2(1990調査) 手塚・宮田1991「政所跡」政所跡発掘調査団  
北条高時邸跡 (No.281) 53. 小町三丁目426-3(1994原) 原他1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-1」鎌倉市教育委員会 54. 小町三丁目451-1(2004菊川) 菊川・森2004「北条高時邸跡」柳斉藤建設  
北条小町邸跡 (No.282) 55. 雪ノ下一丁目377-6・7(1994調査) 馬淵ほか1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12-2」鎌倉市教育委員会 56. 雪ノ下一丁目374-2(1985調査) 玉林ほか1985「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書2」鎌倉市教育委員会 57. 雪ノ下一丁目407-3の一部(2002調査) 原ほか2005「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書21-2」鎌倉市教育委員会 58. 雪ノ下一丁目395(1988菊川) 菊川1989「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書5」鎌倉市教育委員会 59. 雪ノ下一丁目403-14(2013調査) 60. 雪ノ下一丁目427番2外(2007調査) 神元2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書31-2」鎌倉市教育委員会 61. 雪ノ下一丁目401-5他(2001調査) 馬淵ほか2003「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19」鎌倉市教育委員会 62. 雪ノ下一丁目400-1(2000調査) 馬淵ほか2002「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-2」鎌倉市教育委員会  
若宮大路周辺遺跡群 (No.242) 63. 小町三丁目425-1の一部(2005調査) 原・宇部2012「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-1」鎌倉市教育委員会 64. 小町三丁目425-3(2004調査) 原・宇部2013「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-1」鎌倉市教育委員会 65. 小町三丁目422-2外(2005調査) 伊丹ほか2013「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-1」鎌倉市教育委員会  
横小路周辺遺跡群 (No.259) 66. 二階堂字四ツ石115-3の一部(2003調査) 福田2007「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-2」鎌倉市教育委員会 67. 二階堂字横小路110-3(1994調査) 宗憲他1996「横小路周辺遺跡」横小路周辺遺跡発掘調査団 68. 二階堂字横小路93-11(1998調査) 野木1999「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-2」鎌倉市教育委員会 69. 二階堂字稲葉越856-5(2009調査) 70. 二階堂字向在柄880・874(1982調査) 馬淵1985「向在柄遺跡発掘調査報告書」 71. 二階堂字向在柄875-4(2008調査) 72. 二階堂字在柄10-1(2001調査) 原2003「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19」鎌倉市教育委員会 73. 二階堂字在柄10-6(1998調査) 福田2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16-2」鎌倉市教育委員会 74. 二階堂字在柄9-1(1988調査) 菊川1990「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会 75. 雪ノ下五丁目557-1(1996調査) 野木1998「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14-2」鎌倉市教育委員会  
杉本寺周辺遺跡群 (No.158) 76. 二階堂字杉本903(1974調査) 松尾1983「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査年報1」鎌倉市教育委員会 77. 二階堂字杉本912(1984調査) 馬淵ほか2002「杉本寺周辺遺跡」鎌倉市教育委員会 78. 二階堂字杉本912-1ほか(1990・1999調査) 馬淵ほか2002「杉本寺周辺遺跡」鎌倉市教育委員会 79. 二階堂字杉本932-1他8番(2005調査) 2007「杉本寺周辺遺跡発掘調査報告書」麻博通

田楽辻子周辺遺跡 (No.33) 80. 浄明寺字宅間 562-33 (1990 調査) 大上 1992「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 8」鎌倉市教育委員会 81. 浄明寺字釈迦堂 658 (1989 調査) 手塚・田畑 1990「釈迦堂田楽辻子遺跡」釈迦堂田楽辻子遺跡発掘調査 82. 浄明寺一丁目 661 (1998 調査) 森 2000「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 16-1」鎌倉市教育委員会 83. 浄明寺一丁目 676-1 (2008 調査) 齋木 2012「田楽辻子周辺遺跡」(南鎌倉遺跡調査会 84. 雪ノ下五丁目 555-1 (2006 調査) 福田 2006「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 22-1」鎌倉市教育委員会 85. 浄明寺一丁目 556-6 外 (2009 調査) 押木 2012「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 28-2」鎌倉市教育委員会  
寛園寺境内遺跡 (No.435) 86. 二階堂字下 351-3 外 (2004 調査) 伊丹 2010「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 26-1」鎌倉市教育委員会 87. 二階堂字下 351-1 (2005 調査) 馬淵 2011「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 28-1」鎌倉市教育委員会 88. 二階堂字下 351-2 外 (2005 調査) 原 2015「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 28-1」鎌倉市教育委員会 89. 二階堂字下 331-3 外 (2004 調査) 齋木ほか 2005「寛園寺境内遺跡発掘調査報告書」(南鎌倉遺跡調査会 90. 二階堂字下 323 (2000 調査) 福田 2004「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20-2」鎌倉市教育委員会 103. 二階堂字中村 363-5 内 (1994 調査) 田代ほか「中世石窟遺構の調査」(東国歴史考古学研究所  
浄妙寺境内遺跡 (No.408) 91. 浄明寺三丁目 3-2 (2003 調査) 福田ほか 2007「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 23-1」鎌倉市教育委員会  
鶴岡八幡宮境内遺跡 (No.56) 92. 雪ノ下二丁目 1-16-2 (1986 調査) 齋木 1987「鶴岡八幡宮境内遺跡発掘調査報告書Ⅱ」鎌倉市鶴岡八幡宮 93. 雪ノ下二丁目 75-16 (1995 調査) 菊川 1996「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 12-2」鎌倉市教育委員会 94. 雪ノ下二丁目 73-1 (1980-81 調査) 服部 1984「婁八幡宮西谷遺跡」(神奈川県立埋蔵文化財センター  
西御門東やぐら群 (No.449) 95. 西御門一丁目 31 (2003 調査) 鈴木 2005「西御門東やぐら群Ⅱ」(かながわ考古学財団調査報告 187)。(財)かながわ考古学財団 96. 西御門一丁目 22-1・23・25-1・2 (2001・2002・2003 調査) 鈴木他 2005「西御門東やぐら群」(かながわ考古学財団調査報告 181)。(財)かながわ考古学財団  
大倉幕府北やぐら群 (No.460) 98. 西御門二丁目 792-2 (調査)

鈴木 2004「大倉幕府北やぐら群」(かながわ考古学財団調査報告 162)。(財)かながわ考古学財団  
会下山西やぐら群 (No.331) 99. 二階堂 306 (2004 調査) 井関ほか 2006「会下山西やぐら群」(かながわ考古学財団調査報告 196)。(財)かながわ考古学財団 100. 二階堂 309・310・311 (2005 調査) 井関ほか 2006「会下山西やぐら群Ⅱ」(かながわ考古学財団調査報告 204)。(財)かながわ考古学財団 101. 二階堂 309・310・311 (2006 調査) 井関 2008「会下山西やぐら群Ⅲ」(かながわ考古学財団調査報告 219)。(財)かながわ考古学財団 102. 二階堂字下 312 (1986 調査) 田代 1987「会下山西やぐら発掘調査報告書」(会下山西やぐら発掘調査会  
杉本城跡内やぐら (No.386) 104. 二階堂字稲葉越 851 (1989 調査) 田代・継 1991「平成元年度鎌倉市内急傾斜地崩壊対策事業に伴う発掘調査報告書」(杉本城跡内やぐら・宅間ヶ谷やぐら発掘調査会) 105. 二階堂字稲葉越 851 内 (1990 調査) 神奈川県立埋蔵文化財センター 1990「神奈川県立埋蔵文化財センター年報 9」神奈川県立埋蔵文化財センター  
杉本寺南やぐら群 (No.311) 106. 二階堂字杉本 896 (1995 調査) 1996「中世石窟遺構の調査」(東国歴史考古学研究所 107. 二階堂字杉本 930 外 (1997 調査) 宗憲 1999「中世石窟遺構の調査Ⅲ」(東国歴史考古学研究所 108. 二階堂字杉本 903 (1987 調査) 田代 1988「報国寺境内やぐら・杉本寺周辺遺跡内やぐら発掘調査報告書」(報国寺境内やぐら・杉本寺周辺遺跡内やぐら発掘調査会)  
国指定史跡・法華堂跡 (源頼朝墓・北条義時墓) 109. 西御門二丁目 686 他 (2005 福田) 福田他 2005「北条義時法華堂跡」鎌倉市教育委員会  
国指定史跡・永福寺跡 110. 福田・菊川泉 2001「永福寺跡一遺構Ⅰ」(鎌倉市教育委員会、福田ほか 2002「永福寺跡一遺物Ⅱ」(鎌倉市教育委員会、福田・水田 2011「永福寺跡」鎌倉市教育委員会  
国指定史跡・鶴岡八幡宮境内 111. 雪ノ下二丁目 1051-3 内 (1979 調査) 齋木ほか 1983「研修遊場用地発掘調査報告書」鎌倉市鶴岡八幡宮 112. 雪ノ下二丁目 1051-1 内 (1982 松尾) 松尾他 1985「鶴岡八幡宮境内発掘調査報告書」鎌倉市教育委員会 113. 雪ノ下二丁目 1051-1 内 (1979 調査) 齋木ほか 1983「直会殿用地発掘調査報告書」鎌倉市鶴岡八幡宮

失すれど全く當社地邊の舊唱ならん、草にかやの古訓あれば、えがらにえがやの轉訛なるを後文をさへ今の如く書改めしなるべし」としている。また、現在の鎌倉市内中心部は鎌倉郷にあたることされ(鈴木・鈴木 1984)、調査地点も鎌倉郷内に含まれると考えられる。

今小路西遺跡では古代郡部の行政域と付属舍域、平安期に下る基壇倉庫群などが検出されており、古代Ⅰ期は「竊五斗天平五年七月十四日」の墨書がある木簡から 8 世紀前半代に、古代Ⅴ期は出土文物から 10 世紀初頭頃に比定している(河野ほか 1990)。

また、奈良から平安後期の鎌倉には二十近い寺社があり、12 世紀初頭までに都市神の勧請もおこなわれていることが指摘されている(野口 1993・馬淵 1994)。

この他に、平安後期以降の事例として、地点 46 において鶴岡八幡宮境内の国宝館収蔵庫建設地の事前調査の際、八幡宮創建以前の層から板瓦五輪塔を伴う男女二体の合葬墓が検出されている。

(神元)

## 鎌倉時代

二階堂大路は六浦道から永福寺惣(総)門にいたる 600 米ほどの直線道路で、その基点となる本地点南の交差点は、鎌倉幕府が建長三年(1251)と文永二年(1265)に設置した商業地区 7 地点のうちのみら

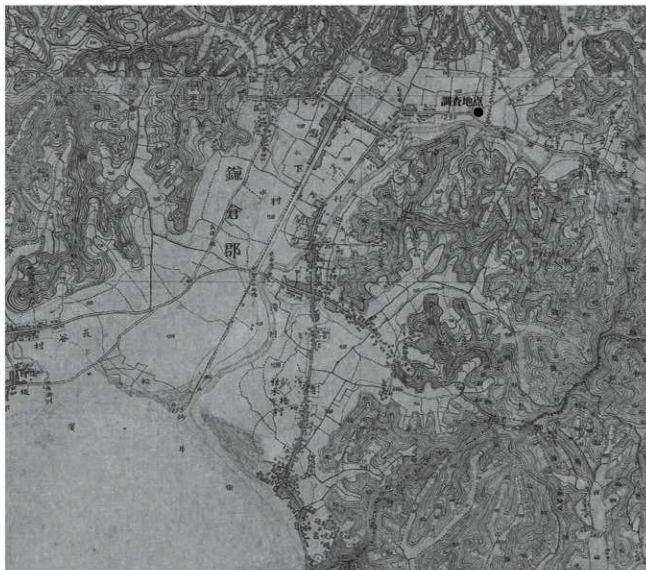


図2 明治15年頃の調査地点周辺(『迅速測図』)(1/20000)

れる「大倉辻」に相当するのであろう。ここは六浦往還の要衝でもあり、時代を下った天文十七年(1548)、この地にある橋の西詰め、小田原城主北条氏康により荏柄社造営料徴収のための関取場が置かれた(『荏柄天神社造営関定書案』『神奈川県史 資料編』3-3863)。以来、橋には「関取橋」の名がついた。先年この橋の西詰めにあたる場所が発掘調査がおこなわれ、関取場とみられる近世初期の礎石建物が発見された(馬淵1990)。

『吾妻鏡』には調査地点付近の記事が頻出する。とりわけ、二階堂大路を挟んだ調査地点の対面位置一帯は荏柄社の前に当たり、建暦三年(1213)の和田の乱に関して『吾妻鏡』にしばしば消息の伝わる場所である。このとき、和田義盛の甥、平太胤長の屋地の取公をめぐって、乱の一因ともなる争論が義盛と北条義時らの間に起きる。胤長の屋地の場所は、「荏柄前。依為御所東隣」だという(三月二十五日条)。さらに5月4日、乱のとき、「尼御台所御第」として「東御所」と見え(同日条)、貫達人はそれを「幕府の郭外で、東方の近くにあった」と推定する(貫1971)。

かつて調査地点の大路向かい側でおこなわれた発掘調査で、大型掘立柱建物群とともに、大路の北側側溝、および側溝に平行した塀もしくは柵とおぼしい鎌倉時代初期の長大な柱穴列が見つかった。発見

された掘立柱建物は、鎌倉でも過去に例がないほど大きく、文献史料からの位置検討とあわせ、筆者はその場所を「東御所」に比定したことがある(馬淵1993)。

『吾妻鏡』には北条義時の「大倉亭」についての記事もしばしばみられる。貫はその場所を、寛喜三年(1231)正月十四日条などから、「杉本観音の西方で、二階堂大路の辺」と推定したうえで、関取橋の近所、と書き加えている(貫1971)。そうだとすれば調査地点は至近の場所ということになるが、「関取橋の近所」とするには根拠がいささか薄く、しかも「杉本寺の西方で、二階堂大路の辺」に該当する場所は広大に過ぎるので、調査地点と義時大倉亭の関係については、まだ保留しておきたい。

いづれにしても、調査地点が鎌倉時代前期には幕府要人の往来する場所であったことは確かであろう。

(馬淵)

## 第二章 調査の概要

### 1. 調査にいたる経緯

雪ノ下天神前562番30地点において個人専用住宅建設の照会があった。当該地点は大倉幕府周辺遺跡群(No.49)として県遺跡台帳に登録されている周知の遺跡であるため、確認調査が行われた。その結果地表面下40cmほどで遺構面が確認された。

建築計画では表層地盤の改良が行われるため、遺構の損傷は避けられないが、強度維持の関係上設計変更は困難なため、国庫補助事業として本発掘調査が実施されることとなった。

あらかじめ平成19(2007)年11月7日に重機による表土掘削を行ない、調査は同年11月8日から開始された。

### 2. 調査の経過

#### 日誌抄

11月7日(水)	重機による表土掘削	のため、トレンチによる土層堆積の確認のみ。
11月9日(金)	1面調査開始	12月11日(火) 北壁際に土層確認トレンチ、掘削開始
11月27日(火)	1面全景写真撮影	
12月10日(月)	2面全景写真撮影	12月14日(金) 土層断面写真撮影・機材撤収

以下は地盤改良による遺構が損壊される深度以下

### 3. 調査方法

#### 掘削方法

掘削にあたって、残土は場内処理とした。

#### 測量基準の設定

ここでは作業効率を考慮して、調査区長軸中心部を通る測量基準線と、それに直交する基準線を5mおきに配した。そして、のちこれらを世界測地系に座標変換するという方法を採用した。

調査区は以下の範囲内にある。

$$\begin{aligned} [\text{エリア9}] \quad & X - 75\,014.24 \sim X - 75\,021.75 \\ & Y - 24\,580.45 \sim Y - 24\,588.77 \end{aligned}$$

(沖元)



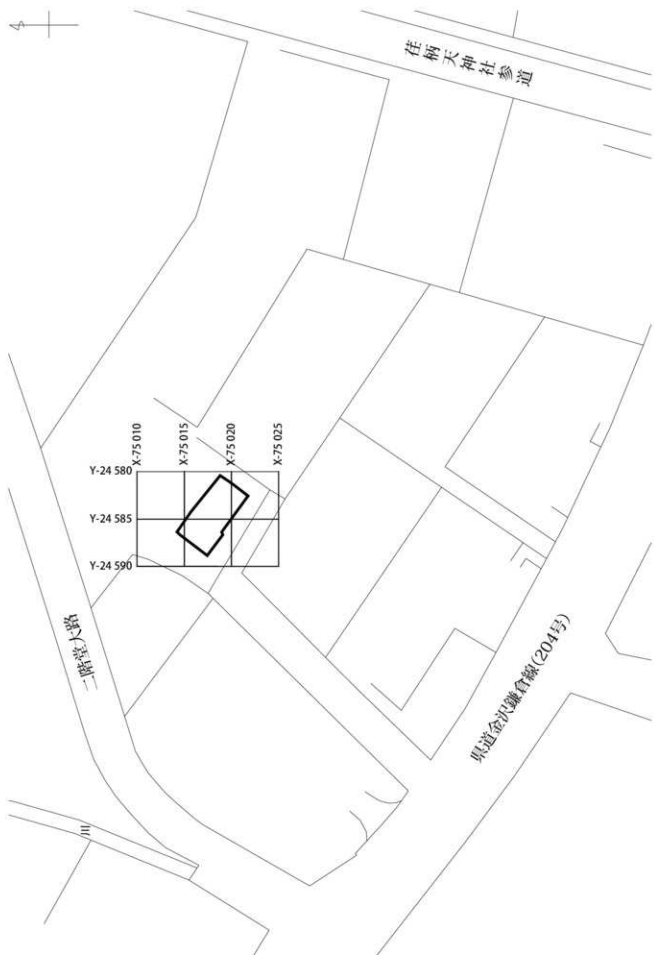


图3 調査区設定図 (1/300)

### 第三章 調査結果

#### 第1節 概要

##### 1. 層序と面の概要

###### 地表面と表土

地表面の海拔は12.00 m～11.85 mほどで、南東から北西に若干傾斜するほぼ平坦な面になっている。

表土層は25～65cmほどあり、一部深くなっているもの、おおむね地表面と同様の傾斜で堆積している。この表土層を除くと後世の攪乱により削平され、部分的に残る地行層が確認できる。この最上層の地行層を5cm～15cm掘り下げるとさらに地行層が検出でき、この2枚の地行層を1面遺構群とした。

迅速測図では本地点周辺は畑となっており、後世の耕作や近現代以降の開発で1面遺構群より上層は削平を受けている。

###### 1面遺構群

表土層直下に現われる海拔11.54 m～11.67 mに残存する最初の地行層と、この地行層下5～15cmほど、海拔11.38 m～11.67 mに堆積する地行層を1面遺構群として、遺構検出を行った。遺構の掘り込み面が削平されている箇所が多いため、遺構出土遺物から考えられる年代には幅がある。

###### 2面遺構群

海拔11.37 m～11.63 mに堆積する17層と11.17 m～11.24 mに堆積する地行層の29層・29'層とを2面遺構群として遺構検出を行った。17層は暗褐色弱粘質土で地行層とは違うが、遺構が掘り込まれているため、1時期の遺構検出面として評価できる。29'層は土塁状遺構の外側に大型泥岩で地行し、29層は土塁状遺構の構築土中の地行であるが、土塁状遺構脇の地行層である29'層とあわせてほぼ平坦になるように削平されている。

(沖元)

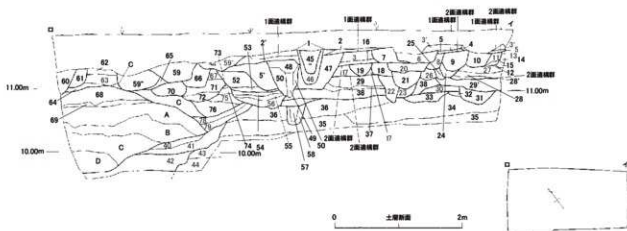


図4 調査区土層断面図

1. 泥岩地行層 傘大～半人頭大の泥岩つまる 茶褐色土・泥岩粒・土器細片含む
2. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)(少)・炭化物(少)・土器細片(少)・山砂含む
- 2'. 茶褐色弱粘質土 2より含有物やや多い、焼土(多)含む
3. 半泥岩地行層 上部、破砕泥岩密 下部、茶褐色土(多)・泥岩(粒～小石)・礫・炭化物・山砂含む
4. 黒褐色弱粘質土 (P.1)
5. 破砕泥岩地行層 炭化物含む
6. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)(多)・炭化物・土器細片・山砂含む(遺構)
7. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～半人頭大)(多)・炭化物(多)含む(P.4)
8. 暗褐色弱粘質土 泥岩(粒)(微)・炭化物(多)含む
9. 褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)・炭化物・土器細片・山砂(少)含む
10. 暗褐色弱粘質土 泥岩(粒～傘大)・炭化物(多)・土器細片(少)含む
11. 褐色弱粘質土 茶色粘土(鉄分か?) (やや多)・泥岩粒・炭化物(少)・山砂含む
12. 暗褐色弱粘質土 泥岩(粒)・炭化物(少)含む
13. 茶褐色弱粘質土 泥岩(小石大)・山砂(多)
14. 茶褐色弱粘質土 泥岩(小石大)(多)
15. 黒褐色弱粘質土 炭化物・鉄分含む
16. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)(少)・炭化物・鉄分(やや多)含む
17. 暗褐色弱粘質土 泥岩(粒～傘大)・炭化物・鉄分・土器細片・山砂(多)含む
18. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～傘大)密につまる 炭化物・山砂含む
19. 暗褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)(少)・炭化物(少)・礫・土器細片・遺物片・山砂(少)含む
20. 暗褐色弱粘質土 19と似る 炭化物(多)含む
21. 茶褐色弱粘質土 泥岩(小石大～傘大)密につまる 炭化物・鉄分含む
22. 茶褐色弱粘質土 灰色粘土・泥岩(粒～傘大)(多)
23. 灰褐色粘質土 泥岩(粒～小石大)(少)・炭化物・鉄分・山砂含む
24. 暗褐色弱粘質土 8と同質
25. 暗褐色弱粘質土 8と同質
26. 茶褐色弱粘質土 21と同質
27. 大型泥岩版築
28. 灰褐色粘質土 泥岩(粒～半人頭大)(多)・炭化物・鉄分含む 半地行土
- 28'. 灰褐色粘質土 泥岩(粒)(少)・炭層含む
29. 大型泥岩層
30. 暗灰褐色粘質土 粘性强、泥岩(粒～小石大)(微)・炭化物(微)・鉄分(微)・土器細片(微)含む
31. 灰褐色粘質土 泥岩(半人頭大)・炭化物(やや多)・鉄分(やや多)含む
32. 灰褐色粘質土 粘性强、泥岩(粒～小石大)(少)・炭化物・鉄分含む
33. 灰褐色粘質土 32と同質
34. 茶灰色粘質土 泥岩(粒)(微)・炭化物(微)・鉄分(やや多)含む
35. 茶灰色弱粘質土 砂・炭化物(微)・鉄分含む
36. 茶灰色弱粘質土 褐色粘土混ざる、泥岩(粒)・炭化物・土器細片(ごく微)含む
37. 明灰褐色粘質土 破砕泥岩・小礫(多)・炭化物含む
38. 大型・破砕泥岩版築層
39. 大型泥岩層 灰褐色粘土と破砕泥岩を合わせて突き固める(土壘状)、炭化物含む
- A. 大型泥岩層
- B. 灰褐色粘土 泥岩(小石～大型)雑につまる
- C. 半人頭大泥岩層 均一につまる
- D. 大型泥岩層
40. 茶灰色粘質土 軟質、砂・炭化物・鉄分含む
41. 茶灰色粘質土 40より軟質で粘性强
42. 暗茶色腐植土 炭化物(多)・木片(多)・木製遺物(多)
43. 茶灰色弱粘質土 35より鉄分多く砂を含む、炭化物(微)含む
44. 青灰色粘質土 地山に似た土、炭化物(微)含む
45. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)・炭化物(多)・土器細片・山砂(少)含む(P.5)
46. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)(やや多)・炭化物・遺物片・山砂(やや多)含む(P.5)
47. 茶褐色弱粘質土 46と同質 炭化物(やや多)
48. 茶褐色弱粘質土 46と同質 泥岩(粒～傘大)(多)(遺構)
49. 茶褐色弱粘質土 48と同質 泥岩(少)・炭化物(やや多)含む(遺構)
50. 茶褐色弱粘質土 48と同質 泥岩(やや多)・炭化物(微)含む(遺構)
51. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～傘大)(多)・炭化物(少)・山砂(少)・焼土(微)含む
52. 茶褐色弱粘質土 51と同質 灰色粘土(多)・泥岩(少)・炭化物(多)含む(溝1上層)
53. 灰褐色粘質土 粘性强、泥岩(粒～小石大)・炭化物・鉄分(微)含む(溝1上層)
54. 茶灰色粘質土 粘性强、炭化物(微)・鉄分か(多)含む(溝1下層)
55. 灰褐色粘質土 粘性强、53と同質 泥岩なく炭化物やや多く含む(溝1下層)
56. 灰褐色粘質土 泥岩(小石大～半人頭大)密につまる、炭化物(微)含む(溝1下層)
57. 暗灰色粘質土 粘性强、軟質、炭化物(微)含む
58. 暗灰色粘質土 粘性强、泥岩・炭化物・鉄分・土器細片(微)含む
59. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)(多)・炭化物・土器細片・山砂(少)含む(P.38)
- 59'. 茶褐色弱粘質土 礫・常滑破片含む(P.37)
60. 暗褐色弱粘質土 泥岩(粒)・炭化物(少)・土器細片(少)含む(遺構)
61. 茶褐色弱粘質土 59と同質 礫(微)・焼土(微)含む(遺構)
62. 泥岩層 半人頭大泥岩つまる
63. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～小石大)(少)・炭化物・焼土・山砂(少)含む
64. 茶褐色弱粘質土 炭層・焼土を含む
65. 茶褐色弱粘質土
66. 茶褐色弱粘質土 泥岩(傘大)(やや多)・泥岩(粒)・炭化物(少)・山砂含む(遺構)
67. 茶褐色弱粘質土 破砕泥岩密につまる 半地行土
68. 大型泥岩版築層
69. 明灰褐色粘質土
70. 茶褐色弱粘質土 泥岩(粒～半人頭大)つまる
71. 大型泥岩層 泥岩(粒～半人頭大)つまる
72. 破砕泥岩層 鉄分・土器細片含む 地行土に近い
73. 茶褐色弱粘質土
74. 泥岩層
75. 泥岩層 破砕泥岩つまる、38と同質
76. 泥岩層 破砕泥岩つまる、炭化物・鉄分含む
78. 暗灰色粘質土 粘性强、軟質、泥岩(粒)(微)・炭化物・鉄分含む
79. 暗灰色粘質土 78と同質 破砕泥岩(少)・炭化物(やや多)・鉄分含む

## 第2節 各説

### 1. 1面遺構群

#### 面の概要(図5)

検出高：11.29 m～11.63 m 面構成土：泥岩地行層・茶褐色弱粘質土 検出遺構：土坑6基・ピット125穴 1面出土遺物：土師器皿T種小型(4・5)・土師器皿T種大型(6)・土師器皿R種小型(7・8) 特記事項：土師器皿T種は13世紀前葉までのもの。土師器皿R種は13世紀中葉までか。

#### 攪乱B(図5)

出土遺物：瓦器質火鉢脚(1)・常滑甕(2)・青白磁梅瓶(3)

#### 1面遺構群上層出土遺物(図6)

出土遺物：土師器皿T種小型(1・2)・土師器皿T種大型(3)・土師器皿R種大型(4)・渥美甕(5)・白磁Ⅷ類碗(6) 特記事項：出土遺物は13世紀前葉までのものを主とする。

#### 1面遺構群直上出土遺物(図6)

出土遺物：土師器皿T種大型(7)・土師器皿R種小型(8・9)・常滑片口鉢I類(10)・常滑甕(11～13)・竜泉窯青磁I類碗(14・15)・青白磁碗(16) 特記事項：10の常滑鉢は中野編年5～6a型式。11の常滑甕は中野編年5型式、12・13の常滑甕は中野編年6a～6b型式。

#### 1面構築土出土遺物(図6)

出土遺物：土師器皿T種小型(17)・土師器皿T種大型(18～22)・土師器皿R種小型(23・24)・白色系土師器皿T種小型(25)・常滑片口鉢I類(26)・渥美甕(27～29)・同安窯系青磁碗(30)・竜泉窯青磁I類碗(31)・黒曜石火打石(32) 特記事項：26の常滑鉢は中野編年5～6a型式。他の出土遺物も12世紀後葉から13世紀中頃までのもの。

#### 土坑1(図7)

位置：X-75 017.20～(-75 018.20) Y-24 583.37～-24 584.32 平面形：不整形円形 断面形：浅鉢形 規模：長径1.02 m×短径0.92 m×深さ0.36 m 主軸方位：N-33°-W 重複関係：P.20・P.31・P.99他ピット6穴を切る 出土遺物：土師器皿T種小型(1)・土師器皿R種小型(2～10)・土師器皿R種大型(11～18)・常滑片口鉢I類(19・20)・常滑甕(21)・平瓦(22) 特記事項：1の土師器皿T種は13世紀前葉までのもの。土師器皿R種小型は13世紀前葉までのものを含みつつ13世紀中葉のものが多い。土師器皿R種大型は13世紀中葉のもの後葉以降のものがある。19・20の常滑鉢は中野編年5～6a型式のもの、21の常滑甕は中野編年5型式のもの。22の平瓦は永福寺I期のもの。

#### 土坑2(図8)

位置：X-75 019.23～(-75 020.52) Y(-24 581.20)～-24 582.54 平面形：隅丸方形 断面形：円筒形 規模：長径(1.09 m)×短径1.16 m×深さ1.69 m 主軸方位：N-54°-W 重複関係：土坑3を切る 出土遺物：土師器甕(7)・土師器皿T種大型(8)・土師器皿R種小型(9～13)・土師器皿R種大型(14～18)・土師器皿R種大型打ち欠き(19)・伊勢系鈔鍋(20・21)・常滑甕(22)・常滑甕転用摩耗陶片(23)・瀬戸平碗か(24)・青白磁蓋(25)・青白磁梅瓶(26)・砥石中砥(27)玄武岩質凝灰岩(28)

特記事項：土坑2と上層の攪乱Aとした炭層との関連は不明。深い形状から井戸になるか。7の土師器甕は古墳時代のもの。土師器皿は14世紀後半から15世紀のもの。20・21の伊勢系鈔鍋も鈔の角度から15世紀に近い年代か。

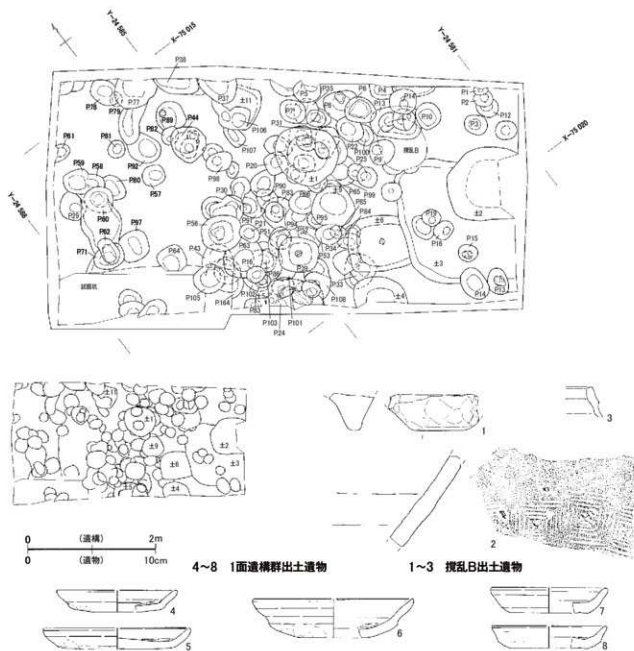


図5 1面遺構群遺構全図、同出土遺物・攪乱B出土遺物

### 攪乱A出土遺物 (図6)

出土遺物：土師器皿R種小型(1~3)・土師器皿R種大型(4・5)・常滑甕(6) 特記事項：炭層を攪乱Aとしたが、下層の土坑2との関連は不明。現地取り上げ遺物に近世・近代は含まれない。1~3の土師器皿は13世紀中頃までのもの。4・5の土師器皿は15世紀のもの。

### 土坑3 (図7)

位置：X(-75 018.84 ~ -75 021.47) Y(-24 581.89) ~ -24 583.57 平面形：不整隅丸方形 断面形：浅皿形 規模：長径(1.89m)×短径1.94m×深さ0.21m 主軸方位：N-56°-W 重複関係：土坑2他ビット6穴に切られる 出土遺物：土師器皿T種小型(23・24)・土師器皿R種小型(25~28) 特記事項：土師器皿は13世紀中頃までのもの。

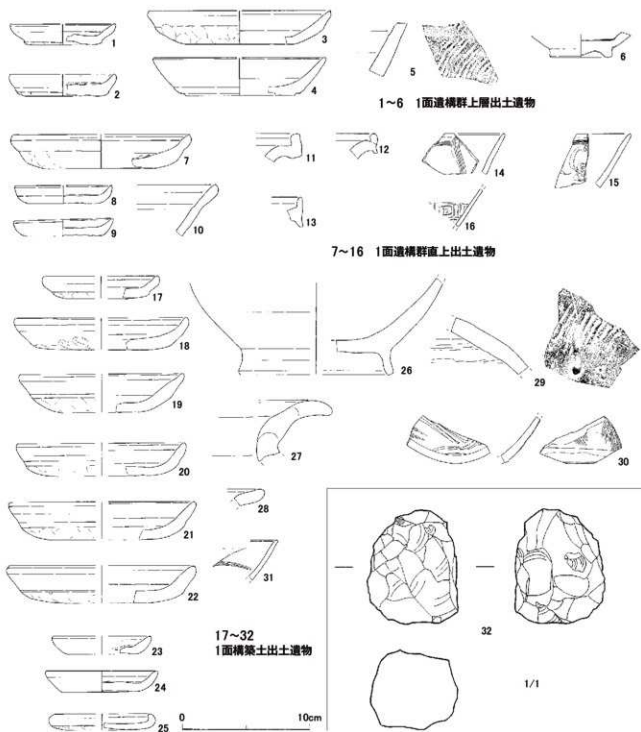


図6 1面遺構群上層・1面遺構群直上・1面遺構群構築土出土遺物

土坑4 (図7)

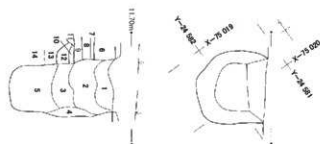
位置：X - 75 019.83 ~ (- 75 020.59) Y - 24 583.92 ~ (- 24 584.70) 平面形：不整形 断面形：浅皿形 規模：長径0.86 m × 短径(0.51 m) × 深さ0.16 m 主軸方位：N - 54° - W 重複関係：P.33を切る。

出土遺物：凶化可能遺物なし

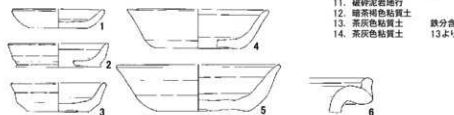
土坑5 (図7)

位置：X - 75 018.95 ~ (- 75 019.80) Y - 24 585.05 ~ (- 24 585.98) 平面形：楕円形 断面形：深鉢形 規模：長径1.11 m × 短径0.42 m × 深さ0.25 m 主軸方位：N - 55° - W 重複関係：P.25・P.83・

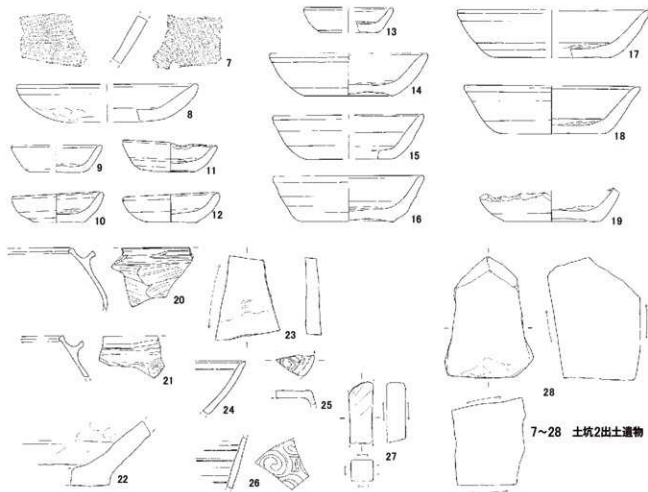




1. 攪乱A  
炭化物多量に含む
  2. 灰茶褐色弱粘質土  
土器碎片・泥岩（砂粒大～特大）・炭化物・山砂（少量）を含む（土2）
  3. 灰褐色粘質土  
炭化物（やや多）・土器碎片・泥岩（小石大）・粘土を含む（土2）
  4. 灰褐色粘質土  
泥岩（平人頭大・多）を含む（土2）
  5. 暗灰色粘質土  
土器碎片（多）・炭化物（多）・木片（多）・泥岩（粒～小石大・多）を含む（土2）
  6. 茶褐色弱粘質土  
泥岩（粒～小石大・多）・遺物片・炭化物・山砂を含む（2面構成土）
  7. 礫砂泥岩地行  
炭化物含む。粘性あり
  8. 礫砂泥岩地行  
泥岩（小石大～人頭大）つまる
  9. 礫砂泥岩地行  
大型泥岩つまる
  10. 明灰色粘質土  
泥岩粒（細）・炭化物（微）を含む。粘性強
  11. 礫砂泥岩地行
  12. 暗茶褐色粘質土
  13. 茶灰色粘質土
  14. 茶灰色粘質土
- 鉄分含む  
13より硬い粘土



1～6 攪乱A出土遺物



7～28 土坑2出土遺物

図8 土坑2、同出土遺物

P.101・P.108他ピット2穴を切る。ピット1穴に切られる。 出土遺物：図化可能遺物なし 特記事項：土坑の底に泥岩あり。

#### 土坑6 (図7)

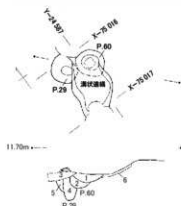
位置：X - 75 019.03 ～ (- 75 020.11) Y - 24 583.64 ～ (- 24 584.70) 平面形：不整隅丸方形 断面形：





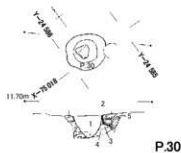
1. 灰褐色粘質土  
炭化物 (多)・焼土 (多)・山砂・泥岩 (粒~小石大・少) を含む
2. 灰褐色粘質土  
泥岩 (粒~小石大・多)・土器碎片・炭化物・焼土を含む
3. 灰褐色粘質土  
炭化物・灰黒色粘土を含む、粘性強
4. 黄灰褐色土  
3の土に破砕泥岩 (小石大) つまる
5. 灰褐色粘質土  
炭化物 (微)・鉄分 (微) を含む、粘性強
6. 灰褐色粘質土  
3と同質、破砕泥岩 (小石大) 多量につまる
7. 暗灰褐色粘質土  
炭化物 (微)・泥岩粒 (微)・鉄分 (微) を含む、粘性強い

土坑9・P.66



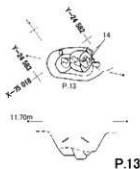
1. 灰褐色弱粘質土  
土器碎片・泥岩 (数cm大)・炭化物を含む
2. 灰褐色弱粘質土  
泥岩 (数cm大) を含む
3. 灰褐色弱粘質土  
1と同質同じ
4. 暗灰褐色弱砂質土  
泥岩 (数大) を含む
5. 暗灰褐色砂質土  
混入物少ない
6. 黒褐色粘質土  
泥岩断片上にへばりついた黒土

溝状遺構・P.29・P.60



1. 黒褐色弱粘質土  
土器碎片・泥岩 (半拳大) を含む
2. 灰褐色砂質土  
泥岩粒含む
3. 灰黒色粘質土  
炭化物 (多) を含む
4. 炭化層  
炭層と灰色の炭層が互層をなす
5. 暗黒褐色粘質土

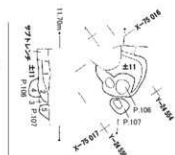
P.30



P.13

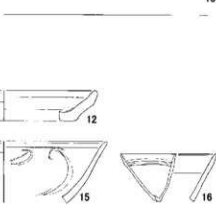
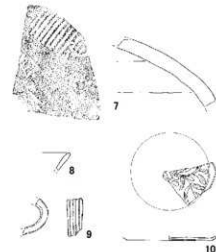
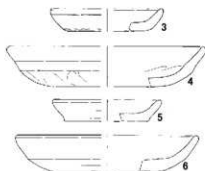


図9 土坑9・11・P.13・29・30・60・66・106・107、同出土遺物



1. 灰黒色砂質土  
遺物含む (土11)
2. 淡黄褐色砂質土  
泥岩 (半拳大) を含む (土11)
3. 淡黄褐色砂質土  
泥岩 (1・2cm大・多) を含む
4. 暗灰褐色砂質土  
泥岩 (1・2cm大) を含む (P.106)
5. 灰褐色砂質土  
焼土粒 (多) を含む (P.107)

土坑11・P.106



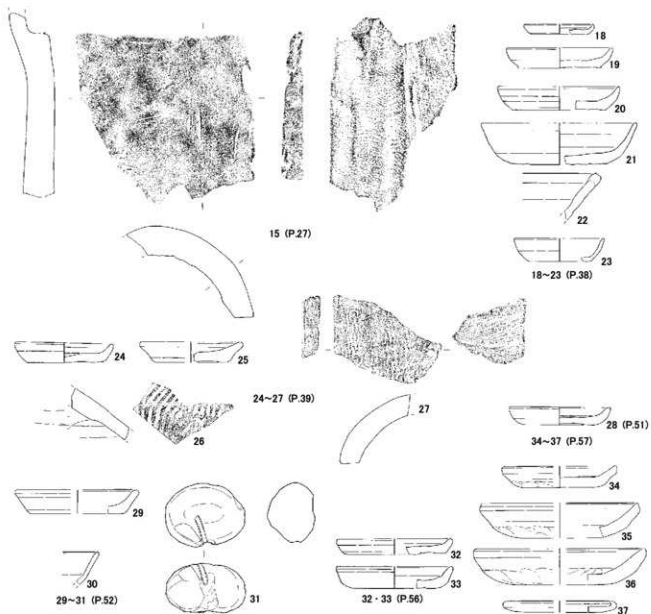
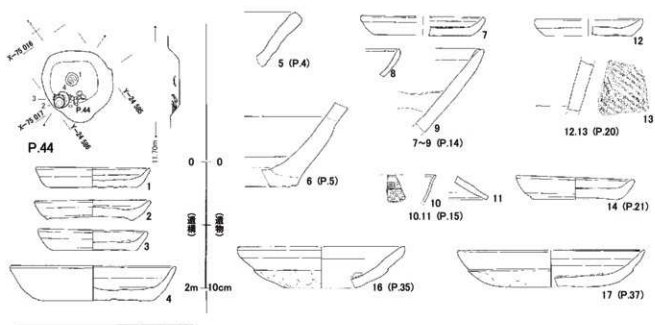


図10 P.44、同出土遺物・1面遺構群ビット出土遺物(1)

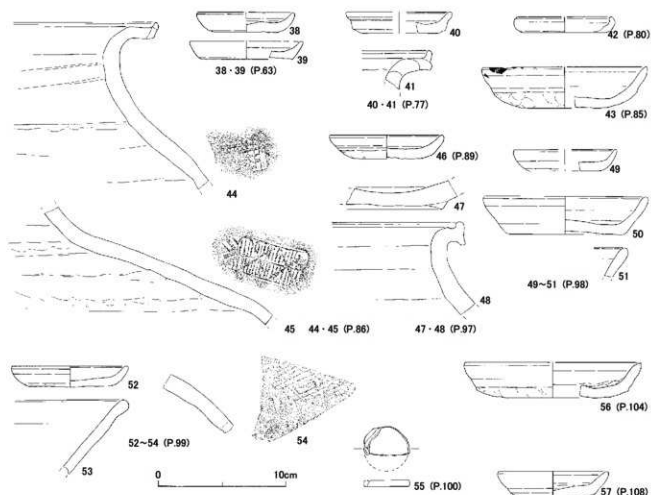


図11 1面遺構群ビット出土遺物(2)

浅皿形 規模：長径0.98m×短径0.89m×深さ0.13m 主軸方位：N-60°-W 重複関係：土坑3に切られる。P.33・P.34・P.84他ビット1穴を切る。 出土遺物：図化可能遺物なし

#### 土坑9(図9)

位置：X-75 018.31～-75 018.97 Y-24 583.62～-24 584.29 平面形：円形 断面形：深鉢形 規模：長径0.67m×短径0.64m×深さ0.49m 主軸方位：N-34°-W 重複関係：P.65・P.66・P.95を切る。P.53・P.85他ビット1穴に切られる。 出土遺物：渥美・湖西型山茶碗(1) 特記事項：山茶碗は安井編年2b～3aのものか。

#### 土坑11(図9)

位置：X-75 016.15～-75 016.84 Y-24 553.16～-24 554.65 平面形：不整形 断面形：浅鉢形 規模：長径0.78m×短径(0.57m)×深さ0.19m 主軸方位：N-38°-W 重複関係：P.106を切る。P.37に切られる。 出土遺物：土師器皿T種小型(3)・土師器皿T種大型(4)・土師器皿R種小型(5)・土師器皿R種大型(6)・渥美甕(7)・竜泉窯青磁Ⅱ類碗(8)・青白磁水注把手(9)・白磁皿(10) 特記事項：土師器皿T種は13世紀前葉までのもの。土師器皿R種は13世紀中葉までのもの。8の青磁は13世紀中葉～後半のもの。

#### P.13(図9)

位置：X-75 017.16～-75 018.57 Y-24 582.96～-24 583.80 平面形：楕円形 断面形：深鉢形 規模：長径0.88m×短径0.54m×深さ0.42m 主軸方位：N-49°-W 重複関係：P.6・P.10・P.14に切られ

る。出土遺物：土師器皿T種大型(12)・常滑甕(13・14)・竜泉窯青磁I類碗(15・16) 特記事項：12の土師器皿は13世紀前葉までのもの。14の常滑甕は中野編年5型式。15・16の青磁碗は12世紀末～13世紀前葉までのもの。

#### P.29 (図9)

位置：X-75 015.90～-75 016.37 Y-24 587.17～-24 587.52 平面形：円形 断面形：円筒形 規模：長径0.44m×短径(0.42m)×深さ0.45m 主軸方位：N-38°-W 重複関係：P.60・溝状遺構に切られる。

出土遺物：凶化可能遺物なし

#### P.30 (図9)

位置：X-75 017.60～-75 018.20 Y-24 586.67～-24 587.13 平面形：楕円形 断面形：深鉢形 規模：長径0.65m×短径0.58m×深さ0.36m 主軸方位：N-58°-W 重複関係：P.43・P.63他ビット2穴を切る。

P.21に切られる。出土遺物：土師器皿R種小型(11) 特記事項：土師器皿は13世紀前葉までのもの。

#### P.44 (図10)

位置：X-75 016.27～-75 017.45 Y-24 584.92～-24 586.00 平面形：不整円形 断面形：浅鉢形 規模：長径1.14m×短径1.13m×深さ0.13m 主軸方位：N-49°-W 重複関係：P.82他ビット3穴を切る。

出土遺物：土師器皿R種小型(1～3)・土師器皿R種大型(4) 特記事項：土師器皿は13世紀中葉までのもの。

#### P.60 (図9)

位置：X-75 016.08～-75 016.56 Y-24 586.67～-24 587.13 平面形：不整円形 断面形：深鉢形 規模：長径0.47m×短径0.41m×深さ0.29m 主軸方位：N-46°-W 重複関係：P.29を切る。

溝状遺構に切られる。出土遺物：凶化可能遺物なし

#### P.66 (図9)

位置：X-75 018.10～-75 018.49 Y-24 583.42～(-24 583.92) 平面形：楕円形 断面形：浅鉢形 規模：長径(0.44m)×短径0.38m×深さ0.29m 主軸方位：N-43°-W 重複関係：土9に切られる。

出土遺物：土師器皿T種小型(2) 特記事項：土師器皿は13世紀前葉までのもの。

#### P.106 (図9)

位置：X-75 016.43～-75 017.83 Y-24 554.15～-24 554.65 平面形：不整形 断面形：深鉢形 規模：長径0.38m×短径0.33m×深さ(0.15m) 主軸方位：N-35°-W 重複関係：土11に切られる。

出土遺物：凶化可能遺物なし

#### 1面遺構群ビット出土遺物(図10・11)

出土遺物：(P.4)常滑片口鉢I類(5)・(P.5)常滑甕(6)・(P.14)土師器皿R種小型(7)・白色系土師器皿R種大型(8)・常滑片口鉢II類(9)・(P.15)白磁皿(10)・須恵器蓋か(11)・(P.20)土師器皿R種小型(12)・渥美甕(13)・(P.21)土師器皿R種小型(14)・(P.27)丸瓦(15)・(P.35)土師器皿T種大型(16)・(P.37)土師器皿T種大型(17)・(P.38)土師器皿R種極小型(18)・土師器皿R種小型(19～20)・土師器皿R種大型(21)・常滑片口鉢I類(22)・瀬戸入子(23)・(P.39)土師器皿R種小型(24・25)・渥美甕(26)・丸瓦(27)・(P.51)土師器皿R種小型(28)・(P.52)土師器皿R種小型(29)・同安窯系青磁碗(30)・軽石(31)・(P.56)土師器皿R種小型(32・33)・(P.57)土師器皿T種小型(34)・土師器皿T種大型(35・36)・白色系土師器皿T種小型(37)・(P.63)土師器皿R種小型(38・39)・(P.77)土師器皿R種小型(40)・常滑甕(41)・(P.80)白色系土師器皿T種小型(42)・(P.85)土師器皿T種大型(43)・(P.86)常滑甕(44・45)・(P.89)土師器皿T種小型(46)・(P.97)渥美・湖西片口鉢(47)・常滑甕(48)・(P.98)土師器皿R種小型

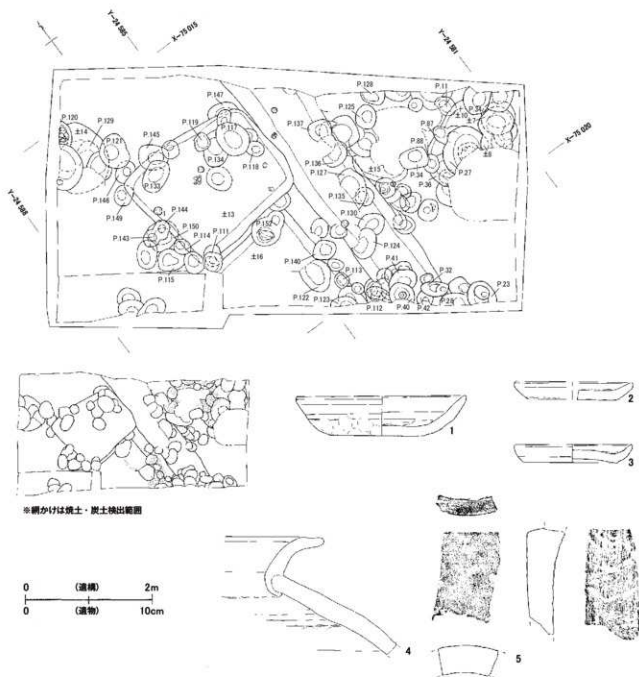


図 12 2面遺構群全図、同出土遺物

(49)・土師器皿 R 種大型 (50)・常滑片口鉢 I 類 (51)・(P.99) 土師器皿 T 種小型 (52)・常滑片口鉢 I 類 (53)・常滑甕 (54)・(P.100) 土製円盤 (55)・(P.104) 土師器皿 T 種大型 (56)・(P.108) 土師器皿 T 種小型 (57) 特記事項：5 の常滑は中野編年 5 型式から 6a 型式。7 の土師器皿は 13 世紀後葉以降、9 の常滑は中野編年 6b ~ 7 型式。11 は須恵器であるが蓋か坏か判断しきれなかった。また生焼けであるため須恵器ではない可能性もある。12 の土師器皿は 13 世紀中葉~後半。14 の土師器皿は 13 世紀中葉~後半。15 の丸瓦は永福寺 I 期。16・17 の土師器皿は 13 世紀前葉までのもの。19~21 の土師器皿は 13 世紀後葉以降。22 の常滑は中野編年 5 ~ 6a 型式。24・25 の土師器皿は 13 世紀中葉まで、27 の丸瓦は永福寺 I 期。28 の土師器皿は 13 世紀中葉までのもの。29 の土師器皿は 13 世紀中葉まで、30 の青磁碗は大宰府分類では 12 世紀後半~13 世紀前葉のもの。32・33 の土師器皿は 13 世紀前葉~中葉のもの。34~36 の土師器

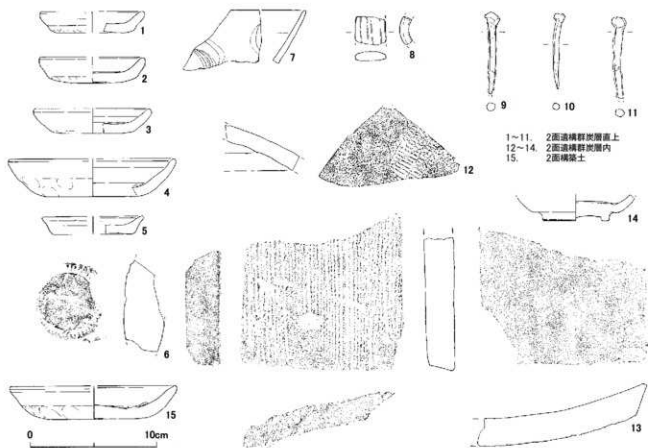


図13 2面遺構群炭層直上・炭層内・構築土出土遺物

皿は13世紀前葉から中葉のもの。38・39の土師器皿は13世紀中葉。40の土師器皿は13世紀前葉まで、41の常滑は中野編年5型式。43の土師器皿は13世紀前葉までのもの。44の常滑甕は5型式。48の常滑甕は中野編年6a～6b型式。49・50の土師器皿は13世紀中頃～後半、51の常滑は5～6a型式。52の土師器皿は前葉～中葉、53の常滑は中野編年5～6a型式のもの。56の土師器皿は13世紀前葉のもの。57の土師器皿は13世紀中葉まで。

## 2. 2面遺構群

### 面の概要 (図12)

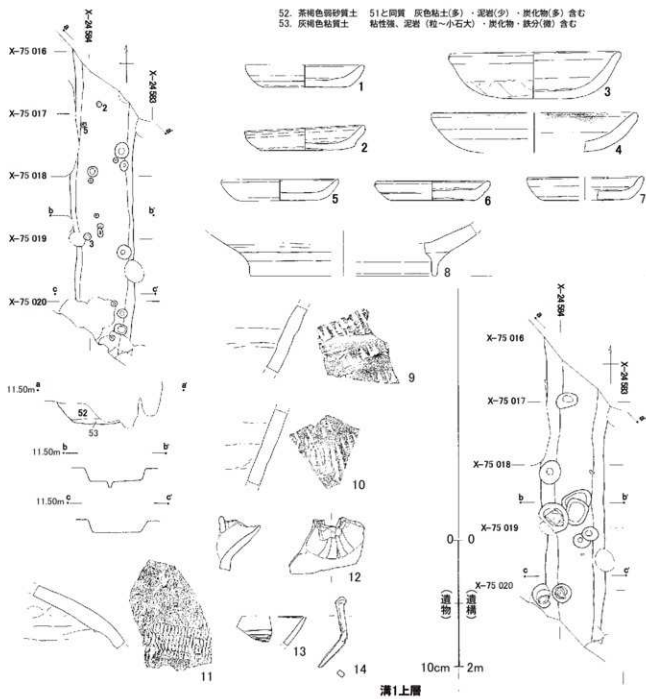
検出高: 11.25 m～11.33 m 面構成土: 暗褐色弱粘質土・大型泥岩版築・大型泥岩層 検出遺構: 溝1条・土坑7基・ビット90穴 出土遺物: 土師器皿T種大型(1)・土師器皿T種小型(2)・土師器皿R種小型(3)・渥美甕(4)・丸瓦(5) 特記事項: 土師器皿は13世紀前葉まで、渥美甕は安井編年2bか。

### 2面遺構群炭層直上 (図13)

出土遺物: 土師器皿T種小型(1～3)・土師器皿T種大型(4)・土師器皿R種小型(5)・軒丸瓦(6)・竜泉窯青磁I類碗(7)・白磁把手(8)・鉄釘(9～11) 特記事項: 6の軒丸瓦は永福寺I期。土師器皿は13世紀前半のもの。

### 2面遺構群炭層内 (図13)

出土遺物: 常滑甕(12)・平瓦(13)・竜泉窯青磁I類碗(14) 特記事項: 13の平瓦は永福寺I期。



54. 茶灰色粘質土 粘性強、炭化物(微)、鉄分(多) 含む  
 55. 灰褐色粘質土 粘性強、53と同質、泥岩なく炭化物やや多く含む  
 56. 灰褐色粘質土 泥岩(小石大~半人頭大) 密につまる、炭化物(微) 含む

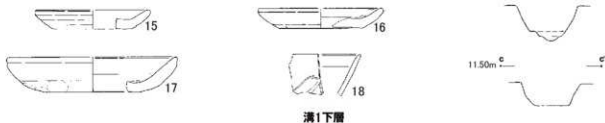


図14 溝1上層・下層、同出土遺物

## 2面遺構群構築土(図13)

出土遺物:土師器皿T種大型(15) 特記事項:土師器皿は13世紀前半のもの。

### 溝1上層(図14)

位置:X(-75 015.95~-75 020.83) Y(-24 583.27~-24 584.31) 断面形:逆台形 規模:最大幅0.97m×長さ(5.04m)×深さ0.37m 主軸方位:N-0°-W 重複関係:ビット1穴を切る、土坑15・P.28・P.32・P.40・P.41・P.42・P.112・P.124・P.127・P.130・P.135・P.136・P.137他ビット11穴に切られる。

出土遺物:土師器皿T種小型(1・2)・土師器皿T種大型(3・4)・土師器皿R種小型(5~7)・常滑片口鉢I類(8)・渥美甕(9・10)・常滑甕(11)・瀬戸柄付片口(12)・竜泉窯青磁I類碗(13)・鉄釘(14)

特記事項:土師器皿は13世紀前半のもの。8の常滑鉢は中野編年5~6a型式。12の瀬戸は藤澤編年中期様式。

### 溝1下層(図14)

位置:X(-75 015.95~-75 020.83) Y(-24 583.27~-24 584.31) 断面形:逆台形 規模:最大幅0.97m×長さ(5.04m)×深さ0.63m 主軸方位:N-0°-E 重複関係:溝1上層と同様 出土遺物:土師器皿T種小型(15・16)・土師器皿T種大型(17)・竜泉窯青磁I類碗(18) 特記事項:土師器皿は13世紀前葉のもの。

### 土坑7(図15)

位置:X-75 019.87~-75 020.36) Y-24 580.88~-24 581.45 平面形:不整形円形 断面形:深鉢形 規模:長径0.58m×短径(0.43m)×深さ0.28m 主軸方位:N-36°-E 重複関係:土坑10・P.27他ビット2穴を切る、ビット1穴に切られる

### 土坑8(図15)

位置:X(-75 020.16~-75 020.58) Y-24 581.06~-24 581.58 平面形:不整形円形 断面形:深鉢形 規模:長径0.51m×短径(0.23m)×深さ0.24m 主軸方位:N-35°-E 重複関係:土坑10・P.27他ビット2穴を切る、ビット1穴に切られる

### 土坑7・8出土遺物(図15)

出土遺物:常滑甕(1)・滑石製石鍋(2)

### 土坑10(図15)

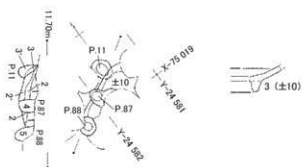
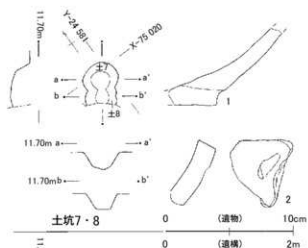
位置:X(-75 018.48~-75 020.58) Y(-24 581.26~-25 582.33) 平面形:楕円形か 断面形:深皿形 規模:長径(1.17m)×短径(0.65m)×深さ0.30m 主軸方位:N-25°-E 重複関係:土坑7・8・P.27・34・36・87・88に切られる。 出土遺物:白磁Ⅷ類碗(3)

### 土坑13(図15)

位置:X-75 016.26~-75 018.16) Y-24 584.16~-24 586.49 平面形:隅丸方形 断面形:逆台形 規模:長軸2.17m×短軸1.87m×深さ0.32m 主軸方位:N-87°-E 重複関係:P.146・147他ビット1穴を切る。P.111・114・117・118・119・133・134・143・144・145・150に切られる。 出土遺物:土師器皿T種小型(4~12)・土師器皿T種大型(13~17)・土師器皿R種小型(18)・渥美・湖西型山皿(19)・渥美甕(20)・常滑甕(21)・渥美甕(22)・竜泉窯青磁I類浅形碗(23)・竜泉窯青磁I類碗(24)・安山岩(25)

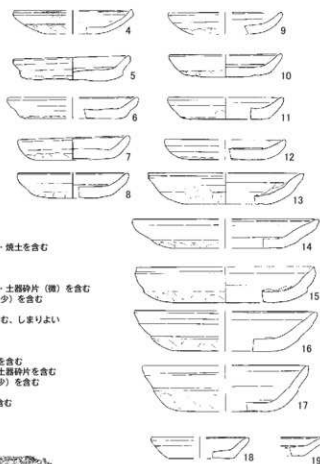
特記事項:土師器皿は13世紀前半までのもの。20の渥美甕は安井編年2bか。21の常滑甕は中野編年3型式。





1. 淡黄褐色砂質土 泥岩粒(多)を含む
2. 灰褐色砂質土 1よりも泥岩少ない
3. 灰褐色砂質土 遺物片・炭化物が2よりも多い
4. 灰褐色砂質土 混入物少ない
5. 灰褐色砂質土 若干の炭化物を含む
6. 淡黄褐色砂質土 泥岩(数cm大・多)を含む
7. 淡黄褐色砂質土 泥岩粒(多)・炭化物(多)を含む

土坑10, P.11・87・88



1. 暗灰色粘質土 炭化物(多)・土器碎片・泥岩(小石大)山砂・焼土を含む
2. 暗灰色粘質土 泥岩(粒~小石大)・炭化物・焼土を含む
3. 暗灰色粘質土 泥岩(粒~小石大)・多 炭化物を含む
4. 灰褐色粘質土 泥岩粒・炭化物(燐)を含む
5. 灰褐色粘質土 泥岩(粒~小石大)・多 炭化物(多)・焼土・土器碎片(燐)を含む
6. 暗灰色粘質土 泥岩(粒~小石大)・炭化物・鉄分(やや多)を含む。しまりよい
7. 硬砂泥岩層
8. 灰褐色粘質土 泥岩(粒~小石大) 炭化物・鉄分(やや多)を含む。しまりよい
9. 硬砂泥岩層
10. 暗灰色粘質土 泥岩(粒~小石大)・少 炭化物を含む
11. 暗灰色粘質土 泥岩粒・炭化物を含む。10より少量
12. 暗灰色粘質土 泥岩(粒~小石大)・多 炭化物・山砂(燐)を含む
13. 暗灰色粘質土 泥岩(粒~小石大)・少 炭化物(やや多)・土器碎片を含む
14. 暗灰色粘質土 泥岩(多)・炭化物(少)・焼土ブロック(少)を含む
15. 炭層
16. 灰褐色粘質土 泥岩(1~5cm大・多)・土器碎片・炭化物を含む

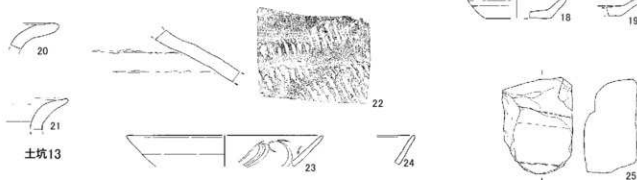


図15 土坑7・8・10・13・P.11・87・88、同出土遺物

#### 土坑13炭層内出土遺物(図16)

出土遺物:土師器皿T種小型(1~3)・土師器皿T種大型(4~7)・土師器皿R種小型(8・9)・土師器皿R種大型(10~12)・須恵器甕(13) 特記事項:土師器皿は13世紀前半までのもの。

#### 土坑13炭層下出土遺物(図16)

出土遺物:土師器皿T種小型(14~16)・竜泉窯青磁I類碗(17) 特記事項:土師器皿は13世紀前葉までのもの。

#### 土坑14(図16)

位置:X-75 015.06~-75 016.14 Y-24 586.31~(-24 587.25) 平面形:円形 断面形:深鉢形  
規模:長径1.14m×短径(0.76m)×深さ0.36m 主軸方位:N-33°-E 重複関係:P.120・121他ピット2穴を切る。P.129に切られる。 出土遺物:土師器皿T種大型(18)・楠葉型瓦器輪花碗(19) 特記事項:土師器皿は13世紀前葉までのもの。

#### 土坑15(図16)

位置:X(-75 018.18)~-75 018.94 Y(-24 582.72)~-24 583.39 平面形:楕円形 断面形:浅皿形 規模:長径0.90m×短径(0.34m)×深さ0.09m 主軸方位:N-39°-W 重複関係:ピット1穴を切る。P.34・136他ピット2穴に切られる。 出土遺物:図化可能遺物なし

#### 土坑16(図16)

位置:X-75 018.19~(-75 020.19) Y-24 584.54~(-24 586.39) 平面形:隅丸方形 断面形:深鉢形 規模:長軸(1.97m)×短軸(1.76m)×深さ0.20m 主軸方位:N-2°-W 重複関係:P.113・122・123・140・152他ピット4穴に切られる。 炭土直下出土遺物:土師器皿T種大型(20・21)・土師器皿R種小型(22・23) 最下層出土遺物:土師器皿T種小型(24)・土師器皿T種大型(25)・土師器皿R種大型(26)・竜泉窯青磁I類皿(27) 特記事項:土師器皿は13世紀前半までのもの。

#### P.11(図15)

位置:X-75 018.24~-75 018.60 Y-24 581.40~(-24 581.76) 平面形:楕円形 断面形:深鉢形 規模:長径0.37m×短径0.27m×深さ0.31m 主軸方位:N-8°-W 重複関係:ピット1穴を切る。土坑10に切られる。 出土遺物:図化可能遺物なし

#### P.87(図15)

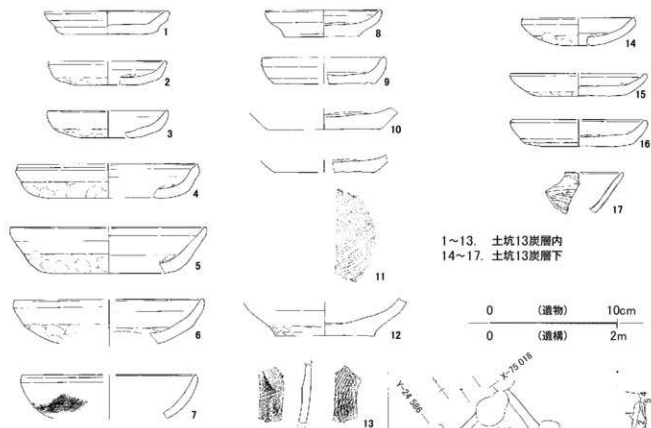
位置:X-75 018.60~-75 018.90 Y(-24 581.67)~-24 582.07 平面形:不整形 断面形:深鉢形 規模:長径(0.31m)×短径0.38m×深さ0.25m 主軸方位:N-24°-W 重複関係:土坑10を切る。P.27に切られる。 出土遺物:図化可能遺物なし

#### P.88(図15)

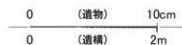
位置:X-75 018.87~-75 019.16 Y-24 582.23~-24 582.50 平面形:楕円形 断面形:深鉢形 規模:長径0.31m×短径0.26m×深さ0.31m 主軸方位:N-20°-E 重複関係:土坑10・P.36を切る。P.34に切られる。 出土遺物:図化可能遺物なし

#### P.40(図17)

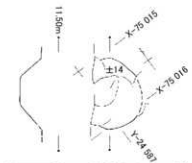
位置:X-75 020.20~(-75 020.62) Y-24 583.80~(-24 584.18) 平面形:円形 断面形:深鉢形 規模:長径0.40m×短径0.32m×深さ0.37m 主軸方位:N-71°-E 重複関係:P.41・112他ピット1穴を切る。 出土遺物:図化可能遺物なし



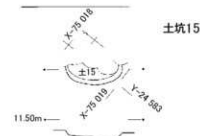
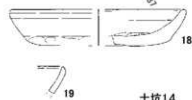
1~13. 土坑13炭層内  
14~17. 土坑13炭層下



土坑16

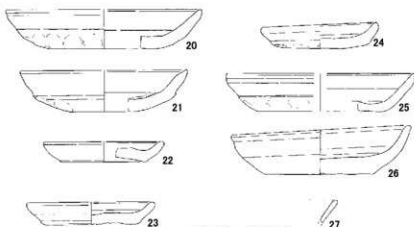


土坑14



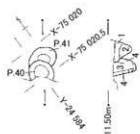
土坑15

1. 暗灰色粘質土 泥岩 (粒~礫大・多)・土器碎片・炭化物を含む
2. 黒褐色粘質土 炭化物 (多)・山砂・泥岩 (小石大・少)・焼土粒 (少) を含む
3. 灰褐色粘質土 泥岩 (礫大・多) 土器碎片 (少)・炭化物 (少) を含む
4. 暗灰色粘質土 炭化物 (中や多)・焼土・鉄分・泥岩 (粒~小石大・少) を含む
5. 黄褐色粘質土 礫砂泥岩つまる



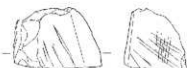
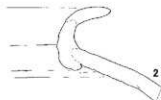
20~23. 炭土直下  
24~27. 最下層

図16 土坑13炭層内・炭層下出土遺物、土坑14・15・16、同出土遺物

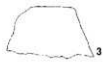


P.40・P.41

1. 灰褐色弱粘質土 泥層粒を含む
2. 灰黄色粘質土 泥層粒を含む
3. 灰黄色粘質土 混入物をあまり含まない
4. 灰黄色粘質土 泥層（礫大）を含む



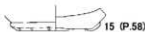
4-6 (P.12)



2-3 (P.3)



7-9 (P.27)



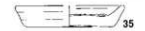
10-13 (P.34)



17-20 (P.110)



21-22 (P.117)



34-35 (P.131)



36-37 (P.148)



31-32 (P.128)

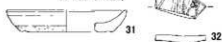


図17 P.40・41・2面遺構群ピット出土遺物

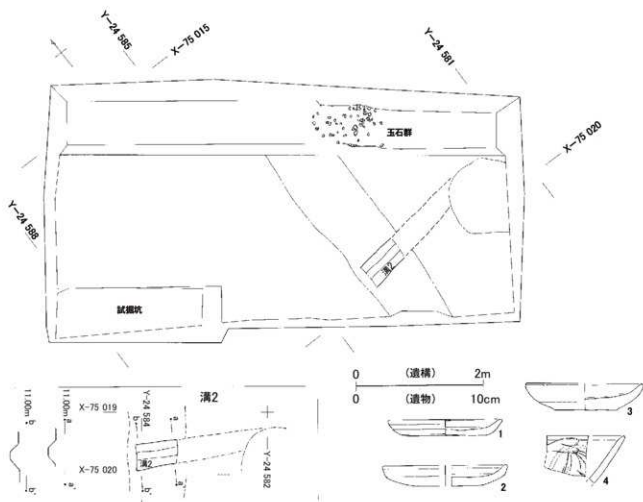


図18 3面遺構全区・溝2、同出土遺物

#### P.41 (図17)

位置：X - 75 020.06 ~ - 75 020.43 Y - 24 583.38 ~ (- 24 584.09) 平面形：楕円形 断面形：深鉢形  
 規模：長径0.45m × 短径0.35m × 深さ0.27m 主軸方位：N-83°-W 重複関係：ビット4穴を切る。  
 P.40に切られる。 出土遺物：図化可能遺物なし

#### 2面遺構群ビット出土遺物 (図17)

出土遺物：(P.2) 竜泉窯青磁Ⅱ類碗 (1)・(P.3) 渥美甕 (2)・安山岩 (3)・(P.12) 土師器皿R種大型 (4)・5・土師器皿R種小型 (6)・(P.27) 常滑片口鉢Ⅱ類 (7)・渥美甕 (8)・常滑甕 (9)・(P.34) 土師器皿T種大型 (10)・土師器皿R種小型 (11)・常滑甕 (12・13)・(P.42) 竜泉窯青磁Ⅰ類碗 (14)・(P.58) 渥美・湖西型山茶碗 (15)・(P.109) 土師器皿T種小型 (16)・(P.110) 土師器皿T種小型 (17)・土師器皿R種小型 (18)・土師器皿R種大型 (19)・常滑甕 (20)・(P.117) 土師器皿T種小型 (21・22)・(P.118) 土師器皿T種小型 (23・24)・土師器皿T種大型 (25・26)・白色系土師器皿T種大型 (27)・渥美甕 (28)・(P.119) 土師器皿T種大型 (29)・(P.122) 土師器皿T種小型 (30)・(P.128) 土師器皿T種小型 (31)・同安窯系青磁皿 (32)・(P.130) 土師器皿T種大型 (33)・(P.131) 土師器皿T種小型 (34)・土師器皿R種小型 (35)・(P.148) 土師器皿R種小型 (36・37) 特記事項：土師器皿は13世紀前半までのもの。7の常滑鉢は中野編年6a～7型式のもの。9・12・20の常滑甕は中野編年5型式か。15の渥美・湖西型山茶碗は安井編年3aか。28の渥美甕は安井編年2b。

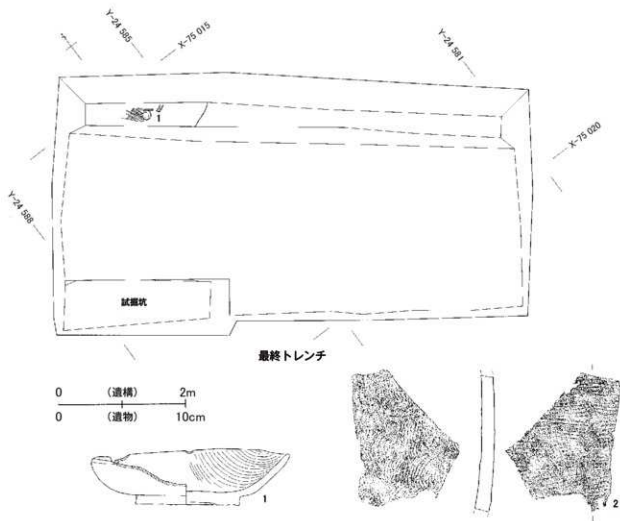


図19 最終トレンチ、同出土遺物

### 3.3 面

#### 面の概要 (図18)

検出高：10.86 m～10.89 m 面構成土：茶灰色弱砂質土・茶灰色粘質土 検出遺構：溝1条・玉石群  
 出土遺物：土師器皿T種小型(1・2)・土師器皿R種小型(3)・竜泉窯青磁I類碗(4) 特記事項：深度規制のためトレンチ内での検出のみ。また上層遺構底面と上層遺構壁から溝を1条検出。玉石群は検出レベルからみて、37層内の礫を検出したか。検出範囲内における軸方位は上層の溝1と同様である。土師器皿は13世紀前葉まで、4の青磁は大宰府分類では12世紀後半～13世紀前葉。

### 4. 最終トレンチ

#### 概要 (図19)

深度規制のため調査は2面遺構群までとなっており、下層の状況は調査区北壁際のトレンチで把握することとなった。トレンチ最下層において、溝の掘り込みを検出し土層断面でも確認できたが、出土遺物も乏しく、検出範囲も狭小なため詳細は定かではない。

検出高：10.20 m～10.55 m 検出遺構：溝1条 出土遺物：木器椀(1)・須恵器甕(2) 特記事項：1の木器椀は漆が施されていない。

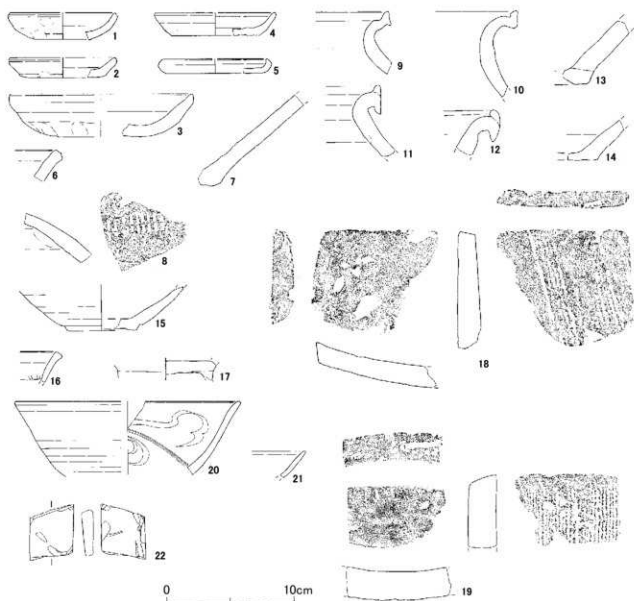


図20 表採・攪乱坑出土遺物

## 5. 表採・攪乱坑出土遺物

(図20)

出土遺物：土師器皿T種小型(1・2)・土師器皿T種大型(3)・土師器皿R種小型(4)・白色系土師器皿T種小型(5)・常滑片口鉢Ⅱ類(6・7)・常滑甕(8～14)・瀬戸碗(15)・瀬戸卸皿(16)・瀬戸瓶類(17)・平瓦(18・19)・竜泉窯青磁Ⅰ類碗(20)・白磁口はげ皿(21)・砥石仕上げ砥(22)

(沖元)

表1 出土遺物観察表(1)

標記番号	出土遺構	種別	備考
図5-1	覆瓦B	瓦器質 火鉢跡	胎土は明赤灰色、胎芯は灰白色で黒色光沢粒子(多)、赤色粒子・白色粒子(微)を含む 貼付け部位で剥離
2	覆瓦B	常滑 甕	胴部下位片 輪横み成形 叩き目あり 器表面は暗赤褐色で残存部内面にオリブ灰色の自然釉 胎土は淡色で白色粒子・透明光沢粒子・黒石・礫片を含む 器表面に数分の吹き出し
3	覆瓦B	青白磁 梅瓶	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰白色 釉薬は明青灰色で半透明
4	1面	土師器皿 T種小型	口径(9.5)cm 器高1.75cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は淡褐色で黒色光沢粒子(少)、黒色粒子(少)、赤色粒子・海綿骨針を含む
5	1面	土師器皿 T種小型	口径(11.5)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は淡褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子(少)、赤色粒子(少)、泥岩粒・海綿骨針を含む 全体に焼きムラあり
6	1面	土師器皿 T種大型	口径(12.6)cm 器高3.1cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子(微)、黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
7	1面	土師器皿 R種小型	口径(9.2)cm 底径(6.4)cm 器高2.0cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 胎土は黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子(多)、白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
8	1面	土師器皿 R種小型	口径(9.1)cm 底径(6.3)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子(多)、白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
図6-1	1面 遺構群上層	土師器皿 T種小型	口径(8.2)cm 器高1.6cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・透明光沢粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
2	1面 遺構群上層	土師器皿 T種小型	口径(8.9)cm 器高1.75cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
3	1面 遺構群上層	土師器皿 T種大型	口径(14.4)cm 器高2.5cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子(多)、白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
4	1面 遺構群上層	土師器皿 R種大型	口径(13.6)cm 底径(8.8)cm 器高3.0cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は淡褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 内底部僅ける
5	1面 遺構群上層	泥美 甕	胴部片 輪横み成形 叩き目あり 器表面は灰黄褐色 胎土は褐色で白色粒子(少)を含む
6	1面 遺構群上層	白磁 V型碗	底部片 ロクロ成形 削り出し高台 素地は淡黄色で黒色粒子を含む 釉薬は灰白色で透明 高台露胎
7	1面 遺構群直上	土師器皿 T種大型	口径(14.0)cm 器高2.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・透明光沢粒子を含む 焼成良好
8	1面 遺構群直上	土師器皿 R種小型	口径(7.6)cm 底径(5.9)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
9	1面 遺構群直上	土師器皿 R種小型	口径(7.8)cm 底径(6.0)cm 器高1.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
10	1面 遺構群直上	常滑 片口鉢1類	口縁部片 輪横み成形後、ロクロ整形 胎土は黄灰色で黒色粒子・白色粒子・黒石を含む
11	1面 遺構群直上	常滑 甕	口縁部片 輪横み成形 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子を含む 内面に陥凹あり
12	1面 遺構群直上	常滑 甕	口縁部片 輪横み成形 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子を含む 内面に陥凹あり
13	1面 遺構群直上	常滑 甕	口縁部片 輪横み成形 器表面は灰褐色 胎土は暗灰色で白色粒子を含む
14	1面 遺構群直上	電泉窯青磁 I型碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬は緑灰色で透明 内面に片切り彫りや串状工具による界線
15	1面 遺構群直上	電泉窯青磁 I型碗	口縁部片 ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬は緑灰色で透明 内面に片切り彫りや施文
16	1面 遺構群直上	青白磁 碗	残存長2.5cm 残存幅3.7cm 内面型押し後、外面回転へつ削り 素地は灰白色 釉薬は明青灰色透明 内面の雷文は凸文
17	1面 構築土	土師器皿 T種小型	口径(9.0)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子(微)、海綿骨針を含む 焼成良好
18	1面 構築土	土師器皿 T種大型	口径(13.4)cm 器高2.5cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子(微)、海綿骨針を含む 焼成良好
19	1面 構築土	土師器皿 T種大型	口径(13.0)cm 器高3.1cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子(微)、白色粒子・赤色粒子(少)、海綿骨針を含む 焼成良好
20	1面 構築土	土師器皿 T種大型	口径(13.2)cm 器高2.6cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は淡黄褐色で黒色光沢粒子(多)、白色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
21	1面 構築土	土師器皿 T種大型	口径(14.7)cm 器高3.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
22	1面 構築土	土師器皿 T種大型	口径(14.6)cm 器高3.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子(微)、海綿骨針を含む 焼成良好
23	1面 構築土	土師器皿 R種小型	口径(7.7)cm 底径(5.5)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・白色粒子(少)、海綿骨針を含む
24	1面 構築土	土師器皿 R種小型	口径8.8cm 底径6.8cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は淡黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
25	1面 構築土	白色系土師器皿 T種小型	口径(7.6)cm 器高1.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰白色で礫片(微)を含む 粉質土



表2 出土遺物観察表(2)

図号	出土遺物	種類	備考
26	1面 構築土	常滑 片口鉢1類	底部片 輪積み成形後、ロクロ整形 外面下位回転へう削り 付高台 胎土は灰色で白色粒子(多)・長石・礫片を含む 内面剥離するほど摩耗
27	1面 構築土	泥美 甕	口縁部片 輪積み成形 灰オリーブ色の灰輪ハケ塗り 器表面は灰色 胎土は灰色で白色粒子を含む 器表面に鉄分の吹き出し
28	1面 構築土	泥美 甕	口縁部片 輪積み成形 灰オリーブ色の灰輪ハケ塗り 器表面は暗灰色 胎土は灰色
29	1面 構築土	泥美 甕	胴部片 輪積み成形 内面に灰オリーブ色の自然釉 器表面は灰色 胎土は灰色で白色粒子を含む 器表面に鉄分の吹き出し
30	1面 構築土	同安楽系青磁 1類	胴部片 ロクロ成形 外面回転へう削り 胎土は灰色 釉薬は灰オリーブ色で透明 外面は樹歯状工具の掻き揚げにより施文 内面は樹歯状工具と片切り彫りにより施文
31	1面 構築土	竜泉系青磁 1類	口縁部片 ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬はオリーブ灰色で透明 内面に片切り彫りにより施文
32	1面 構築土	黒曜石 火打石	最大長3.0cm 最大幅2.4cm 最大厚2.1cm 深い素痕が多く見られ後削った痕跡か
図7-1	土坑1	土師器Ⅲ T種小型	口径(10.9)cm 底径2.1cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
	2	土坑1	口径(8.3)cm 底径(6.4)cm 器高1.1cm 回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
3	土坑1	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.9)cm 底径(6.1)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・白色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
4	土坑1	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.7)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
5	土坑1	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.8)cm 底径(6.0)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
6	土坑1	土師器Ⅲ R種小型	口径7.9cm 底径5.9cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
7	土坑1	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.9)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
8	土坑1	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.6)cm 底径(5.9)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
9	土坑1	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.6)cm 底径(7.1)cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・白色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
10	土坑1	土師器Ⅲ R種小型	口径(8.8)cm 底径(6.7)cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
11	土坑1	土師器Ⅲ R種大型	口径(11.8)cm 底径(8.8)cm 器高2.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
12	土坑1	土師器Ⅲ R種大型	口径(13.1)cm 底径(9.2)cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
13	土坑1	土師器Ⅲ R種大型	口径(12.2)cm 底径(8.5)cm 器高3.2cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
14	土坑1	土師器Ⅲ R種大型	口径(10.9)cm 底径(5.2)cm 器高2.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
15	土坑1	土師器Ⅲ R種大型	口径(11.9)cm 底径(6.4)cm 器高2.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
16	土坑1	土師器Ⅲ R種大型	口径(11.5)cm 底径(8.0)cm 器高2.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
17	土坑1	土師器Ⅲ R種大型	口径12.1cm 底径7.9cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒を含む
18	土坑1	土師器Ⅲ R種大型	口径(13.0)cm 底径(7.9)cm 器高3.3cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
19	土坑1	常滑 片口鉢1類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
20	土坑1	常滑 片口鉢1類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・長石・礫片を含む 内面に降灰あり
21	土坑1	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 内面上部に降灰あり 器表面は黒褐色 胎土は黄褐色で白色粒子・礫片を含む 器表面に鉄分の吹き出し
22	土坑1	平瓦	残存長11.0cm 残存幅10.1cm 残存厚2.3cm 凹面に布目痕、凹部端部にナデ 凸部糸切痕の上に離れ砂 側面削り 表面は灰色 胎土は灰白色で湿入物少ない 粉質均質土 水滲等1期
23	土坑3	土師器Ⅲ T種小型	口径(8.6)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子(微)・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
24	土坑3	土師器Ⅲ T種小型	口径(8.9)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子(微)を含む 焼成良好
25	土坑3	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.2)cm 底径7.2cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
26	土坑3	土師器Ⅲ R種小型	口径(8.9)cm 底径(7.4)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好

表3 出土遺物観察表(3)

標記番号	出土遺構	種別	備考
27	土坑3	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.3)cm 底径(6.0)cm 器高1.7cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤褐色で黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成温度が高いため少し歪む
28	土坑3	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.9)cm 底径(5.7)cm 器高2.1cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は赤褐色で黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成温度が高いため少し歪む
48-1	覆乱A	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.2)cm 底径(4.5)cm 器高1.5cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色粒子(微)
2	覆乱A	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.8)cm 底径(6.8)cm 器高1.9cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で白色粒子を含む 二次焼成のため歪んでいる
3	覆乱A	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.3)cm 底径(4.8)cm 器高2.3cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子(少)、赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
4	覆乱A	土師器Ⅲ R種大型	口径(11.0)cm 底径(6.6)cm 器高3.1cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色で赤色粒子(多)、泥岩粒・海綿骨針を含む 焼成良好
5	覆乱A	土師器Ⅲ R種大型	口径(12.8)cm 底径7.3cm 器高3.2cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子(微)、赤色粒子(多)、泥岩粒・海綿骨針を含む 焼成良好
6	覆乱A	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 内面上部に陥凹あり 器表面は黒褐色 胎土は暗灰色で白色粒子を含む
7	土坑2	土師器 甕	胴部片 外面は縦位のハケ目 内面は横位のハケ目 胎土は明赤褐色で黒色光沢粒子(多)を含む
8	土坑2	土師器Ⅲ T種大型	口径(14.0)cm 器高3.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)、黒色粒子(多)、白色粒子を含む
9	土坑2	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.8)cm 底径(4.0)cm 器高2.1cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
10	土坑2	土師器Ⅲ R種小型	口径7.0cm 底径4.4cm 器高2.2cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で赤色粒子(少)、白色粒子(少)、海綿骨針を含む
11	土坑2	土師器Ⅲ R種小型	口径7.3cm 底径4.6cm 器高2.3cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 口縁部に油埋付着
12	土坑2	土師器Ⅲ R種小型	口径7.4cm 底径4.1cm 器高2.2cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で赤色粒子(少)、白色粒子(少)、海綿骨針を含む 焼成良好
13	土坑2	土師器Ⅲ R種小型	口径(6.8)cm 底径(4.4)cm 器高2.0cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で赤色粒子(少)、海綿骨針を含む
14	土坑2	土師器Ⅲ R種大型	口径(12.1)cm 底径6.7cm 器高3.4cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子(微)、赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
15	土坑2	土師器Ⅲ R種大型	口径(11.8)cm 底径(7.5)cm 器高3.5cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で赤色粒子(微)、泥岩粒・海綿骨針を含む
16	土坑2	土師器Ⅲ R種大型	口径11.6cm 底径7.0cm 器高3.6cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子(微)・泥岩粒・海綿骨針を含む 焼成良好
17	土坑2	土師器Ⅲ R種大型	口径(14.8)cm 底径(9.0)cm 器高3.8cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子・赤色粒子(微)・泥岩粒・海綿骨針を含む
18	土坑2	土師器Ⅲ R種大型	口径13.7cm 底径9.1cm 器高3.9cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で赤色粒子(微)・泥岩粒・海綿骨針を含む
19	土坑2	土師器Ⅲ R種大型打つたき	底径7.6cm 右回転クワロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で赤色粒子(微)・泥岩粒・海綿骨針を含む
20	土坑2	伊勢系 鈚鍋	口縁部片 外面に鋸歯状工具による横位ナデ 踏貼付け 胎土は灰白色で長石を含む 胎芯部は灰色
21	土坑2	伊勢系 鈚鍋	口縁部片 外面に鋸歯状工具による横位ナデ 踏貼付け 胎土は灰黄色で白色粒子を含む 胎芯部は灰色
22	土坑2	常滑 甕	底部片 輪積み成形 底面部に板状工具による掻き上げ 器表面は明赤褐色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 器表面に鉄分の吹き出し
23	土坑2	常滑 甕 転用磨料陶片	胴部片を転用 輪積み成形 内面に陥凹 器表面は明赤褐色 胎土は灰色で白色粒子を含む 破断面1面を使用
24	土坑2	瀬戸 平碗小	口縁部片 胎土は淡黄色で混入物なし 粉質均質土 浅黄色の灰輪掛け付
25	土坑2	青白磁 蓋	ロクロ成形後、型押しにより施文 胎土は灰白色 輪軸は明青灰色で半透明
26	土坑2	青白磁 飯瓶	ロクロ成形後、型押しにより施文 胎土は灰白色 輪軸は明青灰色で半透明
27	土坑2	磁石 中磁	残存長5.1cm 残存最大幅1.9cm 残存最大厚1.6cm オリーブ黄色 4面使用 上野磁
28	土坑2	玄武岩 凝灰岩	残存長9.6cm 残存最大幅7.1cm 残存最大厚6.7cm 灰色 残存面は摩耗しており礎石の一部の可能性も
49-1	土坑9	湖美・湖西型 山茶碗	底径(6.0)cm 輪積み成形後、ロクロ整形 付台高 高台端部初段微 内底部蒸気ナデナ 胎土は灰色で白色粒子を含む 均質土
2	P.66	土師器Ⅲ R種小型	口径(10.2)cm 器高1.55cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子・赤色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
3	土坑11	土師器Ⅲ T種小型	口径(8.8)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む

表4 出土遺物観察表(4)

図録番号	出土遺構	種別	備考
4	土坑11	土師器Ⅲ T種大型	口径(15.2)cm 器高3.25cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・海綿骨針を含む
5	土坑11	土師器Ⅲ R種小型	口径(8.4)cm 底径(6.7)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙黄色で黒色光沢粒子・赤色粒子(少)・海綿骨針を含む 焼成良好
6	土坑11	土師器Ⅲ R種大型	口径(14.0)cm 底径(8.6)cm 器高2.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はぶい黄橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子(少)・海綿骨針を含む 焼成良好
7	土坑11	泥美 器	胴部片 輪積み成形 灰輪ハケ塗りか 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子(少)・礫片(微)を含む
8	土坑11	竜泉窯青磁Ⅱ 型碗	口縁部片 ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬はオリーブ灰色で透明 外面に片切り彫りによる蓮弁文
9	土坑11	青白磁 水注把子	残存長3.1cm 残存幅1.3cm 残存厚0.6cm 胎土は灰白色 釉薬は明青灰色で透明
10	土坑11	白磁 皿	底部片 ロクロ成形後回転へつ削りか 外底部回転へつ削り 内面壓押しにより施文 胎土は灰白色 釉薬は透明
11	F.30	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.4)cm 底径(7.6)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙黄色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(多)・赤色粒子(少)・海綿骨針を含む 焼成良好
12	P.13	土師器Ⅲ T種大型	口径(14.5)cm 器高2.45cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
13	P.13	常滑 甕	胴部片 輪積み成形 器表面に叩き目 器表面は褐灰色 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子を含む
14	P.13	常滑 甕	口径(22.2)cm 輪積み成形 器表面は暗赤褐色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 長石の吹き出しあり
15	P.13	竜泉窯青磁Ⅰ 型碗	口径(16.2)cm ロクロ成形 素地は灰色 釉薬はオリーブ灰色で透明 内面に片切り彫りによる施文
16	P.13	竜泉窯青磁Ⅰ 型碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬はオリーブ灰色で透明
図10-1	P.44	土師器Ⅲ R種小型	口径8.9cm 底径6.8cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙黄色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子(多)・泥岩粒・海綿骨針を含む
2	P.44	土師器Ⅲ R種小型	口径9.0cm 底径6.8cm 器高1.35cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は明黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
3	P.44	土師器Ⅲ R種小型	口径8.4cm 底径6.6cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は明黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
4	P.44	土師器Ⅲ R種大型	口径13.0cm 底径8.6cm 器高2.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は明黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
5	P.4	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 器表面オリーブ黒色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
6	P.5	常滑 甕	底部片 輪積み成形 底部部に板状工具による縦位ナデ 器表面は黒褐色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
7	P.14	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.6)cm 底径(7.8)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は浅黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
8	P.14	白色系土師器Ⅲ R種大型	口縁部片 手づくね後、口縁部ナデ 胎土は灰白色で礫片(微)を含む 粉質土
9	P.14	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 外面縦位の板状工具によるナデ後、口縁部に一糸の横位ナデ 器表面はオリーブ黒色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 内面に隆起あり
10	P.15	白磁 皿	口縁部片 ロクロ成形後回転へつ削りか 口縁部輪面取り 内面壓押しにより施文 胎土は灰白色 釉薬は透明
11	P.15	須恵器 蓋か	口縁部片 胎土は灰色とぶい橙黄色で白色粒子・礫片を含む 生焼けのため土師器の可能性もあるが、須恵器とした
12	P.20	土師器Ⅲ R種小型	口径(8.4)cm 底径(6.9)cm 器高1.35cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
13	P.20	泥美 器	胴部片 輪積み成形 外面に叩き目 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子を含む
14	P.21	土師器Ⅲ R種小型	口径9.2cm 底径6.8cm 器高1.75cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
15	P.27	丸瓦	残存長14.5cm 残存幅12.0cm 残存厚2.2cm 凹面に布目痕、凹面端部削り 凸面縦位へつナデ 側面削り 表面は灰色 胎土は灰色で混入物少ない 均質土 永福寺1期
16	P.35	土師器Ⅲ T種大型	口径(13.1)cm 器高3.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙黄色で白色粒子を含む 混入物少ない 焼成良好
17	P.37	土師器Ⅲ T種大型	口径(13.1)cm 器高3.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
18	P.38	土師器Ⅲ R種極小型	口径(5.2)cm 底径(4.2)cm 器高0.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙黄色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
19	P.38	土師器Ⅲ R種小型	口径(8.2)cm 底径6.5cm 器高1.65cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
20	P.38	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.4)cm 底径(7.0)cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む

表5 出土遺物観察表(5)

観測番号	出土遺構	種別	備考
21	P.38	土師器Ⅲ R種大型	口径(12.2)cm 底径(6.5)cm 器高3.35cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は明黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
22	P.38	常滑 片口鉢1類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 器表面オリーブ黒 胎土は灰色で白色粒子・長石・礫片を含む
23	P.38	瀬戸 入子	口径(7.0)cm 底径(4.8)cm 器高1.85cm 外底部回転糸切り 胎土は灰白色で白色粒子を含む 混入物少ない
24	P.39	土師器Ⅲ R種小型	口径7.6cm 底径6.2cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はふい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
25	P.39	土師器Ⅲ R種小型	口径(8.0)cm 底径(5.8)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は明赤褐色で白色粒子・海綿骨針を含む
26	P.39	瀬美 甕	肩部片 輪積み成形 外面に叩き目 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
27	P.39	九瓦	残存長4.8cm 残存幅7.0cm 残存厚1.7cm 凹面に布目痕 凸面端目叩き後縦穴ナデ 側面削り 表面は暗灰色 胎土は灰白色で黒色粒子・白色粒子を含む 均質土 水福寺1期
28	P.51	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.8)cm 底径(5.9)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
29	P.52	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.6)cm 底径(7.6)cm 器高1.9cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・海綿骨針を含む
30	P.52	同安系内陶 I類碗	口縁部片 ロクロ成形 外面回転へつ削り 胎土は灰色 釉薬は灰オリーブ色で半透明 外面は樹歯状工具の掻き揚げにより施文
31	P.52	軽石	長径6.3cm 短径5.0cm 最大厚3.8cm 灰色 前面上部に溝状の彫り込み、彫り込みの平らにした箇所あり
32	P.56	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.0)cm 底径(7.6)cm 器高1.25cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はふい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
33	P.56	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.0)cm 底径(6.5)cm 器高1.75cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・泥岩粒・海綿骨針を含む
34	P.56	土師器Ⅲ T種小型	口径(8.8)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
35	P.56	土師器Ⅲ T種大型	口径(12.3)cm 器高2.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
36	P.56	土師器Ⅲ T種小型	口径(13.3)cm 器高2.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 板状圧痕 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
37	P.56	白色系土師器Ⅲ T種小型	口径(8.4)cm 器高0.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は灰白色 粉質均質土
図11-38	P.63	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.6)cm 底径(5.0)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
39	P.63	土師器Ⅲ R種小型	口径(8.8)cm 底径(7.2)cm 器高1.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・透明光沢粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
40	P.77	土師器Ⅲ R種小型	口径(8.2)cm 底径(6.2)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子(微)・赤色粒子(少)・海綿骨針を含む
41	P.77	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 内面上部に降灰あり 器表面は橙褐色 胎土は暗灰色で白色粒子を含む
42	P.80	白色系土師器Ⅲ T種小型	口径(7.3)cm 器高1.25cm 手づくね後、口縁部ナデ 胎土は灰白色 粉質均質土
43	P.85	土師器Ⅲ T種大型	口径(12.8)cm 器高3.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好 口縁部油煤付着
44	P.86	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 内面上部と肩部に降灰あり 器表面は赤褐色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
45	P.86	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 器表面は黄灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
46	P.89	土師器Ⅲ T種小型	口径(8.8)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
47	P.97	瀬美・湖西 片口鉢	底部片 輪積み成形後、ロクロ整形 付高台 胎土は灰白色で白色粒子を含む 均質土
48	P.97	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 内面上部と肩部に降灰あり 器表面は黒褐色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
49	P.98	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.9)cm 底径(5.6)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はふい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
50	P.98	土師器Ⅲ R種大型	口径(12.7)cm 底径(9.4)cm 器高3.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はふい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む
51	P.98	常滑 片口鉢1類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は明暗灰色で白色粒子・長石・礫片を含む
52	P.99	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.15)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で白色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
53	P.99	常滑 片口鉢1類	口縁部片 輪積み成形後、ロクロ整形 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 残存部下端内面調整が確認できないほど摩耗

表6 出土遺物観察表(6)

図録番号	出土遺構	種別	備考
54	P.99	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 器表面は赤褐色 胎土は暗灰色で白色粒子・礫片を含む 器表面に鉄分の吹き出し
55	P.100	土製円盤	残存最大径3.6cm 厚さ0.5cm 手づくね成形 胎土は橙色で黒色粒子・白色粒子・赤色粒子を含む
56	P.104	土師器皿 T種大型	口径(13.8)cm 器高2.85cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
57	P.108	土師器皿 T種小型	口径(8.5)cm 器高2.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
図12-1	2面 遺構群	土師器皿 T種大型	口径13.3cm 器高3.2cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒・海綿骨針を含む 焼成良好
2	2面 遺構群	土師器皿 T種小型	口径(10.0)cm 器高1.4cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 混入物少ない 焼成良好
3	2面 遺構群	土師器皿 R種小型	口径(9.1)cm 底径(7.5)cm 器高1.5cm 右回転クロー 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・海綿骨針を含む
4	2面 遺構群	泥美 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁内面と肩部に灰粒ハケ塗り 器表面は灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
5	2面 遺構群	丸瓦	残存長8.9cm 残存幅5.0cm 残存厚2.0cm 凹面に布目痕 凸面端目明き後縦位ナデ 表面は暗灰色 胎土は灰白色で黒色粒子・白色粒子を含む 均質土 水福寺1期
図13-1	2面遺構群 炭層直上	土師器皿 T種小型	口径(8.0)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子(微)・海綿骨針を含む 焼成良好
2	2面遺構群 炭層直上	土師器皿 T種小型	口径(8.1)cm 器高2.1cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・海綿骨針(微)を含む 焼成良好
3	2面遺構群 炭層直上	土師器皿 T種小型	口径(9.0)cm 器高2.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子を含む
4	2面遺構群 炭層直上	土師器皿 T種小型	口径(13.0)cm 器高3.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子(微)・海綿骨針を含む 焼成良好
5	2面遺構群 炭層直上	土師器皿 R種小型	口径(7.9)cm 底径(6.3)cm 器高1.4cm 右回転クロー 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
6	2面遺構群 炭層直上	軒丸瓦	残存長7.3cm 残存幅8.5cm 残存厚3.2cm 蓮華文の瓦当 表面は暗灰色 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子を含む 均質土 水福寺1期
7	2面遺構群 炭層直上	竜泉窯青磁 I 型碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色で黒色粒子を含む 釉薬は灰オリーブ色で透明 内面に片切り彫りによる施文
8	2面遺構群 炭層直上	白磁 把手	残存長2.2cm 残存幅2.4cm 残存厚0.7cm 串状工具により沈線を施文 胎土は灰色 釉薬は灰白色で透明
9	2面遺構群 炭層直上	鉄釘	残存長6.5cm 幅0.6cm 厚0.6cm 重さ5.3g
10	2面遺構群 炭層直上	鉄釘	長さ6.0cm 幅0.5cm 厚0.5cm 重さ3.8g
11	2面遺構群 炭層直上	鉄釘	長さ6.5cm 幅0.7cm 厚0.6cm 重さ8.3g
12	2面遺構群 炭層内	常滑	肩部片 輪積み成形 外面全面に降灰 器表面は暗赤褐色 胎土はにぶい褐色で白色粒子・透明光沢粒子・長石・礫片を含む
13	2面遺構群 炭層内	平瓦	残存長12.3cm 残存幅13.7cm 残存厚2.25cm 凹面に離れ砂 凸面端目明き後縦位ナデ 表面は灰色 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子を含む 均質土 水福寺1期
14	2面遺構群 炭層内	竜泉窯青磁 I 型碗	底部片 ロクロ成形 削り出し高台 素地は灰色で黒色粒子を含む 釉薬は明黄灰色で透明 高台内露胎
15	2面遺構群 構築土	土師器皿 T種大型	口径(12.8)cm 器高2.6cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
図14-1	溝1 上層	土師器皿 T種小型	口径(9.1)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色粒子(少)・白色粒子・海綿骨針を含む
2	溝1 上層	土師器皿 T種小型	口径9.3cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
3	溝1 上層	土師器皿 T種大型	口径13.2cm 器高3.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
4	溝1 上層	土師器皿 T種大型	口径15.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む
5	溝1 上層	土師器皿 R種小型	口径9.1cm 底径7.0cm 器高1.7cm 右回転クロー 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
6	溝1 上層	土師器皿 R種小型	口径(8.8)cm 底径(6.8)cm 器高1.5cm 右回転クロー 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
7	溝1 上層	土師器皿 R種小型	口径(8.9)cm 底径(7.0)cm 器高1.8cm 右回転クロー 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
8	溝1 上層	常滑 片口鉢I 型	底径14.6cm 輪積み成形後、ロクロ整形 外面下位回転へろ削り 胎土は灰色で白色粒子・長石・礫片を含む 内面調整が確認できないほど摩耗
9	溝1 上層	泥美 甕	肩部片 輪積み成形 外面明き目 器表面は黒褐色 胎土は灰色で白色粒子を含む

表7 出土遺物観察表(7)

標記番号	出土遺構	種別	備考
10	溝1 上層	深美 甕	胴部片 輪積み成形 外面叩き目 器表面は黒褐色 胎土は灰色で白色粒子を含む
11	溝1 上層	常滑 甕	肩部片 輪積み成形 外面叩き目 器表面はふい黄褐色 胎土は灰色で黒色粒子・白色粒子・長石を含む
12	溝1 上層	瀬戸 柄付口	片口部 片口は貼付け後ナデで整形 器表面は褐灰色 胎土は灰色で混入物なし 内面に灰オリーブ色の灰釉 まだらに黒褐色の部分あり
13	溝1 上層	竜泉窯青磁 I類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬はオリーブ灰色で透明 内面に片切り彫りによる施文
14	溝1 上層	鉄釘	長さ6.5cm 幅0.5cm 厚さ0.4cm 重さ4.4g
15	溝1 下層	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.0)cm 器高1.5cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
16	溝1 下層	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.7)cm 器高1.5cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)、黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・泥岩粒、海綿骨針を含む 焼成良好
17	溝1 下層	土師器Ⅲ T種大型	口径(13.4)cm 器高2.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子・白色粒子を含む
18	溝1 下層	竜泉窯青磁 I類碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬はオリーブ灰色で透明 内面に片切り彫りによる施文
図15-1	土坑7・8	深美 甕	底部片 輪積み成形 底部脇に板状工具による縦線ナデ 器表面は黄灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
2	土坑7・8	滑石製 石鍋	口縁部片 罅部に工具痕のようなものがあり、削り取った可能性も 灰白色 外面炭化し黒色に変色 内面も暗灰色
3	土坑10	白磁 V類碗	底部片 ロクロ成形 削り出し高台 素地は淡黄色で黒色粒子を含む 釉薬は明緑灰色で不透明 高台及び内底部露胎
4	土坑13	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.2)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は暗灰色で黒色光沢粒子・海綿骨針を含む 二次焼成により全面黒く変色 口縁部油煤付着
5	土坑13	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.1)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はふい黄褐色で黒色光沢粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
6	土坑13	土師器Ⅲ T種小型	口径(10.2)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はふい黄褐色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む
7	土坑13	土師器Ⅲ T種小型	口径8.7cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む
8	土坑13	土師器Ⅲ T種小型	口径(8.6)cm 器高2.5cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・海綿骨針を含む
9	土坑13	土師器Ⅲ T種小型	口径(8.8)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐灰色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
10	土坑13	土師器Ⅲ T種小型	口径(8.8)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子(微)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
11	土坑13	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.0)cm 器高1.75cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
12	土坑13	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.4)cm 器高1.6cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はふい黄褐色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
13	土坑13	土師器Ⅲ T種大型	口径(12.3)cm 器高2.5cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はふい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
14	土坑13	土師器Ⅲ T種大型	口径(14.6)cm 器高2.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はふい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
15	土坑13	土師器Ⅲ T種大型	口径(14.0)cm 器高2.85cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はふい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
16	土坑13	土師器Ⅲ T種大型	口径(14.3)cm 器高3.2cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はふい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
17	土坑13	土師器Ⅲ T種大型	口径(13.0)cm 器高3.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
18	土坑13	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.6)cm 底径(5.3)cm 器高1.7cm 右回転口外 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙褐色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
19	土坑13	深美・湖西型 山皿	口縁部片 外底部回転糸切り 胎土は灰色で白色粒子を含む
20	土坑13	深美 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁部内外面に灰釉ハケ塗り 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子を含む
21	土坑13	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁部内面に降灰 器表面に黒褐色 胎土は灰色で白色粒子(微)を含む
22	土坑13	深美 甕	胴部片 輪積み成形 外面叩き目 器表面に黒褐色 胎土は灰色で白色粒子を含む
23	土坑13	竜泉窯青磁 I類浅形碗	口径(15.6)cm ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬は明緑灰色で透明 内面に片切り彫りによる施文
24	土坑13	竜泉窯青磁 I類碗	口縁部片 ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬は明オリーブ灰色で透明 無文

表8 出土遺物観察表(8)

図録番号	出土遺構	種別	備考
25	土坑13	安山岩	残存長7.5cm 残存幅5.5cm 残存厚4.3cm 灰色 残存部一部に摩耗した箇所あり
図16-1	土坑13 炭層内	土師器皿 T種小型	口径(9.5)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
	土坑13 炭層内	土師器皿 T種小型	口径(10.2)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 内面に付着物のような痕跡 焼成良好
3	土坑13 炭層内	土師器皿 T種小型	口径(9.4)cm 器高2.15cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
4	土坑13 炭層内	土師器皿 T種大型	口径(14.2)cm 器高2.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
5	土坑13 炭層内	土師器皿 T種大型	口径(15.4)cm 器高3.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
6	土坑13 炭層内	土師器皿 T種大型	口径(14.8)cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 粉質均質土
7	土坑13 炭層内	土師器皿 T種大型	口径(13.6)cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 外面に黒色に着色した部位あり 焼成良好
8	土坑13 炭層内	土師器皿 R種小型	口径(9.0)cm 底径5.8cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
9	土坑13 炭層内	土師器皿 R種小型	口径(9.5)cm 底径(8.1)cm 器高2.1cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
10	土坑13 炭層内	土師器皿 R種大型	底径9.0cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
11	土坑13 炭層内	土師器皿 R種大型	底径7.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
12	土坑13 炭層内	土師器皿 R種大型	底径(7.8cm) 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 底部脇指おさま 糸切り痕はナデ消したのか不明瞭 胎土は褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
13	土坑13 炭層内	須恵器 甕	残存長4.9cm 残存幅2.0cm 厚さ0.7cm 胎土は灰色で白色粒子を含む
14	土坑13 炭層下	土師器皿 T種小型	口径(8.8)cm 器高2.2cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子・白色粒子・海綿骨針(盛)を含む
15	土坑13 炭層下	土師器皿 T種小型	口径(10.6)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
16	土坑13 炭層下	土師器皿 T種小型	口径(10.4)cm 器高2.15cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
17	土坑13 炭層下	竜泉窯青磁 I型碗	口縁部片 ロクロ成形 窯地は灰色 釉薬は明緑灰色で透明 内面に片切り彫りによる施文
18	土坑14	土師器皿 T種大型	口径(13.7)cm 器高2.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
19	土坑14	桶型型瓦器 輪花碗	口縁部片 内面にミガキ(唐文) 器表面は炭素吸着により暗灰色 胎土は灰白色
20	土坑16	土師器皿 T種大型	口径(15.4)cm 器高3.15cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・泥岩粒・海綿骨針を含む 焼成良好
21	土坑16	土師器皿 T種大型	口径(13.0)cm 器高3.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は淡褐色で黒色光沢粒子(少)・黒色粒子(少)・赤色粒子・海綿骨針を含む 内面に暗灰色に着色した部位あり 焼成良好
22	土坑16	土師器皿 R種小型	口径(9.8)cm 底径(6.8)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土は褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
23	土坑16	土師器皿 R種小型	口径(10.0)cm 底径(7.2)cm 器高1.8cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子を含む
24	土坑16	土師器皿 T種小型	口径9.0cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 内底部は同心状ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
25	土坑16	土師器皿 T種大型	口径(14.6)cm 器高3.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
26	土坑16	土師器皿 R種大型	口径13.9cm 底径8.8cm 器高3.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
27	土坑16	竜泉窯青磁 I型皿	口縁部片 ロクロ成形 窯地は灰色 釉薬は明オリブ灰色で透明 同安窯系皿の可能性もあり
図17-1	P.2	竜泉窯青磁 II型碗	底部片 ロクロ成形 削り出し高台 外底部露胎 胎土は灰色 釉薬はオリブ灰色で透明 外面に片切り彫りによる蓮弁文
	2	P.3	須恵器 甕
3	P.3	安山岩	残存長4.95cm 残存幅6.85cm 残存厚4.2cm 灰色、表面は暗灰色 残存面2面のうち1面が摩耗 残存面2面に痕跡あり
4	P.12	土師器皿 R種大型	口径(12.8)cm 底径(8.6)cm 器高3.4cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
5	P.12	土師器皿 R種大型	底径(6.8)cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む

表9 出土遺物観察表(9)

観測番号	出土遺構	種別	備考
6	P.12	土師器Ⅲ R種小型	口径(7.1)cm 底径(5.4)cm 器高1.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
7	P.27	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部片 輪積み成形 外面口縁下に二条の横位ナデ 外面は灰赤色、内面は黒褐色 胎土は暗灰色で白色粒子・礫片を含む 内面に降灰あり
8	P.27	瀬美 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 内外面に降灰ハケ塗り
9	P.27	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は暗赤灰色 胎土は暗灰色で白色粒子・礫片を含む
10	P.34	土師器Ⅲ T種大型	口径(13.2)cm 器高3.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子を含む 焼成良好
11	P.34	土師器Ⅲ R種小型	口径(10.2)cm 底径(6.4)cm 器高2.5cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
12	P.34	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は褐色 胎土はにぶい黄褐色で白色粒子・礫片を含む
13	P.34	常滑 甕	底部片 輪積み成形 底部輪に板状工具による縦位ナデ 器表面は褐色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
14	P.42	電泉窯青田 I類甕	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬は灰オリーブ色で透明
15	P.58	瀬美・湖西型 山茶碗	底部片 輪積み成形後ロクロ整形 付け高台 高台及び内底部に切痕痕 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
16	P.109	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.7)cm 器高1.7cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子(微)・白色粒子(微)・海綿骨針(微)を含む 焼成非常に良好
17	P.110	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.2)cm 器高1.8cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
18	P.110	土師器Ⅲ R種小型	口径(8.6)cm 底径(7.3)cm 器高1.35cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
19	P.110	土師器Ⅲ R種大型	口径(14.0)cm 底径(7.8)cm 器高3.45cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・海綿骨針を含む
20	P.110	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は褐色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む
21	P.117	土師器Ⅲ T種小型	口径(10.2)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子(微)・白色粒子(微)・海綿骨針(微)を含む 焼成非常に良好
22	P.117	土師器Ⅲ T種小型	口径(10.2)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色粒子(微)・赤色粒子(微)・海綿骨針(微)を含む 焼成非常に良好
23	P.118	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.2)cm 器高1.85cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・透明光沢粒子(微)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
24	P.118	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.2)cm 器高1.85cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
25	P.118	土師器Ⅲ T種大型	口径(13.2)cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
26	P.118	土師器Ⅲ T種大型	口径(12.9)cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成非常に良好
27	P.118	白色系土師器Ⅲ T種大型	口径(10.8)cm 手づくね後、口縁部ナデ 胎土は灰白色で黒色粒子・赤色粒子を含む 焼成良好
28	P.118	瀬美 甕	口縁部片 輪積み成形 器表面は褐色 胎土は灰色で白色粒子・礫片を含む 内面顔部まで、外面胴部まで降灰ハケ塗り
29	P.119	土師器Ⅲ T種大型	口径(13.0)cm 器高3.2cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
30	P.122	土師器Ⅲ T種小型	口径(7.6)cm 器高2.0cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
31	P.128	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.4)cm 器高1.75cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は橙色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む
32	P.128	同安窯赤青田 I類甕	口縁部片 ロクロ成形 外面回転ヘラ削り 胎土は灰色 釉薬は灰オリーブ色で半透明 内面に磨滑工具により施文
33	P.130	土師器Ⅲ T種大型	口径(14.7)cm 器高2.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
34	P.131	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.7)cm 器高1.9cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(微)・黒色粒子(微)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
35	P.131	土師器Ⅲ R種小型	口径(8.4)cm 底径(7.2)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部同心円状ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
36	P.148	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.0)cm 底径(6.7)cm 器高1.7cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
37	P.148	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.6)cm 底径(7.3)cm 器高1.6cm 右回転ロクロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土はにぶい黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
図18-1	3面	土師器Ⅲ T種小型	口径(8.9)cm 器高1.3cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好



表10 出土遺物観察表(10)

図録番号	出土遺構	種別	備考
2	3面	土師器Ⅲ T種小型	口径(9.7)cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・白色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
3	3面	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.0)cm 底径5.0cm 器高2.1cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・赤色粒子・海綿骨針を含む
4	3面	電泉窯青磁 I型碗	口縁部片 ロクロ成形 素地は灰色 釉薬はオリーブ黄色で透明 内面に片切り彫りによる施文
図9-19	最終トレンチ	木器 椀	底径8.2cm 高台内側に円形に溝が削り込まれており、これにより削り出し高台を形成 柘目材
2	最終トレンチ	須器 甕	胴部片 輪積み成形 内面に青黄波状の当て具痕 器表面は暗灰色 胎土は暗赤褐色で白色粒子を含む
図20-1	表採・複乱	土師器Ⅲ T種小型	口径(8.4)cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は浅黄褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・海綿骨針を含む 焼成良好
2	表採・複乱	土師器Ⅲ T種小型	口径(8.3)cm 器高1.6cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
3	表採・複乱	土師器Ⅲ T種大型	口径(14.2)cm 器高3.4cm 手づくね後、内底部・口縁部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子(多)・黒色粒子(多)・白色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む 焼成良好
4	表採・複乱	土師器Ⅲ R種小型	口径(9.4)cm 底径(7.0)cm 器高1.8cm 右回転クロロ 外底部回転糸切り、板状圧痕 内底部ナデ 胎土は褐色で黒色光沢粒子・黒色粒子・赤色粒子・海綿骨針を含む
5	表採・複乱	白色系土師器Ⅲ T種小型	口径(8.2)cm 器高1.15cm 手づくね後、口縁部ナデ 胎土は灰白色で黒色粒子(微)・赤色粒子(微)を含む 焼成良好
6	表採・複乱	常滑 片口鉢Ⅱ型	口縁部片 輪積み成形 口縁部横位ナデ 外面は暗赤褐色、内面は黒褐色 胎土は暗灰色で白色粒子・長石・礫片を含む
7	表採・複乱	常滑 片口鉢Ⅱ型	底部片 輪積み成形 底部脇に板状工具による縦位ナデ 器表面は褐色 胎土は褐色で白色粒子・長石・礫片を含む 内底部全面剥離するほど使用
8	表採・複乱	常滑 甕	胴部片 輪積み成形 叩き目あり 外面は暗赤褐色、内面は明黄褐色 胎土はぶい赤褐色で白色粒子・礫片・小石粒を含む
9	表採・複乱	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁部折り曲げ後貼付け成形 外面は暗赤褐色、内面は赤黒色 胎土はぶい黄色で白色粒子・礫片を含む
10	表採・複乱	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁部折り曲げ後貼付け成形 外面は暗赤褐色、内面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子・黒色粒子を含む 灰オリーブ色の自然釉
11	表採・複乱	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁部折り曲げ後貼付け成形 内面は黒褐色 胎土は灰色で白色粒子・長石を含む 外面に淡黄色の自然釉
12	表採・複乱	常滑 甕	口縁部片 輪積み成形 口縁部折り曲げ後貼付け成形 器表面は黒褐色 胎土はオリーブ黒色で白色粒子・長石・礫片・小石粒を含む 外面に淡黄色の自然釉
13	表採・複乱	常滑 甕	底部片 輪積み成形 底部脇と内面に板状工具による縦位ナデ 内面に横位ナデ 外面は赤褐色、内面は褐色 胎土は褐色で白色粒子・礫片・小石粒を含む 内面調整確認できるが摩耗 常滑片口鉢Ⅱ型底部の可能性もあり
14	表採・複乱	常滑 甕	底部片 輪積み成形 底部脇に板状工具による縦位ナデ 内面に横位ナデ 外面はぶい赤褐色、内面は暗赤褐色 胎土は褐色で白色粒子・礫片・小石粒を含む 鉄分の吹き出しあり 内面調整確認できるが摩耗 常滑片口鉢Ⅱ型底部の可能性もあり
15	表採・複乱	瀬戸 碗	底径(5.0)cm ロクロ成形 削り出し高台 内面に目跡か 胎土は灰黄色で白色粒子(微)を含む 灰オリーブ色の灰釉を漬け掛け
16	表採・複乱	瀬戸 卸皿	口縁部片 胎土はぶい黄褐色 明オリーブ灰色の灰釉ハケ塗り
17	表採・複乱	瀬戸 瓶類	残存部底径(7.5)cm 付け高台 底部は2枚の板を貼付け 胎土は灰黄色で混入物なし
18	表採・複乱	平瓦	残存長9.3cm 残存幅11.0cm 厚さ1.55cm 凹面に黒色光沢粒子の隠れ砂 凸面に黒目痕と黒色光沢粒子の隠れ砂 側面へラ削り 凸面は暗灰色 胎土は灰色で白色粒子・黒色粒子を含む 硬質
19	表採・複乱	平瓦	残存長5.8cm 残存幅8.2cm 厚さ2.25cm 凹面に横位ナデ 凸面に黒目痕と隠れ砂 端面へラ削り 胎土は灰白色で白色粒子・礫片を含む 硬質
20	表採・複乱	電泉窯青磁 I型碗	口径(17.6)cm ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬は灰オリーブ色で透明 内面に片切り彫りによる施文
21	表採・複乱	白磁 口はげ皿	口縁部片 ロクロ成形 口縁部面取り 口縁部に重ね焼き痕 胎土は灰白色 釉薬は灰白色と透明
22	表採・複乱	磁石 仕上り磁	残存長4.4cm 幅3.4cm 残存最大厚0.9cm 残存最少厚0.55cm 側面に切出し痕 黄灰色 使用面1面 鳴滝
写真図版 13	表採・複乱	高麗青磁 瓶子	ロクロ成形 胎土は灰色 釉薬は灰オリーブ色で透明 外面に片切り彫りによる施文



## 第四章 まとめと考察

### 1. 遺構の変遷と年代

#### 1期

北壁際トレンチ内での検出のみ。土層断面から溝であることは確認できるが、底部まで掘削していないため、全容は不明。土層堆積から浸濫ないし掘り直しの可能性を考えて、1-1期と1-2期の2期に分けた。出土遺物が乏しいため年代は不明だが、13世紀前半までに取まるか。

#### 2期

北壁土層断面で確認した。溝を埋めた後に、ほぼその真上に土塁状遺構が構築されている。出土遺物が乏しいため年代は不詳だが、13世紀前半までに取まるか。なお軸方位に関しては、西壁及び南壁の土層断面の記録がないため不明である。

#### 3期

北壁土層断面で確認した。2期の土塁状遺構を覆うように東寄りに構築されている。出土遺物が乏しいため年代は不詳だが、13世紀前半までに取まるか。なお軸方位に関しては、西壁及び南壁の土層断面の記録がないため不明である。

#### 4期

北壁際トレンチ内での検出と上層遺構の底面で溝2の一部を検出したのみ。土層断面から土塁状遺構を確認できる。この土塁状遺構は2面遺構群造成の際に上部を削平されている。出土遺物は13世紀前半のもの。なお軸方位に関しては、西壁及び南壁の土層断面の記録がないため不明である。

#### 5期-2面遺構群

二階堂大路と思しき道路と若干軸方位をずらしながらも、ほぼ直交する軸方位で交差する溝1を検出している。出土遺物は13世紀中葉までのものが主だが、溝1上層から古瀬戸中期以降の柄付片口が出土しているため、13世紀後葉まで存続していた可能性はある。

#### 6期-1面遺構群

上層を大きく削平されており、遺構や面上遺物の年代は混在する。5期に存在した溝1のような、区画を分ける機能を有している可能性のある遺構は検出していない。土坑1が13世紀後葉を上限、土坑2が15世紀代と言える以外は、出土遺物は13世紀中葉までのものとなっている。また、構築土内の出土遺物も13世紀中葉まで取まる。下層の年代と勘案すると13世紀中頃が上限となり、13世紀後半以降とすることが妥当と考える。

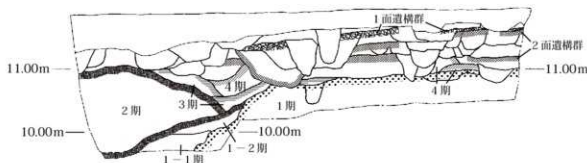


図21 北壁土層概念図

## 2. 本調査地点と周辺の調査成果より

本調査地点と周辺の調査から、本調査地点周辺の軸方位を推定できる遺構の検出事例が蓄積されたため、図22に提示した。あくまで軸方位を推定できる遺構の提示を目的としたため、遺構面や年代には差異がある。また調査年次の古い地点に関しては、正確に地図上に落とし込めたとはいえないことを付記しておく。

図1-5(馬淵1993)・30地点(馬淵1990)では東御門川の旧河道とおぼしき流路、図1-11(馬淵2004)・12地点(馬淵2014)では滑川の旧河道とおぼしき流路が検出されている。

図1-30地点(馬淵1990)は中近世遺構面の全測図を提示したが、下層では古墳後期の土器を埋土に含むより古い時期の旧流路がさらに広がった状況で検出されている。

図1-5地点(馬淵1993)では中世基盤層が大きく削平を受けている状況で遺構検出が行われている。調査区西端で検出されている旧流路埋土内には15世紀代の出土遺物も含まれており、埋没年代はそれ以降となる。調査区南端では二階堂大路の側溝とおぼしき大溝が検出されているが、土層断面からは何度も掘り直され位置が現道側へ移動していることがわかる。出土遺物には15世紀代のものも含まれるため、かなり後世まで存続していたことが確認できる。この大溝と異なる軸方位を持つのが柱穴1であるが、出土遺物からみて13世紀前葉までにおさまる。12世紀末から13世紀前葉にかけて軸方位がずれた可能性を指摘できるに留まる。以上、図1-5・30地点の成果から、旧東御門川の川幅が鎌倉時代には現在より広がったことが推定でき、現道(旧二階堂大路か)と軸方位を異にする遺構を確認できるが、時期差の有無までは確認できない。

図1-11地点(馬淵2004)は13世紀前半までの土器が埋土に含まれるももっとも新しい河道を提示した。これより新しい時期の土器が確認されていないため、この地点の河道は13世紀前半代で埋没したことが推定できる。

図1-12地点(馬淵2014)はもっとも新しい第1河床面を提示した。これより下層は調査区全体が流路堆積層と流路埋土で構成されている。安全性に基づく掘削規制のため最下層まで検出したわけではないが、検出最下層において15世紀代の土器が出土していることから埋没時期が15世紀以降まで下ることが確認できる。図1-11・12地点の成果から、旧滑川の川幅が現在よりも広く、さらに現在の川幅と同程度まで埋められた時期が15世紀以降まで下ることが推定できる。

図1-10地点(菊川泉2001)は最下層の地山の落込ラインを提示した。調査区内では対岸が検出されおらず、東御門川の流路とも大きく軸がずれていないことから、東御門川によって削平された段丘崖面を検出した可能性もある。この落込埋土からは13世紀前葉の土器が出土していることから、埋没時期が13世紀前半以降であることが推定できる。

図1-8地点(菊川英1991)に関しては、西側調査区(トレンチⅠ)は最下層の地山面(第3面)、東側調査区(トレンチⅡ)は第1面上に盛土された土塁状遺構を提示した。土塁状遺構は現在の在銘天神社参道にほぼ平行することがわかるが、西側調査区の地山面検出の溝2は中位に段を有する二段箱掘り様の形状をなしており、東側調査区で検出された土塁状遺構とは軸方位が異なる。西側調査区の第2面では土塁状遺構にほぼ直交する溝1が検出されており、第2面と第3面で軸方位が変化したことが推定できる。第3面上包含層からは13世紀前葉の遺物、第2面上包含層からは13世紀前半代の遺物が出土しており、13世紀中葉を下限とする時期に軸方位が変化したことが推定できる。

図1-72地点(原2003)は中世基盤層(5B面)、図1-73地点(福田2000)の北側調査区(B区)は中世基盤層(5面)、南側調査区(A区)は検出面最下層の2面(北側調査区4面相当か)、図1-74地点(菊



川英1990)は第1面が大きく削平されており、検出最下層面(第1・2面)を提示した。

図1-72地点(原2003)では5A面と5B面で軸方位を同一とする箱葉研掘線の溝と柱穴列を検出し、4面で検出された柱穴列も下層の溝にほぼ直交する軸方位を示している。3面より上層では軸方位を推定できる遺構を検出していないため詳細は不明だが、少なくとも4面までは軸方位が変化していない可能性がある。4面の出土遺物は13世紀中葉までのものがほとんどとなっており、13世紀中葉まで軸方位が変化していない可能性を指摘できる

図1-73地点(福田2000)は北側調査区の中世基盤層(5面)で葉研掘の溝を検出している。1層上層の4面のピットの検出状況は5面の溝と直交するように配置されているようにも見えるが、定かではない。中世基盤層の2層上層の3面以降で検出されている溝は現道(県道金沢鎌倉線・204号)とほぼ平行する軸方位となっている。南側調査区の検出面最下層の下層堆積は地山土によって盛土された土層となっているようである。この盛土層は標高11.80mほどまで調査されているが、地山は検出されていない。

北側調査区の出土遺物は3面で13世紀第3四半期以降のものを含みつつも13世紀中葉までのものが主となっていることから、13世紀前半から中葉にかけて軸方位の変化が起こった可能性を指摘できる。南側調査区の2面までの出土遺物には13世紀中頃以降のものが含まれ、盛土が行われたのが13世紀中葉以降である可能性を指摘できる。

図1-74地点(菊川英1990)では調査区南端で現道(県道金沢鎌倉線・204号)の下に潜り込む溝1が検出されている。この他に溝1に直交する軸方位を持つ溝3、調査区北端で北側現道とほぼ平行する溝4が検出されている。出土遺物からみて、溝1は13世紀後半まで、溝3は13世紀中葉まで、溝4は13世紀中頃までを下限として存続していたと考えられる。先行調査で得られた調査区南側の地山面の標高は11.80mほどとなっている。

図1-8・72・73・74地点の調査では現況とは大きく異なる軸方位をもつ遺構が検出されており、この軸方位は13世紀中葉を中心とする時期まで存続している可能性を指摘できる。この現況と異なる軸方位に関して、むしろ図1-74地点北側道路と軸方位がほぼ同一となっていることは着目すべき事象と指摘できる。また、図1-11・12地点で検出された旧滑川河道とおぼしき流路や、図1-74地点で検出された現道(県道金沢鎌倉線・204号)の下に潜り込む溝の存在は現況と中世のとある時期までは土地利用・地割に大きな違いがあることを示唆している。翻って本調査地点の成果をみると、深度規制に伴い最下層までの調査は行われなかったが、軸方位が確認できる13世紀中葉を上限とする溝を検出している。この軸方位は図1-10地点で検出された地山の落込ラインとほぼ平行していることが確認できる。これが自然地形に合わせた土地利用のあり方を示しているか即断はできないが、狭小な調査範囲といえども事例を積み重ねることにより、自然地形に応じた土地利用、自然地形を改変した土地利用、といったものが明らかになり、現在の町のありようがどのように出来上がってきたかが少しづつ明瞭になっていくであろう。

(神元)

## 引用・参考文献(本報全体に共通)

- 赤星直忠1959『鎌倉市史 考古編』吉川弘文館
- 蘆田伊人編1998『大日本地誌大系22 新編相模國風土記稿』雄山閣
- 上本進二2000「第4節 鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『池子棧敷戸遺跡(逗子市No.100)』(仮称)医療保健センター-建設地内埋蔵文化財発掘調査団・東国歴史考古学研究所
- 神奈川県史編纂室編1971『神奈川県史 資料編1 古代・中世(1)』神奈川県史編纂室
- 神奈川県史編纂室編1975『神奈川県史 資料編3 古代・中世(3上)』神奈川県史編纂室
- 河野真知郎ほか1990「今小路西遺跡(御成小学校内)発掘調査報告書」鎌倉市教育委員会
- 菊川英政1990「横小路周辺遺跡」鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6」鎌倉市教育委員会
- 菊川英政1991「大倉幕府周辺遺跡群」鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」鎌倉市教育委員会
- 菊川泉2001「大倉幕府周辺遺跡群」鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)」鎌倉市教育委員会
- 國平健三・長谷川厚1990「宮久保遺跡Ⅲ」(神奈川県立埋蔵文化財センター15) 神奈川県立埋蔵文化財センター
- 齋木秀雄ほか2007「大倉幕府周辺遺跡群発掘調査報告書 鎌倉遺跡調査会報告書第47集」鎌倉遺跡調査会
- 鈴木茂1996「宇津宮辻子幕府跡の花粉化石」(「宇津宮辻子幕府跡」附編)『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書12(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
- 鈴木棠三・鈴木良一監修1984『神奈川県地名』平凡社
- 貫達人1971「北条氏亭址考」『金沢文庫研究紀要』第8号 神奈川県立金沢文庫
- 野口実1993「頼朝以前の鎌倉」『古代文化45』(財)古代学協会
- 原廣志2003「横小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書19』鎌倉市教育委員会
- 福田誠・菊川泉2000「横小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
- 馬淵和雄1990「大倉幕府周辺遺跡群 雪ノ下字大倉耕地569番1地点発掘調査報告書」大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団
- 馬淵和雄1993「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
- 馬淵和雄1994「武士の都 鎌倉—その成立と構想をめぐって—」『都市鎌倉と坂東の海に暮らす』(「中世の風景を読む」2) 新人物往來社
- 馬淵和雄1998「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書14(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
- 馬淵和雄1999「大倉幕府周辺遺跡群 雪ノ下四丁目620番5地点」大倉幕府周辺遺跡群発掘調査団
- 馬淵和雄2004「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
- 馬淵和雄2014「大倉幕府周辺遺跡群」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書30(第1分冊)』鎌倉市教育委員会



1-1 県道204号線(六浦路)調査地点入口より西を臨む



1-2 近景、県道204号線(六浦路)(東から)



1-3 手前・県道204号線(六浦路)、奥・調査区(南から)



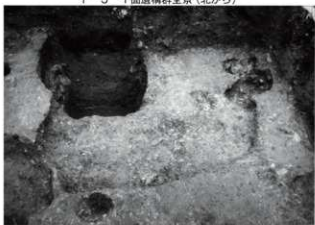
1-4 1面遺構群全景(東から)



1-5 1面遺構群全景(北から)



1-6 1面遺構群土坑2(西から)



1-7 1面遺構群土坑2・3(西から)



1-8 1面遺構群土坑3南北ベルト(西から)

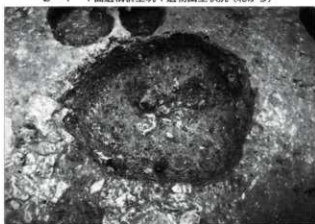




2-1 1面遺構群土坑1 遺物出土状況 (北から)



2-2 1面遺構群土坑1 東西土層断面 (北から)



2-3 1面遺構群土坑1 完掘状況 (南から)



2-4 1面遺構群P.44 (北から)



2-5 1面遺構群P.13内遺物出土状況 (南から)



2-7 2面遺構群全景 (北から)



2-6 2面遺構群全景 (東から)

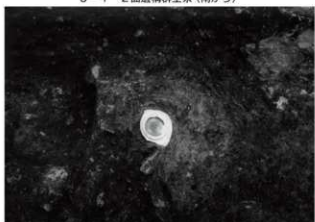
図版3



3-1 2面遺構群全景(南から)



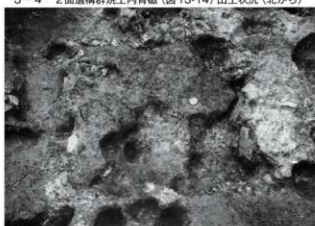
3-2 2面遺構群溝1上層(北から)



3-4 2面遺構群焼土内青磁(図13-14)出土状況(北から)



3-3 2面遺構群溝1上層(南から)



3-5 2面遺構群土坑13上層炭層(東から、遺物は図15-5)



3-6 2面遺構群土坑13完掘状況(北から)



3-7 2面遺構群土坑13完掘状況(北東から)



4-1 北壁際最終トレンチ内集石(3面)出土状況(南から)



4-2 北壁際最終トレンチ(東から)



4-3 北壁際最終トレンチ大溝内木製品出土状況(南から)



4-4 北壁際最終トレンチ大溝内木製品出土状況(南から・拡大)



4-5 北壁土層断面



5-1 北壁土層断面 (中央)



5-2 北壁土層断面 (東側)

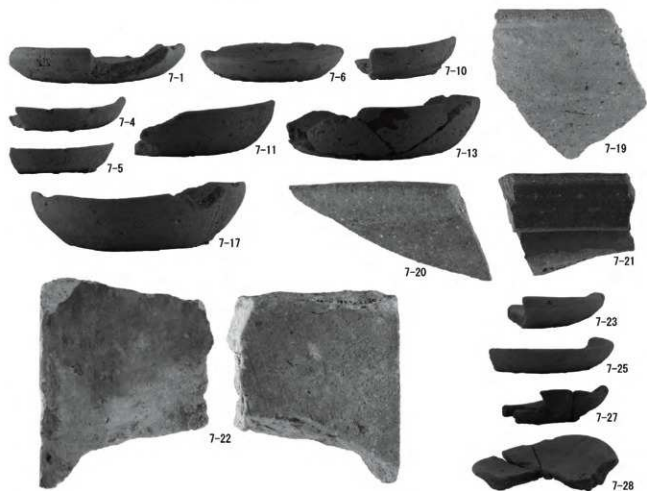
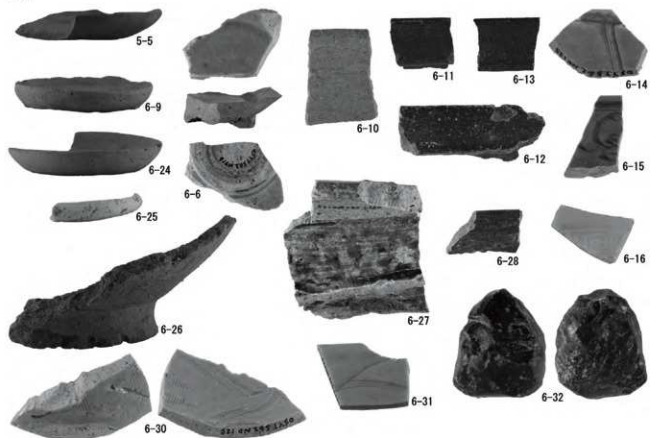


6-1 北壁土層断面(土壘状遺構と大溝)①

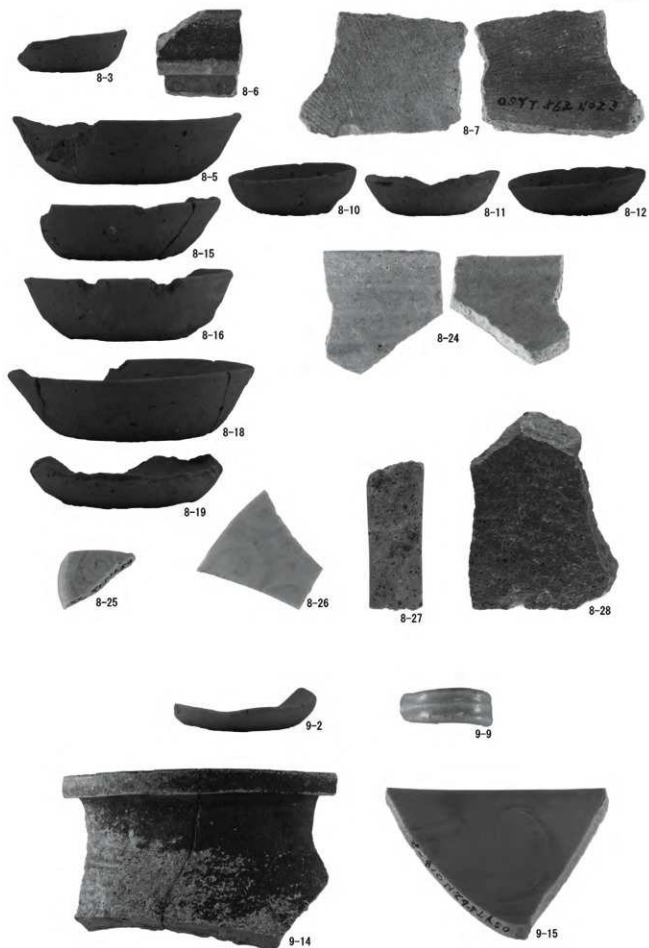


6-2 北壁土層断面(土壘状遺構と大溝)②

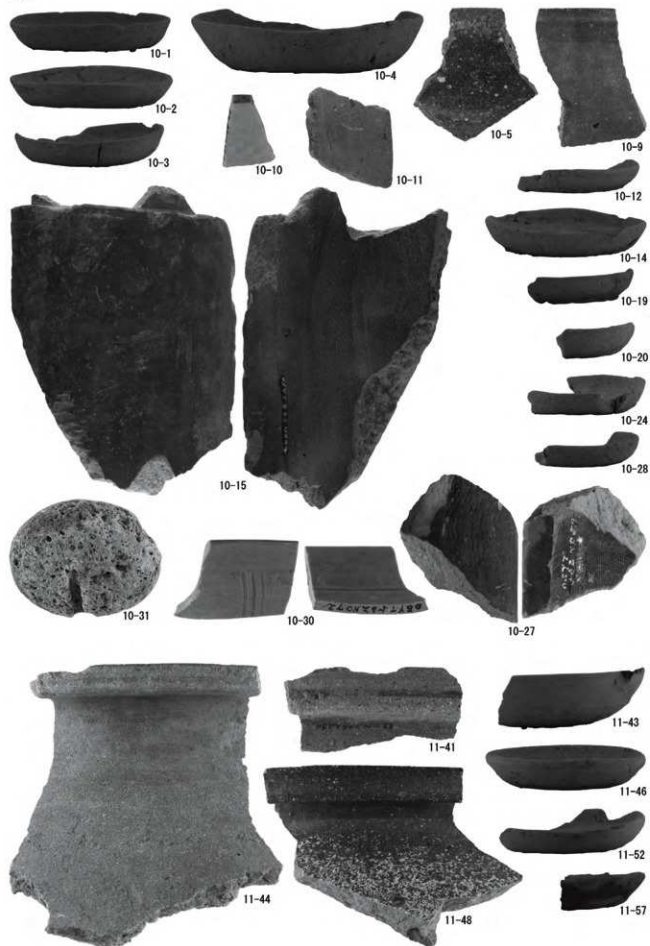
図版7



出土遺物 1

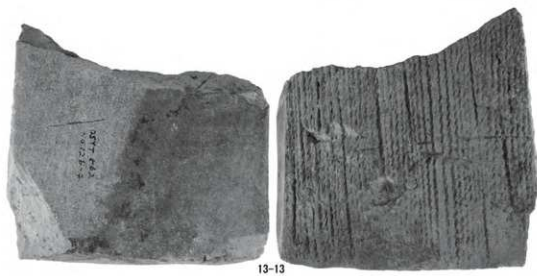
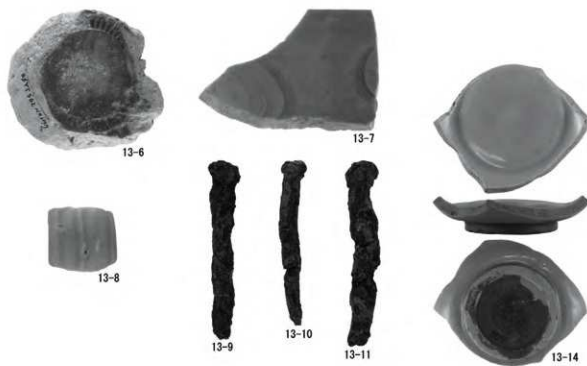


出土遺物 2

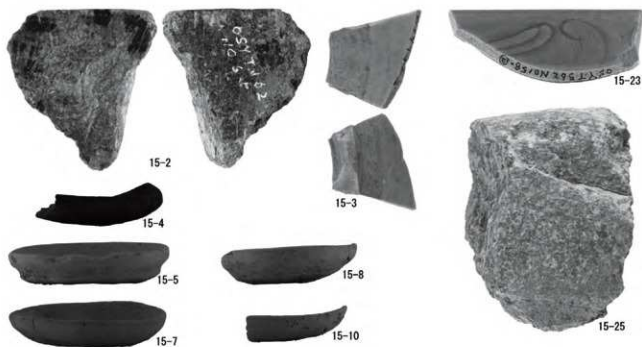
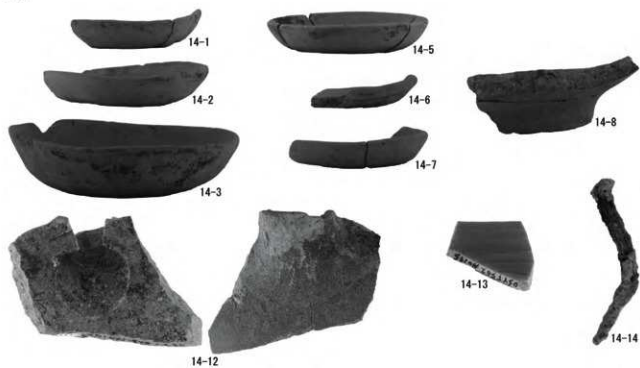


出土遺物 3

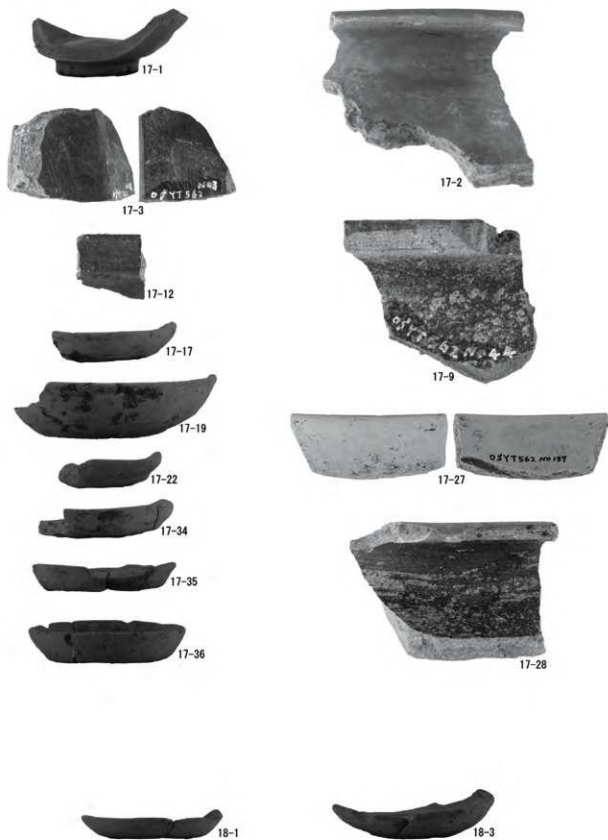




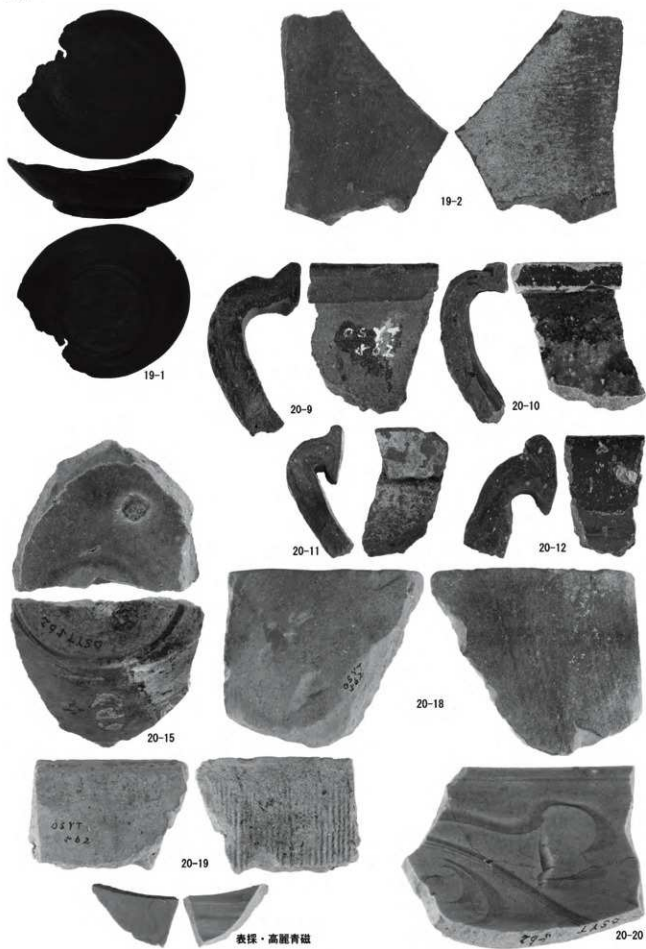
出土遺物 4



出土遺物 5



出土遺物6



表探・高麗青磁

出土遺物 7

わかみやおおじしゅうへんいせきぐん  
若宮大路周辺遺跡群 (No.242)

大町一丁目 1034 番 9 地点

## 例 言

1. 本報告は、鎌倉市大町一丁目1034番9において実施した若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市No.242）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は平成22年8月18日から同年11月5日にかけて、店舗併用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査の対象面積は、79.81㎡である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。

主任調査員 押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）  
調査員 岡田慶子、渡辺美佐子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）  
調査補助員 佐藤ななみ、椎木達哉（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）  
作業員 牛嶋道夫、中須洋二、大塚尚城、根市真古人

（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

整理作業参加者 押木弘己、遠藤綾子、佐藤千尋、吉田麻子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）  
天野隆男、串田健一、倉澤六郎、高橋こう子、高山譲二、松岡信喜

（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）

4. 本報告では世界測地系（第IX系）の国家座標軸に基づく測量成果を掲げたが、平成23年3月11日以前の測量基準点を基に測量・作図したため、座標値は東日本大震災後の地殻変動に対応した補正值となっていない。
5. 本報告の執筆と編集は、押木が行った。
6. 本報告で使用した写真は、現地・出土遺物とも押木が撮影した。
7. 本報告の作成に当たり、次の諸氏からご教示を賜った（敬称略）。  
古田土俊一（浄光明寺）・汐見一夫（鎌倉市教育委員会）
8. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「WA1006」とし、出土品への注記などに使用した。

# 目 次 本 文 目 次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	161
第二章 調査の方法と経過 .....	163
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査の方法	
第3節 調査の経過	
第三章 基本土層 .....	164
第四章 発見された遺構と遺物 .....	170
第1節 1面の遺構と遺物	
第2節 2面の遺構と遺物	
第3節 3面の遺構と遺物	
第4節 4面の遺構と遺物	
第五章 調査成果のまとめ .....	193

## 挿 図 目 次

図1 調査地の位置.....	162	図16 表土～1面 出土遺物②.....	182
図2 調査区配置図.....	163	図17 1面遺構 出土遺物①.....	183
図3 調査区セクション図①.....	165	図18 1面遺構 出土遺物②.....	184
図4 調査区セクション図②.....	167	図19 1面下～2面 出土遺物①.....	185
図5 調査区セクション図③ .....	169	図20 1面下～2面 出土遺物②.....	186
図6 1面全体図.....	171	図21 2面遺構 出土遺物①.....	187
図7 1面個別遺構図.....	172	図22 2面遺構 出土遺物②.....	188
図8 2面全体図.....	173	図23 2面遺構130・138 出土遺物.....	189
図9 2面個別遺構図①.....	174	図24 2面下～3面 出土遺物.....	190
図10 2面個別遺構図②.....	175	図25 3面遺構 出土遺物.....	191
図11 3面全体図.....	177	図26 3面道1c下～4面(地山面)	
図12 3面個別遺構図.....	178	・3面遺構18 出土遺物.....	192
図13 4面全体図.....	179	図27 3面下～4面(地山面)	
図14 4面個別遺構図.....	180	・4面遺構 出土遺物.....	192
図15 表土～1面 出土遺物①.....	181	図28 線刻画(階調反転).....	194

## 表 目 次

表1 出土遺物観察表.....195	表2 出土遺物カウント表・計量表.....204
--------------------	--------------------------

## 図 版 目 次

図版1 .....233	図版4 .....236
1. 現地調査前(南から)	1. III区第2面 遺構130(北東から)
2. 表土掘削作業(北東から)	2. 遺構130底面清掃作業(北から)
3. I区第1面 (南西から・○印は線刻硯の出土位置)	3. III区第2面 遺構130・138断面(西から)
4. 第1面 遺構10線刻硯出土状況	4. 遺構130床下埋塞(南西から)
5. I区第4面(北東から)	5. III区第2面 清掃作業(北から)
6. 第3面 遺構18(第4面検出時、南西から)	図版5 .....237
7. I区南壁断面(北東から)	1. III区第2面 遺構138(北西から)
8. I区地山砂質土面(東から)	2. 遺構138断面(南西から)
図版2 .....234	3. 遺構138断面(北東から)
1. II区第1面(北東から)	4. 遺構138床下土坑(南西から)
2. II区第1面 道路1a(北東から)	5. III区第4面(北東から)
3. 道路1a路盤内遺物出土状況	図版6 .....238
4. 道路1a～1b掘り下げ時断面(南西から)	1. 第2面道路1b(北東から)
5. II区第1・2面 道路1a・ 遺構10断面(南西から)	2. 第2面道路1b路面上貝砂
6. II区第2面(北東から)	3. 地山砂中の貝層
7. II区第2面 道路1b(北東から)	4. 道路1c下～地山面 断面(南西から)
図版3 .....235	5. 道路1a～地山面 調査区北壁断面(南西から)
1. II区第3面(北東から)	6. III区 道路1下第4面(北東から)
2. II区第4面(北東から)	7. 第4面 遺構160断面(南西から)
3. II区第4面(東から)	8. 第4面 遺構160(南東から)
4. II区第4面 遺構18(南西から)	図版7～10 出土遺物.....239
5. II区地山砂質土面(北東から)	
6. III区第1面(北東から)	
7. III区第2面(北東から)	
8. III区第2面 遺構130・138断面(南西から)	

### 凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2. 本書中に記載した国土座標値は、世界測地系(第IX系:東日本大震災後の補正前)に基づいている。
3. 挿図に示した方位標は座標北(Y軸)で、真北はこれより0° 09' 25"ほど東に振れている。
4. 遺構挿図中の水糸高は、海拔値を示す。



## 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

本地点は若宮大路の東側に位置し、下馬交差点から至近の位置にある。かつて若宮大路には上・中・下3本の「下馬橋」が懸かっていたといい、現在の下馬交差点付近には下の下馬橋が存在していたと考えられている。ちなみに、上・下馬橋は鶴岡八幡宮社頭の赤橋に比定、中の橋は二の鳥居前に存在したとする理解が一般的である。下馬は社寺や貴人への敬意や礼節を表す行為であり、八幡宮への参詣道たる若宮大路の性格を象徴的に表す名称といえる。

「下の下馬」は、若宮大路と笹目から名越方面へと通じる東西道路（大町大路）とが交差する場所に位置しており、『吾妻鏡』建保元年（1213）五月二日条は、この東側が「若宮大路米町口」と呼ばれていたことを伝えてくれる。また、建長三年（1251）十二月三日条と文永二年（1265）三月五日条からは幕府が鎌倉中での商業活動を七地区に限定許可したことが知られるが、この中には大町や米町（穀町）・小町など当地付近の地名も多く含まれている。こうした史料上の記載を裏付けるものか、周辺の発掘調査では手工業生産との関わりを示す知見も得られており、商行為に付随する生産（職能）活動がこの地域一帯で行われていた状況を想起させる。その一方で、『吾妻鏡』などからは当地付近に御家人屋敷も少なからず存在していた様子が窺える。本地点とは距離的にやや隔たりがあるが、米町遺跡の一地点では鎌倉時代の寺院または武家屋敷としての様相が確認されており、本地区が庶民の居住・生業一辺倒の場ではなかったことが発掘成果によっても追認されている。周辺の発掘調査では、破碎泥岩を用いた道路跡が随所で発見されているが、こうした大小規模の道路が鎌倉の交通機能とともに土地区画の役割も担っていたことは容易に推察できる。そして道路や溝、塀によって細分された区画ごとには庶民活動・居住の場としての町屋と武家屋敷あるいは寺院の混在する都市景観が鎌倉時代を通じて形づくられていったのだろう。

本地区の町屋としての賑わいは、中世後期になっても続いたようである。相模原市津久井の光明寺に残る明応六年（1497）七月二十五日付「善法（宝）寺分年買注文」は、大町地区の米町や中座に青物屋、紙屋、塗師、銀細工などの商工業者が存在したことを伝えており、同時期の製作と考えられる「善寶寺寺地区」は、本地点付近の様子を詳細に描写している。それによれば、「置石」（段葛）の東側に滑川を渡る橋（延命寺橋）と民屋と思しき家並が続き、そこに「米町」と注記されている。その北に「善寶寺之地」と記された長方形の区画が見え、本地点もこの区画内に位置したと考えられる。「善寶寺之内」は滑川を挟んだ北岸にも広がっており、同寺が北は本覚寺、西は若宮大路、南は大町大路、東は小町大路によって画された広大な寺域を保有していたことが分かる。このうち善寶寺は廃寺となり、善昌寺（廃寺）を経て江戸前期の延宝六年（1678）には材木座光明寺境内にあった教恩寺が移され現在に至っている。

現在、鎌倉の市街地を貫く滑川は本地点の北で扇川と合流し、佐助川など丘陵部の谷戸に端を発する小流もこの周辺に集まっている。このことから分かるように、下馬交差点の付近は鎌倉の沖積平野においても一際低い土地となっている。本地点は海拔6.5mの微高地上に立地し、現況で下馬交差点より2.7mほど高い（図1）。こうした土地条件のため本地点の地下水位は低く、故に木材などの有機質遺物は殆ど遺存していなかった。

中世の基盤層となる黒褐色粘質土は海拔5.2m前後で確認され、南と西に向けて僅かに下がっていく状況が見て取れた。これ以下の堆積は明褐色の砂質土～砂層へと漸移していき、海拔3.8mで貝殻粒を多量に含む黄褐色砂層の堆積を確認した。約6000年前とされる、縄文時代前期の最海進時に形成されたものであろう。

【参考文献は第5章末（194頁）に掲載した】



図1 調査地の位置

## 第二章 調査の方法と経過

### 第1節 調査に至る経緯

本発掘調査は店舗併用住宅の建設に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会（市教委）が実施した。建築計画では基礎工事として現地地表下3.5mまでの柱状改良を施すことから、市教委は平成22年1月19日と20日の二日間にわたって埋蔵文化財の確認調査を実施した。この結果、地表下50cmで中世の遺物包含層が検出され、地表下80cm、104cm、118cm、150cmでも中世遺構面と思しき堆積層が確認された。さらに下位にも中世遺構の存在を予測させる結果が得られたことから、建築計画の実施に先立ち本格的な発掘調査を実施する必要があるとの判断に至った。

以上の手続きを経て、平成22年8月18日～11月5日の約2ヶ月半をかけて現地での調査を実施した。

### 第2節 調査の方法

重機による表土除去後、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から79.81㎡の範囲を三分割して調査を進めた（図2）。Ⅱ区西端部で遺存状態の良好な南北道路遺構が確認できたことから、道路幅などの全体像を視覚的に捉えるべく、続くⅢ区に着手するまで同遺構を残すこととした。

今回は大きく4枚の中世遺構面を確認したが、各区とも中世基盤層上の第4面の調査まで終えた後、同基盤層である黒褐色粘質土層から暗黄灰色砂質土上面まで掘り下げて古代以前の遺構・遺物について確認を試みた。その結果、いずれの調査区でも遺構・遺物の検出には及ばなかった。

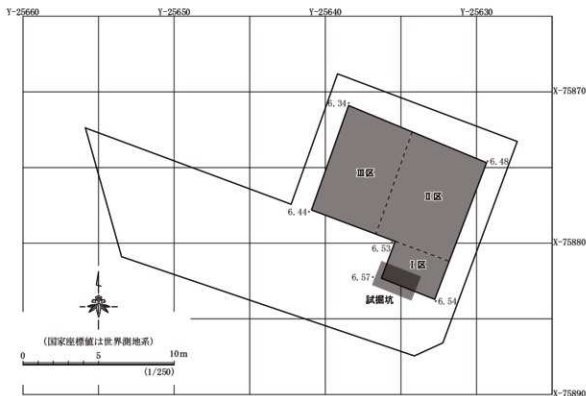


図2 調査区配置図

各調査区とも遺物包含層以下は全て人力によって掘削し、順次下層遺構面への掘り下げと遺構掘削、および写真撮影・測量図作成といった記録作業を進めた。測量に当たっては国家座標系に基づく基準軸を設定し、主に光波測距儀を用いて平面図の作図を行った。座標移動は市道上に設置された鎌倉市4級基準点「D01U129」と「D01U130」の座標値を国土地理院発行のweb版「TKY2JGD」で世界測地系（第IX系）に変換した後、二点間関係をもとに開放トラバース法によって行った。なお、図2に示した座標値は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災後の補正値とはなっていない。

### 第3節 調査の経過

前述のとおり、本地点の調査は平成22年8月18日に開始した。Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ区の順に調査を進め、Ⅰ区は9月6日に、Ⅱ区は10月7日に、Ⅲ区は11月4日に調査を終えた。11月5日には調査用具を撤収し、現地での調査工程を全て終了した。

出土品などの整理作業は、平成26年度末に遺物実測に着手し、27年度前半には挿図および写真図版の作成、次いで表組みの作成・本文執筆へと作業を進めた。これら一連の整理作業は、鎌倉市文化財課分室で行った。

## 第三章 基本土層

中世の遺構群は海拔5.2m前後の黒褐色粘質土上面を基盤とし、盛土造成と竪穴建物・土坑等の掘削を繰り返しながら形成されていた。中世基盤層上の4面から標高6.1m付近の1面まで、大きく4枚の遺構面が確認できた。造成土および遺構覆土は暗褐色砂質土がベースで、これに泥岩のブロックや粒子が多く含まれる。黒褐色粘質土を取り除いた標高4.8m前後では暗黄灰色砂質土の堆積が確認された。今回の調査ではこれより下位への掘削は行わなかったが、中世竪穴建物の掘り方壁面では貝殻粒を多く含む黄褐色砂層が確認されている。貝殻の粒径や含有量の違いによる間層も見受けられ、それらは概ね南へ向けて緩やかに下がっていた。地質学的裏付けをもたないが、おそらく縄文海進に伴い形成された砂層ではないかと考えている。

次章でも述べるように、本地点では調査区の中央を南北に縦貫する中世の道路遺構が連続と築かれていたが、これを挟んだ東西で検出遺構の形態が大きく異なり、道路以東は土坑や井戸を主体とし、以西では竪穴建物が繰り返し構築されていた。このため、調査区全域を通じて遺構面の把握が困難であった中、道路以東では竪穴建物の重複によって1面以下、中世基盤層までの間に明確な生活面を見出すことはできなかった。こうした理由から、現地では竪穴建物群について3面遺構と捉えていたが、土層断面や遺構間の切り合い関係を検討した結果、本報告では2面段階の遺構と判断した。これに伴い、調査時に1面下や2面として記録した遺構についても、実際には1面より下位にあることが明らかであっても本報告で1面遺構に集約したものがある。土層断面および遺構間の切り合いに基づく扇面図の変更は、道路以西の遺構についても行っているが、膨しい数の遺構を4時期に大別した結果であるので、各面は厳密に同時期の遺構だけで構成されたものではなく、多少の混乱を残している。

調査区壁等の土層断面については、図3～5を参照されたい。

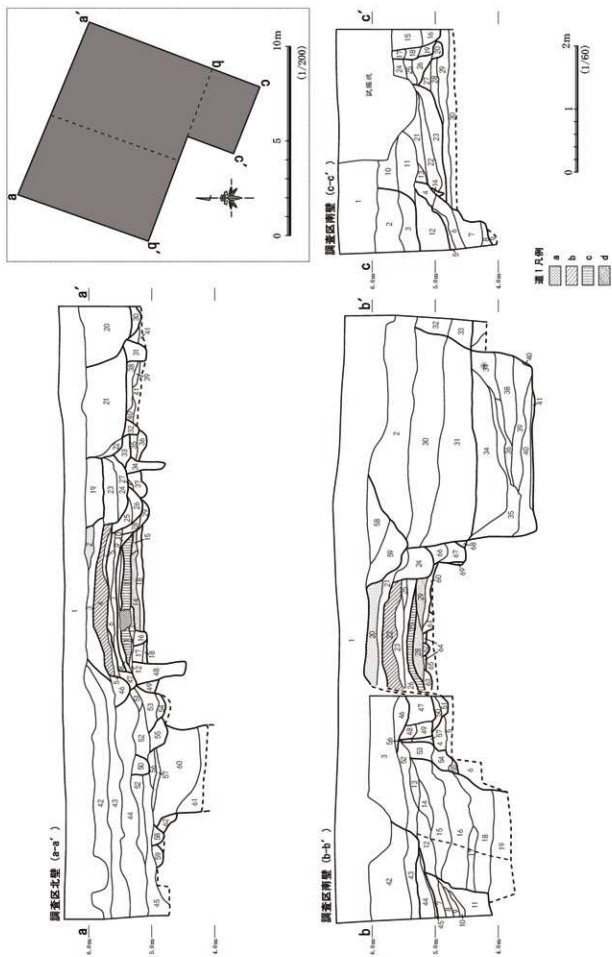


図3 調査区セクション図①

## 調査区北壁 (a-a') 土層説明

1. 暗灰褐色土 表土。砂質土でコンクリート片など混入。
2. 暗褐色土 砂質土。泥岩ブロック多量。
3. 暗褐色土 砂質土。2層より泥岩ブロック少ない。
4. 黄灰色土 大型泥岩による道路整地層。
5. 灰褐色土 砂質土。これに泥岩ブロックを入れて4層を構築。
6. 黄灰色土 泥岩粒による道路整地層。上面に泥貝殻の薄層。
7. 暗灰褐色土 砂質土。
8. 黄灰色土 砂質土に泥岩粒と泥貝殻を混入した整地層。
9. 暗灰褐色土 砂質土。
10. 暗灰褐色土 砂質土。泥岩粒少量。
11. 褐色砂 中粗砂。締まりややあり。
12. 黒色土 粘質土ベース。灰色砂少量。
13. 灰褐色砂 貝殻片ごく微量。締まり弱い。
14. 黄灰褐色砂 貝殻片多量泥岩粒少量。
15. 暗灰褐色土 砂質土。上面に泥貝殻を挟む。締まり非常に強い。
16. 灰褐色砂 締まり弱い。
17. 灰褐色砂 細砂。締まり強い。
18. 暗黄灰褐色砂 細砂。酸化のため非常に締まり強い。泥粒ごく微量。

## その他

19. 暗褐色土 2層より泥岩ブロック減る。
20. 暗褐色土 泥岩ブロック多量。締まり弱い。
21. 暗褐色土 泥岩粒やや多い。締まりあり。
22. 暗黄褐色砂 泥岩ブロックやや多い。
23. 灰褐色土 泥岩粒多量。締まり弱い。
24. 灰褐色土 砂質土。泥岩粒少量。
25. 暗灰褐色土 砂質土。泥岩粒少量。
26. 暗褐色土 泥岩ブロック多い。
27. 灰褐色土 砂質土。
28. 暗灰褐色土 砂質土。泥岩ブロック少量。
29. 暗灰褐色土 砂質土。泥岩ブロックやや多い。
30. 暗黄褐色土 砂質土。泥岩粒少量。
31. 暗褐色土 泥岩粒少量。粘性ややあり。
32. 暗褐色土 泥岩粒少量。粘性ややあり。
33. 暗黄褐色土 砂質土。泥岩粒少量。
34. 暗褐色土 粘質土。泥岩粒、黄色砂少量。
35. 暗黄褐色土 砂質土。泥岩粒少量。締まり弱い。
36. 黄灰色褐色土 砂質土。3層より泥岩減る。締まり弱い。
37. 暗灰褐色土 粘質土。黄灰色砂を多く含む。
38. 暗褐色土 灰化物多量。締まり弱い。
39. 暗褐色土 粘質土。泥岩粒少量。
40. 暗褐色土 粘質土。黄色砂、泥岩粒少量。
41. 黄褐色砂 均質な微細砂。
42. 暗褐色土 泥岩粒少量。締まりあり。
43. 暗褐色土 泥岩粒少量。
44. 暗褐色土 泥岩粒多量。締まり、粘性あり。
45. 暗褐色土 砂質土。泥岩粒ごく微量。
46. 暗褐色土 泥岩粒少量。
47. 暗褐色土 泥岩粒ごく微量。締まり、粘性ややあり。
48. 暗褐色土 砂質土。
49. 黒褐色土 粘質土ベース。泥岩粒ごく微量。
50. 暗褐色土 泥岩粒多量。
51. 暗褐色土 砂質土。
52. 暗褐色土 砂質土。泥岩粒ごく微量。
53. 黒褐色土 粘質土ベース。砂粒少量。
54. 黒褐色土 粘質土ベース。56層より砂粒減る。
55. 黒褐色土 粘質土ベース。砂粒少量。
56. 黒褐色土 粘質土ベース。泥貝殻砂粒少量。
57. 暗黄褐色砂 泥貝殻砂。
58. 暗褐色土 粘質土ベース。砂粒、泥岩粒ごく微量。
59. 黒褐色土 粘質土。締まり弱い。
60. 暗褐色土 砂質土。粘性ややあり。泥岩粒少量。
61. 黄褐色砂 粗砂。
62. 暗褐色土 粘質土+砂。泥岩粒ごく微量。

## 調査区南壁 (b-b') 土層説明

1. 暗灰褐色土 表土。砂質土でコンクリート片など混入。
2. 黒色土 粘質土ベース+泥。締まり、粘性あり。西壁8層。
3. 暗褐色土 泥岩粒。泥岩多量。
4. 黒灰褐色土 粘質土ベース+砂粒少量。
5. 暗黄灰色土 粘質土。
6. 黄灰色砂 粘質土が泥文粒に混入。

## 連続 14-17

7. 暗褐色土 砂質土。泥岩粒多い。
8. 暗褐色土 砂質土。泥岩粒多い。
9. 暗褐色土 泥岩粒多量。
10. 暗灰褐色土 砂質土。泥岩粒多い。
11. 暗灰褐色土 泥岩粒。泥岩少量。

## 連続 18

12. 暗褐色土 泥岩粒少量。締まりあり。
13. 暗褐色土 泥岩粒少量。
14. 暗褐色土 泥岩粒やや多い。
15. 暗褐色土 泥岩粒。泥岩少量。
16. 暗褐色土 泥岩粒少量。泥岩粒やや多い。
17. 暗褐色土 泥岩粒少量。粘性ややあり。
18. 暗褐色土 泥岩粒。泥岩粒少量。
19. 暗褐色土 泥岩粒。泥岩、貝殻片少量。

## 連続 1a~1d

20. 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
21. 暗褐色土 砂質土。締まり弱い。
22. 黄褐色土 泥岩ブロックによる整地層。
23. 暗褐色土 砂質土。貝殻片少量。
24. 暗褐色土 泥岩ブロック多量。道1b側溝
25. 黒褐色土 砂質土。泥岩多量。貝殻片少量。
26. 黒褐色土 砂質土。泥岩多量。
27. 暗褐色土 泥岩粒少量。貝殻片多量。締まり非常に強い。
28. 暗褐色土 砂質土。貝殻片少量。締まり強い。
29. 暗褐色土 砂質土。泥岩粒、貝殻片少量。締まり強い。

## 連続 131

30. 暗褐色土 泥岩ブロックやや多い。
31. 暗褐色土 泥岩ブロック。貝殻片多量。
32. 暗褐色土 泥岩粒少量。西壁31層。
33. 暗褐色土 泥岩粒やや多い。西壁33層。
34. 暗褐色土 砂質土。貝殻片少量。締まり、粘性ややあり。
35. 黒褐色土 粘質土。泥岩粒ごく微量。締まりあり。
36. 暗黄褐色土 砂質土。
37. 暗褐色土 粘質土ベース。黄色砂、貝殻片ごく微量。締まりあり。
38. 暗褐色土 粘質土ベース+黄色砂を泥文粒。締まり、粘性あり。
39. 暗褐色土 粘質土ベース。黄色砂混入。締まり、粘性あり。
40. 暗黄褐色砂 濡った泥貝殻ベース。部分的に深い泥層を挟む。
41. 黒色土 粘質土ベース。泥岩混入。締まり、粘性あり。

## その他

42. 暗褐色土 泥岩粒。泥岩多量。
43. 暗褐色土 粘質土。泥岩粒多量。
44. 暗褐色土 粘質土。泥岩粒多量。
45. 灰褐色土 粘質土。締まり弱い。
46. 黄褐色土 砂質土。泥岩ブロック少量。
47. 黄褐色土 砂質土+灰色粘質土の混交土。
48. 黄褐色砂 砂粒少量。
49. 暗黄褐色土 砂質土+粘質土少量。
50. 黄褐色土 泥岩ブロック多量。
51. 暗褐色土 泥岩粒少量。
52. 暗褐色土 泥岩粒少量。
53. 暗褐色土 砂質土+粘質土の混交土。
54. 黄褐色土 粘質土ベース。砂粒少量。
55. 暗黄褐色土 砂質土+粘質土少量。
56. 黄褐色土 砂質土+粘質土少量。
57. 暗褐色土 泥岩ブロック少量。締まり弱い。道1a側溝
58. 暗褐色土 56層より泥岩ブロック減り。締まり弱い。道1a側溝
59. 暗褐色土 粘質土ベース+砂。締まりあり。
60. 黒褐色土 砂質土。泥岩粒ごく微量。
61. 暗褐色土 粘質土+砂少量。
62. 黒褐色土 粘質土+砂少量。
63. 暗褐色土 砂質土。
64. 暗褐色土 砂質土。締まり非常に強い。道路面の可能性あり。
65. 黒褐色土 粘質土。中世基盤層。北壁44層。
66. 暗褐色土 粘質土ベース+砂。泥岩粒、貝殻片少量。
67. 暗褐色土 粘質土ベース+砂。泥岩粒少量、泥岩粒多量。66層より締まり、粘性強い。
68. 暗褐色土 粘質土ベース。泥岩粒ごく微量。67層より締まり強い。
69. 黒褐色土 粘質土主体。砂粒、泥岩粒ごく微量。

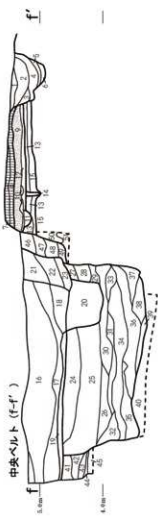
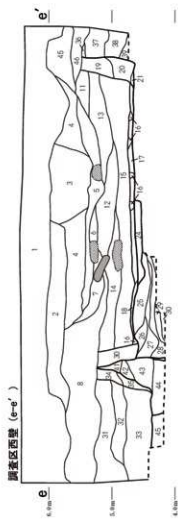
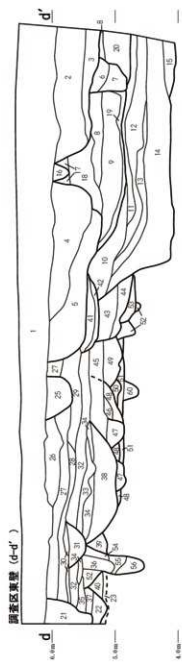
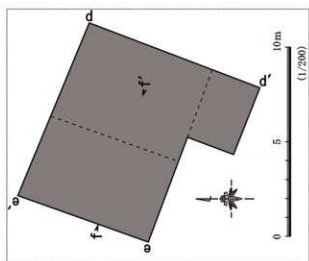


図4 調査区セクション図②

**調査区南壁 (c-c') 土層説明**

1. 暗灰褐色土 表土。砂質土でコンクリート片など混入。
- 透構 3**
2. 暗褐色土 泥岩粒、炭粒少量。締まりややあり、粘性なし。
3. 暗褐色土 2層より泥岩粒少ない。
- 透構 14-17**
5. 暗褐色土 砂質土。炭粒多い。東壁 11層。
6. 暗褐色土 泥岩粒多い。東壁 12層。
7. 暗灰褐色土 泥岩粒、炭粒少量。東壁 14層。
8. 暗褐色土 泥岩粒少量。炭粒、貝殻片少量。東壁 15層。
9. 黄褐色砂 自然堆積層。
- その他**
- 10.
- 11.
- 12.
13. 暗褐色土 泥岩粒少量。締まりあり。
14. 暗褐色土 やや砂質。泥岩粒少量。
15. 暗黄褐色土 泥岩粒、砂粒少量。
16. 暗黄褐色土 泥岩粒、砂粒少量。
17. 暗黄褐色土 泥岩粒、砂粒少量。
18. 暗褐色土 炭粒少量。粘性ややあり。
19. 暗黄褐色土 炭粒、貝殻片やや多い。
20. 暗褐色土 泥岩ブロック少量。粘性ややあり。
21. 黄褐色砂 粘質土が塊状混入。炭粒少量。
22. 暗褐色土 泥岩粒、砂粒、炭粒少量。粘性ややあり。
23. 暗褐色土 泥岩粒少量。粘質土ブロック混入。
24. 暗黄褐色土 砂質土。泥岩ブロック少量。
25. 暗黄褐色土 24層より砂粒少ない。泥岩粒少量。
26. 灰褐色土 砂質土。炭粒少量。
- 27.
28. 暗灰褐色土 粘質土ベース。砂粒、炭粒少量。
29. 黒灰色土 粘質土。砂粒少量。
30. 暗黄褐色土 粘質土。

**調査区東壁 (d-d') 土層説明**

1. 暗灰褐色土 表土。砂質土でコンクリート片など混入。
- 透構 3**
2. 暗褐色土 泥岩粒、炭粒少量。締まりややあり、粘性なし。
3. 暗褐色土 2層より泥岩粒少ない。
- 透構 11**
4. 暗褐色土 泥岩粒、炭粒多量。締まりややあり、粘性なし。
5. 暗褐色土 2層より泥岩粒少ない。
- 透構 13**
6. 暗褐色土 泥岩粒、炭粒少量。締まりややあり。
7. 暗褐色土 6層より泥岩粒、炭粒減る。
- 透構 15-16**
8. 暗褐色土 泥岩粒少量。炭粒少量。
9. 暗褐色土 泥岩粒やや多い。炭粒少量。
- 透構 14-17**
10. 暗褐色土 砂質土。炭粒多い。
11. 暗褐色土 砂質土。炭粒多い。
12. 暗褐色土 泥岩粒多い。
13. 暗灰褐色土 砂質土。炭粒少量。
14. 暗灰褐色土 泥岩粒、炭粒少量。
15. 暗褐色土 泥岩粒少量。炭粒、貝殻片少量。
- その他**
16. 暗褐色土 泥岩粒、炭粒多量。締まりややあり、粘性なし。
17. 灰褐色土 砂質土。泥岩粒少量。
18. 灰褐色砂 炭粒少量。締まりややあり。
19. 灰褐色土 粘質土。締まり弱い。
20. 暗褐色土 砂質土。泥岩粒、炭粒少量。
21. 暗褐色土 泥岩ブロック多量。締まり弱い。北壁 22層。
22. 暗黄褐色土 砂質土。炭粒少量。北壁 32層。
23. 黄褐色砂 均質な微細層。北壁 43層。
24. 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
25. 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
26. 暗褐色土 泥岩粒多量。締まりあり。
27. 暗灰褐色土 砂質土。泥岩粒少量。
28. 暗褐色土 泥岩粒やや多い。締まりややあり。
29. 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
30. 暗黄褐色土 泥岩粒、黄色砂多い。締まりややあり。
31. 暗褐色土 泥岩粒少量。
32. 暗褐色土 泥岩粒少量。締まりややあり。
33. 暗褐色土 粘性ややあり。
34. 暗褐色土 泥岩粒少量。
35. 暗褐色土 砂質土。
36. 暗褐色土 泥岩粒、炭粒少量。

37. 暗褐色土 泥岩粒少量。粘性ややあり。
38. 暗褐色土 泥岩粒少量。
39. 暗褐色土 砂質土。
40. 暗褐色土 砂質土。
41. 暗褐色土 泥岩ブロック少量。
42. 暗灰褐色土 粘質土。
43. 暗褐色土 泥岩粒やや多い。
44. 暗褐色土 泥岩粒少量。
45. 暗褐色土 泥岩粒少量。
46. 暗褐色土 泥岩粒多量。締まりあり。
47. 暗黄褐色土 粘質土と黄灰色砂の混交土。
48. 暗黄褐色土 47層より黄灰色砂減る。炭粒少量。
49. 暗褐色土 砂質土。泥岩粒、炭粒少量。
50. 暗褐色土 砂質土。粘性ややあり、締まり弱い。
51. 暗褐色土 締まりややあり。
52. 黒灰色土 ベース・黄灰色砂。粘性ややあり、締まり弱い。
53. 暗褐色土 泥岩粒、黄灰色砂ブロック少量。
54. 暗褐色土 泥岩粒少量。
55. 暗褐色土 砂質土。粘性ややあり、締まり弱い。
56. 黒灰色土 黄灰色砂少量。粘性あり、締まり弱い。

**調査区西壁 (e-e') 土層説明**

1. 暗灰褐色土 表土。砂質土でコンクリート片など混入。
2. 暗褐色土 泥岩粒少量。締まり弱い。
3. 暗褐色土 泥岩ブロック多量。
4. 暗褐色土 泥岩粒少量。
5. 暗褐色土 泥岩粒少量。炭粒少量。
6. 暗褐色土 泥岩粒少量。炭粒やや多い。
7. 暗褐色土 泥岩粒少量。部分的に炭粒多い。
8. 暗褐色土 泥岩粒少量。締まりあり。
9. 暗褐色土 泥岩粒少量。締まりあり。北壁 45層。
10. 暗褐色土 泥岩粒少量。北壁 46層。
- 透構 130**
11. 暗褐色土 泥岩粒やや多い。
12. 暗褐色土 泥岩ブロック多量。炭粒やや多い。
13. 暗褐色土 泥岩ブロック少量。
14. 暗褐色土 貝殻片、泥岩粒多い。中央-北土 16層。
15. 黒褐色土 14層より貝殻片、泥岩粒減る。中央-北土 17層。
16. 暗褐色土 締まり弱く粘性ややあり。透構 130 根太板。
17. 暗褐色土 砂質土。
18. 灰褐色砂 締まりややあり。貝殻粒、炭粒少量。中央-北土 19層。
19. 暗褐色土 泥岩粒少量。
20. 暗褐色土 砂質土。泥岩粒少量。
21. 暗褐色土 泥岩粒やや多い。締まりあり。
22. 暗褐色土 粘性ややあり。
23. 暗褐色土 泥岩粒少量。
- 透構 130下**
24. 黒褐色土 粘質土ベース。微量の灰色砂が塊状混入。
25. 暗褐色土 粘性ややあり。泥岩粒、炭粒少量。
26. 暗褐色土 粘質土ベース。黄色砂と泥岩粒ごく微量。
27. 暗褐色土 25層よりやや明るく、灰色砂を均質に含む。
28. 暗褐色土
29. 黄褐色砂 細砂。締まり弱い。
30. 暗褐色土 粗砂と泥目砂の混交土。締まりあり。
- 透構 131西**
31. 暗褐色土 泥岩粒少量。南壁 32層。
32. 暗褐色土 泥岩粒、貝殻片多い。
33. 暗褐色土 泥岩粒やや多い。南壁 33層。
34. 暗褐色土 砂質土。締まり弱い。
35. 暗褐色土 泥岩粒少量。
- その他**
36. 暗黄褐色土 黄色砂ベース。締まりややあり。
37. 暗褐色土 泥岩粒多量。締まり、粘性あり。北壁 47層。
38. 暗褐色土 砂質土。泥岩粒ごく微量。北壁 48層。
39. 黒褐色土 粘質土。中世基盤層。北壁 44層。
40. 黒褐色土 中世基盤層。北壁 44層。
41. 暗褐色土 砂質土。
42. 暗褐色土 微細な貝殻片多い。
43. 黒褐色土 粘質土ベース。砂粒、泥岩粒ごく微量。
44. 黒褐色土 粘質土ベース。
45. 暗褐色土 粘質土ベース。砂粒、泥岩粒少量。貝殻片。
46. 灰黄褐色砂 自然堆積層。



中央ベルト (f-f') 土層説明

遺構 1-10

1. 灰褐色土 砂主体、泥岩粒少量。
2. 暗褐色砂 黄色砂+粘質土。炭粒、泥岩粒少量。
3. 暗褐色砂 2層より黄色砂が多い。
4. 暗褐色土 泥岩ブロック多い。炭粒、黄色砂少量。
5. 灰褐色砂 細砂+粘質土。締まり強い。
6. 灰褐色土 粘質土ベース+細砂。底面に黄色砂の薄層あり。

遺 1c

7. 灰褐色砂 貝殻片を含む海砂。締まり強い。
8. 黄褐色砂 海砂をベースに泥岩粒少量含む。

遺 1d

9. 灰褐色砂 上面に貝殻片、泥岩粒多い。締まり強い。

遺 1d下部

10. 黒褐色土 中世基盤層の粘質土がベース。砂少量。
11. 灰褐色砂 炭粒、貝殻片少量。締まり弱い。
12. 灰褐色砂 貝殻片多い。締まりややあり。
13. 暗褐色砂 細砂。酸化のため締まり非常に強い。
14. 暗褐色砂 炭粒少量。締まり弱い。
15. 暗褐色砂 細砂。13層に比べて締まり弱く明るい。

遺構 130

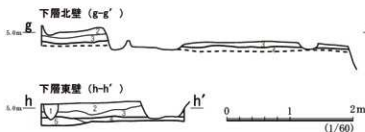
16. 暗褐色土 貝殻片、泥岩粒多い。
17. 黒褐色土 1層より貝殻片、泥岩粒減る。
18. 暗褐色土 灰褐色砂が塊文状に入る。泥岩粒少量。
19. 灰褐色砂 締まりややあり。貝殻粒。炭粒少量。
20. 暗褐色土 粘質土多い。根元變土状。
21. 暗褐色土 泥岩粒少量。
22. 灰褐色砂 貝殻片少量。
23. 暗褐色土 灰褐色が均質に入る。炭粒少量。

遺構 138

24. 暗褐色土 灰褐色を均質に含む。泥岩粒微量。
25. 暗褐色土 24層よりやや明るい。
26. 暗褐色土 貝殻片多い。
27. 黒色土 粘質土ベース。
28. 暗褐色土 泥岩粒。炭粒微量。
29. 暗褐色土 黄色砂を均質に含む。締まりあり。
30. 暗褐色土 泥岩粒多い。砂混入。
31. 暗褐色土 粘性あり。貝殻片、砂粒少量。
32. 暗褐色土 粘性あり。締まり弱い。
33. 黄褐色砂 締まりややあり。
34. 暗褐色土 粘質土と黄色砂の混交土。
35. 黒褐色土 粘性あり。炭粒多い。
36. 暗褐色土 24層より粘質土ブロック多い。
37. 暗褐色土 26層より粘質土ブロック多い。締まりあり。
38. 黒褐色土 粘質土。締まり強い。
39. 黒褐色土 粘質土。炭粒多い。締まりややあり。
40. 黄褐色砂 面成砂層。貝殻粒多くラミナ状を呈する。

その他

41. 暗褐色土 粘性ややあり。泥岩粒、炭粒微量。
42. 暗褐色土 41層よりやや明るく、灰褐色を均質に含む。
43. 黒褐色土 黄褐色砂 細砂。締まり弱い。
44. 暗褐色土 腐植土と混じり砂の混交土。締まりあり。
45. 暗褐色土 砂質土。泥岩粒、炭粒微量。
46. 暗褐色土 均質な砂質土。炭粒微量。
47. 暗褐色土 粘質土ベース+灰褐色。粘性、締まりあり。
48. 灰褐色土 砂質土。黒色粘質土を塊文状に含む。
49. 黒色土 粘質土。中世基盤層。
50. 暗褐色土 黒色粘質土と灰褐色が塊文状に混交。自然堆積層。



下層北壁 (g-g')・東壁 (h-h') 土層説明

1. 黒灰色土 粘性あり。中世基盤層の粘質土に黄灰色砂がブロック状に混入。
2. 黒灰色土 中世基盤層。白色塵砂粒少量。
3. 黒灰色土 中世基盤層。2層より白色塵砂粒が少ない。
4. 暗黄灰色土 粘性あり。基盤層の粘質土に黄灰色砂多く入る。
5. 暗黄灰色土 4層より黄灰色砂が多い。

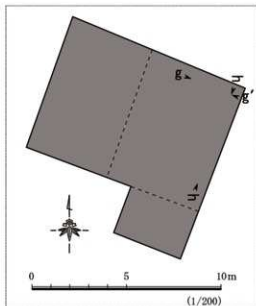


図5 調査区セクション図③

## 第四章 発見された遺構と遺物

本地点では大きく4時期に及ぶ中世遺構群が検出され、上層から1～4面の順に遡る。調査区中央を南北に縦走する道1は破碎泥岩を積み重ねて構築と補修が繰り返されており、新しい順に道1a～1cが1～3面に対応するものと考えた。道1以外の部分では明瞭な整地面を把握できなかったが、道の東側で井戸や溝・土坑といった遺構が、西側では竪穴建物を中心とする遺構展開が確認できた。4面は中世基盤層の上面で、道1c敷設以前の井戸や土坑などが検出された。

以下、主な検出遺構について、上層から順に説明する。

### 第1節 1面の遺構と遺物

**道1a:** 調査区の中央部、I区とII区との境界ライン上で検出された南北道である。拳程度の泥岩ブロックを敷き詰めて構築され、検出北端部の中心には50～60cm長の泥岩塊が平坦面を上にした状態で敷き並べられていた。上面の幅は1.2～2.1mで、N20°Wに延びる。路面の標高は、検出北端部で6.1mを測るが、調査区の南壁断面には対応する層序を確認できなかった。表土直下での検出であったことから、削平を受けて失われてしまった可能性も考えられる。東辺には側溝を伴うが(遺構1・10)、調査区の北端部付近で浅くなり途切れてしまう。調査区北壁断面からは縦貫していた可能性も窺える。底面レベルの推移から、北から南へ流下させていたと考えられる。西側溝は平面的な確認には及ばず、調査区の南壁断面には路面が西側へ落ち込む様子が見取れたものの、これより北へと続く様相は確認できなかった。この南壁際の落ち込みについては、表土を除去した直後にサブトレンチを設けたため、平面プランは見落としてしまった。

道1aの築成土および東側溝(遺構1・10)からの出土遺物は、図17・18に分けて提示した。東側溝の遺構10覆土上層では、裏面に針状工具で線刻画を施した硯が出土している(図18-89)。地藏菩薩、もしくは阿弥陀如来の来迎図がモチーフと思われる。図17-87の常滑片口鉢Ⅱ類は7・8型式なので、14世紀代に道1aの整備時期を考えることができる。

道1aの東側には、建物とは見なしにくい竪穴状遺構や土坑が点在していた。一方の西側では、上層で凝灰岩切石の集積箇所が、下層で掘り込みの浅い土坑数基が確認された。道1a東側の1面と比べ西側1面の上層はやや高く、下層はやや低い位置に広がっている。

**遺構3(竪穴状遺構):** I区の南東隅に位置し、東と南側の調査区外に続くため全体の規模と形状は不明。方形基調のプランを呈し、東西1m、南北2mまでを計測した。現地では1面から2面まで掘り下げる際に確認に及んだ。底面標高は5.3～5.4mの範囲で推移し、確認面からの深さは5～15cmと浅い。

遺構3からの出土遺物は図18-90～92に示した。90は内底面に焼成後の線刻をもつロクロかわらけの小皿。文字を刻したとも見られるが、具体的な内容は不明。91のロクロ大皿と合わせ、かわらけは14世紀前半の様相といえようか。

**遺構11(竪穴状遺構):** II区の南東隅に位置し、東側が調査区外へと続く。これも1面から2面までの掘り下げ時に確認された。方形基調のプランを呈し、南北長は2.5mを測る。東西長は1.5mまでを確認した。底面標高は5.35m前後で推移し、確認面からは15～25cmを測る。

遺構11の出土遺物は図18-93～105に示した。繕紐から外れたものか、数枚の銅銭が重なった状態で出土している。



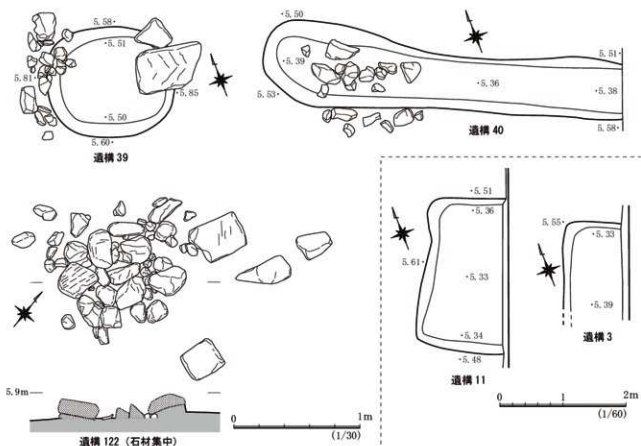


図7 1面個別遺構図

遺構39(土坑)：Ⅱ区の中央部に位置する。東西1m、南北90cmの略円形プランを呈する。底面の標高は5.5m前後でフラットであり、確認面からの深さは最大で35cmを測る。遺構の確認レベルには凝灰岩の切石や泥岩屑がややまとまって検出されている。

遺構39の出土遺物は図17-74～76に示した。年代的なまとまりを欠いているので、提示のみに留めたい。

遺構40(溝状遺構)：Ⅱ区中央に位置し、東側が調査区外に続く。上幅45～60cmで東西長は2.9mまでを計測した。底面標高は5.4m弱で、確認面から15～20cmの深さを確認した。遺構の確認レベルで小規模な泥岩屑の集積箇所が確認されている。本遺構の西側延長部では道1aの泥岩整地層が軟質になっていたため、本来は道1aの下部まで繋がっていた可能性もある。

遺構40で出土した遺物は図17-77～84に示した。少ない資料だが、かわらけを中心に、13世紀末～14世紀前半の様相と捉えられる。

遺構122(石材集中)：Ⅲ区の中央部で検出された。標高5.7～5.8mに凝灰岩の切石や泥岩屑が集積していたが、下部での掘り込みは確認できなかった。人為的に寄せ集められたものであろうが、配置に規則性がなく火熱を受けた痕跡も見られなかったため用途は不明。この西側でも1面下の掘り下げ時に切石を中心とする石材の集積状況を確認したが(図6)、この下部の2面では堅穴建物(遺構130a)が検出されていることから、建物の廃絶・解体に際して不要石材を遺棄した痕跡とも考えられる。

1面下から2面までの掘り下げに際して出土した遺物は、図19-106～149と図20-150～163として示した。新旧遺物の混在は認められるが、主体となるかわらけには15世紀代の要素は見出せないため、大よそ14世紀代の年代幅で収まる資料と考えられる。

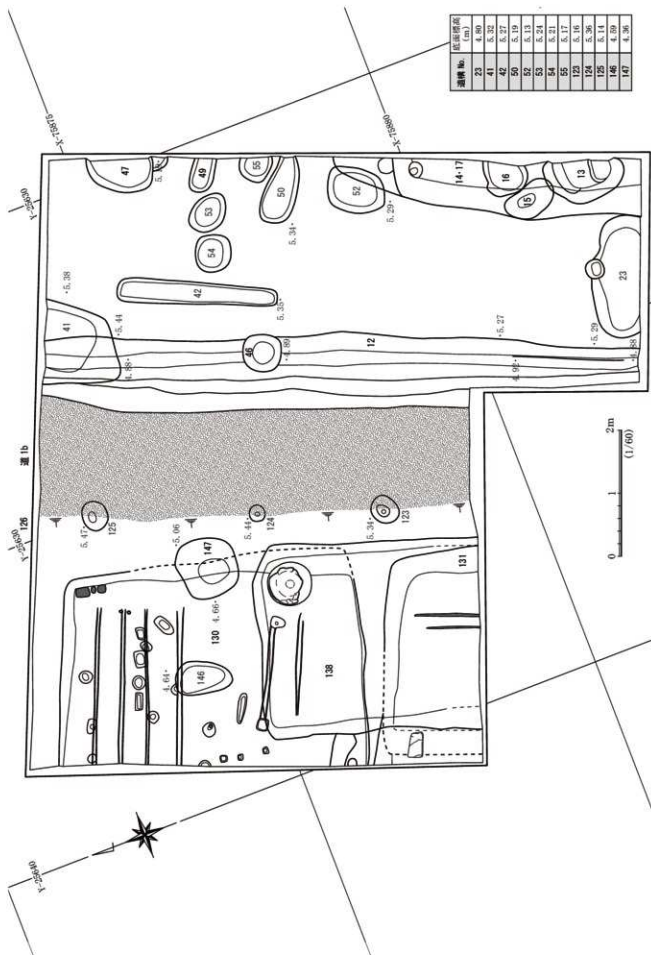


图8 2面全体图

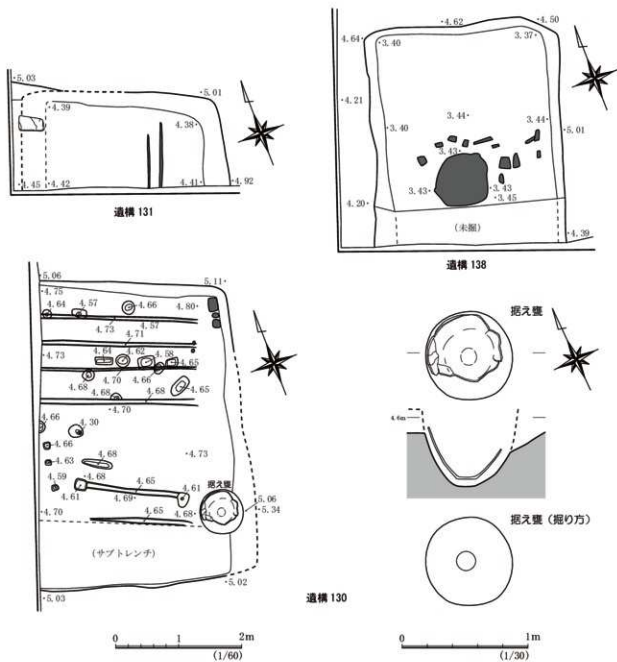


図9 2面 個別遺構図①

## 第2節 2面の遺構と遺物

道1b:道1aの下30cmで検出された。路面の標高は5.8～5.9mを測り、南側が僅かに低い。上幅は1.6～1.7mで、N20°Wで延びる。東側に上幅80～100cmの側溝が取り付くが(遺構12)、断面観察では道1bの路面で覆われてしまう状況が見取れた。道路上端面からは80cm弱の深さがあった。底面標高は図8に示したが、断面観察によって下層の側溝覆土も同時に掘り上げてしまったことに気付き、本来は図8の数値よりも15cmほど高い標高5.0～5.1m前後で推移していたものと考えられる。護岸施設の痕跡として、腐食した板材が僅かに遺存していた。西側溝は確認できなかったが、路面から西に向けてのなだらかな落ち込みを遺構126と呼称し、遺物の取り上げを行った。

道1bの築成土および遺構126の出土遺物を図21-164～167に示した。遺物の絶対量が少ないため、これだけでは所産年代の提示は難しい。

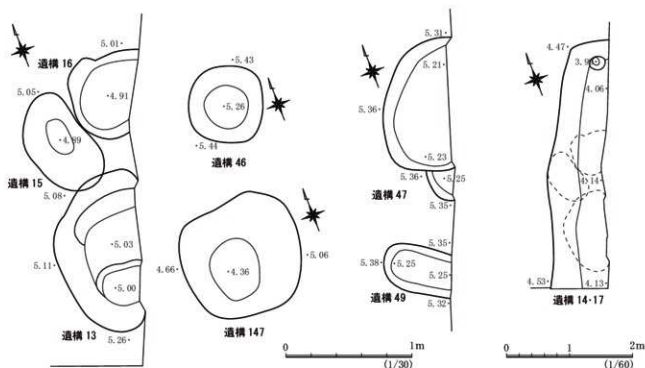


図10 2面個別遺構図②

道1b以西では3基の竪穴建物を確認した。道の東側では土坑が散漫に分布しており、建物としての可能性をもつ竪穴状遺構も検出されている。

**遺構130（竪穴建物）：**Ⅲ区の北部に位置し、西側が調査区外に続く。平面規模は南北4.9mを測り、東西は3.5mまでを測った。南北の方向軸はN8°Wを指す。確認面から30cm、土層断面の観察では70cmの深さを測り、底面の標高は4.8m弱を測る。底面上で幅10cm、深さ5cm程度の根太材の腐食痕を確認した。この他にも浅い腐食痕が散在しており、礎板など基礎部分の痕跡と考えられる。掘り方の底面までは10cmの厚さで砂質土が堆積していた。床材および壁体は遺存しておらず、使用材質も含め構造は不明だが、断面観察では南北の両壁際で壁体の裏込め土を確認している。南西隅の底面上では、常滑甕を据えた土坑1基が検出された。坑底までの深さは60cmで、甕は底部が全周遺存していたものの、口縁部は欠失していた。

現地調査では、本遺構の範囲を確定するまでに重複する別の遺構についても同時に覆土掘削に及んでしまっている。遺構130aとして取り上げた遺物は本遺構に、遺構140と認識した遺構は本遺構の北側裏込め土となる。遺構130bとして採集した遺物の大半は遺構138に帰属する可能性が高いが、多少の混在は否めないため、表2には現地で取り上げた際の遺構名のみで提示している。

本遺構からの出土遺物として、図22-186～201と図23-222を示した。222は据え甕土坑で出土したもので、その他は全て竪穴の覆土中から出土している。このため諸種の遺物片が混在しており、遺構の構築・使用年代を明確に示す資料は皆無であった。193の備前搦鉢は、口縁部形態および掘り目の条数から中世3a期＝14世紀中葉頃の所産と見られるので、本遺構には、これ以前の使用年代を考えることができる。

**遺構131（竪穴建物）：**Ⅲ区の南端部に位置する。遺構間の切り合いでは遺構130より古く、遺構138より新しい。南側が調査区外に続き、東西3.3m、南北1.6m以上の平面規模を確認した。南北軸はN17°Wを指す。土層断面では110cmの深さを確認し、掘り方底面の標高は4.4mを測る。底面上では幅5cm程度で南北に延びる根太材の痕跡2条を確認している。

本遺構の出土遺物として、図22-202～213を提示した。他の堅穴建物の例に漏れず、覆土中の出土遺物が中心となり、構築・使用年代を示す資料とはならない。小片ではあるが、209の備前摺鉢が最新の資料と見れば、14世紀前半～中葉頃には廃絶・埋没段階に入っていたと見ることができる。

**遺構138(堅穴建物):**Ⅲ区の南端部に位置し、遺構130・131より古い。南が調査区の外方に続く。東西3.1m、南北3.6m以上の平面規模をもつ。長軸ラインはN18°Wを指す。土層断面で確認できる深さは1.2mで、掘り方底面の標高は3.4m前後を測る。底面では直径80cmほどの円形プランを確認したが、このレベルで相当量の湧水があり、調査における深度規制もあって覆土の掘削は見合わせた。黄褐色の海成砂層中に黒褐色の砂質土を覆土としていた。この他にも、方形基調で腐植土を覆土とする小穴プランが点在して確認されており、礎板などの痕跡と考えられる。

本遺構の出土遺物として、図23-215～221、223～229を提示した。堅穴覆土からの出土品が中心で、新旧の遺物が混在している。13世紀中葉頃まで遡る資料も見られ、遺構間の新旧関係も考慮すると、これ以降、14世紀前葉までの間に構築～使用・廃絶に至った遺構かと考えられる。

**遺構13・15・16(土坑):**Ⅰ区東部で検出された土坑群である。13と16は調査区の東外へと続く。いずれの土坑も暗褐色砂質土を覆土とし、泥岩粒を含んでいた。遺構13は南北120cm、東西70cm以上を測る。底面の標高は5.0mで、確認面からの深さは30cm弱であった。遺構15は、南北80cm、東西50cmを測る。底面の標高は4.89m、確認面からは20cmの深さがあった。遺構16は南北70cm、東西55cm以上を測る。確認面からの深さは10cmと浅く、底面標高は4.91mであった。

調査区の東壁断面では、平面規模および底面標高が平面での確認内容と異なっていた。本来であれば断面図に即して平面図の修正を行うべきところだが、同質の覆土で繰り返された遺構間の重複について現地では識別しきれなかったこともあるため、本報告では不確実な修正・復元図の提示は控えた。記述内容についても、基本スタンスとして現地で作図した平面記録に準じている。同じことは、調査区壁際で検出された各面の遺構に関してもいえる。

遺構13の出土遺物として図21-168、遺構15・16の出土遺物として図21-174～176を示した。168は尾張型山茶碗の6～7型式なので、13世紀中葉前後の所産品である。他の遺物については、年代特定の指標とできない。

**遺構46(土坑):**Ⅱ区の西側で検出された。道1bの東側溝を切って構築されている。直径60cm前後の円形プランを呈する。確認面からの深さは20cm弱で、底面標高は5.26mを測る。

本遺構からの出土遺物を図21-183に示した。尾張産の片口鉢(常滑・Ⅰ類)で、内底近くの器面が細かく剥離している。遺存部位が少なく、型式の特定はできない。

**遺構47(土坑):**Ⅱ区北東部に位置し、東側が調査区外に続く。南北110cm、東西50cm以上を測る。確認面からの深さは15cmで、底面標高は5.2m前後を測る。調査区の東壁断面では、後述する遺構49も含め遺構50・55を包括する落ち込みとして確認することができ、平面図における個々の遺構が単独のものであったのか、ひとつの大きな落ち込みの中で底面レベルが異なっていたのか、両者の可能性を残しておきたい。

遺構47の出土遺物として、図22-184に砥石1点を図示した。

**遺構49(土坑):**Ⅱ区の北東部、遺構47の南側で検出された。上述したように、遺構47など周辺の土坑群と合わせて一連の落ち込みとなっていた可能性も考えられる。東側が調査区外へ続き、南北35cm、東西55cm以上の規模を測る。確認面からの深さは10cm前後と浅く、底面標高は5.25mを測る。

本遺構の出土遺物として、図21-185を示した。滑石製鍋の再加工作品と見られ、形態は紡錘車に近似している。



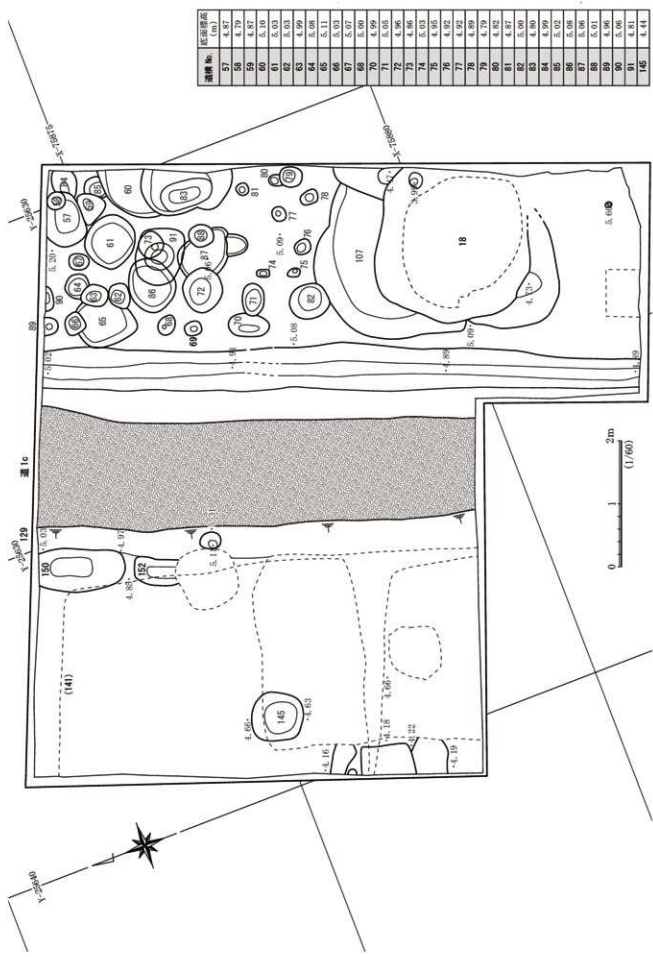


図11 3面全体図

遺構 147 (土坑) : III区の東辺部、道路 1b の西側で検出された。遺構 130 に切られ、3面の遺構 152 の南半部を切っている。南北 90cm、東西 95cm の不整形円形プランを呈する。確認面からの深さは最大で 70cm、底面標高は 4.36 m を測る。

本遺構の出土遺物として、図 22-214 のロクロかわらけ大皿 1 点を示した。

遺構 14・17 (竪穴状遺構) : I 区東部～II 区の南東隅で検出された。現地では、遺構 14 を遺構 17 に切られる土坑と捉えていたが、土層断面の記録を基に整理した結果、両者とも一つの竪穴状遺構になるものと判断した。東と南が調査区の外に続き、遺構のごく一部を確認したにとどまる。東西 90cm 以上、南北 3.9 m 以上の平面規模をもつ。確認面からの深さは 40cm ほどで、調査区壁の断面では 120cm 以上の深さを有していたことを確認している。底面は標高 4.1 m 前後で、概ねフラットに推移する。壁面は外開きに立ち上がり、裏込めの痕跡などは見て取れなかった。竪穴建物としての可能性はあるが、部分的な確認であったため断定はできない。

本遺構の出土遺物として、図 21-169～173 と図 21-177～182 に示した。前者は遺構 14 として、後者は遺構 17 として現地で取り上げたものである。常滑の甕・片口鉢 II 類は 6 型式の資料で 13 世紀後半の生産年代が考えられ、かわらけについても 13 世紀後葉～14 世紀前葉の幅で捉えられよう。覆土からの出土品が中心で、遺構廃絶後の年代比定に資する遺物となる。

2 面下から 3 面までの掘り下げ時に出土した遺物は、図 24-230～258 として示した。かわらけを中心に 13 世紀後葉～14 世紀前葉の資料が主体を成していると見られるが、248 の常滑片口鉢 II 類や 250 の瀬戸天目茶碗などは 14 世紀後半まで下る要素もっている。

### 第 3 節 3 面の遺構と遺物

道 1c : 道 1b の 40cm 下位で検出された。路面の標高は 5.4～5.5 m を測り、南側が僅かに低い。上幅は 1.5～1.8 m で、N 20° W で延びる点は上層の道路と同じである。貝殻粒と泥岩粒を含む灰褐色砂によって、堅固な路盤が築成されていた。東側に上場幅 80cm の側溝が取り付く。断面観察では道路面上端から 45～65cm の深さがあり、底面標高は 4.8～5.03 m で南側が低い。西辺では側溝は確認できなかったが、現地では路面からのなだらかな落ち込みを遺構 129 と呼称して遺物の取り上げを行った。

道 1c 築成土の出土遺物を図 25-259～264 に、遺構 129 からの出土遺物を図 25-265・266 に示した。264 は小片のため器種不明であるが、胎土の特徴は渥美・湖西型の陶器と近似している。内面調整から壺の一種と考えており、胴上部に円形の透孔を開け、その下位に断面三角形の突帯文を巡らせている。259～261 のかわらけ小皿は手づくね成形品を含み、低平な器形であることから 13 世紀前半まで遡るであ

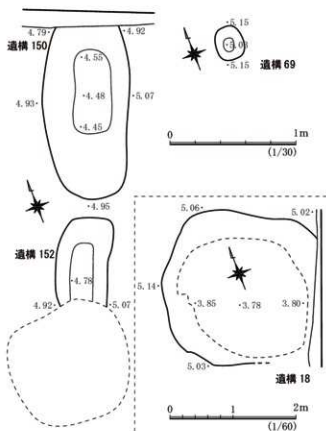


図 12 3 面個別遺構図



遺跡番号	底面標高 (m)
21	4.82
22	4.82
23	4.82
24	4.85
25	4.88
26	4.73
27	4.76
28	4.71
29	4.69
30	4.69
31	4.69
32	4.69
33	4.69
34	4.69
35	4.69
36	4.69
37	4.69
38	4.69
39	4.69
40	4.67
41	4.69
42	4.82
43	4.82
44	4.82
45	4.82
46	4.76
47	4.76
48	4.83
49	4.83
50	4.78
51	4.77
52	4.76
53	4.76
54	4.65
55	4.65
56	4.65
57	4.74
58	4.64
59	4.64
60	4.64
61	4.64
62	4.54
63	4.54
64	4.67
65	4.56
66	4.56
67	4.56
68	4.87
69	4.23
70	4.57
71	4.87
72	4.89
73	4.69

图 13 4面全体图

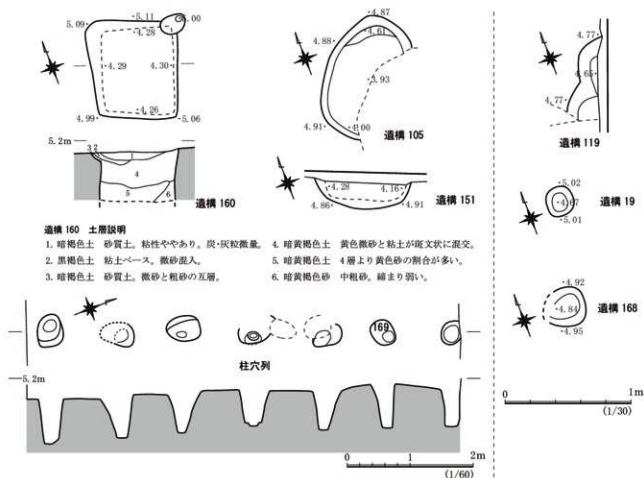


図 14 4面 個別遺構図

ろうか。263の常滑片口鉢Ⅱ類は口縁部の細片であるが、7型式までは下らないと思われる。265の常滑甕は6型式段階となろう。

以上を総合すると、13世紀後半には道1cの築成が行われたと考えられる。

**遺構 150 (土坑)**: III区の北部で検出され、道1cの西に隣接する。北側が調査区外に続き、東西70cm、南北140cm以上を測る。長軸方向は、道1cに平行している。確認面からは60cmの深さがあり、底面の標高は4.5m前後を測る。黒褐色の粘質土を覆土とする。

本遺構からの出土物として、図25-270～272にかわらけの小皿3点を、273に平瓦1点を示した。かわらけは手づくね成形品を含み、低平な器形であることから13世紀前半の所産と考えられる。273は胎土・調整技法から永福寺女瓦A類と見られる。焼成後に長辺方向に半截しており、甕斗瓦としての再利用が想定できる。

**遺構 152 (土坑)**: III区の北部で検出され、遺構150の南側に隣接する。南側を上面遺構に切られており、東西50cm、南北70cm以上の平面規模となる。長軸方向は道1cに平行しており、遺構150と合わせて道路側溝の様にも見える。黒褐色粘質土を覆土としていた。確認面から30cmほどの深さを有し、底面の標高は4.78mを測る。

本遺構からの出土物として、図25-268にロクロかわらけの小皿を示した。口縁部に灯明具としての使用痕が残る。小片から図上復元したものであり、これ1点では年代比定の材料にはしがないが、大まかには13世紀後葉～14世紀前葉の土器様相と捉えることができる。

**遺構 69 (ピット)**: II区の北部で検出され、道1cの東辺に隣接する。直径30cm弱でやや南北に長い楕

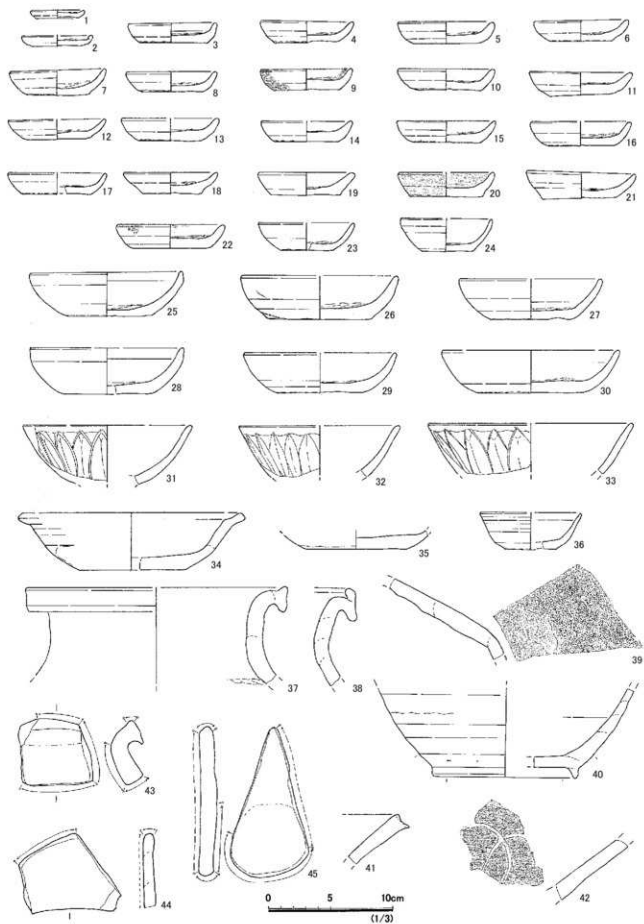


图15 表土~1面 出土遺物①

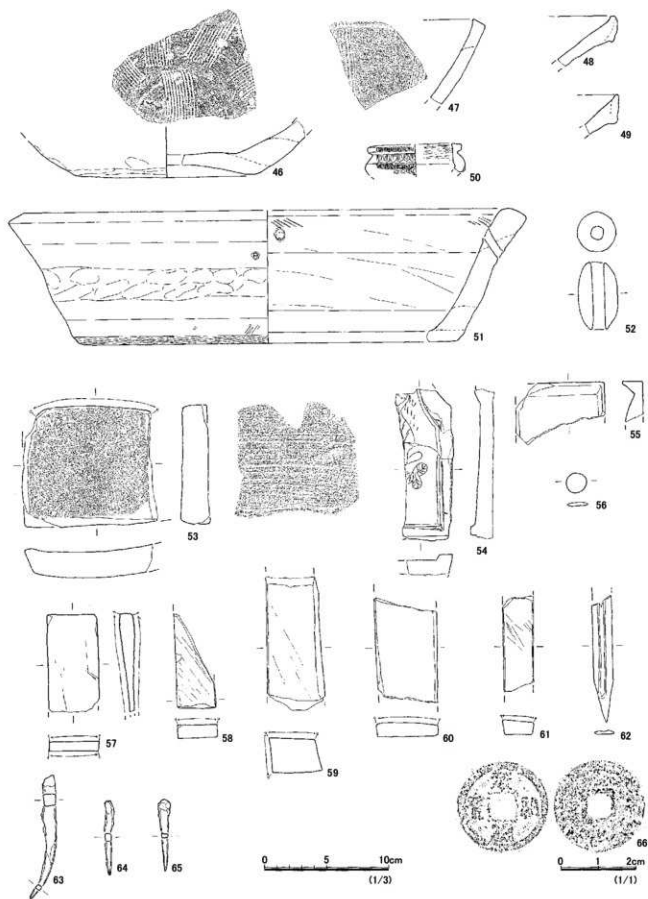


图16 表土~1面 出土遺物②

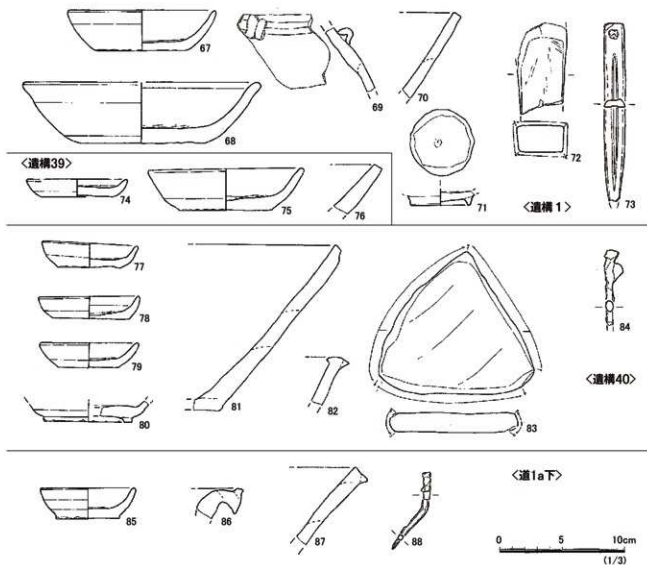


図17 1面遺構 出土遺物①

円形のプランを呈する。確認面からは10cm程度の深さしかなく、底面標高は5.03mを測る。

本遺構からの出土遺物として、図25-269に手づくねかわらけの小皿1点を示した。小片であるが、13世紀代の前半に収まるであろう。

**遺構18 (土坑)**：I区北部からII区南部にかけて検出された。東側を2面の遺構14・17に切られて上部を失っており、下部も調査区東外へ続くことが確認された。東西2.5m以上、南北2.4mを測り、隅丸形状の平面プランを呈する。深度規制のため底面まで完掘できなかったが、確認面からは1.3m以上の深さを有することを確認している。現状では、掘り下げを止めた標高3.8m前後で湧水が始まるので、平面や掘り方の形状・規模も考慮すれば、井戸として利用されていた可能性が高いだろう。

本遺構の出土遺物として、図26-281～286を示した。かわらけは手づくねの大・小皿を含み、ロクロかわらけも低平で底が広いので13世紀前半の様相と見られる。286の常滑片口鉢Ⅱ類が5型式ないし6a型式なので、13世紀中頃から第3四半期にかけて廃絶・埋没した遺構かと考えられる。

3面下から4面(中世基盤層)まで掘り下げた際の出土遺物を、図27-287～291に示した。手づくねかわらけ289・290や常滑5型式の甕291の存在から、大よそ13世紀代前半の土器様相と考えられる。

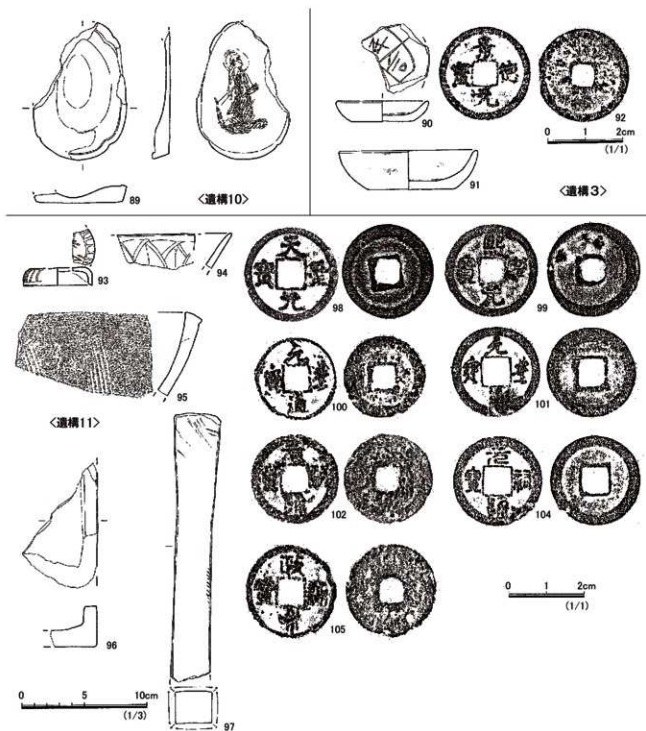


図18 1面遺構 出土遺物②

#### 第4節 4面の遺構と遺物

中世基盤層となる黒褐色粘質土の上面を4面とした。Ⅲ区南部の中世基盤層は2面遺構138によって失われていた。当遺構面では土坑やピット多数が検出され、ピットには柱穴列をなすものも見られた。

また、道1cの下部では、中世基盤層までの間に道1dが遺存していた。

道1d:道1cの5～15cm下で検出された。路面上端の標高は5.33～5.40mを測り、わずかに北側が低くなっている。上幅は1.5～2.0mで、N20°W方向に延びる。路盤は灰褐色砂を用いて堅固に築成され、上面には泥岩粒や貝殻粒が多く見られた。



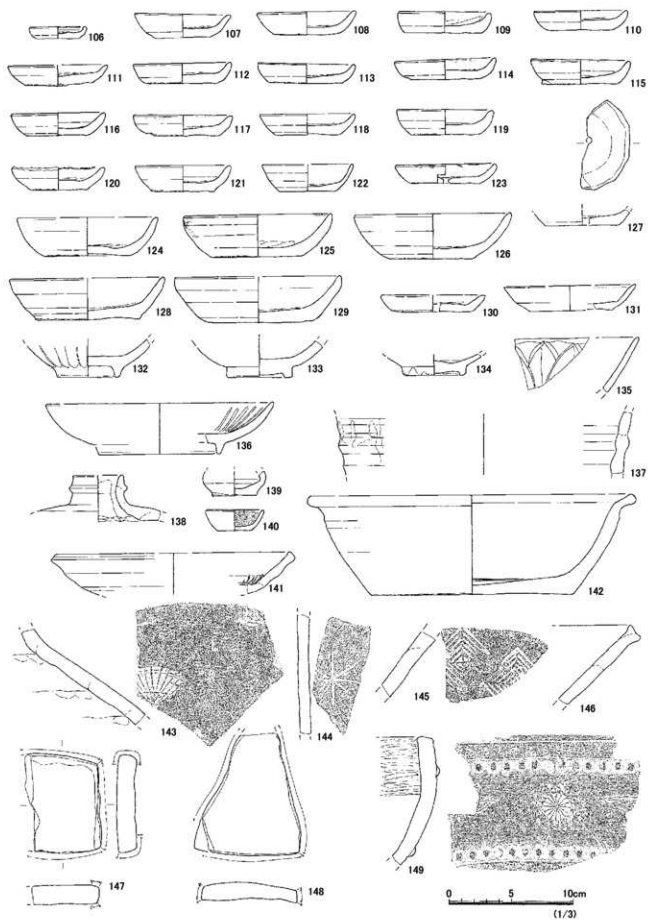


图19 1面下~2面出土遺物①

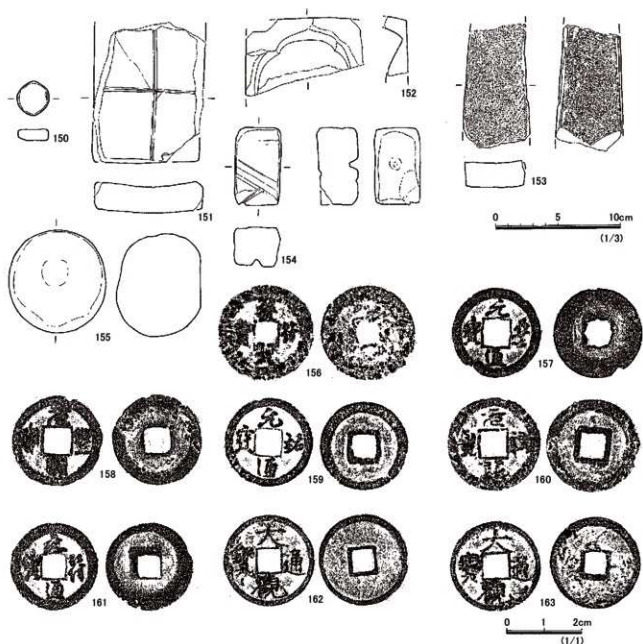


図20 1面下～2面 出土遺物②

道1dの築成土を含む道1c下～中世基盤層の出土遺物は、図26-274～280に示した。年代としては13世紀代前半～第3四半期までに収まるだろう。

柱穴列：Ⅱ区東端部で検出された。道1dの西辺沿いに並び、断面観察では道1dより新しく、道1cより古い、もしくは同時存在することが確認できた。N 18° Eの方向に延び、北・南とも調査区外へと続くものと思われる。柱間距離は100～105cmで一定している。西・東への展開は見られなかったことから、板塀などの区画・遮蔽施設の痕跡であると考えられる。底面標高は4.15～4.44mで、相対的に北側ピットの底面が高い傾向にある。

構成ピットのうち遺物が出土したのは遺構169が唯一で、小片のみで時期比定の材料にはし難いが、かわらけは手づくね成形品のみに限られるので、13世紀代前半以降の構築年代を当てておきたい。

遺構160（土坑）：Ⅰ区とⅡ区の境界ラインに位置し、道1dの下位で検出された。一辺150cmのやや歪んだ方形のプランを呈する。深度規制のため覆土は完掘できなかったが、確認面からの深さは80cm以

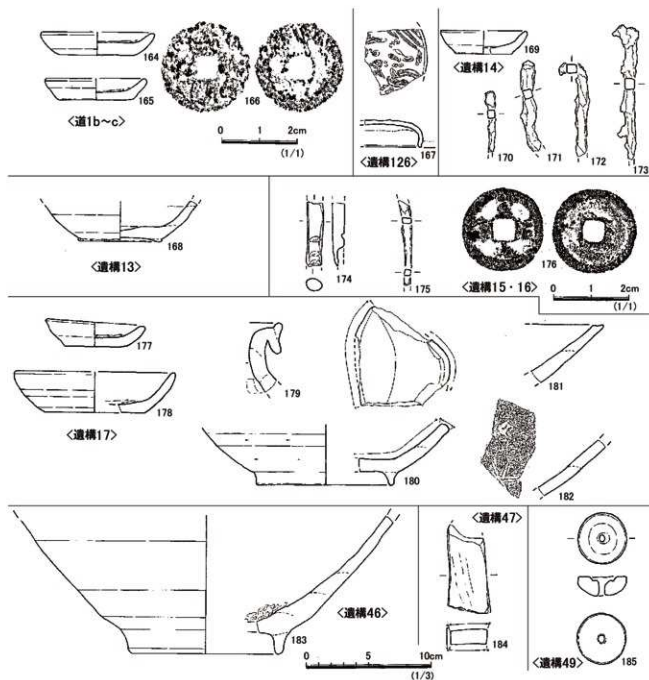


図21 2面遺構 出土遺物①

上で、底面が標高4.3m以下にあることは確認できた。ほぼ垂直な掘り方形状を呈しており、現状で湧水レベル以下に底面があることから、やや小振りながら井戸としての機能が想定できる。

本遺構の出土遺物として、図27-293～299を示した。小片のみであり絶対量も少ないが、12世紀末～13世紀前葉の遺物様相といえよう。

**遺構105 (土坑) :** II区の南端部に検出された。南東側を3面の遺構18に切られており全体像は不明であるが、直径190cmほどの円形プランを呈していたものと考えられる。断面は円筒形を呈し、確認面から約1mの標高3.9m強で底面に到達した。覆土は、暗褐色の砂質土である。

本遺構からの出土遺物はなかった。

**遺構151 (土坑) :** II区の北端部に位置する。検出できたのはごく一部で、北側の大部分が調査区外に続く。東西160cm、南北40cm以上の規模をもち、円形基調の平面プランを呈していたと考えられる。

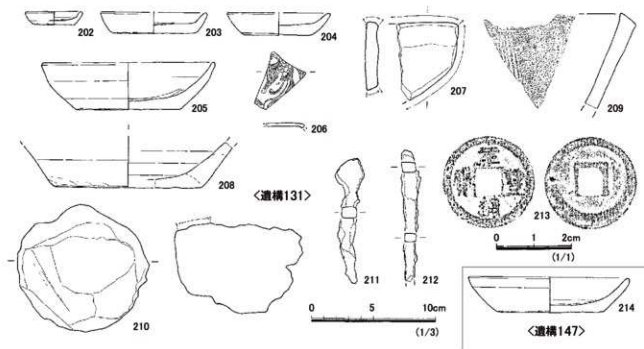
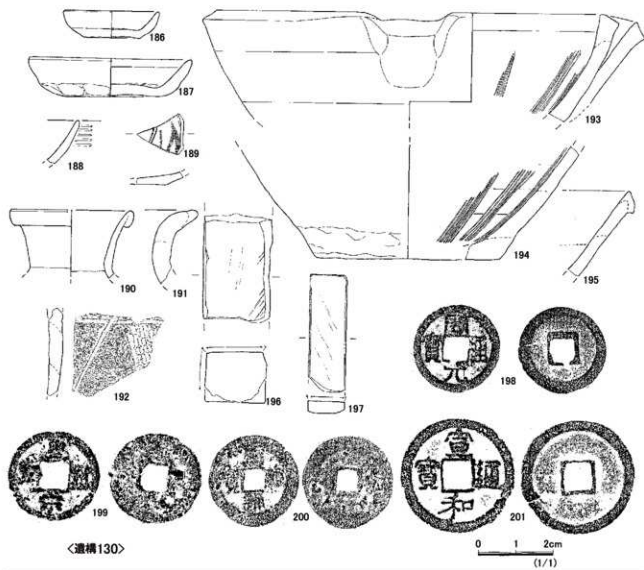


圖22 2面遺構 出土遺物②

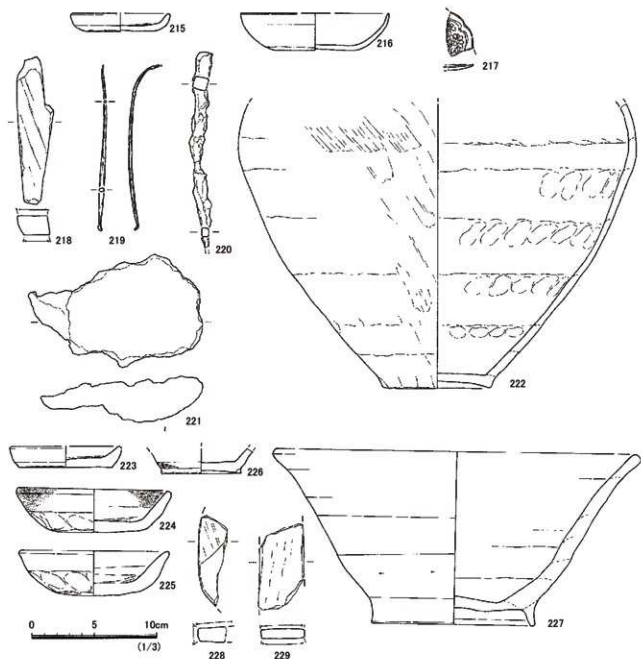


図23 2面遺構130・138 出土遺物

断面形は円筒状を呈しており、確認面から80cm以上の深さをもち標高4.1m以下に底面があることを確認した。暗褐色の砂質土を覆土とする。

本遺構で出土した遺物は、図27-300～302に示した。小片ばかりで時期比定の決め手となる遺物はないが、手づくねかわらけ300の存在から13世紀前半の構築・使用年代を当ておきたい。

遺構119(土坑): II区の南部で検出された。東側は調査区外に続き、南側を2面の遺構14・17に切られる。また、上部についても2面土坑の重複により削失を受けており、調査区東壁の土層断面からは4面より上位を掘り込み面としていた可能性も考えられる。検出できた限りでは東西28cm、南北67cmの平面規模をもつ。確認面からは10cm強、断面観察では30cm強の深さがあることを確認し、底面標高は4.65mを測る。覆土は黒灰色～暗褐色の粘質土をベースとしていた。

本遺構の出土遺物として、図27-303に手づくねかわらけの大皿1点を示した。残存率が1/6ほどの小

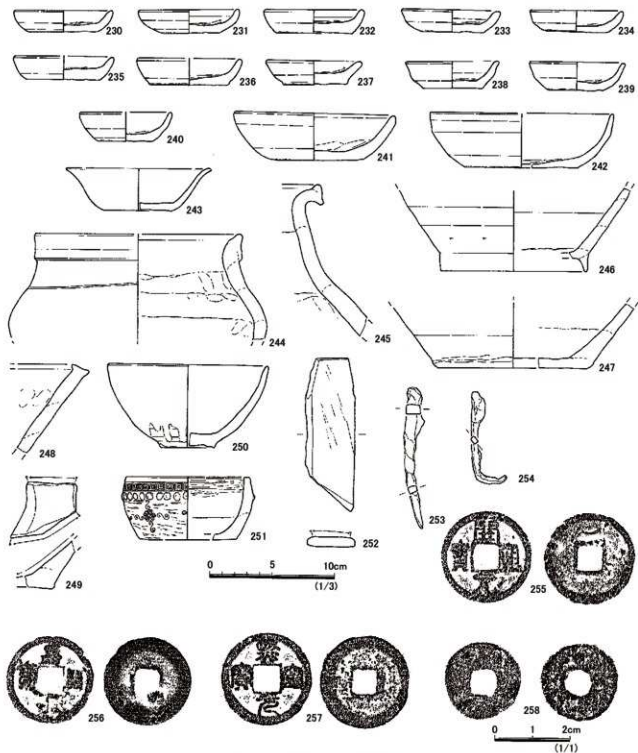


図24 2面下~3面出土遺物

片であるため詳細な時期比定の材料とはならないが、概ね13世紀代の前半には位置付けられよう。

遺構19（ピット）：Ⅰ区の北部で検出された。直径25cmの円形プランを呈する。確認面からの深さは30cmほどで、底面標高は4.67 mを測る。暗褐色の砂質土を覆土とする。

本遺構の出土遺物は、図27-304に手づくねかわらけの大皿1点を示した。小片であり、詳細な年代比定の材料とはしにくい。

遺構168（ピット）：Ⅲ区の中央に位置する。南北柱穴列と同じ並びに位置するが、同列とは柱間の

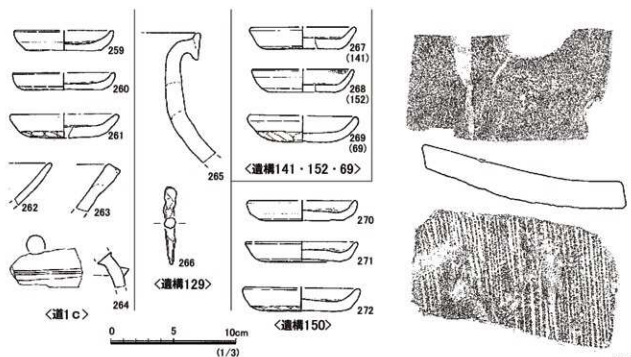


図25 3面遺構 出土遺物

距離が異なる。柱穴列の線上には他にも小穴が分布することから、補助柱もしくは別柱列の存在を想定することは可能だろう。西端部を上面遺構の重複によって失うが、直径30cm強の円形プランを呈していたものと考えられる。確認面からの深さは10cmほどで、底面標高は4.84 mを測る。

本遺構の出土遺物として、図27-305に尾張片口鉢の口縁部片1点を示した。

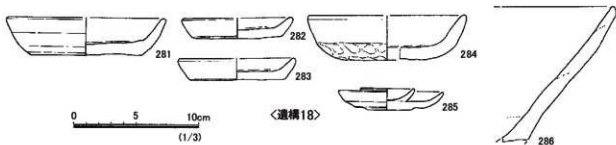
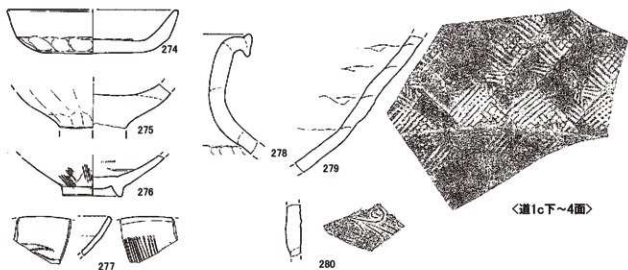


図26 3面道1c下~4面(地山面)・3面遺構18出土遺物

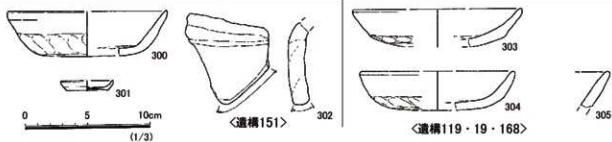
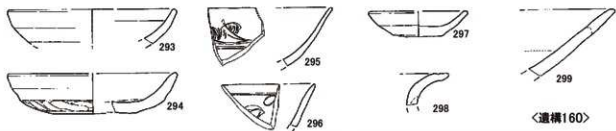
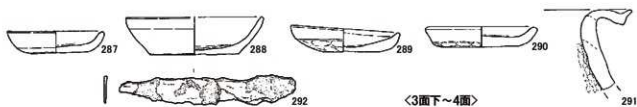


図27 3面下~4面(地山面)・4面遺構出土遺物



## 第五章 調査成果のまとめ

### 遺構の展開と変遷について

今回の調査では80m弱という限られた範囲の中、南北道路を中心とする中世の土地利用の在り方を捉えることができた。南北道路は4面の中世基盤層上面の遺構が廃絶した後に構築され、中世最上層の1面段階まで同じ規模を保ちながら踏襲される。各段階の路盤とも褐色砂や泥岩塊を用いて丁寧に築成されており、3面道路では路面上に混貝砂を敷いている状況も見て取れた。混貝砂の起源は、中世基盤層下に堆積する海成砂であると考えられる。4面遺構の出土遺物は少ないながら13世紀前半の様相に収まるので、初期道路(道1d)の構築は13世紀代の中頃(第2四半期も含むか)と考えられる。4面の南北柱穴列は道1dよりも新しく、続く道1cの西辺には板塀などの遮蔽施設が付帯していた可能性も考えられる。しかし、遮蔽物を挟んだ両サイドがどのような空間の違いを呈していたのか、今回の調査範囲の中では手掛かりを得ることができなかった。道路構築以前は井戸状の土坑が散在するのみで、出土遺物も僅少であることから、当地における13世紀代前半までの土地利用は低調であったと推察される。

出土遺物から3面の道1cは13世紀後半に、1面の道1aは14世紀代に築成されたと考えられるので、各遺構面にも道路と近い年代観を与え得る。

1面～3面段階では、南北道路を境に東西で検出遺構の形態に差が見出せた。2面では道路西側に近接して竪穴建物が繰り返し構築される状況が見取れ、東では小規模な土坑・ピットが重複して営まれていた。覆土中の出土遺物に拠れば、13世紀後半～14世紀前葉の中で構築・使用された遺構群と考えられる。道路の東側にも竪穴建物としての可能性を残す遺構が存在することから、道路から東にやや離れた場所での建物展開も推測できよう。道路西側の建物は路肩から60cmしか離れていないが、路面に食い込むような構築はされておらず、道路による土地割を遵守していた様子が窺える。上屋の構造物については明確な復元案を提示するだけの見識をもたないが、遺構の検出状況から察するに、屋根材を道路面まで葺き下ろすような形態は採っていなかったと考えられる。

竪穴建物が埋没した後の1面でも道路(道1a)の東西で様相が大きく異なり、同時期に使用された遺構面として認識するにも躊躇するほどであった。道路の西側では東側よりも30～40cm低いレベルで浅い土坑が確認されたほか、この上位では凝灰岩切り石などの石材がまとめて捨てられた跡も見られ、建物用地などとして積極的に土地利用を行った形跡は見出せなかった。道路の東側では土坑や溝が散漫に展開しており、西側より整然と土地利用が行われていた様子が窺えた。

表土から1面までに出土した遺物は、備前播磨などに15世紀代まで下る要素は見出せるものの殆どは14世紀代に収まり、「善寶寺寺地図」が作成された15世紀末頃の様相は捉えられなかった。後世の削平を受けた可能性もあるだろうが、この状況を理解する上では鎌倉公方足利成氏が下総古河へ逃れた康正元年(1455)以降に都市鎌倉が急速に衰退したとする従來說が助けとなるだろう。これに先駆けて15世紀に入る頃には、鎌倉時代に武家屋敷や庶民居住区が入り混じって賑わいを見せた当地も人家疎らな地域と変貌していたのかもしれない。

本地点では中世における土地改変の頻度が非常に高かったと見え、現地調査および整理作業においてその痕跡の抽出には苦労した。なお混乱の痕を残したままの報告となったが、中世における土地利用の変遷過程を、大まかにでも示せたのではないかと思う。

### 線刻硯について

裏面に阿弥陀如来または地藏菩薩の来迎図が線刻された硯は欠損品であり、道路側溝という出土位置からも他所で使用・廃棄されたものが造成土とともに本地点へと移動してきたと考えるべきであろう。遺物の具体相については前稿(押木・古田土2011)を参照されたいが、線刻画自体は稚拙に映るものの硬質な石材に極細線で丹念に描かれており、図像に託した人の心情が伝わってくる。尊像が阿弥陀菩薩であれば、来迎・浄土を希求する作者の想いの強さが思われる。実際に描かれ、使用された時期は特定できないが、キャンパスとなった京都鳴滝産の楕円形四葉硯は13世紀の第2四半期頃から鎌倉への搬入が確認されるという。線刻画は消費地である鎌倉で施されたものであろうから、鎌倉後期以降の信仰・精神史を考える上で新たな素材が提供されたものと評価したい。



図28 線刻画(階調反転)

### 【参考文献】

- 高柳光寿 1959『鎌倉市史 総説編』鎌倉市  
三浦勝男編 1969『鎌倉の古絵図Ⅱ』鎌倉市教育委員会・鎌倉国宝館  
白石永二編 1976『鎌倉事典』東京堂出版  
宗室秀明 2005『中世鎌倉の土器・陶磁器』『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』  
田代郁夫 1998『大町大路と小町大路—中世都市の中の「町」と「路」—』『湘南考古学同好会会報73』湘南考古学同好会  
太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』  
栗岡 実 2005『備前』『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』  
藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院  
押木弘己・古田土俊一 2011『若宮大路周辺遺跡群の調査—成果概要と出土した線刻画をもつ硯について—』『かまくら考古』第7号 特定非営利活動法人 鎌倉考古学研究所  
押木弘己 2011『若宮大路周辺遺跡群の調査—大町一丁目1034番9地点—』『第21回 鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨』鎌倉市教育委員会・特定非営利活動法人 鎌倉考古学研究所  
愛知県 2012『愛知県史 別編窯業3 中世・近世常滑系』  
永田史子 2014『考古学からみた鎌倉研究の現状と課題』『鎌倉研究の未来』中世都市研究会編 山川出版社

表1 出土遺物観察表

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
表上～1面 出土遺物①(図15)						
1	土器	ロタロ かわらけ・極小	4.1	3.4	0.7	完形 11g 胎土: 細砂粒、白色針状物質 色調: 橙褐色
2	土器	ロタロ かわらけ・極小	(5.4)	(3.9)	0.9	1/5 胎土: 緻密、やや砂質 色調: 淡黄褐色 内折れ
3	土器	ロタロ かわらけ・小	7.0	5.4	1.4	略完形 [36]g 胎土: 細砂質、白色針状物質 色調: 橙色
4	土器	ロタロ かわらけ・小	7.3	5.1	1.8	略完形 [42]g 胎土: 緻密、泥岩粒 色調: 淡黄褐色
5	土器	ロタロ かわらけ・小	7.4	5.3	1.8	略完形 [52]g 胎土: 泥岩粒、白色針状物質 色調: 橙褐色
6	土器	ロタロ かわらけ・小	7.4	4.9	1.7	略完形 [50]g 胎土: 緻密 色調: 淡黄褐色
7	土器	ロタロ かわらけ・小	7.6	5.1	2.1	4/5 胎土: 緻密、白色針状物質微量 色調: 橙色
8	土器	ロタロ かわらけ・小	7.1	5.1	1.6	完形 45g 胎土: 緻密、泥岩粒、白色針状物質 色調: 淡橙褐色
9	土器	ロタロ かわらけ・小	(7.3)	5.0	1.7	1/3 胎土: 泥岩粒、白色針状物質 色調: 淡黄褐色 内外面煤付着
10	土器	ロタロ かわらけ・小	7.6	5.6	1.7	完形 60g 胎土: 緻密、白色針状物質 色調: 淡黄褐色
11	土器	ロタロ かわらけ・小	8.0	4.2	2.0	略完形 [69]g 胎土: 緻密、白色針状物質 色調: 淡黄褐色
12	土器	ロタロ かわらけ・小	(7.7)	(4.7)	1.6	1/2弱 胎土: 緻密、白色針状物質 色調: 淡橙褐色
13	土器	ロタロ かわらけ・小	(7.6)	5.1	1.8	2/3弱 胎土: 泥岩粒、白色針状物質 色調: 橙褐色
14	土器	ロタロ かわらけ・小	(7.2)	5.1	1.7	1/2弱 胎土: 緻密、泥岩粒 色調: 淡黄褐色 器表に酸化鉄?付着
15	土器	ロタロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.8	完形 51g 胎土: 微砂質、泥岩粒、白色針状物質 色調: 橙色
16	土器	ロタロ かわらけ・小	(7.9)	5.3	1.9	2/3 胎土: 泥岩粒、色針状物質 色調: 橙褐色
17	土器	ロタロ かわらけ・小	(7.8)	(5.6)	1.7	1/3 胎土: 緻密、小礫 色調: 淡黄褐色 器表に酸化鉄?付着
18	土器	ロタロ かわらけ・小	7.4	4.8	1.7	略完形 [43]g 胎土: 緻密、泥岩粒 色調: 淡黄褐色
19	土器	ロタロ かわらけ・小	7.5	5.8	1.9	2/3 胎土: 粗、泥岩粒 色調: 淡黄褐色
20	土器	ロタロ かわらけ・小	(7.6)	5.5	1.9	2/3 胎土: 泥岩粒、白色針状物質 色調: 橙褐色/黒褐色 内外面全体に黒子む
21	土器	ロタロ かわらけ・小	8.5	5.9	2.3	4/5 胎土: 泥岩粒、白色針状物質 色調: 橙色
22	土器	ロタロ かわらけ・小	8.4	6.0	1.9	略完形 [72]g 胎土: 緻密、泥岩粒、白色針状物質 色調: 淡橙褐色 口縁部内外面に煤付着
23	土器	ロタロ かわらけ・小	(7.6)	(4.4)	2.2	1/3 胎土: 緻密、白色針状物質、角閃石 色調: 淡橙色
24	土器	ロタロ かわらけ・小	(7.2)	3.8	2.6	3/4 胎土: 緻密 色調: 淡黄褐色
25	土器	ロタロ かわらけ・大	12.1	6.8	3.6	2/3 胎土: 緻密、泥岩粒 色調: 橙褐色
26	土器	ロタロ かわらけ・大	(12.4)	7.3	3.5	1/3 胎土: やや微砂質、泥岩粒、白色針状物質 色調: 橙褐色
27	土器	ロタロ かわらけ・中	(11.3)	6.2	3.3	2/3 胎土: 泥岩粒、白色針状物質 色調: 淡橙褐色
28	土器	ロタロ かわらけ・大	(12.3)	(6.6)	3.7	1/5 胎土: 緻密 色調: 淡橙褐色
29	土器	ロタロ かわらけ・大	(12.0)	7.0	3.2	2/3 胎土: 白色針状物質 色調: 淡橙褐色
30	土器	ロタロ かわらけ・大	(14.1)	8.4	3.4	1/3 胎土: 緻密、白色針状物質 色調: 淡橙褐色
31	磁器	青磁 蓮弁文碗	(13.5)	—	[4.7]	口～体1/6 胎土: 灰色、緻密 釉調: 緑灰色 龍泉窯系 大宰府Ⅱ-b類
32	磁器	青磁 蓮弁文碗	(12.9)	—	[4.1]	1/4 胎土: 灰色、緻密 釉調: 緑灰色 龍泉窯系 大宰府Ⅱ-b類
33	磁器	青磁 蓮弁文碗	(16.4)	—	[4.1]	口～体1/3 胎土: 灰色、緻密で光沢あり 釉調: 緑灰色 龍泉窯系 大宰府Ⅱ-b類
34	陶器	瀬戸 折縁中皿	(17.5)	(8.6)	3.6	1/3弱 胎土: 灰色、緻密 釉調: 淡灰緑色
35	陶器	瀬戸 折縁中皿?	—	7.9	[1.6]	底完存 胎土: 黄灰色、緻密 釉調: 灰黄～緑灰色 内底面に2重圈線あり

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
36	陶器	瀬戸入れ子	(8.0)	(4.2)	3.0	略定形 [48]g 胎土:雲母 色調:黄褐色 備考:口縁部煤付着
37	陶器	常滑壺	(20.4)	—	[7.6]	口頸1/3 胎土:緻密、やや砂質 色調:暗灰色
38	陶器	常滑壺	—	—	[8.8]	口小片 胎土:粗、黒色粒少量 色調:暗褐色
39	陶器	常滑壺	—	—	—	胴小片 外面にスタンプによる花卉文・自然釉
40	陶器	尾張片口鉢	—	(11.3)	[7.1]	底1/3 胎土:長石、小礫 色調:灰色 内面やや磨耗 常滑Ⅰ類
41	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	[3.9]	口小片 胎土:長石、小礫 色調:暗赤褐色 内面未使用
42	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	—	体小片 胎土:白色砂粒 色調:暗赤褐色 内面に焼成前のヘラ掻き
43	陶器	すり常滑	長さ5.0	幅5.7	厚さ1.6	壺の口縁部片を再利用 内面、割れ口など四辺を研磨に利用
44	陶器	すり常滑	長さ5.8	幅7.7	厚さ0.9	片口鉢Ⅱ類の体部片を転用(内面磨耗)、割れ口の一边を研磨に使用
45	陶器	すり常滑	長さ11.9	幅6.4	厚さ1.3	片口鉢Ⅱ類の体部片を再利用、内面磨耗 割れ口上下端の二辺を研磨に利用

表上～1面出土遺物②(図16)

46	陶器	備前すり鉢	—	(13.8)	[4.0]	底1/3 胎土:緻密 色調:暗赤灰色 底部・体部内面に10条一単位の罫目
47	陶器	備前すり鉢	—	—	—	口小片 胎土:緻密、網状の練り具合 色調:暗赤灰色 内面に4条一単位?の罫目
48	陶器	東播磨鉢	—	—	[3.9]	口小片 胎土:砂質、白色砂粒 色調:灰色
49	陶器	東播磨鉢	—	—	—	口小片 胎土:砂質、白色砂粒 色調:灰色
50	瓦器	香炉	(6.0)	—	[2.3]	1/4割 胎土:緻密、黒色 色調:橙灰色 外面ヨコヘラミガキ+スタンプ文+貼り付け文 口縁部内面ヨコヘラミガキ
51	瓦質土器	火鉢	(39.0)	(30.6)	10.5	1/3割 胎土:細砂質 色調:灰色 体部下端外面糸切り痕? 口縁部内面煤付着
52	土製品	管状土鍾	長さ5.4	最大径3.2	孔径1.1	定形 52g
53	瓦	平瓦転用品	長さ9.9	幅9.8	厚さ2.2	胎土:緻密、白色砂粒 色調:灰白色 凸面に糸切り痕残 割れ口の一边を研磨に使用
54	石製品	硯	長さ12.1	幅5.4	高さ2.0	1/2以下? [130]g 表面筆舟部に線刻画(三つ雲文?) 黒色粘板岩製(鳴滝産若大路石)
55	石製品	硯	長さ4.3	幅7.2	高さ1.6	1/5前後 粘板岩製
56	石製品	硯	長さ7.3	幅4.4	高さ2.2	略定形 [46]g 胎土:雲母・白色針状物質 色調:黄褐色
57	石製品	砥石	長さ7.8	幅4.1	厚さ1.2	1/2程度? [56]g 仕上げ砥
58	石製品	砥石	長さ7.7	幅3.2	厚さ1.1	1/3前後か 仕上げ砥
59	石製品	砥石	長さ10.7	幅4.7	厚さ2.9	残存率不明 [243]g 表面と側面の二面を使用 中砥
60	石製品	砥石	長さ7.7	幅5.0	厚さ1.1	残存率不明 仕上げ砥か
61	石製品	砥石	長さ7.6	幅2.5	厚さ1.2	残存率不明 [38]g 表面1面を使用 仕上げ砥
62	骨製品	筭	長さ10.1	幅1.6	厚さ0.3	1/2
63	鉄製品	釘	長さ9.9	幅1.0	厚さ1.0	定形 19g
64	鉄製品	釘	長さ6.0	幅0.7	厚さ0.7	定形 9g
65	鉄製品	釘	長さ5.8	幅1.0	厚さ1.1	定形 5g
66	銅製品	銭	直径1.9	孔径0.7	厚さ0.1	定形 元祐通寶(篆書) 中国北宋代、1086年初鑄

1面遺物 出土遺物①(図17)

67	土器	ヨコロかわらけ・大	11.7	7.5	3.2	4/5 胎土:白色針状物質 色調:淡黄褐色
68	土器	ヨコロかわらけ・特大	(18.6)	(9.6)	4.8	1/3 胎土:粗、白色針状物質 色調:淡黄褐色 内底ナデ数回
69	陶器	常滑壺	—	—	—	胴小片 胎土:緻密、長石・石英 肩部外面に突帯・耳 色調:灰色

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
70	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[6.7]	口小片 胎土:緻密、白色砂粒 色調:暗灰色
71	土器	吉備系 碗	—	4.6	[1.1]	底完存 胎土:緻密 色調:灰色~黒灰色 内底面に紅?付着
72	石製品	砥石	長さ [6.4]	幅 [3.8]	高さ 2.1	1/2前後か 中砥
73	骨製品	筭	長さ [13.9]	幅 1.7	高さ 0.6	先端部欠損
74	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	5.4	1.4	2/3 胎土:細砂、泥岩粒 色調:淡黄褐色
75	土器	ロクロ かわらけ・大	12.3	7.4	3.4	完形 170g 胎土:粗、白色針状物質微量 色調:橙褐色
76	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	口小片 胎土:粗、小礫 色調:赤褐色
77	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.0	2.1	3/4 胎土:緻密 白色針状物質微量 色調:淡黄褐色
78	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.0	2.0	完形 48g 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡黄褐色
79	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.6	2.1	完形 52g 胎土:泥岩粒、白色針状物質 色調:淡黄褐色
80	陶器	尾室型 山茶碗	—	(6.9)	[1.7]	底1/3 胎土:砂質、白色礫 色調:灰色 高台内回転糸切り痕
81	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	13.2	1/8以下 胎土:緻密、白色・黒色粒 色調:暗赤灰色~褐色 内面に自然釉付着、使用感なし
82	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	口小片 胎土:緻密、白色粗砂 色調:暗灰色~暗赤灰色 9型式以降
83	瓦質土器	火鉢 転用品	長さ 12.4	幅 11.2	高さ 1.5	底部片を再利用か 割れ口の三辺を研削に使用 内底面ナデ、外底面に糸切り?痕
84	鉄製品	釘	長さ [6.0]	幅 1.1	高さ 0.8	先端部欠損 [9]g
85	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	5.1	2.5	2/3弱 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡褐色
86	陶器	常滑 葉	—	—	—	口小片 胎土:粗、小礫 色調:灰色
87	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[6.2]	口小片 胎土:長石 色調:暗赤灰色 8~9型式
88	鉄製品	釘	長さ 7.0	幅 0.7	高さ 0.7	完形 6g

1面遺構 出土遺物② (図18)

89	石製品	硯	長さ [10.9]	幅 [7.3]	高さ 1.4	4/5 [111]g 頁岩製(鳴滝産) 裏面に針状具による線刻面(阿弥陀如来や地藏菩薩の来迎図か)
90	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	5.0	1.7	1/4弱 胎土:緻密 色調:淡黄褐色 内底面に焼成後の線刻(文字か?判読不明)
91	土器	ロクロ かわらけ・中	10.9	6.8	3.1	略完形 [139]g 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡橙褐色 口縁部・体部内外面に煤付着
92	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	高さ 0.1	完形 景徳元寶 中国北宋代、1004年初鑄
93	磁器	白磁 合子蓋	(5.4)	天井径 (4.5)	1.4	1/6 胎土:白色、緻密 釉調:白色 天井部外面型押し文 体部外面蓮弁文
94	磁器	青磁 蓮弁文碗	—	—	[2.7]	口小片 胎土:灰色、密 釉調:灰緑色 龍泉窯系 大宰府Ⅱ-b類
95	陶器	備前 すり鉢	—	—	—	口小片 胎土:緻密、小礫 色調:赤灰色~褐色 内面に6条一單位の櫛目
96	瓦質土器	角火鉢?	長さ [9.8]	幅 [6.0]	高さ 3.3	小片 内面ナデ、外面へلاميガキ、外底面にスノコ状圧痕
97	石製品	砥石	長さ [21.2]	幅 3.7	高さ 2.6	一部欠損 [345]g 中砥(上野産) 4面を使用
98	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	高さ 0.1	完形 天聖元寶(真書) 中国北宋代、1023年初鑄
99	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	高さ 0.1	完形 熙寧元寶(真書) 中国北宋代、1068年初鑄
100	銅製品	銭	直径 2.2	孔径 0.7	高さ 0.1	完形 元豐通寶(行書) 中国北宋代、1078年初鑄
101	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.8	高さ 0.1	完形 元祐通寶(行書) 中国北宋代、1078年初鑄
102	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	高さ 0.1	完形 元祐通寶(篆書) 中国北宋代、1086年初鑄
103	—	—	—	—	—	欠番
104	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	高さ 0.1	完形 元祐通寶(篆書) 中国北宋代、1086年初鑄

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
105	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	定形 政和通寶(篆書) 中国北宋代、1111年初铸
1面下～2面出土遺物①(図19)						
106	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.4	3.4	0.9	定形 11g 胎土:緻密 色調:淡褐色
107	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.3	2.0	定形 47g 胎土:やや砂質、白色針状物質 色調:褐色
108	土器	ロクロ かわらけ・小	8.8	4.9	1.9	略定形 [48]g 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡橙褐色
109	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	6.1	1.8	定形 52g 胎土:砂質、白色針状物質 色調:淡褐色
110	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.1	1.7	略定形 [48]g 胎土:緻密 色調:淡黄褐色 器表、割れ口に酸化鉄?付着
111	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	5.3	1.7	3/4 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡黄褐色
112	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.7	1.7	定形 52g 胎土:泥岩粒、白色針状物質 色調:淡橙褐色
113	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.9	1.7	定形 50g 胎土:やや砂質 色調:淡橙褐色
114	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.4	1.7	定形 56g 胎土:緻密、泥岩粒、スコリア 色調:淡黄褐色 口縁部内外面に僅付着
115	土器	ロクロ かわらけ・小	7.9	6.0	2.0	定形 67g 胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質 色調:淡橙褐色 口縁部内外面に僅付着
116	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	4.8	1.8	3/4 胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質 色調:淡黄褐色
117	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.7	1.8	略定形 [57]g 胎土 緻密、泥岩粒、白色針状物質 色調:淡黄褐色
118	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.2	1.7	3/4 胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質 色調:淡橙褐色
119	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.4	2.0	2/3 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡橙褐色
120	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.3)	4.5	1.9	略定形、口縁部細かく打ち欠き [45]g 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡橙褐色
121	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.0	2.2	2/3 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡橙褐色
122	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(4.5)	2.2	1/4 胎土:緻密 色調:淡黄褐色
123	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.7	1.7	2/3 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡橙褐色 底部焼成後に穿孔(内面から) 口縁部内外面に僅付着
124	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	(6.8)	3.1	1/5 胎土:泥岩粒、白色針状物質 色調:淡橙褐色
125	土器	ロクロ かわらけ・大	11.9	7.2	3.5	4/5 胎土:泥岩粒、白色針状物質 色調:淡橙褐色 口縁部内外面に僅付着
126	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	6.5	3.7	略定形 [173]g 胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質 色調:淡褐色
127	土器	ロクロ かわらけ・大	—	(6.0)	[1.2]	底1/3 胎土:白色針状物質 色調:淡黄褐色 底部焼成後に穿孔
128	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(8.4)	3.3	1/2割 胎土:泥岩粒、白色針状物質 色調:橙褐色
129	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.2)	8.6	3.7	3/4 緻密、泥岩粒、白色針状物質 色調:橙褐色
130	土器	手づくね かわらけ・小	(8.2)	(6.6)	1.4	1/3 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡黄褐色
131	磁器	白磁 口元皿	(10.5)	(6.6)	2.0	1/6 胎土:白色、緻密 釉調:白黄色、薄掛け 外底面へフ切り、施釉
132	磁器	青磁 蓮弁文碗	—	4.9	[3.1]	底完存 胎土:灰色、やや粗 釉調:淡緑灰色 龍泉窯系 大宰府Ⅲ-2C類か
133	磁器	青磁 碗	—	5.3	[3.0]	底4/5 胎土:緻密、淡灰黄色 釉調:淡緑色 龍泉窯系 大宰府Ⅰ-1a類か
134	磁器	青磁 碗	—	4.7	[1.7]	底完存 胎土:白色、緻密 釉調:乳白色
135	磁器	青磁 蓮弁文碗	—	—	[3.4]	口小片 胎土:灰白色、緻密 色調:淡灰緑色
136	磁器	青磁 皿	(18.2)	(9.6)	4.1	1/6 胎土:灰白色、緻密 色調:淡灰緑色 内面に蓮弁状の型押し
137	舶載陶器	鈞窯系 楕木鉢?	—	—	[4.8]	胴1/8以下 胎土:灰褐色、白色微粒 釉調:褐色・白青色(稀釉+鈞青釉) 鈞窯系...中国浙江省婺(ふ)州窯などに類例
138	陶器	瀬戸 瓶子	(4.0)	—	[3.7]	口完存 胎土:灰色、緻密 釉調:淡緑灰色 瓶子Ⅰ or Ⅱ類 古瀬戸中期様式・Ⅱ期か
139	陶器	瀬戸 水筒	—	3.6	[2.0]	底完存 胎土:灰黄色、やや粗、混人物なし 釉調:透明釉 外底面まで施釉

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
140	陶器	瀬戸 入れ子	4.5	2.6	1.7	完形 15g 胎土:緻密、混入物なし 色調:灰白色 外底面回転車切り→一部ナデ 内面に紅付着
141	陶器	瀬戸 鉢皿	(18.8)	—	[3.3]	口1/4割 胎土:灰白色、緻密 釉調:淡灰黄色 体部下端外面は無釉
142	陶器	瀬戸 折縁深皿	(25.8)	(16.4)	8.0	底1/6～口わずか 胎土:淡灰黄色、緻密、混入物少ない 釉調:淡灰黄色
143	陶器	常滑 葉	—	—	—	胴小片 胎土:粗、白色砂粒 色調:赤褐色 外面に扇文のスタンプ
144	陶器	常滑 葉	—	—	—	胴小片 外面に焼成前のへう描き
145	陶器	常滑 葉	—	—	—	胴小片 胎土:長石 色調:赤褐色 外面に方格文のスタンプ
146	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[6.2]	口小片 胎土:長石 色調:赤褐色 内面未使用
147	陶器	すり常滑	長さ 7.9	幅 5.9	厚さ 1.5	葉の胴部片を転用 割れ口の二辺を研磨に使用
148	陶器	すり常滑	長さ (9.7)	幅 (7.7)	厚さ 1.2	葉の胴部片を再利用 割れ口の三辺を研磨に利用
149	瓦質土器	火鉢	—	—	10.3	口～体小片 胎土:灰白色、砂質、小礫 色調:灰黒色 口縁部内面→体部外面口ヘコヘタミガキ→体部外面スタンプ花卉文・貼り付け珠文

1面下～2面出土遺物② (図20)

150	土製品	かわらけ転用 円盤	直径 2.6	厚さ 0.9	—	完形 6g 胎土:砂質 色調:淡橙褐色
151	瓦	平瓦 転用品	長さ [11.0]	幅 7.8	厚さ 2.1	分割後、再整形 胎土:緻密、小礫 色調:灰白色 凹面に離れ砂→「十」字の条線 凸面ナデorズリ
152	石製品	硯	長さ [5.2]	幅 [9.5]	高さ [1.8]	1/3前後か
153	瓦	平瓦 転用品	長さ [9.3]	幅 5.3	厚さ 2.0	1/2前後 胎土:細砂質 色調:暗灰色 凸面離れ砂 割れ口を再加工(研磨)
154	石製品	用途不明	長さ 6.1	幅 3.7	厚さ 3.3	完形 35g 軽石製 一面に小孔
155	泥岩製品	用途不明	最大径 8.2	高さ 6.8	—	完形? 354g
156	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形 洋行元寶 中国北宋代、1009年初鑄
157	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形 元豐通寶(行書) 中国北宋代、1078年初鑄
158	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形 元豐通寶(篆書) 中国北宋代、1078年初鑄
159	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形 元祐通寶(行書) 中国北宋代、1086年初鑄
160	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形 元祐通寶(篆書) 中国北宋代、1086年初鑄
161	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	完形 元符通寶(行書) 中国北宋代、1098年初鑄
162	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形 大観通寶 中国北宋代、1107年初鑄
163	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形 大観通寶 中国北宋代、1107年初鑄

2面遺構 出土遺物① (図21)

164	土器	ロタロ かわらけ・小	(8.8)	(6.2)	1.8	1/2割 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡黄褐色
165	土器	ロタロ かわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.7	1/3 胎土:細砂質、白色針状物質 色調:淡橙褐色
166	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	完形 銭銘不明
167	磁器	青白磁 含子蓋	—	—	[2.1]	1/6以下 胎土:灰白色、緻密 釉調:白色→青白色 口縁部内外面無釉 天井部外面に壓押しによる文様(鳳凰?草花?)
168	陶器	尾張型 山茶碗	—	6.5	[3.3]	底定存 胎土:粗、白色砂、黒色粒 色調:灰色 高台内回転車切り直 内面使用により平滑、光沢あり
169	土器	ロタロ かわらけ・小	(6.3)	(4.6)	1.8	1/4 胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質 色調:淡褐色
170	鉄製品	釘	長さ [4.8]	幅 0.7	厚さ 0.8	下端部欠損 [3]g
171	鉄製品	釘	長さ [7.3]	幅 0.8	厚さ 0.8	下端部欠損 [13]g
172	鉄製品	釘	長さ [7.9]	幅 1.1	厚さ 0.9	下端部欠損 [13]g
173	鉄製品	釘	長さ [10.7]	幅 0.8	厚さ 1.0	下端部欠損 [23]g

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
174	骨製品	用途不明	長さ [5.0]	幅 1.3	厚さ 1.0	両端欠損 上面に割り込み (3ヶ所)
175	鉄製品	釘	長さ [6.8]	幅 0.8	厚さ 0.4	両端欠損 [7]g
176	銅製品	銭	直径 2.1	孔径 0.6	厚さ 0.1	定形 銭銘不明
177	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.8	2.2	略定形 [64]g 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡黄褐色
178	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.8)	(8.0)	3.3	1/4割 胎土:泥岩粒、白色針状物質 色調:橙褐色
179	陶器	常滑 壺	—	—	[5.6]	口小片 胎土:長石 色調:赤灰色 6b型式
180	陶器	すり常滑	—	(10.8)	4.8	片口鉢1 顔片を再利用 内面磨鈍 割れ口二辺を研磨に利用
181	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[4.7]	口小片 胎土:長石 色調:暗赤灰色
182	陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	体小片 胎土:緻密 色調:暗灰色 内面にへう掻き? + 自然釉 (使用痕なし)
183	陶器	尾張 片口鉢	—	(12.0)	[11.0]	底1/8以下 胎土:粗、長石 色調:灰色 内面に自然釉、内底面付近の器表剥落
184	石製品	砥石	長さ [6.5]	幅 3.3	厚さ 1.3	残存率不明 中砥
185	石製品	紡錘車	最大径 4.1	孔径 0.7	厚さ 1.6	定形 33g 滑石鋼の転用品か? 独案の可能性もあり

2面遺構 出土遺物② (図22)

186	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.3	2.1	定形 46g 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡橙褐色
187	土器	手づくね かわらけ・大	12.9	—	3.2	2/3 胎土:やや砂質、白色針状物質 色調:淡黄褐色
188	磁器	青磁 碗	—	—	[3.4]	口小片 口縁部外面に横位沈痼5条 胎土:灰色、やや粗 釉調:緑灰色
189	磁器	青磁 柳橋文皿	—	—	[1.0]	底小片 胎土:灰色、緻密 釉調:緑灰色 内底面に柳橋文 外底面無釉
190	瀬戸	瀬戸 四耳壺	(9.6)	—	[5.3]	口1/3 胎土:灰白色、緻密 釉調:緑灰色 二次焼成受け釉薬が発泡
191	陶器	瀧美 壺	—	—	[5.0]	口小片 胎土:微砂質 色調:灰色～暗青灰色
192	陶器	常滑 壺	—	—	—	胴小片 胎土:長石 色調:灰色
193	陶器	備前 すり鉢	(31.4)	—	[8.5]	口1/6 胎土:粗、白色礫 色調:赤灰色～黒灰色 内面に6条一単位の櫛目
194	陶器	備前 すり鉢	—	(14.8)	[9.1]	底1/4 胎土:白色礫 色調:赤褐色～緑灰色 内面に7条一単位の櫛目
195	陶器	東播磨 鉢	—	—	—	口小片 胎土:粗砂質、小礫 色調:暗灰色 片口部が部分的に残存
196	石製品	砥石	長さ [8.4]	幅 5.5	厚さ 4.1	残存率不明 [329]g 粗砥
197	石製品	砥石	長さ [9.3]	幅 2.9	厚さ 1.0	1/2以上か 仕上げ砥
198	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	定形 開元通寶 中国唐代、621年初鑄
199	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	定形 皇宋通寶(真書) 中国北宋代、1038年初鑄
200	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	定形 嘉祐通寶(篆書) 中国北宋代、1056年初鑄
201	銅製品	銭	直径 3.0	孔径 0.6	厚さ 0.1	定形 宣和通寶・折二銭(分幣) 中国北宋代、1119年初鑄
202	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.5	3.3	1.1	2/3 胎土:砂質、泥岩粒、白色針状物質 色調:橙褐色
203	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.4)	6.4	1.7	1/2割 胎土:緻密 色調:橙褐色
204	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.2)	(5.5)	1.8	1/3 胎土:泥岩粒、白色針状物質 色調:淡橙褐色
205	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.6)	(8.4)	3.8	1/3 胎土:泥岩粒、白色針状物質 色調:橙褐色
206	磁器	青白磁 合子蓋	—	—	—	天井小片 胎土:白色、緻密 釉調:青白色 天井部外面に壓押しによる鳳凰文
207	陶器	すり常滑	長さ 6.2	幅 4.9	厚さ 1.1	片口鉢Ⅱ類の口小片を再利用、口唇部と割れ口の一辺を研磨に利用 内面に自然釉付着
208	陶器	東播磨 鉢	—	(11.9)	[3.8]	底1/4 胎土:粗、白色礫 色調:灰白色 内外面に薄い煤付着



遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
209	陶器	備前 すり鉢	—	—	—	口小片 胎土:灰色で緻密、小磯、黒色粒 内面に7条一単位の筋目
210	石製品	榎石 研磨具?	長さ 10.5	幅 10.0	厚さ 7.0	定形? 113g 白色~灰白色
211	鉄製品	釘	長さ 9.9	幅 2.3	厚さ 2.0	定形 25g
212	鉄製品	釘	長さ 10.5	幅 1.5	厚さ 0.9	下端部欠損 [32]g
213	銅製品	銭	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	定形 元豊通寶(篆書) 中国北宋代、1078年
214	土器	ロクロ かわらけ・大	12.8	8.5	2.8	定形 151g 胎土:やや砂質、泥岩粒、白色針状物質 色調:橙褐色

2面遺構 130・138 出土遺物 (図23)

215	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.4	1.4	1/2割 胎土:砂質、白色針状物質、角四石
216	土器	白かわらけ 手づくね?大	(11.8)	—	2.9	1/3 胎土:緻密、割れ口が薄い層状をなす 色調:白灰色
217	磁器	青白磁 皿	—	—	—	口小片 胎土:白色、緻密 釉調:青白色 内面に型押し菊花文
218	石製品	砥石	長さ 11.8	幅 2.8	厚さ 1.6	定形? 中砥? 表裏2面を使用
219	金銅製品	弁	長さ 13.1	幅 0.4	厚さ 0.3	ほぼ定形 [4.7]g 青銅の地金に鍍金
220	鉄製品	釘	長さ 14.5	幅 1.3	厚さ 1.1	下端部欠損 [32]g
221	鉄製品	碗形洋 釘	長さ 13.9	幅 8.0	厚さ 3.5	定形 402g
222	陶器	常滑 釜	—	17.0	[45.2]	口頸欠失 胎土:灰黒色、外面に長石表出
223	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(7.4)	1.7	1/2割 胎土:細砂質、白色針状物質 色調:淡褐色
224	土器	手づくね かわらけ・大	12.1	—	3.5	4/5 胎土:微砂質、白色針状物質 色調:淡橙褐色
225	土器	手づくね かわらけ・大	11.7	—	3.6	定形 187g 胎土:粗、泥岩粒、白色針状物質 色調:橙色
226	陶器	北部系 山茶碗	—	5.4	[2.1]	底完存 胎土:黒色微粒表出 色調:灰白色 内底面磨耗 東濃産か?
227	陶器	尾張 片口鉢	(28.6)	13.0	13.7	底完存~口わずか 胎土:粗、長石、小磯 色調:灰色/黒色 内面磨耗 内外面~高台内得く黒染
228	陶器	すり常滑	長さ 7.2	幅 2.2	1.3	片口鉢I類の小片を再利用 内面と割れ口の一边を研磨に利用
229	石製品	砥石	長さ 6.2	幅 3.6	厚さ 0.8	両端欠損 [28]g 仕上げ砥か

2面下~3面 出土遺物 (図24)

230	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.7	略定形 [55]g 胎土:緻密 色調:淡黄褐色
231	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.5	1.9	略定形 [56]g 胎土:緻密、泥岩粒 色調:淡黄褐色
232	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	6.1	1.9	4/5 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡黄褐色
233	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.2	1.9	略定形 [48]g 胎土:やや砂質、泥岩粒、白色針状物質 色調:淡橙褐色
234	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	5.3	1.8	定形 49g 胎土:緻密、白色針状物質、雲母? 色調:淡黄褐色
235	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	5.8	1.9	2/3割 胎土:細砂質、泥岩粒、白色針状物質 色調:淡黄褐色
236	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.4)	2.1	1/2割 胎土:緻密 色調:淡黄褐色
237	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.1	2.0	3/4 胎土:泥岩粒、白色針状物質 色調:淡黄褐色
238	土器	ロクロ かわらけ・小	7.2	4.7	2.2	定形 41g 胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質 色調:橙褐色
239	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.4	2.2	4/5 胎土:泥岩粒、白色針状物質 色調:橙褐色
240	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	4.4	2.3	2/3割 胎土:白色針状物質 色調:橙褐色
241	土器	ロクロ かわらけ・大	12.7	7.5	3.9	3/4 胎土:緻密 色調:淡黄褐色
242	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.6)	(9.0)	4.3	1/4割 胎土:泥岩粒、白色礫 色調:明黄灰色 非在地産か

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
243	磁器	白磁 口夾皿	(11.5)	(5.4)	3.4	口わずか～底1/2弱 胎土:灰白色、緻密 釉調:淡青白色、薄掛け 外底面回転ヘラ切り、無釉 大宰府IX-1c類
244	陶器	常滑 広口壺	(16.4)	—	[8.3]	口～胴1/3 胎土:白色粗砂 色調:暗褐色～黒褐色 「不識書」
245	陶器	常滑 壺	—	—	[12.0]	口小片 胎土:やや砂質、緻密 色調:暗灰色 6a型式
246	陶器	尾張 片口鉢	—	11.5	[6.7]	底1/2 胎土:長石、白色礫 色調:灰色
247	陶器	産地不詳 鉢	—	(12.0)	[5.2]	底1/3 胎土:粗砂質、長石、小礫 色調:灰白色 外底面に離れ砂?
248	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ型	—	—	—	口小片 胎土:長石 色調:淡褐色 内面に自然釉、未使用
249	陶器	すり常滑	—	—	[3.8]	片口鉢Ⅱ型の体～底部片を転用(内面磨耗)、割れ口の二辺を研磨に使用
250	陶器	瀬戸 天日茶碗	(12.6)	(4.4)	6.6	底1/2～口1/8 胎土:淡灰色、精緻 釉調:黒褐色/褐色 体部下位外面～高台内輪釉薬 天日茶碗D型? 大室期以降か?
251	瓦器	香炉	(9.8)	(7.8)	[5.1]	1/4弱 胎土:灰白色、白・黒色細砂 色調:黒灰色 本家は三足あり? 外面ヨコヘミガキースタンプ文+貼り付け文 内面口縁部ヨコヘミガキ
252	石製品	砥石	長さ [12.2]	幅 3.9	厚さ 0.8	1/2前後か、表面1面を使用 仕上げ砥
253	鉄製品	釘	長さ 11.3	幅 1.2	厚さ 0.9	定形 16g
254	鉄製品	釘	長さ (9.4)	幅 0.5	厚さ 0.4	定形 10g
255	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	定形 開元通寶 中国唐代、621年初鑄
256	銅製品	銭	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	定形 嘉祐通寶(篆書) 中国北宋代、1056年初鑄
257	銅製品	銭	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	定形 熙寧元寶(篆書) 中国北宋代、1068年初鑄
258	銅製品	銭	直径 2.0	孔径 0.7	厚さ 0.1	定形 銭銘なし

### 3面遺構 出土遺物 (図25)

259	土器	ロタロ かわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.7	1/3 胎土:やや細砂質、泥岩粒、白色針状物質 色調:淡黄褐色
260	土器	ロタロ かわらけ・小	(8.0)	6.2	1.5	1/2弱 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡黄褐色
261	土器	手づくね かわらけ・小	(8.5)	—	1.9	1/2弱 胎土:白色針状物質 色調:淡褐色
262	陶器	瀬戸 碗?	—	—	[3.3]	口小片 胎土:灰色、緻密 釉調:淡緑灰色
263	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ型	—	—	—	口小片 胎土:長石 色調:赤褐色 6b～7型式
264	陶器	瀬美・瀬西か 器種不明	—	—	—	胴小片 胎土:微砂質、緻密 色調:灰色 円形の透孔、外面に突帯
265	陶器	常滑・壺	—	—	—	口小片 胎土:緻密、長石 色調:暗灰色 6a型式
266	鉄製品	釘	長さ 5.1	幅 0.9	厚さ 0.8	定形? (錆の付着顯著)
267	土器	ロタロ かわらけ・小	(8.3)	(5.8)	1.8	1/3 胎土:細砂質 色調:淡黄褐色
268	土器	ロタロ かわらけ・小	(8.0)	(5.3)	1.9	1/3 胎土:泥岩粒、白色針状物質 色調:淡褐色 口縁部内外面に煤付着
269	土器	手づくね かわらけ・小	(8.6)	—	1.6	1/4 胎土:やや砂質 雲母、角閃石 色調:淡黄褐色
270	土器	ロタロ かわらけ・小	(8.5)	6.0	1.6	1/2弱 胎土:泥岩粒、白色針状物質 色調:淡褐色
271	土器	ロタロ かわらけ・小	(8.8)	6.0	1.6	1/2弱 胎土:白色針状物質 色調:淡褐色
272	土器	手づくね かわらけ・小	(9.0)	—	1.4	1/2弱 胎土:細砂質、白色針状物質 色調:褐色
273	瓦	平瓦	長さ (9.0)	幅 16.3	厚さ 2.2	残存率不明 焼成後タテに2分割か? 胎土:緻密、白色微砂 色調:灰色 凸面隅目叩き+竹管文、凹面ナデ(離れ砂) 水堀寺瓦A類

### 3面遺構 1c下～4面(地山面)・3面遺構 18出土遺物 (図26)

274	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	[3.3]	1/3弱 胎土:やや砂質、泥岩粒、白色針状物質 色調:褐色
275	土器	燗台?	—	—	[3.5]	皿部? 胎土:微砂質、白色針状物質、角閃石 色調:淡褐色
276	磁器	青磁 柳屋文碗	—	8.6	[3.3]	底1/2 胎土:灰色、緻密 釉調:緑色、薄掛け 内外面に柳屋文文様 同安藤系 大宰府1-1b類

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
277	磁器	青磁 彫描文碗	—	—	[3.1]	口小片 胎土:灰白色、やや粗 釉調:淡緑色、薄掛け 内外面に彫描き文様 阿安蓋系 大宰府 I - 1b類
278	陶器	常滑 壺	—	—	[9.3]	口小片 胎土:粗、白色粗砂 色調:暗褐色
279	陶器	常滑 壺	—	—	—	胴小片 胎土:淡灰黄色、緻密 色調:灰色 外面に格子状の押印帯2段
280	陶器	常滑 壺	—	—	—	胴小片 胎土:緻密 色調:灰色-赤褐色 外面に唐草文のスタンプ
281	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	8.9	3.0	1/2割 胎土:やや砂質、泥岩粒、白色針状物質、角閃石 色調:淡黄褐色
282	土器	手づくね かわらけ・小	(8.7)	(7.1)	1.7	1/2割 胎土:緻密、泥岩粒、白色針状物質 色調:淡黄褐色
283	土器	手づくね かわらけ・小	(9.2)	(7.6)	1.8	1/3 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡黄褐色
284	土器	手づくね かわらけ・大	(12.5)	—	3.5	1/4 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡黄褐色
285	陶器	東遠 子持ち皿	(8.3)	3.7	1.6	子皿4.1×3.2×1.1cm 総高1.8cm 3/4割 胎土:精緻、白色微砂 色調:灰色
286	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[10.7]	1/8以下、底部剥離 胎土:密、白色焼 色調:暗灰色
3面下～4面(地山面)・4面遺構出土遺物(図27)						
287	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.2	1.8	4/5 胎土:泥岩粒、白色針状物質 色調:淡黄褐色
288	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.9)	7.0	2.9	2/3 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡黄褐色
289	土器	手づくね かわらけ・小	8.7	—	2.1	完形 63g 胎土:微砂質、白色針状物質、角閃石 色調:淡黄褐色
290	土器	手づくね かわらけ・小	8.6	—	1.7	3/4 胎土:微砂質、白色針状物質 色調:暗褐色
291	陶器	常滑 壺	—	—	—	口小片 胎土:黒色粗粒、長石 色調:灰色
292	鉄製品	刀子	長さ (14.1)	幅 (2.1)	厚さ 0.2	両端部欠損 [33.5]g
293	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.3)	—	[2.7]	1/6以下 胎土:細砂多量、白色針状物質 色調:橙褐色
294	土器	手づくね かわらけ・大	(13.4)	—	3.2	1/3割 胎土:細砂少量、雲母・角閃石 色調:淡黄灰色(外面薄く黒変)
295	磁器	青磁 劃花文碗	—	—	[4.6]	口小片 胎土:白灰色、緻密 釉調:淡灰緑色 龍泉蓋系 大宰府 I - 3a類
296	磁器	青磁 劃花文碗	—	—	[3.4]	口小片 胎土:白灰色、緻密 釉調:淡緑灰色 龍泉蓋系 大宰府 I - 2類
297	陶器	東遠 小皿	(7.7)	3.9	2.0	1/3 胎土:緻密、混人物なし 色調:暗灰色
298	陶器	常滑 壺	—	—	[2.6]	口小片 胎土:長石 色調:暗褐色
299	陶器	尾巻 片口鉢	—	—	[5.2]	口小片 胎土:微砂質、長石微粒 色調:灰色 体部内面磨耗 常滑 I 類
300	土器	手づくね かわらけ・大	(12.7)	—	3.6	1/3 胎土:緻密、白色針状物質 色調:淡黄褐色
301	土器	ロクロ かわらけ・極小	(4.0)	(3.3)	0.8	1/2割 胎土:緻密 色調:灰白色
302	陶器	すり常滑	長さ 6.7	幅 6.6	厚さ 1.3	薬の肩部片を再利用 割れ口の一端を研磨に利用
303	土器	手づくね かわらけ・大	(13.5)	—	[2.9]	1/6 胎土:砂質、角閃石 色調:淡黄褐色
304	土器	手づくね かわらけ・大	(12.2)	—	[3.1]	1/6 胎土:緻密、白色針状物質 色調:橙褐色
305	陶器	瀬美 片口鉢	—	—	[2.8]	口小片 胎土:細砂質、緻密 色調:灰色









器種	印刷機				青白磁						白磁				
	天出機	盤	構切木或鋼系	盤	合蓋	合身	碗皿	盤	水注	口鼻器皿	湯碗	皿	碗	四角器	飯器
面・單位	出上道機	点數	重量												
表採	—									3	35		1	10	
表土							1	5	1	5					
—	攪乱									2	20				
0面	—														
1面±C	—	2	30	1	5	1	5		1	5	46	275	6	35	1
1面	—					1	10		1	20	3	35	4	15	5
1面	道機1・10														
1面	道機2(大)														
1面	道機3														
1面	道機4														
1面	道機11				1	5								1	15
1面	道機28														
1面	道機29														
1面	道機30														
1面	道機32														
1面	道機33														
1面	道機34														
1面	道機35														
1面	道機36														
1面	道機37(大)														
1面	道機39														
1面	道機40														
1面	道機56														
1面	道機122														
1面	道機127														
1面	道機128														
1面	道機134														
1面	道機135														
1面	道機136														
1面	道機137														
1面下	—				1	65	1	10	1	5	17	165	1	10	1
1面下	道18下														25



品名	器具・備品											不明	備品					
	表球	表土	〇皿	1面L	1面	1面	1面	1面	1面	1面	1面			1面				
面・脚位	出上酒樽	点取	重量															
	—	1	5	2	1													
表球		1	15				1	25										
表土		2	25					1	5									
—	覆皿	4	35	2	60													
〇皿	—	4	35	2	60													
1面L	—	76	800	3	20	4	40	1	5	15	215	2	10				1	20
1面	—	43	360	1	10	1	90											
1面	酒樽1・10	5	55	1	15													
1面	酒樽2(大)																	
1面	酒樽3																	
1面	酒樽4	1	30															
1面	酒樽11	1	15							1	15							
1面	酒樽28																	
1面	酒樽29																	
1面	酒樽30				1	5												
1面	酒樽32																	
1面	酒樽33																	
1面	酒樽34																	
1面	酒樽35	1	5							2	5							
1面	酒樽36																	
1面	酒樽37(大)																	
1面	酒樽39																	
1面	酒樽40	10	75															
1面	酒樽56																	
1面	酒樽122			1	35													
1面	酒樽127																	
1面	酒樽128	1	75	1	10			1	10	1	30							
1面	酒樽134																	
1面	酒樽135																	
1面	酒樽136																	
1面	酒樽137																	
1面下	—	39	390	2	30	4	15		3	50	10	245	1	10	1	10		4
1面下	酒13下														24	205		
															1	5		

製 品 名	製 品 名	石 製 品										骨 製 品		備 註			
		鐵	滑 石 粉	滑 石	硬 石	防 車 骨	磨 石	磨 石 質 石	石 製 石 瓦	加 壓 品	骨 製 骨	骨 製 骨					
面・部位	出上選購	点數	重量														
表採	—	2	5									1	65				
表土	—																
—	塵乱																
0部	—																
1部2号	—	5	20	1	100	14	660	1	55	1	5						
1部	—	2	10	1	65	4	285	1	5		2	325					
1部	選購1・10	2	10	1	160	1	105	1	111								
1部	選購2(大)																
1部	選購3	1	5														
1部	選購4																
1部	選購11	10	35	1	20	4	375										
1部	選購28																
1部	選購29																
1部	選購30																
1部	選購32																
1部	選購33																
1部	選購34																
1部	選購35																
1部	選購36																
1部	選購37(大)																
1部	選購39																
1部	選購40	1	5														
1部	選購56																
1部	選購122																
1部	選購127																
1部	選購128																
1部	選購134																
1部	選購135																
1部	選購136																
1部	選購137																
1部下	—	2	10														
1部下	道18下																

調査区		手わくわくわね		小わくわくわね				白わらわね				調査			調査区 ・ 調査区	
		小	大	小	中	大	特小	特大	巻	耐用	火	防乳	片目録	巻		産
面・層位	出土遺構	点数	重量													
2面	遺構12	3	25	295	13	170	38	580								
2面	遺構13	6	50	1	10	4	20	30	310							
2面	遺構14	1	15	1	20	15	115	21	245							
2面	遺構15・16				5	35	14	165								
2面	遺構17	6	65	14	235	21	235	101	1195							
2面	遺構41			1	25	2	15	5	70							
2面	遺構42					1	20	4	75							
2面	遺構46			1	10	4	50	5	60							
2面	遺構47	1	20					3	20					1	20	
2面	遺構49			1	5											
2面	遺構50			4	30			2	15							
2面	遺構52	1	15	4	30	21	210									
2面	遺構53	1	10	1	15											
2面	遺構54	1	20			2	35									
2面	遺構55			1	5	2	10									
2面	遺構69(火)	1	30													
2面	遺構123			1	15	3	25									
2面	遺構125(火)			1	5											
2面	遺構126(火)			1	5	4	35									
2面	遺構129(火)	1	5	6	55	6	30	19	130							
2面	遺構130a+b			1	10	8	270	39	515	116	1840					
2面	遺構130a															
2面	遺構130a 拡張															
2面	遺構130a 掘方			1	15	1	15	1	20							
2面	遺構130b															
2面	遺構131	4	105	43	600	123	2170	1	10							
2面	遺構138	49	660	19	265	27	805									
2面	遺構140・141															
2面	遺構147	1	10	3	55	2	160									
2面下	—	18	175	71	1085	149	2075	354	6225							
2面下	遺10下			8	125	11	135	39	720							
								1	20			1	135	17	1250	
								1	75	4	240	1	25			





器種	土器品名	瓦器	瓦器土器			瓦	土器			土口器	漆器			漆陶器			
			式録	番号	耐用		軒瓦	平瓦	瓦瓦		坏	環	環蓋		裏蓋	底	
面・部位	出土遺構	点数	重量														
2面	遺構12	1	5	2	45				2	195	2	270					
2面	遺構13																
2面	遺構14				1	315											
2面	遺構15・16								1	350							
2面	遺構17				2	70			1	70	1	55					
2面	遺構41								2	290							
2面	遺構42																
2面	遺構46																
2面	遺構47																
2面	遺構49																
2面	遺構50																
2面	遺構52				2	90			1	10							
2面	遺構53																
2面	遺構54																
2面	遺構55																
2面	遺構69(穴)																
2面	遺構123																
2面	遺構125(穴)																
2面	遺構126(穴)																
2面	遺構129(穴)				1	15											
2面	遺構130c-9								1	210							
2面	遺構130a				10	675			5	545							
2面	遺構130b(屋)																
2面	遺構130c(壁)																
2面	遺構130c(瓦)																
2面	遺構130d																
2面	遺構131				2	175			2	275							
2面	遺構138								1	100							
2面	遺構140-141																
2面下	遺構147				9	315	1	60									
2面下	---								5	1005	5	850					
2面下	遺10下				1	105	1	160									
																	1
																	30

品名	原産地 産品名				加工品						白身					
	天 下 品	産 地	産 品 名 ( 品 名 等 類 )	産 品 名 ( 産 品 名 等 類 )	食 量	食 身	飼 料 量	産 品 名 ( 産 品 名 等 類 )	産 品 名 ( 産 品 名 等 類 )	産 品 名 ( 産 品 名 等 類 )	産 品 名 ( 産 品 名 等 類 )	産 品 名 ( 産 品 名 等 類 )	産 品 名 ( 産 品 名 等 類 )	産 品 名 ( 産 品 名 等 類 )	産 品 名 ( 産 品 名 等 類 )	
																飼 料 量
面・部位	出上	産品名	産品名	産品名	産品名	産品名	産品名	産品名	産品名	産品名	産品名	産品名	産品名	産品名	産品名	産品名
2部	酒樽12															
2部	酒樽13															
2部	酒樽14															
2部	酒樽15・16															
2部	酒樽17															
2部	酒樽41															
2部	酒樽42															
2部	酒樽46															
2部	酒樽47															
2部	酒樽49															
2部	酒樽59															
2部	酒樽52															
2部	酒樽53															
2部	酒樽54															
2部	酒樽55															
2部	酒樽69(大)															
2部	酒樽123															
2部	酒樽125(大)															
2部	酒樽126(大)															
2部	酒樽129(大)															
2部	酒樽130a・b															
2部	酒樽130a															
2部	酒樽130a 招標															
2部	酒樽130a 部方															
2部	酒樽130b															
2部	酒樽131															
2部	酒樽138															
2部	酒樽 140・141															
2部下	酒樽147															
2部下	—															
2部下	酒10下															
2部下	酒10下															

品名	規格品										不明	数量	不明	数量	不明	数量		
	選定文種	種花文種	折衷品	品名	既類	例品	不明	種花文種	種花文種	種花文種								
品・部位	出上選種	点取重量	4	15														
2期 酒牌12																		
2期 酒牌13																		
2期 酒牌14																		
2期 酒牌15-16																		
2期 酒牌17																		
2期 酒牌41																		
2期 酒牌42																		
2期 酒牌46																		
2期 酒牌47																		
2期 酒牌49																		
2期 酒牌50																		
2期 酒牌52																		
2期 酒牌53																		
2期 酒牌54																		
2期 酒牌55																		
2期 酒牌69(欠)																		
2期 酒牌123																		
2期 酒牌125(欠)																		
2期 酒牌126(欠)																		
2期 酒牌129(欠)																		
2期 酒牌130(欠)																		
2期 酒牌130a																		
2期 酒牌130b																		
2期 酒牌130c(原)																		
2期 酒牌130d(原)																		
2期 酒牌130e																		
2期 酒牌131																		
2期 酒牌132																		
2期 酒牌133																		
2期 酒牌134																		
2期 酒牌141																		
2期 酒牌147																		
2期下																		
2期下																		



面・層位 出上 酒樽	酒樽品名		石製品										貴重品		漆喰		
	線	銭	滑石 備	磁石	磁	基石	防塵 扉	磨石	御燈 取口	石 系 瓦 行 瓦	彫 刻 品	骨 董 品	障 子	漆 喰			
2面・層位	出上酒樽	点数	重量														
2面	酒樽12	5	2	105													
2面	酒樽13				1	10											
2面	酒樽14				1	30											
2面	酒樽15・16	1										1	350				
2面	酒樽17				1	75											1
2面	酒樽41	2															
2面	酒樽42																
2面	酒樽46																
2面	酒樽47				1	45											
2面	酒樽49																
2面	酒樽50						1	35									
2面	酒樽52																
2面	酒樽53	5															
2面	酒樽54																
2面	酒樽55																
2面	酒樽69(大)																
2面	酒樽123																
2面	酒樽125(大)	20															
2面	酒樽126(大)	10															
2面	酒樽129(大)	10															
2面	酒樽130a・b							1	110								
2面	酒樽130a	3		2	50	2	270										3
2面	酒樽130a(反)	5															
2面	酒樽130a(反)																
2面	酒樽130b	35															
2面	酒樽131	1												1	110		
2面	酒樽132																
2面	酒樽132a																
2面	酒樽132b																
2面	酒樽147	7		1	80	1	10	2	90								
2面下	—																
2面下	酒16下	1															
2面下	酒16下																

器種	重 か わ く わ ら ね け		か わ わ ら ね け						白 わ ら ね け		製 菓		製 菓・ 焼 酎・ 酒 類
	小	大	小	大	中 大	小 大	特 大	特 大	片 鉢	変	皿		
面・部位	点 数		重 量		容 積		容 積		容 積		容 積		
出上酒樽	8	21	260	21	310	70	1040						
3面	—	—	—	—	—	—	—						
酒樽18	11	170	47	695	5	85	520			10	620		
3面										13	755		
酒樽57			3	35		1	50						
3面													
酒樽59			1	10									
3面													
酒樽60						3	20						
3面						1	10						
酒樽61	1	15											
3面													
酒樽62													
3面													
酒樽64	1	10	2	55		1	15						
3面													
酒樽65			1	5									
3面													
酒樽66			1	15									
3面													
酒樽70	1	5	1	10									
3面													
酒樽71							1	20					
3面							1	10					
酒樽72										1	50		
3面													
酒樽73			1	10	1	5	1	10					
3面													
酒樽78						1	10						
3面													
酒樽79			2	15		1	5						
3面													
酒樽82			2	40									
3面													
酒樽83	1	25				2	15						
3面													
酒樽84			1	10									
3面													
酒樽85													
3面													
酒樽86	2	10	4	35	1	5							
3面													
酒樽87			6	65									
3面													
酒樽91	3	20	1	50	7	40	7	70					
3面													
酒樽132(欠)						1	5						
3面													
酒樽133							7	90					
3面													
酒樽145	1	10	3	40	5	95							
3面													
酒樽149	2	20	2	15		1	10						
3面													
酒樽150a	1	15	4	75	7	140	9	125					
3面													
酒樽152			1	10	3	50	2	40					
3面													
酒樽154(欠)													
3面													
酒樽155(欠)			1	5									
3面													
酒樽156(欠)													
3面													
通1上	—	4	160	20	345	13	175	22	310				
3面下										1	90	7	555
通1下		34	595	37	565	2	25	9	245				
3面下												2	110

區・單位	出產樹種	片一級樹膠				片二級樹膠				片三級樹膠				地方常備	產量	樹膠深產量	加量	樹膠量	人子	四子量	膠子	紙類
		片一級樹膠	片二級樹膠	片三級樹膠	片四級樹膠	片一級樹膠	片二級樹膠	片三級樹膠	片四級樹膠													
3期	—	1	5	2	55	1	105															
3期	酒桶18					3	170								4	515						
3期	酒桶57					1	25	5	650						12	725	1	35				
3期	酒桶59					10	32	3575	108	6860	1	20	760	1330	2	80	2	210				1
3期	酒桶60					37	2025	29	2330						256	1870	1	35	1	100		
3期	酒桶61					1	20	42	1815	13	985				149	7246	58	200				
3期	酒桶63								1	20					2	120						
3期	酒桶64														5	225						
3期	酒桶65								1	35					17	690						
3期	酒桶66								18	435	10	605			80	4725						
3期	酒桶70														1	140						
3期	酒桶71																					
3期	酒桶72																					
3期	酒桶73																					
3期	酒桶78																					
3期	酒桶79																					
3期	酒桶82								1	10					7	335						
3期	酒桶83														1	25						
3期	酒桶84														2	140						
3期	酒桶85														2	85						
3期	酒桶86								1	5	6	115	12	800	45	2105						
3期	酒桶87										6	250	3	110	14	590	2	15				
3期	酒桶91										1	25	1	145	9	580	1	115				
3期	酒桶122(次)										1	5			14	1055						
3期	酒桶133																					
3期	酒桶141-142-149										1	25			1	60						
3期	酒桶145														1	75						
3期	酒桶149										1	10			3	130						
3期	酒桶150a														12	740						
3期	酒桶152								3	45	101	4010	71	4555	1	15	961	60963	11	710	2	233
3期	酒桶154(次)										1	135	1	10	9	230						
3期	酒桶155(次)														7	945						
3期	酒桶156(次)										1	20			9	465						
3期下	—										3	100	5	405	43	2155						
3期下	酒桶下										6	200			12	705	1	20				

潮州

廣東  
·  
省級  
·  
常規  
·  
產量

圖・部位	基礎		基礎	型		注	壁		壁	梁		柱		梁		板		その他			
	山	小		山	小		山	小		山	小	山	小	山	小	山	小	山	小	山	小
	出上・階位		点数		重量																
3階	3階	酒筒18																			
3階	3階	酒筒18																			
3階	3階	酒筒57																			
3階	3階	酒筒59																			
3階	3階	酒筒60																			
3階	3階	酒筒61																			
3階	3階	酒筒63																			
3階	3階	酒筒64																			
3階	3階	酒筒65																			
3階	3階	酒筒66																			
3階	3階	酒筒70																			
3階	3階	酒筒71																			
3階	3階	酒筒72																			
3階	3階	酒筒73																			
3階	3階	酒筒78																			
3階	3階	酒筒79																			
3階	3階	酒筒82																			
3階	3階	酒筒83																			
3階	3階	酒筒84																			
3階	3階	酒筒85																			
3階	3階	酒筒86																			
3階	3階	酒筒87																			
3階	3階	酒筒91																			
3階	3階	酒筒132(欠)																			
3階	3階	酒筒133																			
3階	3階	酒筒141																			
3階	3階	酒筒145																			
3階	3階	酒筒149																			
3階	3階	酒筒150a																			
3階	3階	酒筒152																			
3階	3階	酒筒154(欠)																			
3階	3階	酒筒155(欠)																			
3階	3階	酒筒156(欠)																			
3階下	3階下																				
3階下	3階下	通1c下																			

1 | 140

品名	规格	瓷土器			瓦			土器			漆器			其他
		数量	单位	重量	数量	单位	重量	数量	单位	重量	数量	单位	重量	
面・部位	出上・道筒	点数	重量											
3册	—	1	35											
3册	道筒18													
3册	道筒57	2	55											
3册	道筒59													
3册	道筒60													
3册	道筒61													
3册	道筒63	1	5											
3册	道筒64													
3册	道筒65													
3册	道筒66													
3册	道筒70													
3册	道筒71													
3册	道筒72													
3册	道筒73													
3册	道筒78													
3册	道筒79													
3册	道筒82													
3册	道筒83													
3册	道筒84													
3册	道筒85													
3册	道筒86													
3册	道筒87													
3册	道筒91													
3册	道筒132(欠)													
3册	道筒133													
3册	道筒141・141・149													
3册	道筒145													
3册	道筒149													
3册	道筒150a													
3册	道筒152													
3册	道筒154(欠)													
3册	道筒155(欠)													
3册	道筒156(欠)													
3册下	—													
3册下	道1c下	3	380											

品名	原裝					雙口酒					白蘭地							
	瓶	單位	出上酒類	點數	重量	天 口 酒	雙 口 酒	雙 口 酒	雙 口 酒	雙 口 酒	雙 口 酒	雙 口 酒	雙 口 酒	雙 口 酒	雙 口 酒	雙 口 酒	雙 口 酒	雙 口 酒
	3瓶	—	出上酒類	1	5													
	3瓶	酒牌18																
	3瓶	酒牌57																
	3瓶	酒牌59																
	3瓶	酒牌60																
	3瓶	酒牌61																
	3瓶	酒牌63																
	3瓶	酒牌64																
	3瓶	酒牌65																
	3瓶	酒牌66																
	3瓶	酒牌70																
	3瓶	酒牌71																
	3瓶	酒牌72																
	3瓶	酒牌73																
	3瓶	酒牌78																
	3瓶	酒牌79																
	3瓶	酒牌82																
	3瓶	酒牌83																
	3瓶	酒牌84																
	3瓶	酒牌85																
	3瓶	酒牌86																
	3瓶	酒牌87																
	3瓶	酒牌91																
	3瓶	酒牌132(次)																
	3瓶	酒牌133																
	3瓶	酒牌141(次)																
	3瓶	酒牌145																
	3瓶	酒牌149																
	3瓶	酒牌150a																
	3瓶	酒牌150b																
	3瓶	酒牌152																
	3瓶	酒牌154(次)																
	3瓶	酒牌155(次)																
	3瓶	酒牌156(次)																
	3瓶下	—																
	3瓶下	酒牌157																

品名	環境基準												検査項目				
	有害物質						化学物質						物理性状				
	点数	重畳	単位	単位	重量	点数	重畳	単位	単位	重量	点数	重畳	単位	単位	重量	不明	検査項目
出上消焼	1	10	1	5													
3面																	
3面	消焼	18															
3面	消焼	57															
3面	消焼	59															
3面	消焼	60															
3面	消焼	61															
3面	消焼	63	1	10													
3面	消焼	64															
3面	消焼	65															
3面	消焼	66															
3面	消焼	70															
3面	消焼	71															
3面	消焼	72															
3面	消焼	73															
3面	消焼	78															
3面	消焼	79															
3面	消焼	82															
3面	消焼	83															
3面	消焼	84															
3面	消焼	85															
3面	消焼	86															
3面	消焼	87															
3面	消焼	91															
3面	消焼	133															
3面	消焼	141-143															
3面	消焼	145															
3面	消焼	149															
3面	消焼	150															
3面	消焼	152															
3面	消焼	154(大)															
3面	消焼	155(大)															
3面	消焼	156(大)															
3面	下		1	5		1	5	2	10	1	5	3	70				
3面	下		1	5		2	25										
3面	下		1	5		2	25										

品名 單位 出上選購	調味品		石製品										香品		裝設		
	瓶	罐	香品類	磁石	磁石	磁	磨石	防塵	磨石	磨石	磨石	磨石	磨石	磨石		磨石	磨石
瓶・單位	出上選購	品數	數量														
3瓶	——																
3瓶	酒精18																
3瓶	酒精57																
3瓶	酒精59																
3瓶	酒精60																
3瓶	酒精61																
3瓶	酒精63																
3瓶	酒精64																
3瓶	酒精65																
3瓶	酒精66																
3瓶	酒精70																
3瓶	酒精71																
3瓶	酒精72																
3瓶	酒精73																
3瓶	酒精78																
3瓶	酒精79																
3瓶	酒精82																
3瓶	酒精83																
3瓶	酒精84																
3瓶	酒精85																
3瓶	酒精86																
3瓶	酒精87																
3瓶	酒精91																
3瓶	酒精132(欠)	1	5														
3瓶	酒精133																
3瓶	酒精141+149																
3瓶	酒精145																
3瓶	酒精149																
3瓶	酒精150a																
3瓶	酒精152																
3瓶	酒精154(欠)																
3瓶	酒精155(欠)																
3瓶	酒精156(欠)																
3瓶下	——															2	25
3瓶下	道16下																



品名	手 か わ く ら ね け		小 大			中 大	極 小	特 大	造 用	火	貯 乳	製			選 記・ 商 標	
	小	大	小	大	小							片 目 録	製	造		山 産 標
面・層位	出上	選	品	名	重量											
4階	選	酒樽19			3	40										
4階	選	酒樽20(欠)			3	20										
4階	選	酒樽21					1	5								
4階	選	酒樽22			1	10	3	15								
4階	選	酒樽23(欠)			1	10	5	55								
4階	選	酒樽24			1	10	1	5								
4階	選	酒樽25														
4階	選	酒樽27			2	25	1	5	1	10						
4階	選	酒樽89														
4階	選	酒樽92			2	35										
4階	選	酒樽94			1	10										
4階	選	酒樽98														
4階	選	酒樽99			1	5										
4階	選	酒樽102														
4階	選	酒樽103			2	15										
4階	選	酒樽105			1	5				1	15					
4階	選	酒樽111			1	10										
4階	選	酒樽113														
4階	選	酒樽116			2	10										
4階	選	酒樽118														
4階	選	酒樽119(欠)			1	35										
4階	選	酒樽142			2	10	1	15								
4階	選	酒樽143														
4階	選	酒樽144														
4階	選	酒樽151			8	135										
4階	選	酒樽153														
4階	選	酒樽157(欠)														
4階	選	酒樽158			1	5										
4階	選	酒樽160			16	315				1	10					
4階	選	酒樽161								1	20					
4階	選	酒樽163(欠)														
4階	選	酒樽166			1	5										
4階	選	酒樽167			1	5	4	35	2	15	2	20				
4階	選	酒樽168														
4階	選	酒樽169			8	50										
4階	選	酒樽170														
4階	選	酒樽171			1	10										
4階下	選	酒樽172			2	20										

部・部位	出上通帳	山 部	片 部		片 部	片 部	片 部	片 部	片 部	平 部	折 部	部	部	部	部	部	部
			点数	重畳													
4部	通帳19	1	5	2	55	1	105			4	515						
4部	通帳20(大)				3	170				12	725	1	35				
4部	通帳21				1	25	5	650		20	1350	3	95				
4部	通帳22				2	50	6	425		9	850						
4部	通帳23(大)	1	10	90	3525	102	6435	1	20	753	43560	2	80	2	210		
4部	通帳24				37	2025	29	2330		256	1670	1	35	1	100		
4部	通帳25	1	20	42	1815	13	985			149	7246	58	200				
4部	通帳27					1	20			2	120						
4部	通帳89									5	225						
4部	通帳92					1	35			17	690			2	35		
4部	通帳94					18	435	10	605	80	4725						
4部	通帳98									1	140						
4部	通帳99																
4部	通帳102																
4部	通帳103																
4部	通帳105					1	10			3	105						
4部	通帳111									7	335						
4部	通帳113									1	25						
4部	通帳116									2	140						
4部	通帳118							2	85								
4部	通帳119(大)	1	5	6	115	12	800			45	2105						
4部	通帳142				6	250	3	110		14	590	2	15				
4部	通帳143				1	25	1	145		9	580	1	115				
4部	通帳144				1	5				14	1055						
4部	通帳151																
4部	通帳153	1	5	1	25					1	60						
4部	通帳157(大)									1	75						
4部	通帳158				1	10				3	130						
4部	通帳160									12	740						
4部	通帳163(大)	3	45	101	4010	71	4555	1	15	961	6095	11	710	2	235		
4部	通帳166	1	135	1	10					9	230						
4部	通帳167									7	945						
4部	通帳168	1	20							9	465						
4部	通帳169									2	95						
4部	通帳170				6	200				12	705	1	20				
4部	通帳171				2	60	1	40		4	260						
4部下	—				2	410	1	75		4	275			2	20		



器 種	土 品 名	瓦 器	瓦 器 土 器			瓦			土 器	土 口 器	土 器		以 外 器
			式 錄	番 用	軒 瓦	瓦	瓦	環			環 瓦		
面・單位	出土遺構	管 狀 土 罐	點 數	重 量									
4面	遺構19												
4面	遺構20(穴)												
4面	遺構21				1	15							
4面	遺構22												
4面	遺構23(穴)												
4面	遺構24												
4面	遺構25												
4面	遺構27												
4面	遺構89												
4面	遺構92												
4面	遺構94												
4面	遺構98												
4面	遺構99												
4面	遺構102												
4面	遺構103												
4面	遺構105												
4面	遺構111												
4面	遺構113												
4面	遺構116												
4面	遺構118												
4面	遺構119(穴)							1	115				
4面	遺構142												
4面	遺構143												
4面	遺構144												
4面	遺構151												
4面	遺構153												
4面	遺構157(穴)												
4面	遺構158												
4面	遺構160												
4面	遺構163(穴)												
4面	遺構166												
4面	遺構167												
4面	遺構168												
4面	遺構169												
4面	遺構170									1	10		
4面下	—												

品名	原産地産品				加工品						自産							
	天 出 品	糖	糖 質 不 純 分	糖	食 塩	食 塩	食 塩	食 塩	食 塩	食 塩	食 塩	食 塩	食 塩	食 塩	食 塩	食 塩	食 塩	食 塩
面・単位	出上	道精	点数	重量														
4部	道精19																	
4部	道精20(欠)																	
4部	道精21																	
4部	道精22																	
4部	道精23(欠)																	
4部	道精24																	
4部	道精25																	
4部	道精27																	
4部	道精89																	
4部	道精92																	
4部	道精94																	
4部	道精98																	
4部	道精99																	
4部	道精102																	
4部	道精103																	
4部	道精105																	
4部	道精111																	
4部	道精113																	
4部	道精116																	
4部	道精118																	
4部	道精119(欠)																	
4部	道精142																	
4部	道精143																	
4部	道精144																	
4部	道精151																	
4部	道精153																	
4部	道精157(欠)																	
4部	道精158																	
4部	道精160																	
4部	道精163(欠)																	
4部	道精166																	
4部	道精167																	
4部	道精168																	
4部	道精169																	
4部	道精170																	
4部	道精171																	
4部下	—																	

品名	規定検査項目							異常検査	不明	検査項目								
	揮発性物質	酸化物質	鉛	銅	亜鉛	鉄	不明			紙	塵	釘	糸	不明				
図・部位 出上酒樽	点数	重量																
4用 酒樽19																		
4用 酒樽20(大)			1	5														
4用 酒樽21																		
4用 酒樽22																		
4用 酒樽23(大)			1	5														
4用 酒樽24																		
4用 酒樽25																		
4用 酒樽27																		
4用 酒樽89													1	5				
4用 酒樽92			2	35														
4用 酒樽94																		
4用 酒樽98			1	5														
4用 酒樽99																		
4用 酒樽102																		
4用 酒樽103																		
4用 酒樽105																		
4用 酒樽111																		
4用 酒樽113																		
4用 酒樽116																		
4用 酒樽118																		
4用 酒樽119(大)																		
4用 酒樽142																		
4用 酒樽143																		
4用 酒樽144																		
4用 酒樽151			1	10														
4用 酒樽153																		
4用 酒樽157(大)			1	5														
4用 酒樽158																		
4用 酒樽160			2	30														
4用 酒樽163(大)																		
4用 酒樽166																		
4用 酒樽167																		
4用 酒樽168																		
4用 酒樽169																		
4用 酒樽170																		
4用 酒樽171			2	20														
4用下																		



面・階位	出上階構	部 骨 中 魚	部 骨
0面まで	—	102	1
1面	—	20	3
1面	階構1・10	12	
1面	階構11	3	
1面	階構11	1	
1面	階構122		1
1面	階構127	1	
1面	階構3	3	
1面	階構35		1
1面	階構40	3	
1面	階構56	1	
1面下	—	46	2
2面	階構12	1	
2面	階構14	1	
2面	階構15・16	1	
2面	階構17	2	1
2面	階構17	13	
2面	階構17	1	
2面	階構18	1	
2面	階構41	2	
2面	階構54	1	
2面	階構130a	14	3
2面	階構131	7	
2面	階構131	16	
2面	階構138	9	
2面下	—	31	1
2面下	階構128(欠)	2	
2面下	道1b下	16	1
3面	—		
3面	階構57	1	
3面	階構91		1
3面	階構152	1	
3面下	—	20	
3面下	道1c下	4	1
4面	階構102	1	
4面	階構157(欠)	8	
4面	階構23(欠)		2
4面	階構92	35	
4面下	—	20	

面・階位	出上階構	カキ	アヒ	ハマダリ	チウホヘダリ	サレダリ	サナリ	アカシ	ササニ	フスガサ	バイ	タシキヤ	バチヤ	不明
0面	—													
1面まで	—									1				
1面	—									9				
1面	階構1	1	3							5				
1面	階構4									1				
1面	階構10													
1面	階構10			2										
1面	階構11													
1面	階構39													
1面	階構40													
1面	階構56	1												1
1面	階構127													
1面下	—	2	1	1	10	2	1	3						
2面	階構12			1	2									
2面	階構13													
2面	階構18													
2面	階構130a+b	2												
2面	階構130a	1												
2面	階構130b													
2面	階構130c													
2面	階構131	1												
2面	階構138	1												1
2面下	—													
2面下	道1b下	1	2	1										
2面下	階構129(欠)													
3面	階構18	3												
3面	階構60													
3面	階構64	1												
3面	階構91													
3面	階構152													
3面下	—	1												
3面下	道1c下	1												
3面下	—													
4面	階構19													
4面	階構21													
4面	階構23(欠)													1
4面	階構92	2	35											
4面	階構103													
4面	階構160													
4面下	—	2	20											





1. 現地調査前（南から）



2. 表土掘削作業（北東から）



3. I区 第1面（南西から・○印は線刻視の出土位置）



4. 第1面 遺構 10 線刻視出土状況



5. I区 第4面（北東から）



6. 第3面 遺構 18（第4面検出時、南西から）



7. I区 南壁断面（北東から）



8. I区 地山砂質土面（東から）

図版2



1. II区 第1面 (北東から)



3. 道路 1a 路盤内遺物出土状況



4. 道路 1a ~ 1b 掘り下げ時断面 (南西から)



6. II区 第2面 (北東から)



2. II区第1面 道路 1a (北東から)



5. II区第1・2面 道路 1a・遺構 10 断面 (南西から)



7. II区第2面 道路 1b (北東から)



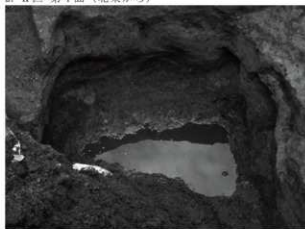
1. II区 第3面 (北東から)



2. II区 第4面 (北東から)



3. II区 第4面 (東から)



4. II区第4面 遺構18 (南西から)



5. II区 地山砂質土面 (北東から)



6. III区 第1面 (北東から)



7. III区 第2面 (北東から)



8. III区第2面 遺構130・138断面 (南西から)



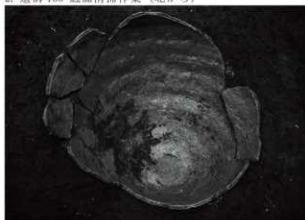
1. III区第2面 遺構130 (北東から)



2. 遺構130 底面清掃作業 (北から)



3. III区第2面 遺構130・138 断面 (西から)



4. 遺構130 床下埋甕 (南西から)



5. III区第2面 清掃作業 (北から)



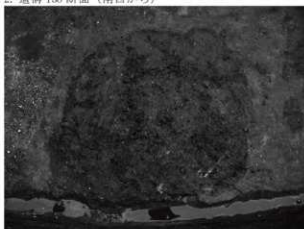
1. Ⅲ区第2面 遺構138 (北西から)



2. 遺構138 断面 (南西から)



3. 遺構138 断面 (北東から)



4. 遺構138 床下土坑 (南西から)

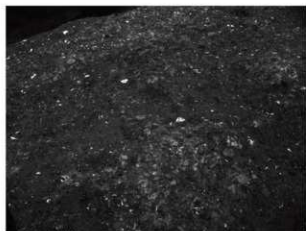


5. Ⅲ区 第4面 (北東から)

図版6



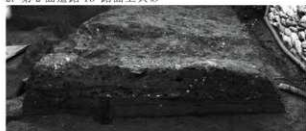
1. 第2面 道路1b (北東から)



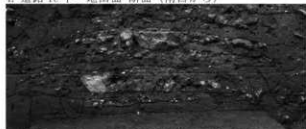
2. 第2面道路1b 路面上貝砂



3. 地山砂中の貝層



4. 道路1c下～地山面 断面 (南西から)



5. 道路1a～地山面 調査区北壁断面 (南西から)



6. 田区 道路1下 第4面 (北東から)



7. 第4面 遺構160 断面 (南西から)



8. 第4面 遺構160 (南東から)

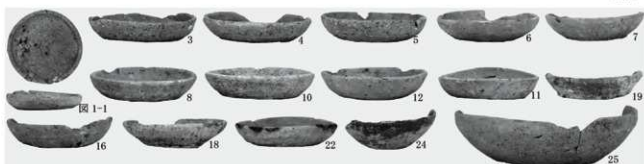


図 1-1

35



37



45



図 2-49



52



53



55



54



57



57



59



60



61



62

表土 ~ 1 面



図 3-67



68



69



遺構 1



72



1 面遺構



77



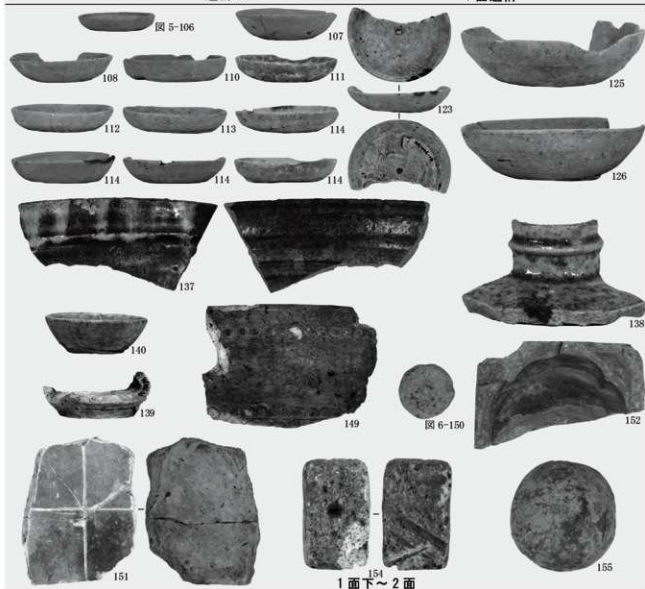
87

遺構 40

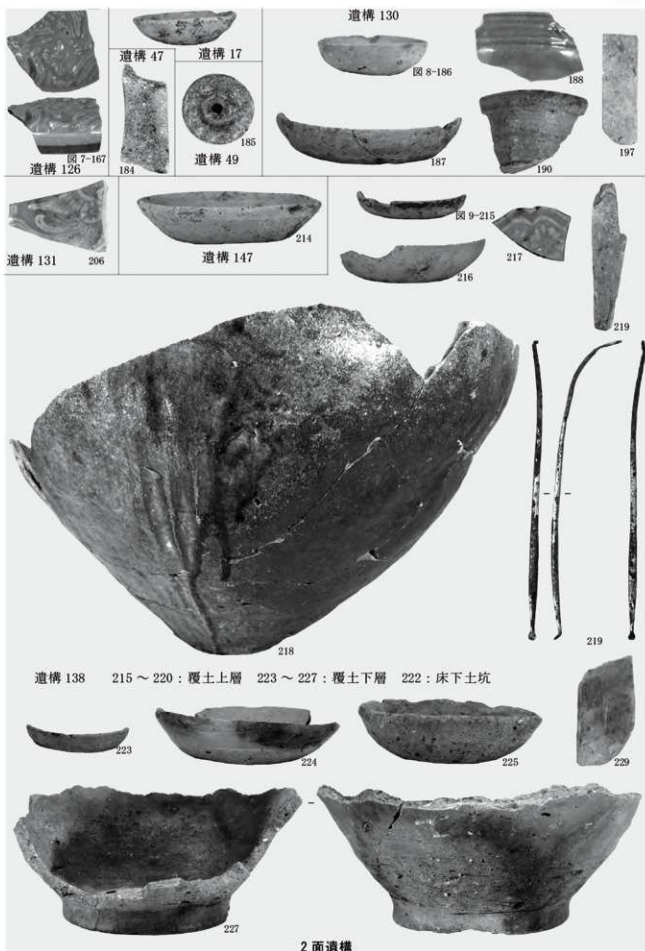


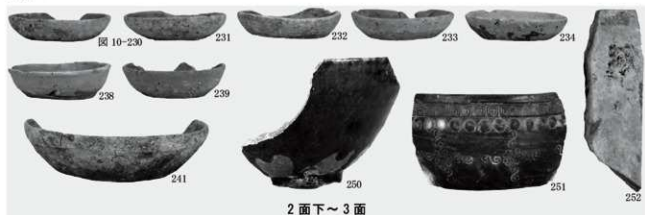
79

道 1a 下









2面下~3面



だいやまいせき  
台山遺跡 (No.29)

台字西ノ台 1418 番 10 地点

## 例 言

1. 本報告は、鎌倉市台字西ノ台1418番10において実施した台山遺跡（鎌倉市No.29）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は平成26年8月28日から同年10月10日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査の対象面積は、40.4㎡である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。  
主任調査員 押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）  
調査員 小野夏菜、吉田桂子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）  
作業員 牛嶋道夫、鈴木啓之、三嶋義人、星 栄人、遠藤雅廣、鈴木敏文、大澤清春  
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）  
整理作業参加者 押木弘己、遠藤綾子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
4. 本報告の執筆と編集は、押木が行った。
5. 本報告で使用した写真は、現地・出土遺物とも押木が撮影した。
6. 現地調査ならびに本報告の作成に当たり、以下の諸氏からご教示を賜った。記して感謝したい。  
栗原伸好・畠中俊明（公益財団法人かながわ考古学財団）、汐見一夫（鎌倉市教育委員会）
6. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「D I 1 4 0 3」とし、出土品への注記などに使用した。

## 凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中表示している。
2. 本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第IX系：東日本大震災後の補正值）に基づいている。
3. 挿図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより0° 09' 25"ほど東に振れている。
4. 遺構挿図中の水糸高は、海拔値を示す。
5. 遺物挿図中、断面を黒く塗りつぶしたものは須恵器であることを表す。

## 目 次 本 文 目 次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境 .....	247
第1節 遺跡の立地	
第2節 周辺の調査成果	
第二章 調査の方法と経過 .....	250
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査の方法	
第3節 調査の経過	
第三章 基本土層 .....	252
第四章 発見された遺構と遺物 .....	253
第五章 調査成果のまとめ .....	260
付編 台山遺跡のテフラ .....	261
1. はじめに	
2. 試料と方法	
3. 結果と考察	

## 挿 図 目 次

図1 台山遺跡における発掘調査地点 .....	248	図5 竪穴2（住居）カマド .....	255
図2 調査区配置図および遺構全体図 .....	251	図6 出土遺物（1） .....	256
図3 調査区壁セクション図 .....	252	図7 出土遺物（2） .....	258
図4 竪穴2（住居） .....	254		

## 表 目 次

表1 出土遺物観察表 .....	257	表2 出土遺物カウント表 .....	259
------------------	-----	--------------------	-----

## 図版目次

図版1 .....	265	2. 同上 アップ (図6-16)	
1. 調査開始前 (南から)		3. 同上 アップ (図6-2)	
2. I区 表土掘削状況 (北から)		4. II区 竪穴2 (北から)	
3. I区 竪穴2 (北から)		5. II区 竪穴2 掘り方 (北から)	
4. I区 竪穴2 竈 (北から)		6. II区 竪穴3 掘り方 (東から)	
5. I区 竪穴2 竈セクション (東から)		7. II区 ローム層確認坑 (西から)	
6. I区 遺構外 遺物出土状況 (図6-35)		8. II区 ローム層確認坑 最下層付近アップ (南から)	
7. I区 遺構外 遺物出土状況 (図6-36)		図版3 竪穴2・3 出遺物 .....	267
8. I区 最終全景 (北西から)		図版4 遺構・遺構外出土遺物 .....	268
図版2 .....	266		
1. II区 竪穴2 遺物出土状況 (南西から)			



東上空から調査地 (○印) を望む  
2015年2月9日撮影

# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 第1節 遺跡の立地

台山遺跡は鎌倉市北部に位置し、鎌倉街道（主要地方道 横浜鎌倉線）とJR横須賀線を北に見下ろす丘陵尾根の上部から裾部にかけて立地している。丘陵地形は多摩丘陵から三浦半島方面へ続くもので、鎌倉市北部の大部分を構成している。遺跡範囲は北西～南東に700m、北東～南西には300mの規模をもち、標高は18～74mを測る。本地点は遺跡範囲のほぼ中央に位置し、JR北鎌倉駅から300mほど西の丘陵上に所在する。微地形としては遺跡の南東端となる北鎌倉女子学園近辺が最も高位にあり、北西に向けた急勾配の下り斜面を経て光照寺の南で標高34mほどの鞍部となる。本地点は、この鞍部から25mほど北西にあり、現況での標高は36.5mを測る。本地点が面する北西-南東方向の道路は尾根筋の中央を一直線に貫いているが、これは戦前に海軍将校の邸宅地を造成した際に通されたもので「海軍通り」との通称がある。この時の造成によって鞍部の北西側は大きく削平を受けたものと見られ、直線道路の両サイドには広い平坦面が続いている。本来は北西に向けて高まる地形が今少し続いていたのであろう。本地点以西の尾根上で発掘調査例が皆無なのは、戦前の造成によって遺跡が失われてしまったことによるのではないだろうか。尾根の北裾部には明月谷から発した小袋谷川が西流し、現状で180m幅の開析谷を形成している。現況の標高は15m前後で推移する。南裾部にも120m幅の谷が西に開口しており、その一部は遺跡範囲に内包されている。標高は、20～28m前後である。

## 第2節 周辺の調査成果

台山遺跡では、これまでに16地点で発掘調査が実施されている（平成27年8月現在）。このうち、本調査は15地点目での調査例となる。

図1には、遺跡内の調査地点を実施した順に示した。未報告の地点もあって具体的な調査成果が不明なケースもあるが、幾例か代表的な成果について紹介する。地点1は昭和49年、三上次男氏によって学術調査として実施された。標高60m弱の丘陵上で弥生後期・古墳後期・時期不明の竪穴住居が各1軒検出され、中世ではかわらけが出土したという。地点2・5・7は北鎌倉女子学園の校舎建設に伴い実施され、周辺の小字から「台山藤源治遺跡」と呼ばれている。この第1次調査（地点2）では縄文時代の陥とし穴1基や、弥生時代中期以降の竪穴住居18軒、古墳時代の竪穴住居13軒、平安時代の竪穴住居5軒が検出されている。中世では道路状遺構や14～16世紀の遺物が発見されている。第2次調査（地点5）でも縄文早期～前期の陥とし穴2基の他、弥生後期の竪穴住居1軒、奈良末～平安初期の竪穴住居1軒が検出されている。中世の遺構は確認されていないが、やはり14～16世紀の遺物が発見されている。第3次調査（地点7）では弥生後期後半～古墳時代の竪穴住居5軒、平安時代の竪穴住居1軒が検出され、中世では段切り造成面やビット列が確認されている。中世の遺物は、14～15世紀代の製品が中心となる。

この他、地点3・4では弥生後期を中心とする竪穴住居8軒が確認されており、地点8では中世後期の南北溝2条が確認されている。地点9では弥生時代後期の竪穴住居4軒、古墳時代の竪穴住居2軒と掘立柱建物1棟、古墳後期末～奈良時代前半の竪穴住居2軒が発見されている。古代以前の掘立柱建物や奈良時代の竪穴住居は、台山遺跡では初めての確認例となった。地点10は丘陵斜面に立地するため遺構・遺物とも少なかったが、弥生後期～古墳前期のビット2基が検出され、弥生中期後葉の宮ノ台式壺形土器が出土している。地点11と14・16は同じ雛壇状の造成面に立地しており、地点16では中世段階で丘陵斜面の岩盤を削って平場を造成している状況が確認されている。その後も削平面上に整地層を重ねて



図1 台山遺跡における発掘調査地点



利用されており、丘陵裾に沿って排水目的であろう溝が開削されていた。出土かわらけの様相から造成の開始期は14世紀前半まで遡る可能性があるが、土地利用の中心は14世紀末～15世紀代であったと考えられる。地点12も丘陵の斜面中腹に立地し、籬壇状の平場において中世の遺構面3枚が確認されている。遺構は土坑とピットが中心で、一部のピットは並ぶ可能性がある。遺物の様相から、15世紀の中葉～後半を中心に土地利用がなされていたと考えられる。

以上を整理すると、台山遺跡では丘陵上を中心に広範囲にわたって弥生時代～平安時代の竪穴住居が分布しており、各時代の集落展開が把握されていることになる。集落の開始時期は弥生時代中期後葉の宮ノ台式期となろうが、この段階では発見されている住居の数も少なく、現時点の調査成果では大規模集落の存在は想定できない。弥生後期の久ヶ原式～弥生町式期に住居軒数が増加し、古墳時代前期まで一定規模の集落が継続するようである。古墳中期には地点5・7で竪穴住居が3軒、地点9で土坑1基が発見されており、他地域の例に漏れず遅潮には入るものの完全には途絶しないようである。古墳後期になると再び住居軒数は増加に転じ、後期末～奈良時代前半に継続する状況も窺える。続く平安時代に入っても、一定規模の集落が存続するようである。以上は大まかな時期区分に基づく記述であるため、報告された各遺構の帰属時期を詳細に把握することで集落変遷の実相が明らかになってこよう。

また、縄文時代の発見遺構は今のところ陥とし穴に限られているが、早期～前期と比較的古い時期の遺構も含まれていることから、鎌倉周辺の縄文社会の形成過程を考える上で貴重な成果といえる。

中世においては14世紀後半～15世紀代に土地利用が進んだことが明らかとなりつつあり、弘安五年(1282)の円覚寺創建に伴う土地開発は、本遺跡付近までは及ばなかったことが推測できる。本地点の北東に近い西台山英月院光照寺は時宗寺院で、藤沢市清浄光寺(遊行寺)の末である。境内に建武二年(1336)銘をもつ安山岩製板碑が現存することから14世紀前半に寺域の整備が進んだ可能性はあるが、この段階では周辺の広い範囲にまで開発が及ばなかった様子が、遺跡内容からは窺い知れる。

#### 【図1に示した調査地点の報告書】

1. 丑野 毅 1974 『神奈川県鎌倉市台遺跡調査報告書』『人文科学紀要』第59輯 東京大学教養学部人文科学科
2. 手塚直樹他 1985 『台山藤源治遺跡』台山遺跡発掘調査団
3. 齋木秀雄・宗憲秀明 1985 「3. 台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書1』鎌倉市教育委員会
4. 玉林美男他 1988 「6. 台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4』鎌倉市教育委員会
5. 大河内 勉 1996 『台山藤源治遺跡 第2次調査報告』台山遺跡発掘調査団
6. 大上周三 1992 「4. 台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書8』鎌倉市教育委員会
7. 宗憲秀明 1993 『台山藤源治遺跡—第3次調査報告—』台山藤源治遺跡発掘調査団
8. 野本賢二 1997 『台山遺跡』『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13(第1分冊)』鎌倉市教育委員会
9. 若松美智子 1998 『台山遺跡発掘調査報告書—西ノ台1733-1外地点—』台山遺跡埋蔵文化財発掘調査団・東国歴史考古学研究所  
1999 『台山遺跡』『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
10. 継 実 2001 『台山遺跡』『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
11. 森 孝子 2002 『台山遺跡発掘調査報告書』有限会社博通
12. 伊丹まどか 2004 「台山遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書20(第2分冊)』鎌倉市教育委員会
13. 2007年度調査・未報告
14. 2009年度調査・未報告
15. 2014年度調査・本報告
16. 2015年度調査・未報告

#### 【参考文献】

- 鎌倉市史編纂委員会編 1959 『鎌倉市史 社寺編』鎌倉市  
白井永二編 1976 『鎌倉事典』東京堂出版

## 第二章 調査の方法と経過

### 第1節 調査に至る経緯

今回の調査は個人専用住宅の建設に伴う埋蔵文化財の記録保存調査として鎌倉市教育委員会（以下、市教委）が実施した。

建築計画では基礎工事として深さ10mの杭を打設することから、市教委では平成26年4月16日と17日の二日間にわたって埋蔵文化財の確認調査を実施した。この結果、地表下60cmで古墳時代の遺物包含層が検出され、地表下80cmの関東ローム層上では3基の遺構が確認されたことから、建築工事の実施に先立って本格的な発掘調査を実施する必要があるとの判断に至った。

現地調査は平成26年8月28日～10月10日の約1か月半をかけて実施した。次節で述べる拡張区も含め、最終的な調査面積は40.4㎡となった。

### 第2節 調査の方法

調査区は、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から北半部のⅠ区と南半部のⅡ区とに分割し、Ⅰ区からⅡ区の順に調査を進めた。Ⅰ区の南部からⅡ区のはほぼ全域で古墳時代後期の堅穴住居が検出され、さらにⅡ区の南西外にも同遺構が続くことが確認された。この部分では表土下15cmで遺構の確認面に違すが、建築計画ではカーポートの基礎工事が確認面付近にまで及ぶ可能性があったことから、施工対象となる約4mの範囲について調査区を拡張して遺構プランの確認を行った（図2）。

表土掘削はⅠ・Ⅱ区とも重機によって行い、拡張区については人力で行った。遺物包含層以下は全て人力によって掘削し、順次遺構の確認と掘削、次いで写真撮影・測量図作成といった記録作業を進めた。

測量に当たっては国家座標値を載せた基準杭を敷地内に設定し、主に光波測距儀で測定した座標値を方眼紙にプロットする方法で平面図を作成した。国家座標の移設は、市道上に設置された都市再生街区多角点「10B49」と同補助点「4A529」の二点間関係をもとに開放トラバース法によって行った。標高については、多角点「10B50」(33.374 m)を起点に直接水準測量を繰り返して敷地内の測量杭に移設した。これら測量の基準とした各多角点および補助点の国家座標値は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災後の補正值である。

### 第3節 調査の経過

前述のとおり、調査はⅠ区からⅡ区の順に進めた。Ⅰ区の表土掘削は平成26年8月27日に実施し、翌28日に調査用具を搬入して本格的に調査に着手した。遺構の確認と掘削、図面作成および写真撮影といった記録作業を進め、9月16日にはⅠ区の調査を終了して9月17日にⅡ区の表土掘削を行った。Ⅱ区と拡張区についてもⅠ区と同様に掘削と記録作業を進め、古墳時代の遺構調査を10月2日に終了した。この後は関東ローム層以下の確認坑を掘削して旧石器時代の調査を試みた。以上を経て、10月10日には調査用具を撤収して現地での調査工程を全て終了した。

出土品等の整理および本報告の作成は平成26年度後半から27年度前半にかけて、鎌倉市教育委員会文化財課分室において断続的に行った。

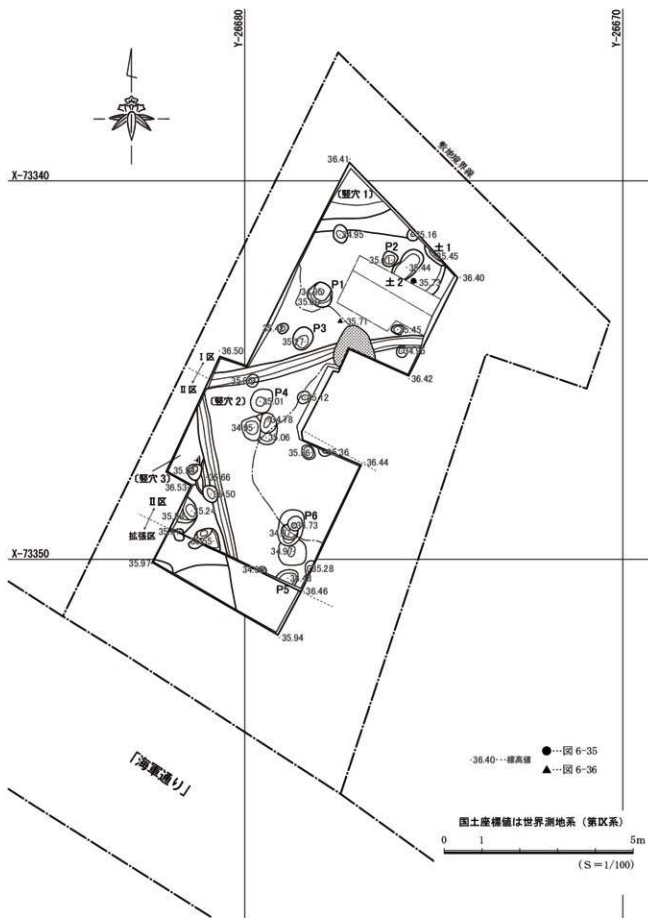


図2 調査区配置図および遺構全体図

### 第三章 基本土層

本地点は丘陵の尾根上に立地しており、鎌倉市内の調査遺跡としては例の少ない関東ローム層を基盤としている。ローム層は上総層群の岩盤上に堆積し、相模野台地における一般的な立川ローム層とは様相を異にしていた。本地点では標高33.9 mから35.9 mまで2 mの厚さを持ち、上部ではB<sub>1</sub>層相当の層序までは把握できるようなのである(栗原伸好氏・畠中俊明氏のご教示による:付編・図1参照)。標高33.9 m以下では、土壌分析の結果から、非テフラ起源の堆積が想定されている(付編参照)。

図3には、ローム層より上位の土層堆積状況を示した。現地表面は36.5 mで、表土層は30～40 cmの厚さをもつ。この下位の1層と2層はともに古墳時代以降の遺物包含層で、1層には部分的に表土が入り込み、2層より軟質である。明確な帰属は掴めなかったが、1層までが中世遺物の包含層で、2層は古代以前の遺物包含層になるものと思われる。一部、2層直下でソフトローム層(L<sub>1</sub>S)が確認され、縄文時代に堆積した「富士黒色土(FB)」は遺存していなかった。遺構確認は、ローム層上面で行った。

前章でも述べたように本地点の北西側については「海軍通り」など戦前の造成によって遺跡が削平を蒙っている可能性が高いが、本地点では古墳後期以降、2層の形成段階においてローム層近くまで削平が及んでいる状況を確認できた。南東の尾根鞍部に向けては、多少とも遺跡が良好に残っていることが推察される。

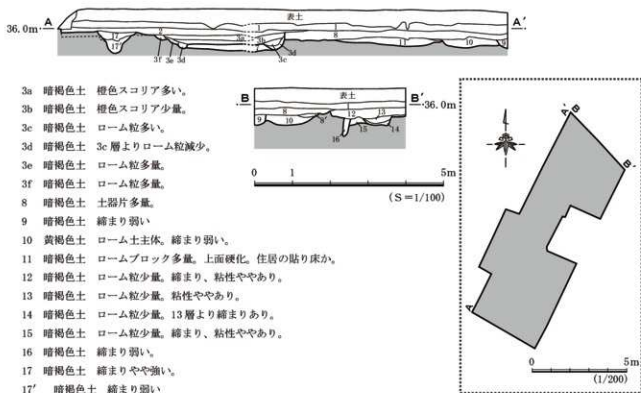


図3 調査区壁セクション図

## 第四章 発見された遺構と遺物

今回の調査ではローム層上面で3基の竪穴遺構と10基ほどのピットが検出された。竪穴遺構のうち1基はカマドなど付帯施設存在から、住居であることが把握できた(竪穴2)。この北側でも貼り床の硬化面が確認され、住居としての可能性も考えられるが、その他の施設痕跡が発見できなかったことから竪穴には含まなかった。ピットのうち何基かは敷地境界線に沿うように並ぶ様子も窺えたが、間隔が一定でなく、覆土様相も区々であったことから柱穴列とは判断しなかった。

以下、主な検出遺構と出土遺物について説明する。

### 竪穴2(住居)

I区の南部からII区のほぼ全域にかけて検出された。方形基調の平面形を呈するが、調査範囲内では何れのコーナーも確認できなかった。北と西の壁面が検出され、両壁際で壁周溝を確認している。北壁には灰色粘土で構築されたカマドが付くが、大部分が調査区外に位置するため、焚き口や煙道など内部の調査は行えなかった。貼り床の上面は硬化しており、カマド前面の硬化が最も顕著であったと考えられる。床面上では西壁に沿って2本の主柱穴が確認でき、柱穴と周溝の造り替え状況から、少なくとも1回は西壁の拡張を伴う建て替えが行われたことが推測できる。カマドを前方に見た場合の主軸方位はN10°Wを指す。

南と東が調査範囲外に続くため全体の規模は不明であるが、カマドや柱穴の位置を基準に反転復元を試みると東西9m×南北6mの長方形プランに復元できる。6×6mの正方形プランでカマドが北壁の東寄りに位置していた可能性も想定できよう。確認面から20～25cmの深さで床面に達し、床面標高は35.55～35.6m前後で推移する。主柱穴は建て替え後のもので床面から80～90cmの深さをもち、底面では柱当たりと思しき直径15cmほどの硬化面が遺存していた。柱間距離は290cmを測る。建て替え前の柱穴は僅かに浅く底面標高が34.9～35.0mを測り、柱間距離は270～280cm前後であったと考えられる。床下から掘り方底面までは5～15cmを測り、竪穴の中央部よりも壁際の方が深かった。

竪穴2の出土遺物は、図6-1～24に示した。覆土からの出土遺物が殆どであり、床面での使用状態を残す資料は皆無であった。カマドの周辺では崩落粘土中より土師器甕などの遺物が出土しているが、燃焼部の掘削に及んでいないことからカマドでの使用を明確に把握し得る遺物はなかった。個々の遺物についての詳細は、表1を参照されたい。

先述の出土状況に加えて完形品も全くないことから年代の指標としては物足りないが、16の東海産須恵器坏身は復元最大径が10.6cmと小振りで蓋受けの返りも短小化しているため、この種の資料(坏H)としては比較的新しい7世紀第3四半期頃の所産と考えられる。加えて10～12・15の土師器甕は古墳時代後期のケズリ甕よりも後出的である相模型甕に含め得るので、7世紀後葉～末の所産と判断できる。土師器坏の様相も含め、本遺構は7世紀後葉には廃絶して埋没過程に入っていたことが推測できる。

### 竪穴3(住居?)

II区の西壁際で検出された、西へ向けての落ち込みである。東側は竪穴2に切られていることから、東西1m、南北1.5m程度の範囲を確認できたに過ぎない。落ち込みの形状や覆土様相は竪穴2に類似するが、検出できた部分のみでは遺構の具体的な様相は不明である。確認面からは20cmほどの深さをもち、底面標高は35.6m前後で推移する。

本遺構の出土遺物は図6-25～30に示した。小片ばかりであるため具体的な年代観を見出すのは難しいが、7世紀前半～中頃の資料が最も新しいものと考えられる。30の高坏脚部は、古墳前期の所産か。

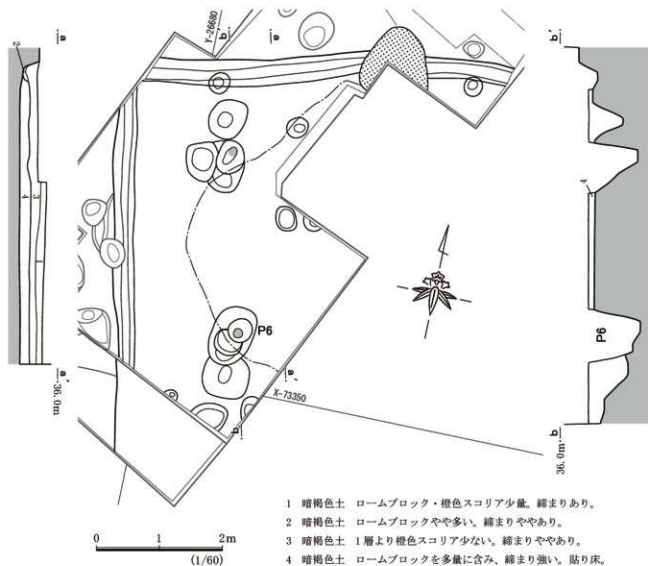


図4 竪穴2 (住居)

#### 竪穴1 (地割れ?)

1区の北西隅で検出された、北に向けての落ち込みである。南北160cmほどが確認できたものの遺構の大部分が調査区外に続くため全体の形状や規模は不明である。確認面から25cmの深さ、標高35.4mまで掘り下げたが底面には達せず、下位に進むほど覆土が軟質なローム土に変移する様子が見て取れたことから、人為による遺構ではなく、地割れなど自然要因の落ち込みであると判断した。この位置から北に20mほど向かうと斜面地となることから、地震や降雨の際には小規模な地割れが生じ易い土地であったことが推察できる。上位の覆土には、硬化土のブロックが混入する。

本遺構の出土遺物は図6-31に示した。器形・調整から古墳時代前期の小型高坏脚部と見られる。

#### 硬化面

1区の南部、竪穴2の北側に位置する。南側は竪穴2に切られ、西側は調査区外に続く。東西2.9m、南北2.8mの広がりを確認した。硬化面上の標高は35.7m前後で推移し、層厚10～25cmの暗褐色土で構成される(図3-11層)。全体に締まりの強い土層だが、上面の硬化が顕著であった。断面観察では竪穴1(地割れ?)で北部が切られていることを確認した。竪穴の覆土上位に混入した硬化土ブロックは、本硬化面の構成土が崩れたものと考えられる。

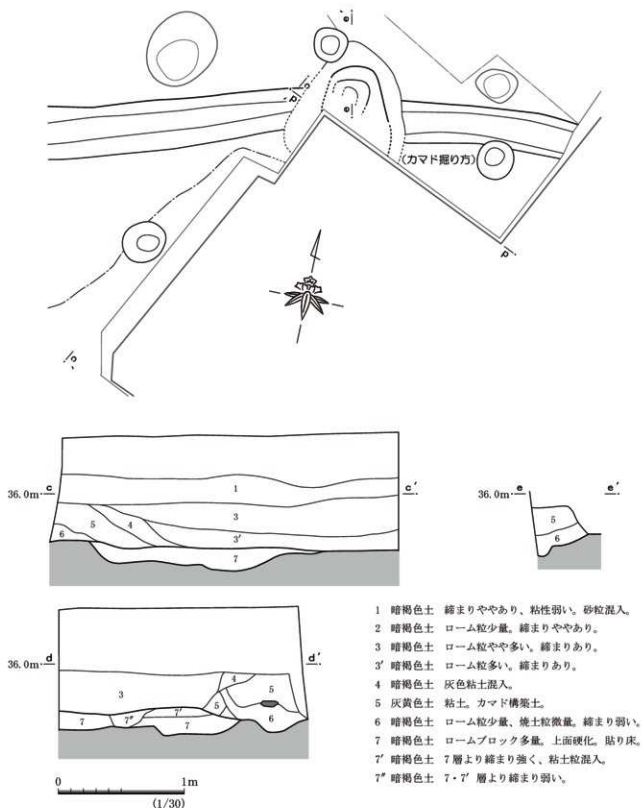


図5 竪穴2(住居)カマド

本遺構については竪穴住居の貼り床と考えるのが最も理解しやすいが、調査範囲の少なさと遺構間の重複が著しいことも相俟ってカマドや壁周溝・柱穴など付帯施設の痕跡は確認できなかった。

硬化面上部では図6-36に示した土師器高環の脚部が出土している。帰属関係が曖昧なため、遺構外の出土資料として提示した。

## 土坑・ピット

土坑・ピットは遺物が出土したもののみ番号を付した。I区で検出されたP1は他の遺構よりも覆土が軟質で底面に向けて先細りになることから、比較的新しい痕跡（山芋の採取穴など）と考えた。この他の遺構については堅穴2などと近似した覆土線相と認識できたことから、古墳時代～古代の所産と推測している。数基のピットは直線上、または直行方向に並ぶようにも見て取れるが、調査範囲が狭いこともあって等間隔で並ぶ確実な柱穴列は抽出できなかった。遺構個々の特徴については説明を省くので、図3を参照されたい。

土坑・ピットの出土遺物は図6-32～34に示した。32は古墳時代前期のS字状口縁台付甕の口縁部片。35は内外面に黒色処理を施す駿東系の土師器坏で、7世紀代の所産と見られる。

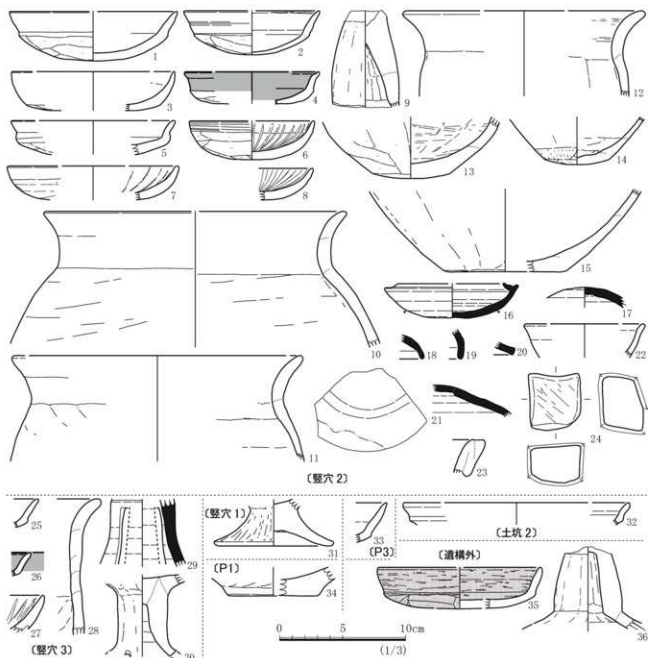


図6 出土遺物(1)



表1 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
出土遺物 (1)(図6)						
1	土師器	坏	(13.2)	—	4.0	1/3 胎土:微砂質。赤色礫、白色針状物質 色調:淡橙褐色
2	土師器	坏	(10.6)	—	3.5	1/3 胎土:小礫、角閃石 色調:淡褐色
3	土師器	坏	(12.8)	(10.5)	3.1	1/8 胎土:細砂質 色調:橙褐色
4	土師器	坏	(10.6)	—	2.6	1/8 胎土:白色小礫 色調:赤褐色 口縁部外面~内面全体を赤彩比企型
5	土師器	坏	(12.8)	—	[2.7]	口1/6 胎土:角閃石 色調:橙褐色
6	土師器	坏	(9.7)	—	3.1	1/4 胎土:微砂質。褐色スコリア 色調:橙褐色 内面:放射状暗文
7	土師器	坏	(12.4)	—	[2.7]	口1/6 胎土:緻密。微砂質。白色針状物質 色調:橙褐色~黒褐色 内面放射状暗文
8	土師器	坏	—	—	[2.5]	口1/6 胎土:細砂質。角閃石 色調:橙褐色 内面放射状暗文
9	土師器	高坏	—	—	[7.7]	脚のみ(端部欠) 胎土:緻密。角閃石 色調:橙褐色~黒褐色 外面ナデ
10	土師器	甕	(23.8)	—	[10.8]	口~胴上1/4 胎土:緻密。微砂質。白色針状物質、褐色スコリア 色調:橙褐色
11	土師器	甕	(22.6)	—	[8.4]	口1/6 胎土:細砂質。雲母微粒 色調:橙褐色
12	土師器	甕	(18.9)	—	[6.8]	口1/6 胎土:細砂質。泥岩粒、角閃石 色調:橙褐色 胴部外面~口縁部内面黒変
13	土師器	甕	—	(6.2)	[5.0]	底のみ 胎土:細砂質。角閃石 色調:橙褐色 内外面弱いヘラミガキ
14	土師器	甕	—	5.2	[3.8]	底完存 胎土:微砂質。緻密 色調:橙褐色~黒褐色 内底面に煤付着
15	土師器	甕	—	(9.6)	[6.6]	底1/3 胎土:微砂質。白色針状物質 色調:橙褐色
16	須恵器	坏	最大径(10.6)	—	2.7	1/2弱 胎土:緻密 色調:淡灰黄色 底部外面回転ヘラケズリ 湖西産 合子状坏身(坏H)
17	須恵器	坏蓋	—	—	[1.6]	天井周辺 胎土:緻密。白色砂粒 色調:灰色
18	須恵器	坏蓋	—	—	[1.9]	口小片 胎土:緻密。白色砂粒 色調:灰色
19	須恵器	坏蓋	—	—	[2.3]	口小片 胎土:緻密。白色粗砂 色調:灰色
20	須恵器	坏蓋	—	—	[1.0]	口小片 胎土:緻密。小礫 色調:灰色
21	須恵器	瓶	—	—	—	胴小片 胎土:やや砂質。黒色微粒 色調:灰色 外面に緑灰色の自然釉 湖西産 フラスコ瓶or平瓶
22	ロクロ土師器	坏	(9.4)	—	[2.7]	口1/8 胎土:微砂質。白色針状物質、角閃石 色調:橙褐色
23	土師器	壺or甕	—	—	[3.0]	口小片 胎土:粗砂粒 色調:にぶい橙褐色 折り返し口縁か
24	石製品	砥石	長さ4.5	幅4.0	厚さ3.2	完形か 86g 4面を使用
25	土師器	坏	—	—	—	口小片 胎土:微砂質 色調:橙褐色
26	土師器	坏	—	—	—	口小片 胎土:白色微砂粒 色調:赤褐色 口縁部外面~内面赤彩
27	土師器	壺?	—	—	[3.0]	口小片 胎土:角閃石 色調:橙褐色 内面粗いたテヘラミガキ(放射状)
28	土師器	甕?	—	—	[10.8]	口~胴上小片 胎土:小礫、角閃石 色調:にぶい褐色~黒褐色 内外面黒変胴部外面ナデ
29	須恵器	高坏	—	—	[5.4]	脚1/4(端部欠) 胎土:緻密。石英粒、白色礫 色調:灰色ヘラ切りによる長方形スリット
30	土器	高坏	—	—	[6.5]	脚のみ(端部欠) 胎土:粗砂、角閃石。 色調:橙褐色 円形の透孔1ヶ所
31	土師器	高坏	—	(9.5)	[3.7]	脚1/3 胎土:粗砂、角閃石 色調:にぶい褐色~赤褐色 外面赤彩
32	土器	甕	(17.8)	—	[1.8]	口1/8 胎土:粗砂粒、雲母粒 色調:赤褐色 S字状口縁(台付甕)
33	土師器	坏	—	—	—	口小片 胎土:緻密。微砂粒 色調:橙褐色
34	土師器	甕	—	(7.2)	[2.3]	底1/2弱 胎土:粗砂粒 色調:褐色 外面:煤付着
35	土師器	坏	(12.8)	—	3.3	1/2弱 胎土:橙褐色。微砂質。白色微砂、角閃石 色調:黒色 駿東系
36	土師器	高坏	—	—	[6.7]	脚のみ(端部欠) 胎土:緻密。白色針状物質、角閃石 色調:橙褐色
37	土器	壺	—	—	—	胴小片 胎土:細砂質。角閃石、石英粒 色調:橙褐色胴部外面単節RL縄文+S字状結節文3段 文様帯以外は赤彩?+ヘラミガキ

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
出土遺物 (2) (図7)						
38	土器	壺	—	—	—	胴小片 胎土:細砂質。角閃石 色調:褐色~黒褐色 胴部外面歯状沈線区画内に単筋LR縄文充填 文様帯以外はナナメハケ→ヘラミガキ
39	土師器	坏	(13.4)	—	(3.1)	1/4弱 胎土:淡褐色。緻密。混入物殆どなし 色調:黒褐色
40	土器	甕	(17.3)	—	[4.5]	口1/8弱 胎土:白色針状物質、角閃石 色調:橙褐色
41	土師器	甌?	—	—	[6.4]	口小片 胎土:緻密。白色針状物質、角閃石 色調 橙色 胴部外面タテヘラケズリ
42	土師器	甕	—	—	[5.9]	口小片 胎土:微砂質。緻密 色調:褐灰色/黒色 内面黒色処理+ ヨコヘラミガキ 胴部外面ナナメヘラケズリ
43	土師器	甕?	—	—	[5.0]	口小片 胎土:細砂質。角閃石 色調:赤褐色 胴部内面黒変
44	土器	ロクロ かわらけ・大	—	—	3.1	1/8以下 胎土:微砂質。角閃石 色調:淡褐色
45	石製品	砥石	長さ 3.4	幅 [3.2]	厚さ 2.0	残存率不明 表面1面を使用 白色・緻密
46	土器	壺	—	—	—	胴小片 胴部外面に柳描きのコンパス文と横線文 山中式系・在地産
47	土器	高坏	—	—	[3.5]	脚のみ(端部欠) 胎土:粗砂粒、角閃石 色調:橙褐色
48	土師器	埴	(13.4)	—	[6.0]	1/3 胎土:白色砂粒 色調:赤褐色~黒褐色 口縁部外面~内面全体に赤彩 体部外面黒変
49	土師器	坏	—	—	—	口小片 胎土:白色微砂 色調:褐色~赤褐色 口縁部外面~内面に に赤彩
50	陶器	緑釉皿	—	—	[1.9]	口小片 胎土:灰黄色。やや粗 釉調:黒褐色
51	ロクロ 土師器	坏	(11.4)	—	[2.5]	口1/6 胎土:白色針状物質 色調:橙褐色
52	土師器	甕	—	(7.0)	[3.2]	底1/3 胎土:白色針状物質 色調:褐色
53	土製品	用途不明	長さ [3.9]	直径 2.4	孔径 0.1~ 0.7	残存率不明 胎土:粗砂粒 色調:淡黄褐色
54	石製品	砥石	長さ [3.7]	—	1.5	残存率不明

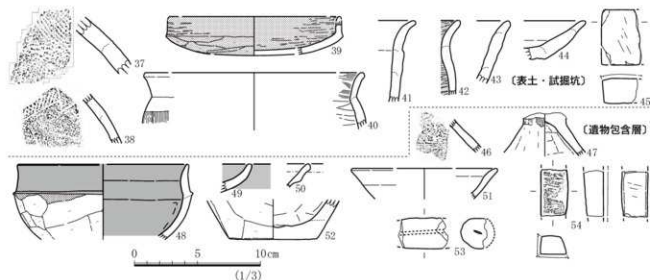


図7 出土遺物 (2)

### その他の出土遺物

図6-35～図7-54には遺構以外で出土した遺物を掲げた。古墳時代後期の遺物が中心となるが、弥生後期の壺形土器 (37・38・46) や平安時代のロクロ土師器 (51)、中世後期のかわらけ・陶器 (44・50) などがごく少量ながら含まれており、希薄ながら各時代における土地利用の跡を窺うことができる。

表2 出土遺物カウント表

地区	面・層位	遺構	層位	土師器					須恵器					ロクロ土師器 環	弥生土器or 古式土師器				
				環	高環	甕	甗	小片	環身	環蓋	高環	甗	甕		甗	鉢	甗	鉢	高環
—	—	表採	—	30	1	68					1					20	1		
I	—	試掘時	—	4		20	20								9	3	1		
I 掘	表土	—	—	1		12					1				4				
I	包含層	—	—	23		104	2			1		1			16				
I	1面	—	—	3	1	29									2				
II	包含層	—	—	25	1	198				4		3	2	1	21			2	
II	表土	—	—	8		27			14			1	4		3	1			
II	TP上層	—	—					1											
II	1面	—	—	1		1													
I	1面	竪穴1	覆土		1	2													
I	1面	竪穴2	覆土	8		18	50		1						12	4			
II	1面	竪穴2	覆土	70	2	396	44	1		6	1	2		4	36	9		3	
I	1面	竪穴2カマド	—	5		15													
I	1面	竪穴2	掘り方	4		7							1						
I	1面	竪穴3	覆土	13		30										1			
II	1面	竪穴3	掘り方	1		13			1			1			1			1	
II	1面	土坑1	覆土	1		17									2			1	
II	1面	土坑2	覆土			1										1			
I	1面	ビット1	覆土			3													
I	1面	ビット2	覆土			2													
I	1面	ビット3	覆土	1		7													
II	1面	ビット5	覆土	1															
II	1面	ビット6	覆土			1													

地区	面・層位	遺構	層位	縄文土器		ロクロ		瀬戸			常滑	土製品	石製品	鉄	人骨
				深鉢	鉢	かわらけ 大・小	仏華瓶	織物小皿	鉢	甕	土罐	磁石	鉄滓	？ 焼骨	
—	—	表採	—			7	1			1			1	1	1
I	—	試掘時	—			1									
I 掘	表土	—	—			3									
I	包含層	—	—								1				
I	1面	—	—												
II	包含層	—	—	1		10	1	1		2		1	1	1	
II	表土	—	—			16		1		1					
II	TP上層	—	—												
II	1面	—	—												
I	1面	竪穴1	覆土												
I	1面	竪穴2	覆土									1	1	1	
II	1面	竪穴2	覆土												
I	1面	竪穴2カマド	—												
I	1面	竪穴2	掘り方												
I	1面	竪穴3	覆土												
II	1面	竪穴3	掘り方												
II	1面	土坑1	覆土		1									1	
II	1面	土坑2	覆土												
I	1面	ビット1	覆土												
I	1面	ビット2	覆土											1	
I	1面	ビット3	覆土												
II	1面	ビット5	覆土												
II	1面	ビット6	覆土												

## 第五章 調査成果のまとめ

今回は約40㎡と狭い範囲での調査となったが、中でも古墳時代を中心とする濃密な遺構展開を確認することができた。

調査区の南部で検出された堅穴2は、カマドや貼り床硬化面・柱穴の存在から堅穴住居であることは確実である。大部分が調査区外へ続き北西側1/3ほどが検出できたのみであるが、一辺6m前後(以上)という大よその規模は把握できた。覆土中の出土遺物からは、7世紀後葉には廃絶・埋没過程に入っていたであろうことが推察できる。古墳時代後期でも終末段階の遺構といえよう。

その他の堅穴や硬化面、遺物包含層からも同時期の遺物が多く出土しており、本地点周辺に当該期の集落が広がっていたことを窺わせる成果となった。台山遺跡では過去の調査でも古墳後期に属する住居の発見例が多く、丘陵上を中心に広範囲での集落展開を見て取ることができる。一方、本遺跡では古墳時代中期や奈良時代に属する住居の発見例もあり、弥生中期後半から平安時代までの遺構・遺物も多く発見されている。このように、台山遺跡は時間軸という視点から当地域の社会動向を考える上でも貴重な遺跡といえる。今のところ点的な調査ばかりでこうした問題を論じるには資料不足の感が否めないが、今回のように小規模な調査でも積み重ねることで、各時期における遺構の空間的広がりや時間的消長が次第に明らかになって行くことだろう。

台山遺跡から北西に続く丘陵地においても、水道山遺跡や天神山城で弥生後期～平安時代の集落や遺物集中といった調査成果が挙っており、周辺の山崎地区は鎌倉市域でも古墳後期の横穴墓の密集地として知られている。やはり調査・報告例が少ないため今もって遺跡の全体像を語れる段階にはないが、今後の調査も含め、資料の蓄積と公開に立脚した研究の深化が期待される地域であることは疑いない。

※出土した須恵器の年代観については、以下の文献を参考とした。

鈴木敏則 2004 「第5章 第2節 静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』浜松市教育委員会

# 付編 台山遺跡のテフラ

藤根 久 (パレオ・ラボ)

## 1. はじめに

台山遺跡は、鎌倉市台字西ノ台1418番10の市内北部の台地上に位置する。発掘調査では、テフラと思われる堆積物が検出された。ここでは、この試料について湿式篩分けを行い、重鉱物および軽鉱物組成を調べた。

## 2. 試料と方法

分析試料は、台山遺跡の発掘調査で採取された試料1点である(表1、図版1-1)。この試料は、古墳時代末の堅穴住居とピットを検出した後、旧石器時代の遺跡と堆積層序確認を行うために、地表より約2m掘り下げた土層から採取した試料である。

表1 分析試料とその特徴

分析No.	試料	試料の特徴
1	③	暗褐色(10YR 3/3)シルト質粘土、明黄褐色(10YR 6/6)粒子(~3mm)混じる

試料は、以下の方法で処理した。

自然湿潤状態22.25g程度を秤量した後、1φ(0.5mm)、2φ(0.25mm)、3φ(0.125mm)、4φ(0.0063mm)の4枚の篩を重ね、流水下で湿式ふるい分けを行った。それらを乾燥後、4φ篩残渣につて、重液(テトラプロモエタン、比重2.96)を用いて重鉱物と軽鉱物に分離した。重鉱物および軽鉱物は、プレバートを作製した後、偏光顕微鏡下で鉱物粒子を同定、計数し、鉱物組成を求めた。

重鉱物は、斜方輝石(Opx)、単斜輝石(Cpx)、角閃石(Ho)、磁鉄鉱(Mag)、不明(Opq)に分類・計数した。また、軽鉱物は、石英(Qu)、長石(Pl)、火山ガラス(形態別)、不明(Opq)に分類・計数した。火山ガラスの形態は、町田・新井(2003)の分類基準に従った。

なお、含水率を求めるために、10g程度を蒸発皿に採取し、恒温乾燥機110°C、24時間乾燥した。

## 3. 結果と考察

以下に、各試料の湿式篩分け結果、軽鉱物組成および重鉱物組成の結果を示す。

[分析No.1(試料③)]

試料は、含水率(%)が60.09%であった。湿式篩分けした結果、1φ篩残渣が最も多かった(表2)。

1φ篩残渣の実体顕微鏡観察では、褐鉄鉱のパイプ状(高師小僧)とその破片のみであった。2φ篩残渣の実体顕微鏡では、褐色の褐鉄鉱や磁鉄鉱、やや発泡した黒灰色火山岩片、白色岩片、長石類、輝石類などの鉱物群が含まれていた(図版1-2)。

表2 試料の湿式篩分け・重液分離の結果

分析No.	含水率 %	処理乾燥 重量(g)	砂粒分の粒度組成(重量g)				重液分離(g)	
			1φ	2φ	3φ	4φ	軽鉱物	重鉱物
1	60.09	13.37	0.0444	0.0066	0.0123	0.0120	0.0064	0.0083

軽鉱物(4φ)の偏光顕微鏡観察では、長石(Pl)が最も多く、次いで石英(Qu)も多い。火山ガラスは、急冷破砕型フレーク状ガラス(c1)が1個体検出された(表3)。なお、骨針化石も含まれていた(図版1-10)。

重鉱物(4φ)の偏光顕微鏡観察では、斜方輝石(Opx)が最も多く、カンラン石(Ol)や単斜輝石(Cpx)あるいは角閃石(Ho)も含まれていた(表3)。なお、スコリア粒子と考えられる黒色斑晶質岩片は、不明粒子(Opq)の19個体中の2個体であった(図版1-9)。

以上の結果から、この試料は、火山ガラスやスコリアが含まれないことから、テフラの可能性は低いと考えられる。

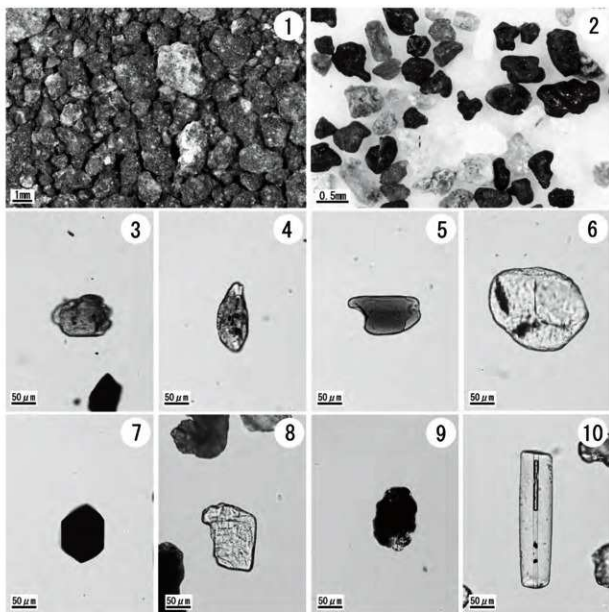
表3 4φ篩残渣中の鉱物組成

分類群 分析No.	石英 (Qu)	長石 (Pl)	不明 (Opq)	軽鉱物(個数)					
				バブル(泡)型		軽石型		急冷破砕型	
				平板状 (b1)	Y字状 (b2)	繊維状 (p1)	スポンジ状 (p2)	フレーク状 (c1)	塊状 (c2)
1	38	74	95					1	

分類群 分析No.	ガラス 合計	軽鉱物 の合計	重鉱物(個数)						重鉱物 の合計
			斜方輝石 (Opx)	単斜輝石 (Cpx)	角閃石 (Ho)	カンラン石 (Ho)	磁鉄鉱 (Mg)	不明 (Opq)	
1	1	208	62	8	7	11	121	19	228

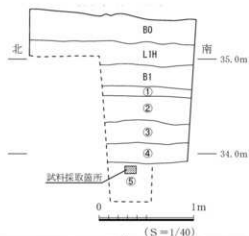
#### 引用文献

町田洋・新井房夫(2003)新編火山灰アトラス. 336p, 東京大学出版会.



図版1 分析試料と鉱物の偏光顕微鏡写真

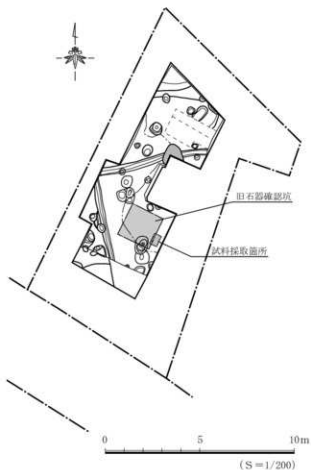
1. 分析した試料
2.  $\phi$  篩残渣の実体顕微鏡写真
3. 斜方輝石 (Opx)
4. 単斜輝石 (Cpx)
5. 角閃石 (Ho)
6. カンラン石 (Ol)
7. 磁鉄鉱 (Mag)
8. 長石 (Pl)
9. スコリア粒子
10. 骨針化石



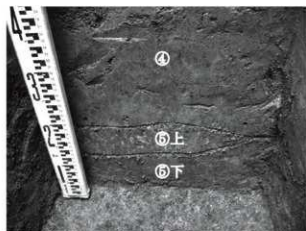
- ① 黄褐色土 上層よりやや明るい。粒径5mmの黒色スコリア多い。
- ② 黄褐色土 上位がやや明るい。粒径1～3mmの黒色スコリア多い。
- ③ 暗黄褐色土 ①や②の上位に比べて暗い（ように見える）。  
粒径1mmの黒色スコリア微量。
- ④ 暗黄褐色土 ③より暗い。粒径3mmの黒色スコリア微量。
- ⑤ 暗灰色土 軟質（ボンボン）。粒径10mm大の白色軟化粒子多い。



確認坑完掘状況（西から）



土層断面（西から）



下部土層断面（南から）

図1 試料採取箇所





1. 調査開始前 (南から)



5. 1区 竪穴2 竪セクション (東から)



2. 1区 表土掘削状況 (北から)



6. 1区 遺構外 遺物出土状況 (図6-35)



3. 1区 竪穴2 (北から)



7. 1区 遺構外 遺物出土状況 (図6-36)



4. 1区 竪穴2 竪 (北から)



8. 1区 最終全景 (北西から)

図版2



1. II区 竪穴2 遺物出土状況(南西から)



5. II区 竪穴2 掘り方(北から)



2. 同上 アップ(図6-16)



6. II区 竪穴3 掘り方(東から)



3. 同上 アップ(図6-2)



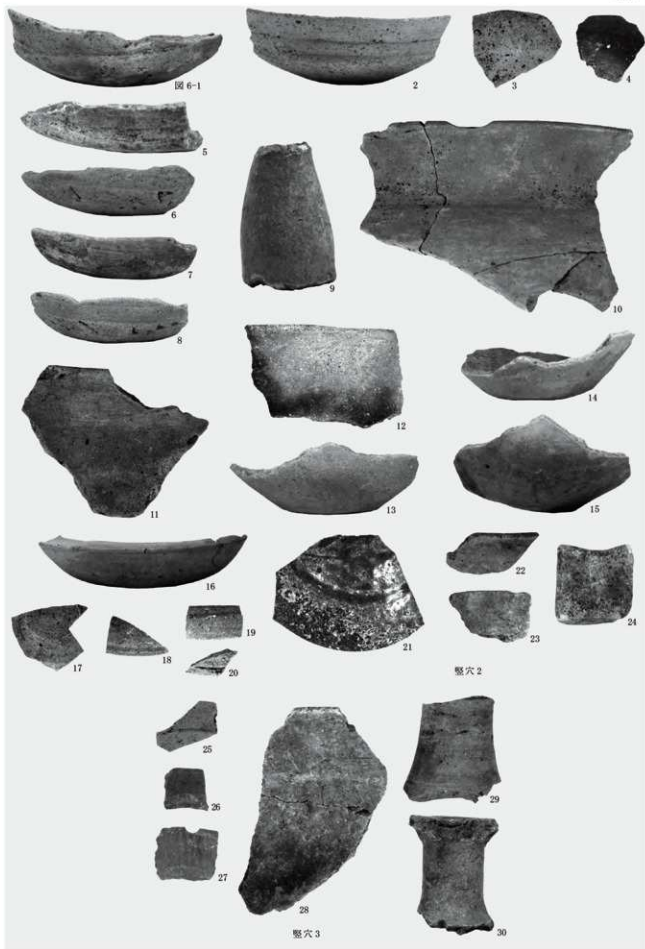
7. II区 ローム層確認坑(西から)

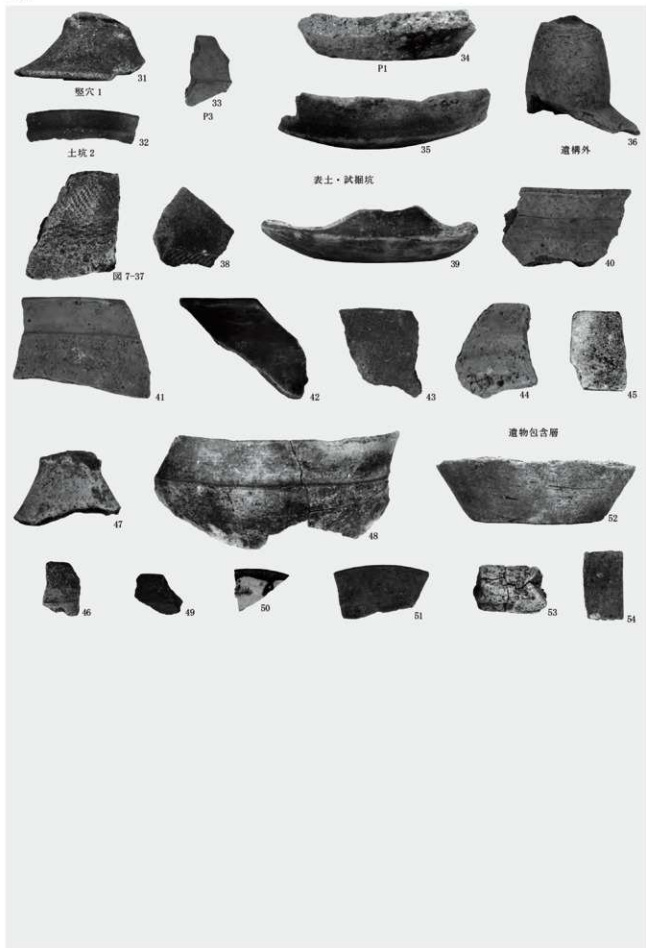


4. II区 竪穴2(北から)



8. II区 ローム層確認坑 最下層付近アップ(南から)





報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちようさほうこくしょ							
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
副書名	平成27年度発掘調査報告							
巻次	3.2 (第2分冊)							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	沖元 道/沖元 道・馬淵和雄/押木弘己/押木弘己							
編集機関	鎌倉市教育委員会							
所在地	〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号							
発行年月日	西暦2016年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
わかみやおおじしょうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 小町二丁目 24番14	14204	242	35° 19' 17"	139° 33' 05"	20070828 ～ 20070926	14.50	個人専用 住 宅 (杭基礎)
おおくわばくふしょうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 雪ノ下字天神前 562番30	14204	49	35° 19' 24"	139° 33' 46"	20071107 ～ 20071214	26.25	個人専用 住 宅 (地盤の表層改良)
わかみやおおじしょうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 大町一丁目 1034番9	14204	242	35° 18' 57"	139° 33' 05"	20100818 ～ 20101105	79.81	個人専用 住 宅 (地盤の柱状改良)
だいやまいせき 台山遺跡	神奈川県鎌倉市 台字西ノ台 1418番10	14204	29	35° 20' 19"	139° 33' 23"	20140828 ～ 20141010	40.40	個人専用 住 宅 (杭基礎)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
わかみやおおじしょうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	都市	中世	溝、板列、土坑、 ピット	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、木製品、 金属製品、石製品	13世紀前半から14世 紀の生活面。土坑から 寄生虫卵を検出。
おおくわばくふしょうへんいせきぐん 大倉幕府周辺遺跡群	都市	中世	溝、土塁状遺構、 道路跡、土坑、 ピット	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、木製品、 金属製品、石製品	13世紀前半～15世 紀の遺構を検出。道路や 溝の軸方位で土地利用 の変遷を確認。
わかみやおおじしょうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	都市	中世	竪穴建物、道路、 井戸、土坑、ピッ ト	土器、陶磁器、金属製 品、石製品	南北方向の道路を検出。 13世紀中頃～14世 紀代で4段階の造り替え を確認。
だいやまいせき 台山遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居、硬化 面、土坑、ピット、 地割れ	土師器、須恵器、石製 品、弥生土器	ローム層を掘り込む竪 穴住居を確認。カマド を備え、7世紀後葉に 廃絶。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 32

平成 27 年度発掘調査報告

(第 2 分冊)

発行日 平成 28 年 3 月 31 日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印刷 芝浦エンジニアリング株式会社